

く ろ う ち ほ そ の
黒 内 細 野 遺 跡

2014

飛驒市教育委員会

序

岐阜県の最北端に位置する飛騨市は、平成16年2月1日に、古川町・神岡町・河合村・宮川村の旧2町2村が合併して誕生し、現在は4町（合併後に河合村は河合町に、宮川村は宮川町に名称変更）による市政として11年目を歩んでいます。北は富山市、南東は高山市、西は白川村に接し、総面積792.31km²の内で森林が約92%を占める山間地域に約25,900人の人々が生活しています。

4町において最も多くの人口を擁する古川町は、古川・国府盆地に位置し、西寄りを清流「宮川」が貫流しています。町内には、古墳や古代寺院跡、さらには沢遺跡や中野山越遺跡をはじめとする縄文時代の遺跡が点在し、考古学研究における重要な役割を担っています。

今回の報告書「黒内細野遺跡」は、古川盆地北端西側の山間部に発達した沖積地の宮川支谷である尾崎川と黒内川に挟まれた細長い低位段丘の最東端に立地しています。もともと遺跡の周辺は、縄文土器の散布地として知られていましたが1998年（平成10年）に町道黒内線の道路改良工事が着工されることになったことから、試掘調査を行ったところ、縄文時代の遺物包含層・遺構群の広がりがあることが分かり、同年6月から発掘調査が行われました。

その結果、遺構では、縄文時代中期から後期にかけての竪穴住居跡5軒、土坑121基などを確認、遺物では、剥片剥離方法・製作工程を示す石核などが発見され、縄文時代中期を中心とした集落跡であることが判明しました。

調査結果のまとめとしての本報告書が、今後、先人の生きた足跡、いにしへの営みを究明する考古学研究の礎として、さらには文化財保護への関心を高めるための一助になることを願っています。

終わりに、発掘調査及び出土遺物の整理、そして本報告書の作成等に対しまして、多大なるご指導・ご支援を賜りました関係諸機関・関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

平成26年12月

岐阜県飛騨市教育委員会

教育長 山本 幸一

例 言

1. 本書は、岐阜県飛騨市古川町黒内字細野1596-1番地ほかに所在する黒内細野遺跡（遺跡番号21217-06519）の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、古川町（現飛騨市）が計画した道路計画に伴う埋蔵文化財調査の記録保存調査である。
3. 発掘調査は、試掘調査を経て、遺跡の存在が予測された約390㎡を本調査の対象地区とした。
4. 試掘調査は、岐阜県教育委員会指導部文化課の指導のもと、古川町教育委員会（現飛騨市教育委員会）より委託を受けた株式会社玉川文化財研究所が戸田哲也、河合英夫を調査担当者として行った。また、本調査は古川町教育委員会が調査主体となり、調査団を組織して発掘調査にあたった。以下に本調査の調査体制を記す。

調査主体 古川町教育委員会

顧 問 大野政雄

調査団長 戸田哲也

調査主任 福田 良

調 査 員 北平朗久

補 助 員 橋本真由美

事 務 局 岩塚泰男

調査期間 試掘調査 平成10（1998）年5月15日

本 調 査 平成10（1998）年6月1日～平成10（1998）年12月3日

調査面積 試掘調査 5㎡

本 調 査 約390㎡

5. 報告書作成作業は、飛騨市教育委員会よりの業務委託を受けた株式会社玉川文化財研究所が担当した。委託業務案件は埋蔵文化財発掘調査等事業-件名飛市教委-9号、遺跡名-黒内細野遺跡二次整理作業等委託業務である。

調査主任 中山 豊

調 査 員 北平朗久

補 助 員 玉川久子、西本正憲

6. 本件二次整理作業等委託業務に係わる履行期間は、平成25（2013）年5月9日～平成26（2014）年3月31日迄である。
7. 本書の執筆は、調査団長戸田哲也の指導のもと、中山 豊、北平朗久が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

三好清超 第1章第1節

中山 豊 第1章第2節、第2章、第3章第1・2節、第3節1・2（出土遺物）・3・4

北平朗久 第3章第3節2（遺構）・第4節5

パリノ・サーヴェイ株式会社 第4章

戸田哲也・中山 豊 第5章第1～3節

8. 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。

岐阜県教育委員会、黒内区

9. 本文中の方位は座標北を示し、国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系日本測地系に対応する。

10. 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄1988『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

11. 調査記録及び出土遺物は、飛騨市教育委員会で保管・公開している。

目 次

序	i
例 言	ii
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 発掘調査の成果	7
第1節 層 序	7
第2節 遺構と遺物の概要	8
第3節 遺構と遺構内出土遺物	11
第4節 包含層出土遺物	47
第4章 自然科学分析	69
第1節 土器付着物・圧痕の観察	69
第2節 炭化種実の同定と年代	72
第5章 総 括	85
第1節 発見された遺構	85
第2節 出土遺物について	86
第3節 自然科学分析についての考察	88
引用・参考文献	90
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第31図	54～64・67・69・70号土坑	38
第2図	テストピット配置図	2	第32図	70～82号土坑	39
第3図	調査区位置図	3	第33図	68・83～95号土坑	40
第4図	周辺の遺跡	5	第34図	96～99・101～118号土坑	41
第5図	テストピット土層図	7	第35図	土坑出土土器(1)	42
第6図	黒内細野遺跡遺構分布図	9・10	第36図	土坑出土土器(2)・土製品	43
第7図	1号住居跡	12	第37図	土坑出土石器(1)	44
第8図	1号住居跡出土土器(1)	13	第38図	土坑出土石器(2)	45
第9図	1号住居跡出土土器(2)	14	第39図	土坑出土石器(3)・石製品	46
第10図	1号住居跡出土土器(3)	15	第40図	包含層出土土器(1)	48
第11図	1号住居跡出土土器(4)	16	第41図	包含層出土土器(2)	49
第12図	1号住居跡出土石器	17	第42図	包含層出土土器(3)	50
第13図	2～4号住居跡	18	第43図	包含層出土土器(4)・土製品	51
第14図	2号住居跡出土土器(1)	20	第44図	包含層出土石器(1)	57
第15図	2号住居跡出土土器(2)	21	第45図	包含層出土石器(2)	58
第16図	2号住居跡出土土器(3)	22	第46図	包含層出土石器(3)	59
第17図	2号住居跡出土土器(4)	23	第47図	包含層出土石器(4)	60
第18図	2号住居跡出土土器(5)	24	第48図	包含層出土石器(5)	61
第19図	2号住居跡出土石器(1)	25	第49図	包含層出土石器(6)	62
第20図	2号住居跡出土石器(2)	26	第50図	包含層出土石器(7)	63
第21図	2号住居跡出土石器(3)	27	第51図	包含層出土石器(8)	64
第22図	3号住居跡出土土器	28	第52図	包含層出土石器製品	65
第23図	3号住居跡出土石器	29	第53図	包含層出土石器(9)	66
第24図	4号住居跡出土土器	30	第54図	包含層出土石器(10)	67
第25図	5号住居跡	31	第55図	包含層出土古代・中世遺物	68
第26図	5号住居跡出土土器・石器	31	第56図	中期後葉の遺構分布図	85
第27図	1～10・35・36・100号土坑	34	第57図	後期前～中葉の遺構分布図	86
第28図	11～23・119号土坑	35	第58図	後期後葉～晩期初頭の遺構分布図	86
第29図	24～34・37～39・65号土坑	36	第59図	炭化種実出土の土坑分布図(後期前～中葉)	89
第30図	40～53・66号土坑	37			

表目次

第1表	黒内細野遺跡と周辺の遺跡一覧表	6	第9表	1号住居跡出土土器観察表	94
第2表	竪穴住居跡一覧表	91	第10表	2号住居跡出土土器観察表	94
第3表	1号住居跡に伴う遺構一覧表	91	第11表	3号住居跡出土土器観察表	97
第4表	2号住居跡に伴う遺構一覧表	91	第12表	4号住居跡出土土器観察表	97
第5表	3号住居跡に伴う遺構一覧表	91	第13表	5号住居跡出土土器観察表	97
第6表	4号住居跡に伴う遺構一覧表	91	第14表	土坑出土土器・土製品観察表	98
第7表	5号住居跡に伴う遺構一覧表	91	第15表	包含層出土土器・土製品観察表	99
第8表	土坑計測表	92	第16表	1号住居跡出土石器観察表	102

第17表	2号住居跡出土石器・石製品観察表……………	103	第21表	包含層出土石器・石製品観察表……………	105
第18表	3号住居跡出土石器観察表……………	103	第22表	黒内細野遺跡出土石器組成表……………	108
第19表	5号住居跡出土石器観察表……………	104	第23表	包含層出土古代・中世遺物観察表……………	110
第20表	土坑出土石器・石製品観察表……………	104			

写真図版目次

図版1	調査区全景(南西から) 調査区全景(北東から)	2号住居跡出土土器(1)	図版16	2号住居跡出土土器(2)	
図版2	1号住居跡(南東から) 1号住居跡(北東から)	図版17	2号住居跡出土土器(3)	図版18	2号住居跡出土土器(4)
図版3	1号住居跡土層断面(南東から) 1号住居跡炉跡b(北西から) 1号住居跡遺物出土状態(北から)	図版19	2号住居跡出土土器(5)	図版20	2号住居跡出土石器(1)
図版4	1号住居跡埋甕検出状態(南東から) 1号住居跡埋甕埋設状態(南西から)	図版21	2号住居跡出土石器(2)	図版22	3号住居跡出土土器 3号住居跡出土石器(1)
図版5	2号住居跡(南東から) 2号住居跡(北東から)	図版23	3号住居跡出土石器(2) 4号住居跡出土土器 5号住居跡出土土器・石器	図版24	土坑出土土器(1)
図版6	2号住居跡炉跡(南東から) 2号住居跡埋甕(南東から) 2号住居跡遺物出土状態(北東から)	図版25	土坑出土土器(2)・土製品	図版26	土坑出土石器(1)
図版7	3号住居跡(南東から) 3号住居跡(北東から)	図版27	土坑出土石器(2)	図版28	土坑出土石器(3)・石製品
図版8	3号住居跡炉跡(南西から) 4号住居跡炉跡(北から) 5号住居跡(北西から)	図版29	包含層出土土器(1)	図版30	包含層出土土器(2)
図版9	4号住居跡(西から) 5号住居跡(南西から)	図版31	包含層出土土器(3)	図版32	包含層出土土器(4)・土製品
図版10	土坑群(東から) 1号土坑(北から) 1号土坑土層断面(北西から) 2号土坑(北から) 2号土坑土層断面(北西から)	図版33	包含層出土土器(1)	図版34	包含層出土土器(2)
図版11	1号住居跡出土土器(1)	図版35	包含層出土土器(3)	図版36	包含層出土土器(4)
図版12	1号住居跡出土土器(2)	図版37	包含層出土土器(5)	図版38	包含層出土土器(6)
図版13	1号住居跡出土土器(3)	図版39	包含層出土土器(7)	図版40	包含層出土土器製品
図版14	1号住居跡出土土器(4) 1号住居跡出土石器(1)	図版41	包含層出土土器(8)	図版42	包含層出土土器(9)
図版15	1号住居跡出土石器(2)	図版43	包含層出土古代・中世遺物		

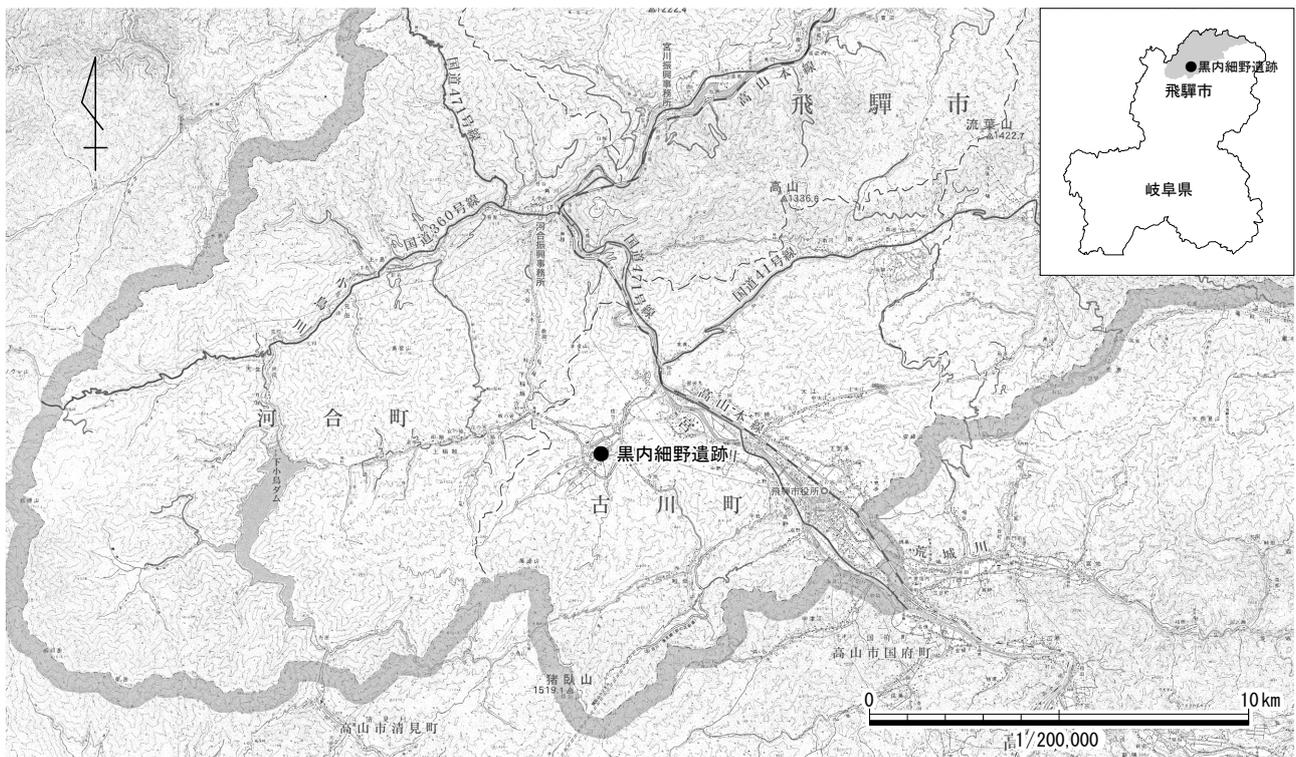
第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

黒内細野遺跡は、岐阜県飛騨市古川町黒内字細野に所在する（第1図）。当遺跡が発掘調査の対象となったのは、古川町（現飛騨市、以下同じ）により計画された町道（現市道）黒内線道路改良工事の道路拡幅に伴うものである。古川町では、平成10年5月1日付け古教社第215号にて文化財保護法（以下、法とする）第57条の3第1項に基づき、埋蔵文化財発掘の通知を岐阜県教育委員会へ提出した。岐阜県教育委員会は、平成10年5月6日付け教文第32号の3にて発掘調査を実施するよう通知した。

平成10（1998）年5月15日、古川町教育委員会では、道路計画に伴う調査対象地内において試掘調査を実施した。試掘調査では、縄文時代と古代の遺構、縄文土器・石器・須恵器等の遺物を確認し、黒内細野遺跡は縄文時代後～晩期及び奈良～平安時代の複合集落遺跡と考えられた。また、遺跡が道路予定地の全体に広がっているものと推定された。結果は、平成10年6月3日付け古教社第307号にて岐阜県教育委員会教育長へ報告した。本発掘調査は試掘調査の結果をもとに約390㎡と決定した。

本発掘調査については、事業者である古川町が平成10年6月1日付けで実施を承諾し、古川町教育委員会が同日から平成10（1998）年12月3日まで実施した。法第98条の2第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告は、平成10年11月26日付け古教社第773号にて提出した。整理作業は調査終了後に一次整理作業が行われた。その後、町村合併を経て飛騨市に引き継がれ、平成25（2013）年度に飛騨市が株式会社玉川文化財研究所に委託して二次整理作業を実施し、平成26（2014）年度に発掘調査報告書を刊行することとなった。



第1図 遺跡位置図（飛騨市管内図 縮尺1/140,000をもとに作成）

第2節 調査の方法と経過

1. 試掘調査

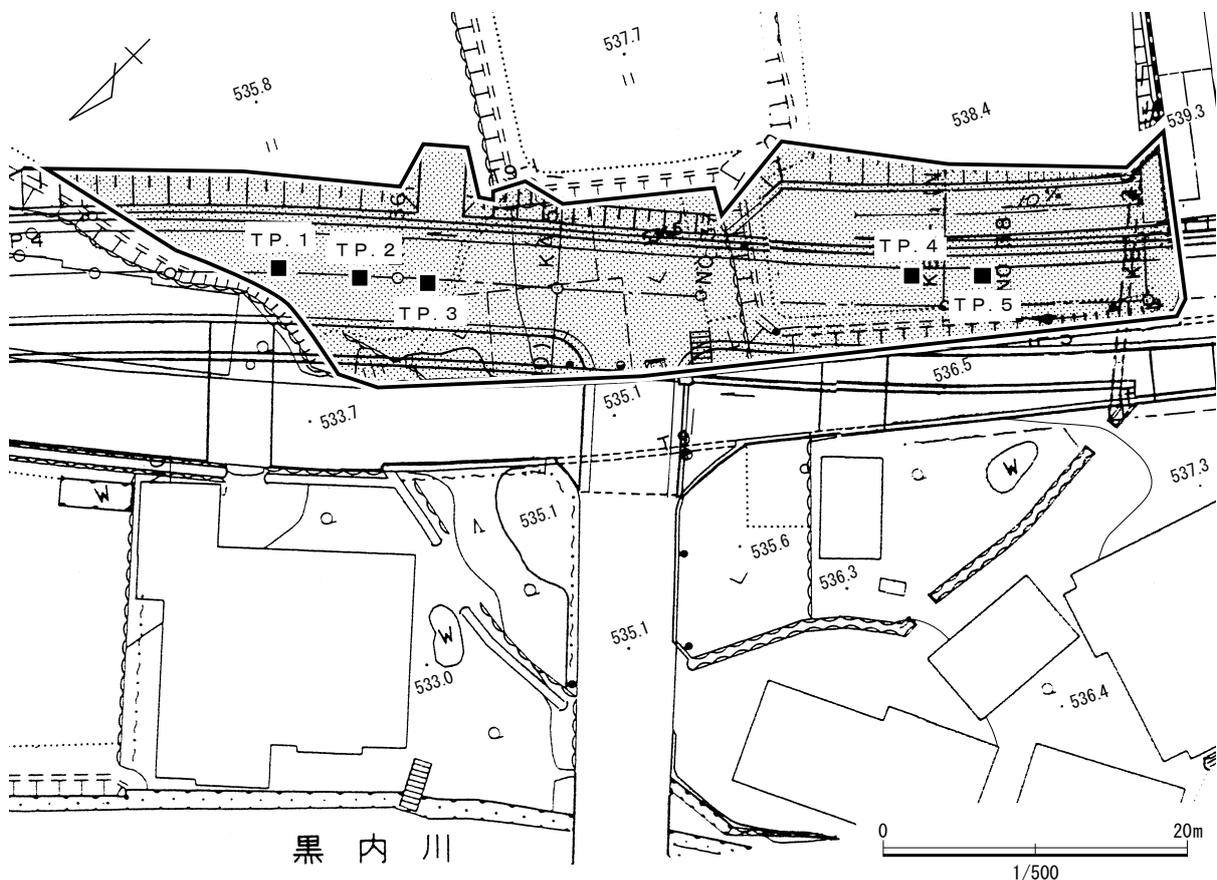
試掘調査は、本調査に先立ち平成10(1998)年5月15日に古川町教育委員会が調査主体となり、戸田哲也、河合英夫を調査担当者として行われた。調査は第2図に示したように、調査対象地内に1×1mのテストピット5ヶ所を設定し(TP1～5)、遺構・遺物の確認と堆積土層の観察・記録を行った。調査面積は計5㎡であった。

この結果、TP1～5からは縄文時代の土器・石器が出土し、TP1では縄文時代遺構覆土の可能性のある土層も確認されたことから、対象地内には縄文時代の遺物包含層・遺構群が広がることが予測された。また、TP4では古代の疑いのある土層が観察され、TP5では須恵器も出土した。こうしたことから、本遺跡は縄文時代を主体時期とする古代との複合遺跡になることが想定された。

2. 本調査

本調査は、試掘調査の結果をもとに約390㎡を選定し、道路拡幅部分の東西に延びる細長い調査区となった(第3図)。調査は戸田哲也、福田良を調査担当者とし、平成10(1998)年6月1日に開始した。

調査方法は、表土層および攪乱土を重機によって除去した後、人力によって遺物包含層を掘削し、遺構確認面まで掘り下げ、遺構・遺物の精査に努めた。グリッドは5m方眼を基本として、細長い調査区に沿って設定した。区呼称は調査区内を短軸方向にアルファベットのA～C、長軸方向に算用数字の1～15を付けた。遺構は実測図作成と写真撮影によって記録した。また、表土(I層)にも多量



第2図 テストピット配置図

の遺物が含まれていたことから、掘り上げた土層は篩による遺物抽出を行った。

調査の結果、縄文時代中～後期の住居跡5軒、土坑121基を検出し、当該期の集落跡の一部が明らかとなった。包含層からは、中期～後期を中心とした晩期～弥生時代を含む土器群とともに多量の石器が出土した。古代の遺構は発見されなかったが、I層中より遺物収納箱1箱分の須恵器破片が出土し、周辺域に古代遺跡の存在が予測される成果を得た。

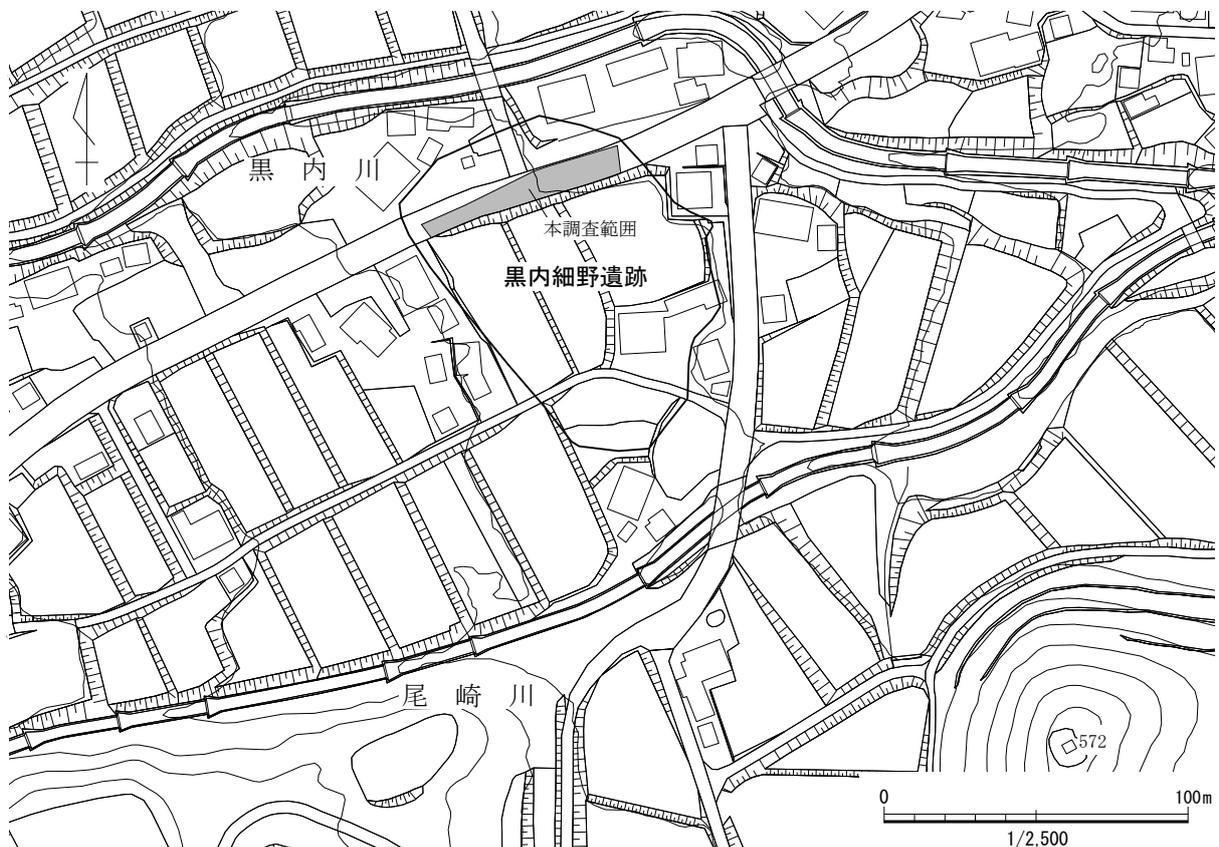
調査期間中には夏休み親子発掘体験学習会を開催し、調査終了前に遺跡見学会を行った。平成10年12月3日までには完了立ち会いを行い、調査の報告をして現地調査を完了した。

3. 報告書整理作業

調査後、教育委員会によって出土遺物の洗浄、注記作業まで行われた。飛騨市は平成25(2013)年度に至り、未報告となっていた黒内細野遺跡の報告書刊行について、委託業務案件「埋蔵文化財発掘調査等事業 黒内細野遺跡二次整理作業等委託」(飛市教委9号)の実施を決定した。そして、飛騨市教育委員会事務局から平成25年5月9日に業務委託を受けた株式会社玉川文化財研究所がその整理業務を担うことになった。

業務期間は、平成25(2013)年5月9日から平成26(2014)年3月31日までの約11ヶ月間である。本業務の管理技術者として中山豊が担当することとなった。

黒内細野遺跡の二次整理業務として以下の整理作業を行った。全測図・個別遺構図の第二原図作成・トレース、土器分類・復元・拓本・実測・トレース、石器分類・実測・トレース、遺物写真撮影、遺構・遺物写真焼き付け、版下作成、遺構・遺物観察表作成、原稿執筆、割り付けを行い、業務を完了した。



第3図 調査区位置図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

黒内細野遺跡は、岐阜県飛騨市古川町黒内字細野1596-1番地ほかに所在し、JR高山本線飛騨細江駅の南西約2.7kmに位置する。飛騨市は岐阜県の最北端にあたり、飛騨山脈に囲まれた地域である。日本海へ流れる宮川を中心に北西-南東方向に広がる古川盆地は、その中央で荒城川と合流する。高山市久々野町の位山を源流とする宮川は富山方面へ、同じく太平洋側へ流れる飛騨川があり、位山分水嶺を挟んで両地域を結ぶ高山本線がこれらの河川に沿って敷設されている。

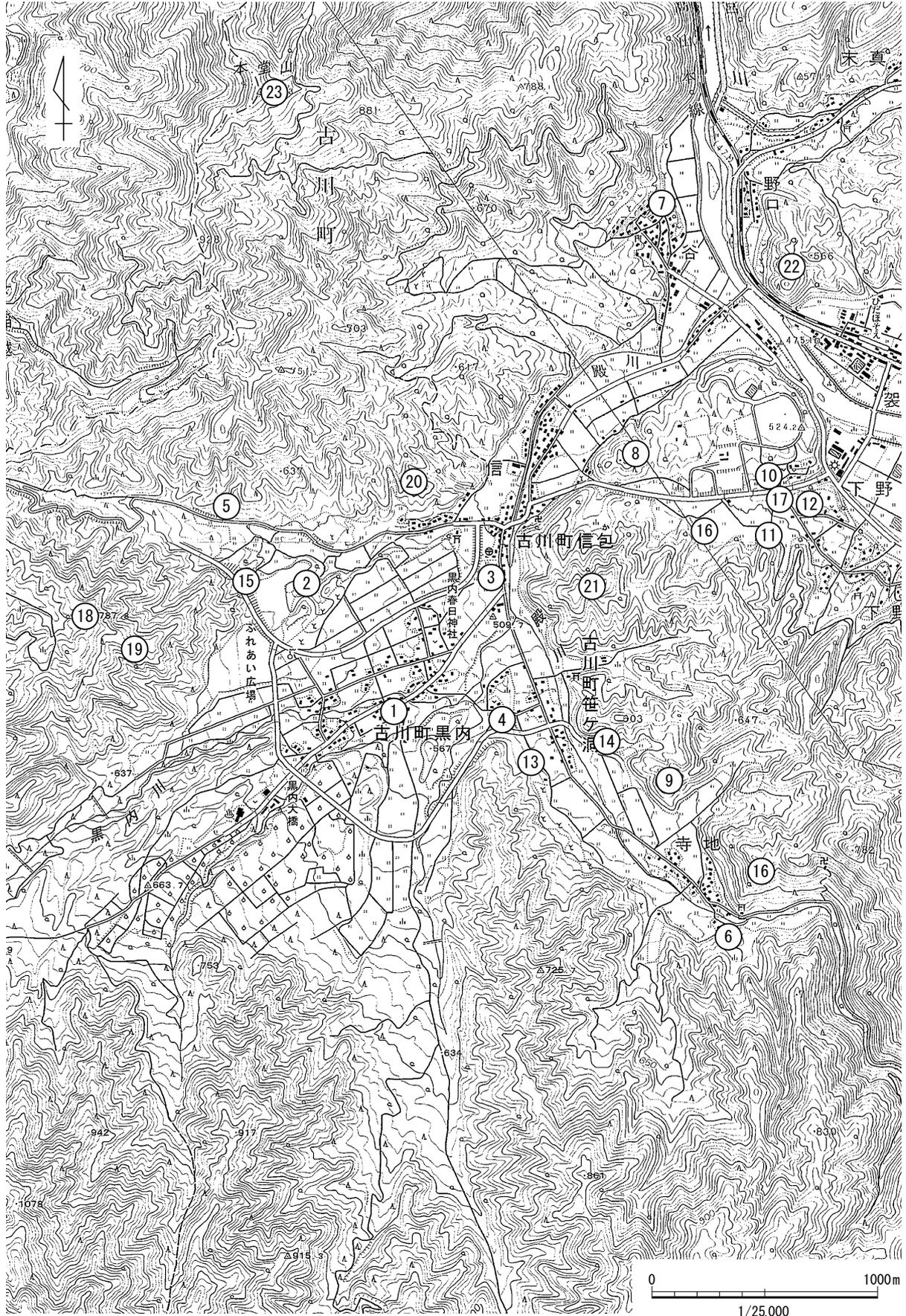
遺跡が位置するのは、古川盆地北端西側の山間部に発達した狭い低地である。この低地は殿川やその支流の黒内川、尾崎川、向山川によって楓状に解析・形成されており、各河川沿いには信包、笹ヶ洞、寺地、黒内の4集落が営まれ、黒内集落は楓状低地の中央に位置する集落である。黒内地区は果樹園栽培が多い地域であり、市街地の至近距離にある高地でもあるため、飛騨古川桃源郷温泉やグラウンドの整備も行われ市民のレクリエーションの場としても親しまれている。

殿川は宮川の支流であり、南側の山間を抜けて北上し、笹ヶ洞・寺地を流れ流路を東側に変え、信包の細長い沖積地を経て古川盆地北端と宮川に接続・合流する。西側の山間部を源とする黒内川は笹ヶ洞と信包の間で殿川と合流し、さらにその300~500m西側では、南側の山間部から流れる向山川と尾崎川の二河川が黒内川と合流する。遺跡は、尾崎川と黒内川に挟まれた細長い低位段丘の東端域に立地している。今回の調査地点は、黒内川に面した低位段丘北側の緩斜面地で、黒内川と尾崎川の合流点から西側へ約130m、標高約53.5~53.8mを測る。調査区は、地形に沿って北東-南西に延びる現行道路の南東縁に接した細長い区域で(第2図)、遺跡範囲の北側を横切っている(第3図)。

第2節 歴史的環境

本節では、今回報告する黒内細野遺跡が位置する殿川流域の遺跡について概観する。この地域の遺跡分布は、殿川中流域の楓状に解析された地形の縁辺に集中し、縄文時代から中世の遺跡が径約3.5kmの範囲内に分布している(第4図、第1表)。殿川流域での旧石器時代・弥生時代の遺跡は現在のところ確認されていないが、黒内地内を中心とした地域には更新世堆積物の分布が知られており、今回の報告資料には水神平式と考えられる条痕文土器破片がごくわずかに含まれていた。縄文時代の遺跡は各河川・段丘に分散するが、古墳時代以降の遺跡は、古川盆地の下野と信包・湯峰峠を經由して稲越川流域の稲越とを結ぶ東西に延びる道路沿いと、笹ヶ洞・寺地の殿川沿いに分布する傾向が認められる。

縄文時代の遺跡は6遺跡ある。その立地には、樹枝状に解析された段丘の先端域に位置する遺跡(①黒内細野遺跡、②塩屋遺跡、③信包上野遺跡、④笹ヶ洞上番遺跡)と、最奥域に位置する遺跡(⑤信包千島遺跡、⑥笹ヶ洞川原遺跡)の2つの在り方が見られる。今回調査の黒内細野遺跡を除くと、いずれも土地改良によって滅失した散布地となっている(岐阜県教育委員会1990)。宮川との合流点の北西に位置する⑦谷遺跡も詳細不明の散布地で、本地域北西側の稲越川流域にも散布地とされる6遺跡が知られている。稲越川下流の角川地区は宮川の支流である小島川との合流域で、小島川上流の下



第4図 周辺の遺跡

(国土地理院発行2万5千分の1地形図「角川」「林」「猪臥山」「飛驒古川」を改編)

小鳥ダムの遺跡群とともに縄文時代遺跡の発掘調査が行われている（河合村1990、河合村教育委員会1971・1987、飛騨市教育委員会2013）。古川盆地西側の段丘には、縄文中期～晩期集落跡の中野山越遺跡が位置する（中野山越遺跡発掘調査団編1993）。

古墳時代の遺跡は、円墳の⑧丸山古墳と2基の円墳からなる⑨寺地西ケ洞古墳群がある（岐阜県教育委員会1990）。古川盆地に面する丸山古墳の東側には、4基の円墳からなる⑩羽根坂古墳群、円墳の⑪八幡古墳、全長77.8mを測る6世紀前半の前方後円墳である⑫信包八幡神社跡古墳が分布する。

古代の遺跡は、寺地の殿川沿いに平安期の⑭西ケ洞廃寺跡がある。西ケ洞廃寺跡からは「十能寺」の線刻された須恵器や灰釉陶器が採集されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006）。下野－稲越線沿いには、⑮信包塩屋古窯跡、⑯信包中原田古窯跡、⑰下野羽根坂古窯跡が分布する。信包中原田古窯跡は瓦陶兼業窯と考えられており、古川盆地内の古代寺院瓦の供給窯として知られている。信包塩屋古窯跡と下野羽根坂古窯跡は須恵器窯跡である。今回の調査地点から遺構は発見されなかったが、比較的まとまった須恵器破片が出土している。古川盆地北西側の沖積低地には、白鳳期創建の杉崎廃寺跡が位置する（杉崎廃寺跡発掘調査団編1998）。

中世の遺跡は、⑱小鷹利城跡、⑲黒内城跡、⑳城見寺城跡、㉑向小島城跡、㉒野口城跡、㉓本堂山城跡がある。これらは室町期の姉小路氏との関係が考えられている城跡で（『姉小路と廣瀬』出版事務局編2011）、下野－稲越線を挟むように分布している。

第1表 黒内細野遺跡と周辺の遺跡一覧表

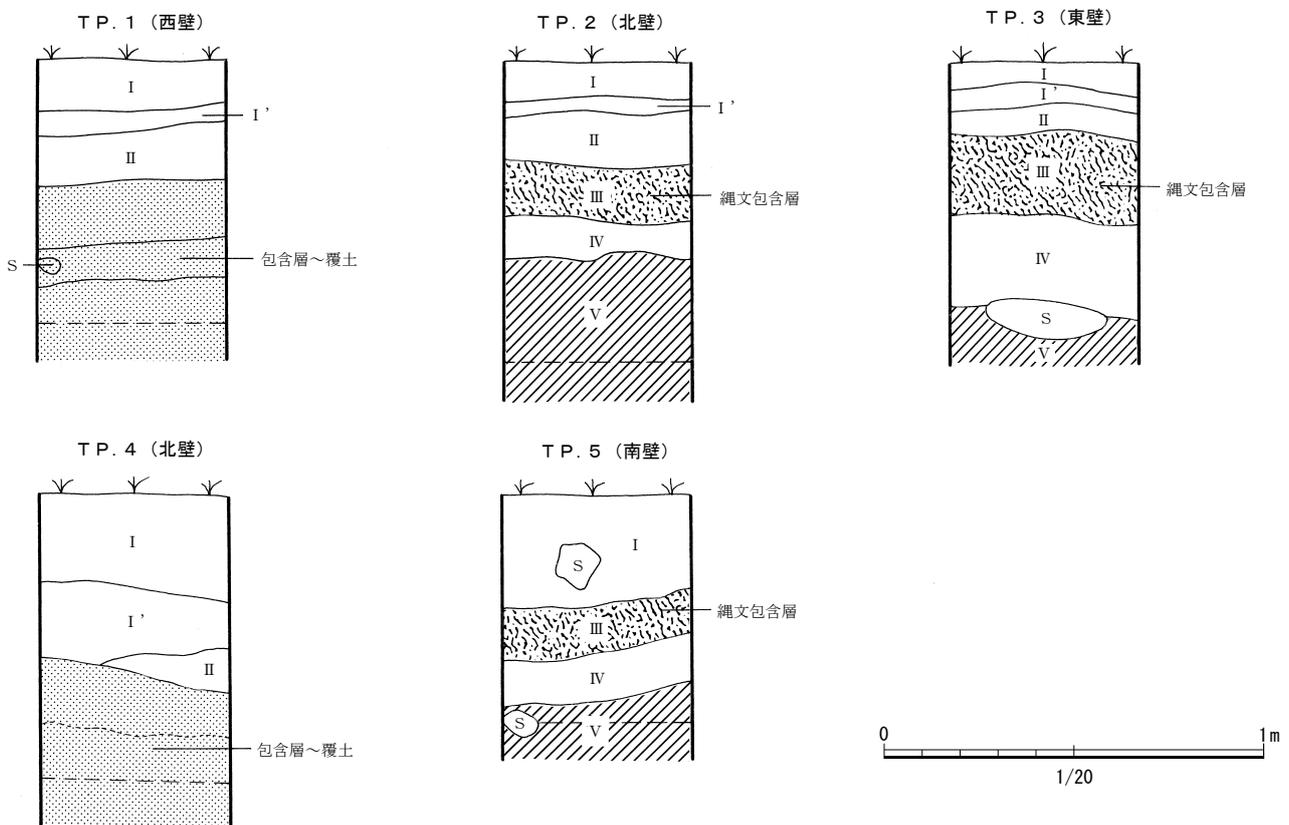
番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
①	黒内細野遺跡	飛騨市古川町黒内細野	縄文	集落跡	今回報告
②	塩屋遺跡	飛騨市古川町信包塩屋	縄文	散布地	土地改良により滅失
③	信包上野遺跡	飛騨市古川町信包上野	縄文	散布地	土地改良により滅失
④	笹ヶ洞上番場遺跡	飛騨市古川町笹ヶ洞上番場	縄文	散布地	土地改良により滅失
⑤	信包千島遺跡	飛騨市古川町信包千島	縄文	散布地	土地改良により滅失
⑥	笹ヶ洞川原遺跡	飛騨市古川町笹ヶ洞川原	縄文	散布地	土地改良により滅失
⑦	谷遺跡	飛騨市古川町谷立道	縄文	散布地	土地改良により一部滅失
⑧	丸山古墳	飛騨市古川町信包中山	古墳	古墳	円墳
⑨	寺地西ケ洞古墳群	飛騨市古川町寺地西ケ洞	古墳	古墳	1～4号(円墳)・2号(円墳)
⑩	羽根坂古墳群	飛騨市古川町下野中山	古墳	古墳	1～4号(円墳)
⑪	八幡古墳	飛騨市古川町信包八幡	古墳	古墳	円墳
⑫	信包八幡神社跡古墳	飛騨市古川町信包八幡	古墳	古墳	県史跡(前方後円墳)
⑬	笹ヶ洞石灰窯跡	飛騨市古川町笹ヶ洞	近代	石灰跡	
⑭	西ケ洞廃寺跡	飛騨市古川町寺地西ケ洞	古代	寺院跡	
⑮	信包塩屋古窯跡	飛騨市古川町信包塩屋	古代	古窯跡	須恵器窯
⑯	信包中原古窯跡	飛騨市古川町信包中原	古代	古窯跡	瓦陶兼業窯
⑰	下野羽根坂古窯跡	飛騨市古川町下野羽根坂	古代	古窯跡	須恵器窯
⑱	小鷹利城跡	飛騨市古川町信包牛ヶ谷・河合町稲越	中世	城館跡	県史跡
⑲	黒内城跡	飛騨市古川町黒内古屋敷	中世	城館跡	
⑳	城見寺城跡	飛騨市古川町信包城見寺	中世	城館跡	
㉑	向小島城跡	飛騨市古川町信包轟	中世	城館跡	県史跡
㉒	野口城跡	飛騨市古川町野口宮ノ越	中世	城館跡	市史跡
㉓	本堂山城跡	飛騨市古川町谷・河合町小無雁	中世	城館跡	

第3章 発掘調査の成果

第1節 層序

調査前の調査区は、3段の平坦地に造成・削平された畑地であった。そのため、部分的に削平された遺構や調査区北東端に見られるような大きい攪乱もあったが、良好な土層堆積が観察される箇所もあった。遺構検出面は地表面下約50～65cmの標高約536～535mを測るIV～V層上面で、IV層が薄い箇所や攪乱・削平の影響を受けた部分ではV層となる。調査区内の微地形は西側から東側に向かう緩斜面で、標高の高い西側では削平の影響を受け平坦面となっていた。以下に、試掘調査TP1～5の土層堆積を図示し説明を加える(第5図)。

- I 層 表土層。層厚は約10～40cmを測る。下半に旧表土層(I'層)が見られる部分がある。多量の須恵器破片が出土した。
- II 層 暗褐色土(10YR3/4)。層厚は約8～15cmを測る。削平されている箇所もあるが、緩斜面の下位にあたる調査区中央から北東側に認められる。わずかな須恵器破片が見られるが、縄文時代遺物を主体に含む。
- III 層 暗褐色土(10YR3/3)。II層よりも暗化。層厚は約10～23cmを測る。削平されている箇所もあるが、調査区全体に認められる。縄文時代の遺物包含層である。遺構の掘り込みは、本土層の上面まで立ち上がるものが多いようである。遺構覆土は焼土粒子・炭化物を含む本土層に類似したものとなる。
- IV 層 黄褐色砂礫(10YR5/6)。層厚は約6～25cmを測る。円礫を少量含む。無遺物層である。
- V 層 黄褐色礫(10YR5/8)。径が約30cm以下の円礫を多量に含む。層厚は約40cmまでを掘り下げ、それ以上の厚さとなることを確認した。無遺物層である。



第5図 テストピット土層図

第2節 遺構と遺物の概要

1. 遺 構

発見された遺構は、竪穴住居跡5軒、土坑121基である。住居跡は調査区壁面にかかるものや削平の影響によって、一部のみの調査しかできなかったものが多かった(第6図)。

竪穴住居跡の年代は、縄文時代中期4軒(1・3～5号)、後期1軒(2号)である。調査区の西側に4軒(1～4号)、東側に1軒(5号)が分布する。西側の4軒中3軒は重複し、中央寄りに位置する(2～4号)。中期住居跡の4軒は、西側と東側に散漫な状態で分布し、後期住居跡の1軒は2軒の中期住居跡と重複する。平面形態が判明する4軒は1辺約4～5mを測る隅丸方形を呈し、1～3号住居跡の遺構軸はほぼ同一方向となる。床面と周溝の一部、炉跡のみが残存する4号住居跡は、周溝が直状をなす点、周溝と炉跡との位置関係が3号住居跡のものとはほぼ一致する点から、3号住居跡と同様な平面形態・規模の住居跡だった可能性がある。炉跡は4軒で検出し、いずれも石囲炉であった(1～4号)。埋甕は2軒(1・2号)、周溝は2軒(4・5号)で検出した。

土坑は、縄文時代後期を中心として中期～晩期に位置付けられる。小規模のものも含まれているが、調査時の遺構名称を踏襲した。これらは調査区中央の住居群に挟まれた区域に集中し、列状あるいは弧状に配列されたように見受けられる部分がある。平面形態は楕円形・円形を呈するものが主体をなす。住居跡と重複するものも見られ、いずれも土坑の方が新しい構築であった。土坑の大半は、調査区の両側に位置する住居跡群に挟まれたA・B-7～14区に分布し、約350mの範囲に100基を超える土坑が群をなしている。この土坑群の分布状態には粗密があり、B-8・9区、B-11区、B-13・14区を中心とした3ヶ所に密集域が認められるほか、空白域も見られる。土坑間の重複は、密集域を中心に2～4基が認められ、それ以外では密接しながらも単独で存在するものが多い。

2. 遺 物

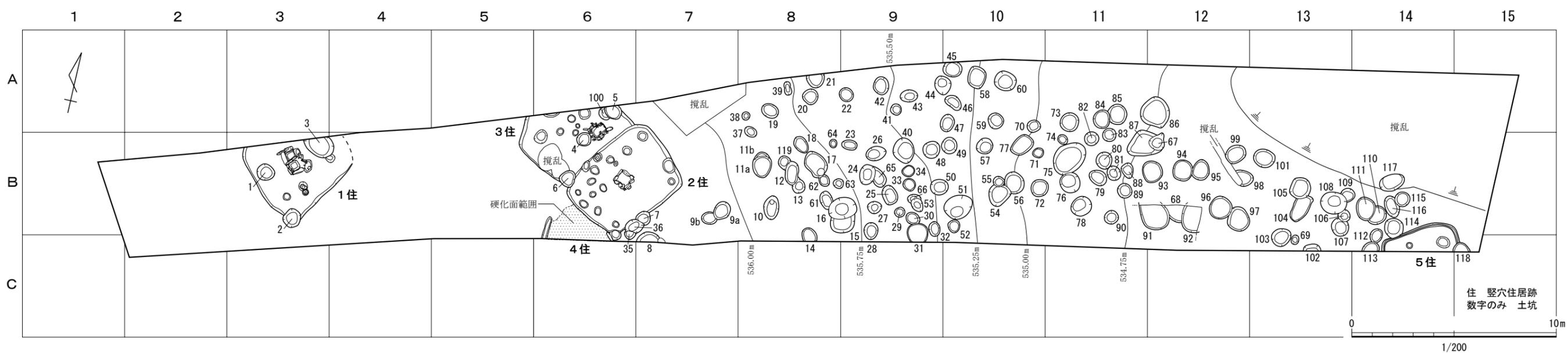
出土遺物は、洗浄・注記が完了した段階での遺物収納箱換算で、縄文土器・土製品17箱、石器・石製品15箱、須恵器1箱であった。

土器・土製品は、縄文時代中期～後期を主体として晩期まで見られる。わずかに弥生土器(水神平式)が含まれていた。これらは竪穴住居跡、土坑、包含層から出土し、大半が包含層のもので完形・半完形に復元できた土器は少なかった。包含層は遺構外のI～III層を含めている。北陸方面や信州方面の影響が見られるものが目立つ。土製品には土偶、耳飾りがある。

石器・石製品は、7,323点が出土した(第22表)。出土位置の内訳は、住居跡940点、土坑1,166点、包含層791点となる。包含層の層位はI～III層で、I層出土のものが多い。全体で40点以上の出土があった器種は打製石斧293点、クサビ形石器234点、石鎌185点、スクレイパー107点(小形106点、粗製1点)、石核126点、剥片類6,108点である。石製品には石棒、石刀、石剣、石冠、玉類がある。これらのほかに、I層から近世以降の硯石片2点、石盤片1点、石筆2点がある(第22表未掲載)。

須恵器は、8～9世紀代の坏を主体とする破片である。ほとんどがI層から出土したが、接合するものもあり、摩耗した破片は認められなかった。

以上の遺物以外には、13～16世紀代の中世陶器破片がI層からごくわずかに出土している。



第6図 黒内細野遺跡遺構分布図

第3節 遺構と遺構内出土遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居跡(第7図、第2・3表、図版2～4)

本住居跡は調査区西側のB-3・4区に位置する。調査区壁面に接し、本住居跡の北西側は調査区外へ延び、北側の壁は削平により失われている。1～3号土坑と重複し、新旧関係は本住居跡→1～3号土坑である。炉跡と埋甕の切り合い関係から1回の拡張が認められる。平面形態は不整な隅丸方形を呈し、検出部分の規模は約4.5×約4.5mを測る。壁は外傾して立ち上がり、最深約30cmを測る。床面は炉跡を中心とした範囲にIV層類似の黄色土によって形成された貼り床が見られ、壁面から床面にかけてはV層の礫が露出する。炉跡は住居跡中央に位置し、北西-南東方向に並ぶ状態で重複するa→bの2基を検出した。いずれも1辺約70～100cmを測る方形の石囲炉で、炉跡aの囲い石は抜き取られ、炉跡b北東辺の囲い石も抜かれた状態であったが、複式炉の可能性もある。囲い石の部材は、厚みのある大形扁平礫と打割礫で、石皿破片も含まれていた(第12図17)。底面には炉跡a・bとも焼土化が認められた。炉跡b内には潰れた状態の深鉢2個体が重なって出土している(第9図4・第10図16)。埋甕は炉跡の南東側に位置し、北西-南東方向に並ぶ状態で重複する埋甕a→埋甕bの2基を検出した(第9図2・3)。いずれも径約30～50cmの掘り込み内に深鉢形土器が正位の状態に埋設されていた。埋甕bは底部が切られ、埋甕bは底面縁辺の一部が残されたのみとなっていることから、底部穿孔されていた可能性がある。炉跡a→bと埋甕a→bの新旧関係とも北西から南東へ変遷し、その方向は炉跡と埋甕を結ぶ軸線と一致する。この方位は住居跡の平面形とややずれており、特に南東壁との差は著しい。柱穴は2本を検出した。P1・2は北隅と南隅に位置し、深度は約30～37cmを測る。

本住居跡の時期は、埋甕から縄文時代中期後葉の串田新I式期と考えられる。

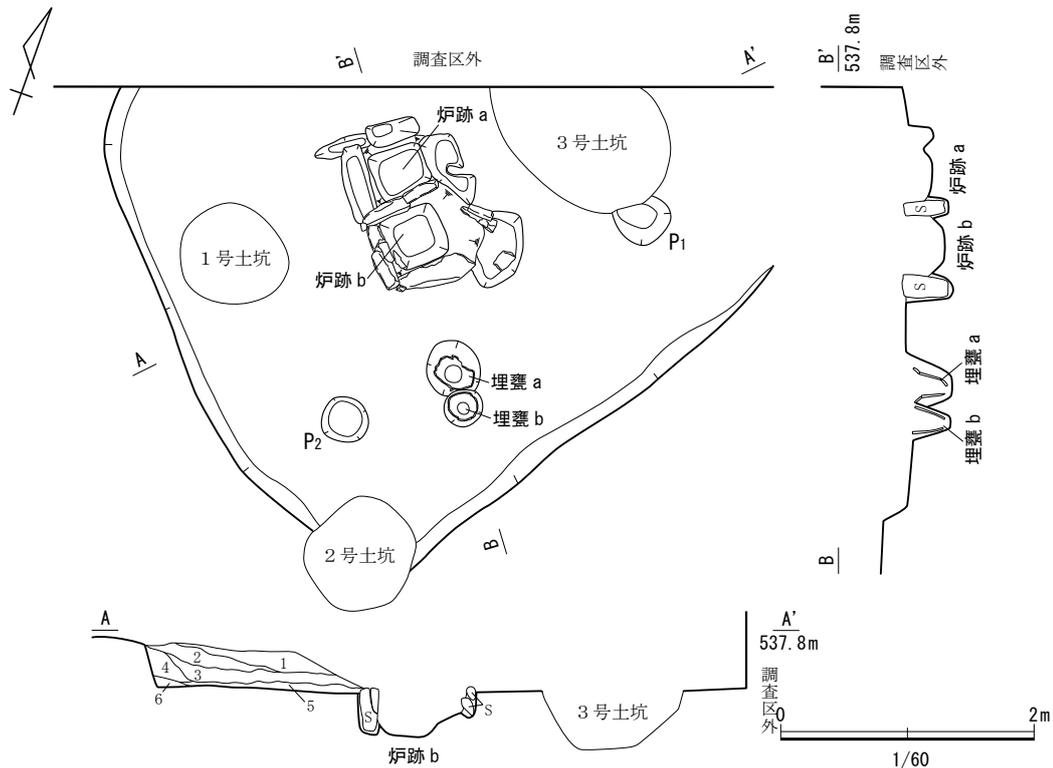
出土遺物(第8～12図、第9・16表、図版11～15)

土器(第8～11図1～33、第9表、図版11～14)

1は深鉢である。口縁部は外反する波状口縁で、内面に幅広の浅い沈線が1条、上端に小突起が見られる。口縁部と胴部には、粗い縦位沈線が充填された側縁に沈線を持つ微隆帯による大振りな三角形・山形文が施され、長円文によって文様帯区画されている。北陸系と信州系の影響を受けた在地の土器と考えられる。

2は埋甕aに埋設されていた串田新I式の深鉢である。口縁上端・底面がごく一部を除き欠損する。口縁部は大きく外反し、波状口縁となる可能性がある。上端に縦位の粗い刻み目、以下縦位～斜位の縄文RLを地文とし、太く浅い沈線による工字状文が4単位、工字状文間に縦位の短沈線が施された文様帯となる。内面上端には微隆帯状の段差と4単位の微隆線加飾が部分的に残存する。底面には網代痕がある。

3は埋甕bに埋設されていた串田新I式の深鉢である。4単位の波状口縁で、底部は切り取られた状態である。縦位～斜位の縄文RLを地文とする。口縁部上端は横位沈線で画された隆帯となり、突起部分では縄文RLが施文された弧状貼付隆線と連結し、突起内は無文になる。以下沈線による2個1対の長円文、その下に長円文や工字状文が崩れたような沈線区画文が不規則に施された文様帯となる。



1号住居跡土層説明

- | | |
|---|---|
| 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。白色粒子 5%、黄色粒子 3%、炭化物 2%含む。 | 4層 黒褐色土 (10YR2.5/1.5) 白色粒子 7%、黄色粒子 3%含む。 |
| 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。1層より明化。右端に状黄色粒子をラミナ状に10%含む。 | 5層 黒褐色土 (10YR2/2) 黄色粒子 10%含む。層右端に炭化物 10%含む暗化。 |
| 3層 黒色土 (10YR2/1) 黄色粒子 50%、白色粒子 50%、左下端に炭化物 4 | 6層 黒褐色土 (10YR2/1.5) 黄色粒子 5%、炭化物 3%含む。 |

第7図 1号住居跡

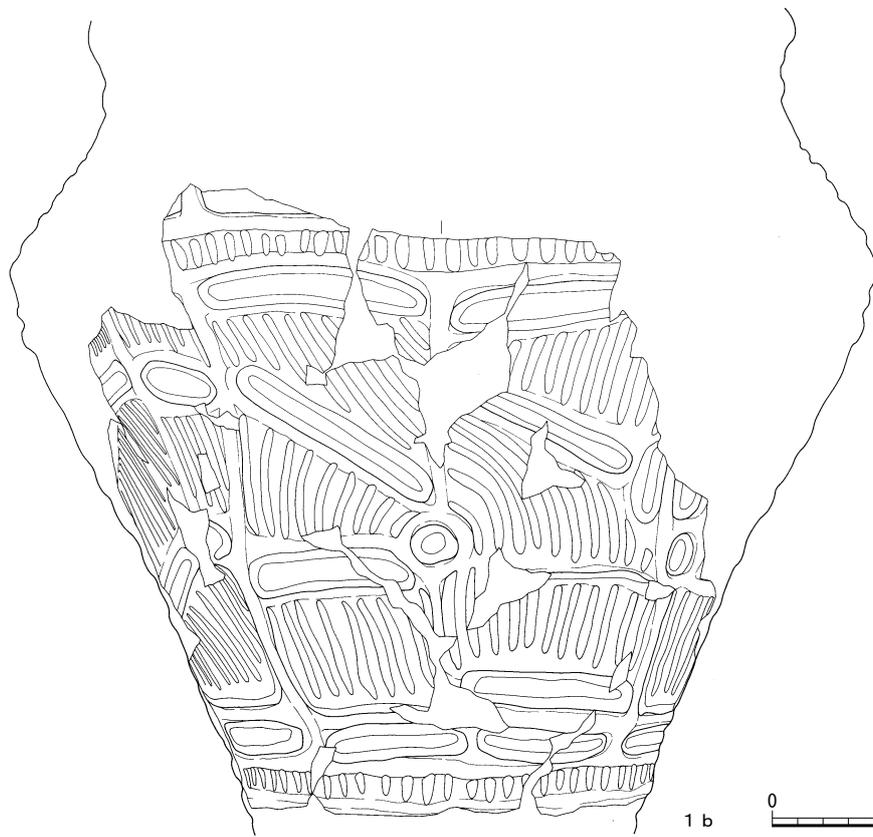
4は炉跡b内から出土した串田新I式の深鉢である。底部を欠損する。口縁部は大きく外反し、上端に縦位の粗い刻み目、以下縦位の縄文RLを地文とし、縦位の短沈線列、沈線による長円文が6単位施された文様帯となる。

16は炉跡b内から出土した串田新I式類似の口縁部文様帯と曾利Ⅲ式類似の胴部文様帯を持つ大杉谷式系の深鉢である。口縁部は長円区画文間に小円文が配置される文様帯となり、連続刺突が充填された長円文を持つ横位の平行隆線によって区画される。胴部には同様な区画隆線が縦位に施され、沈線によるハの字文が充填される。

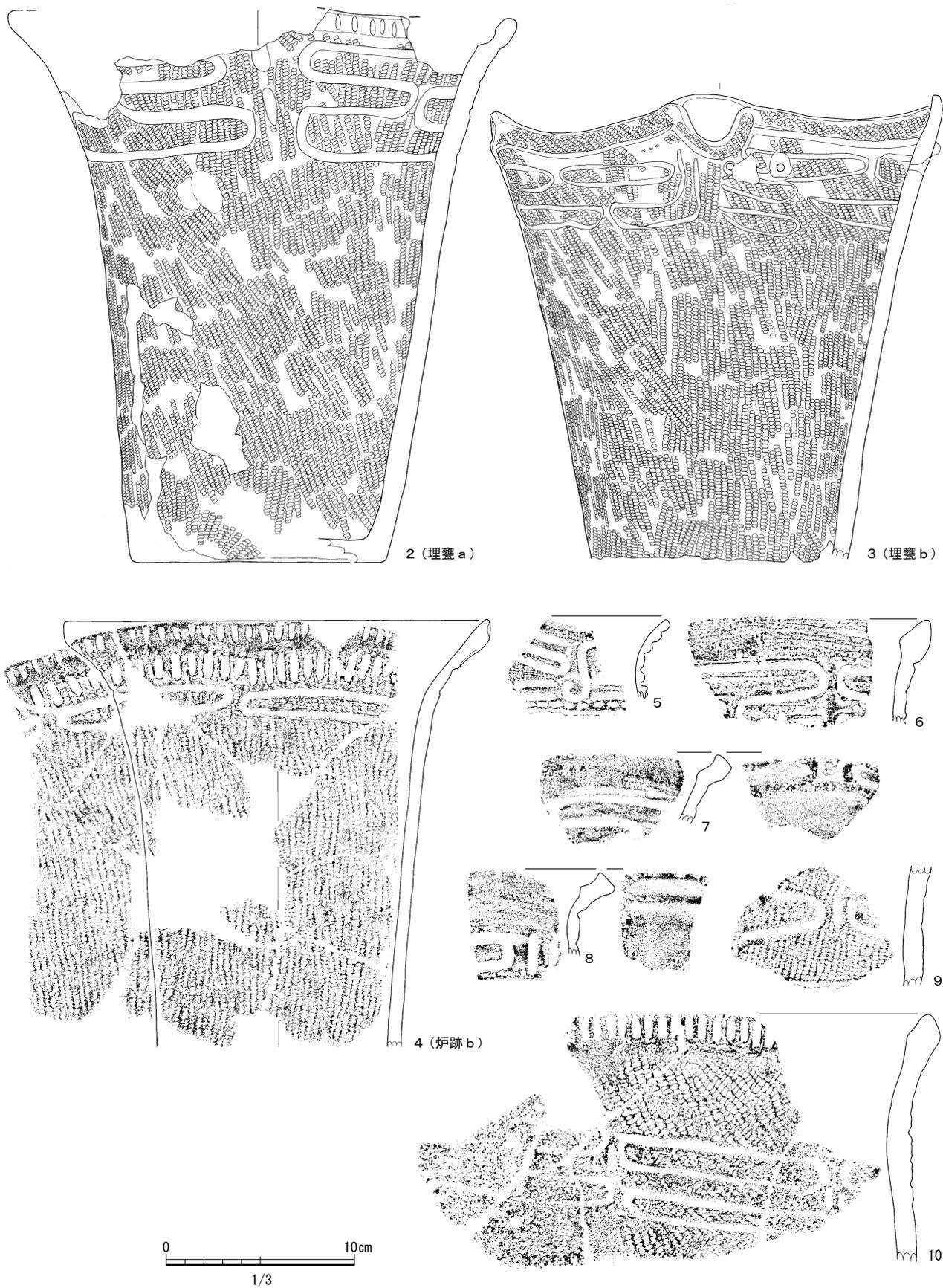
5～15は串田新I式を中心とする深鉢の破片資料である。7・8、12・14は同一個体と考えられる。5～8・10は口縁部破片、9・11～15は胴部である。7・8は内面に微隆線が施されている。5は薄手の焼成堅緻な製品で、櫛歯状工具による縦位の緻密な連続刺突文を地文とする。13・14は外反する口縁部上端に無文帯、以下縦位～斜位の縄文が施される。

17～29は信州方面の影響が認められる破片資料で、一部に関東方面の特徴も見られるものがある。28・29は同一個体と考えられる。17～21は口縁部破片、22～29は胴部破片である。17は縦位沈線が充填された隆線の横位区画文が多段に施される曾利Ⅲ式土器である。18・19・24～27は加曾利E2式に類似し、25～27の縦位の平行沈線間は磨り消されていない。

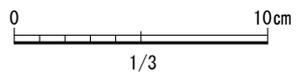
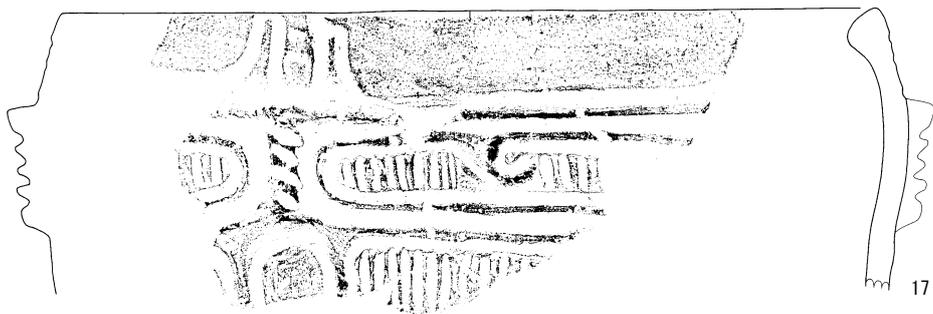
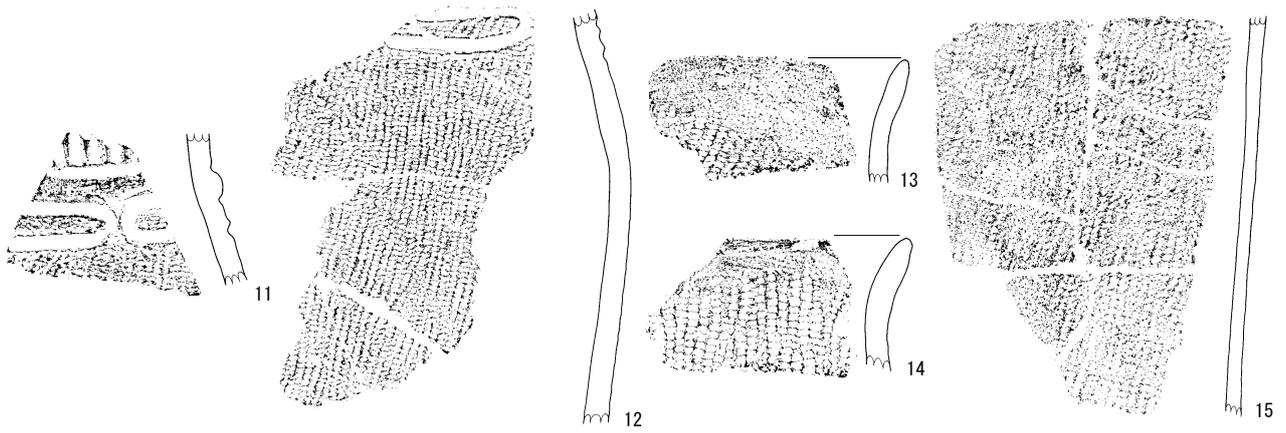
30～33は深鉢の底部である。いずれも底面には網代痕が見られ、30・31には条線文、32には縄文が胴部下端にまで施文されている。



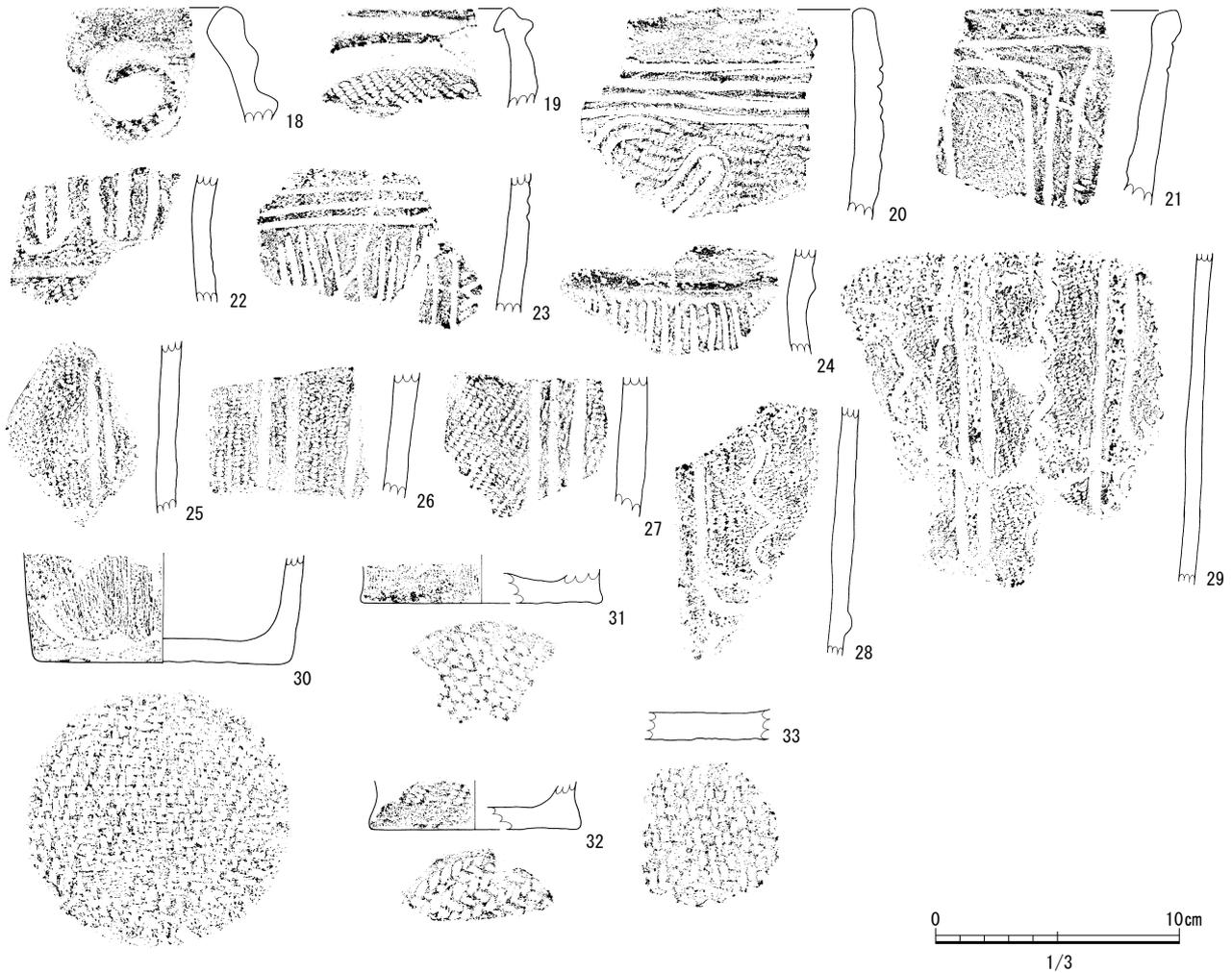
第8図 1号住居跡出土土器(1)



第9図 1号住居跡出土土器(2)



第10図 1号住居跡出土土器(3)

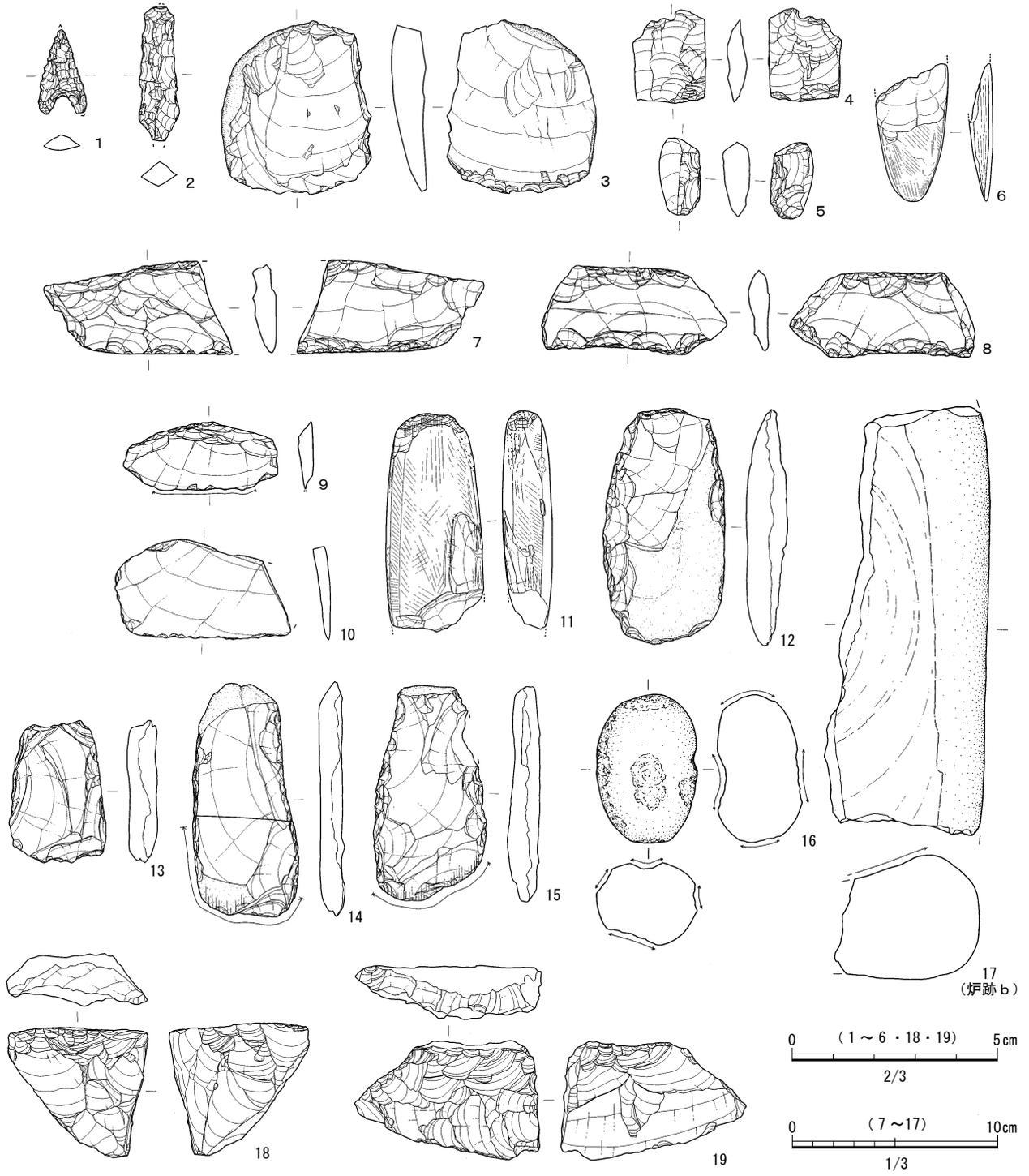


第11図 1号住居跡出土土器(4)

石器(第12図1~19、第16表、図版14・15)

66点が出土した。内訳は石鏃1点、石錐1点、スクレイパー1点、クサビ形石器5点、横刃形石器6点、磨製石斧2点、打製石斧10点、凹石1点、石皿1点、石核2点、剥片類36点となる。

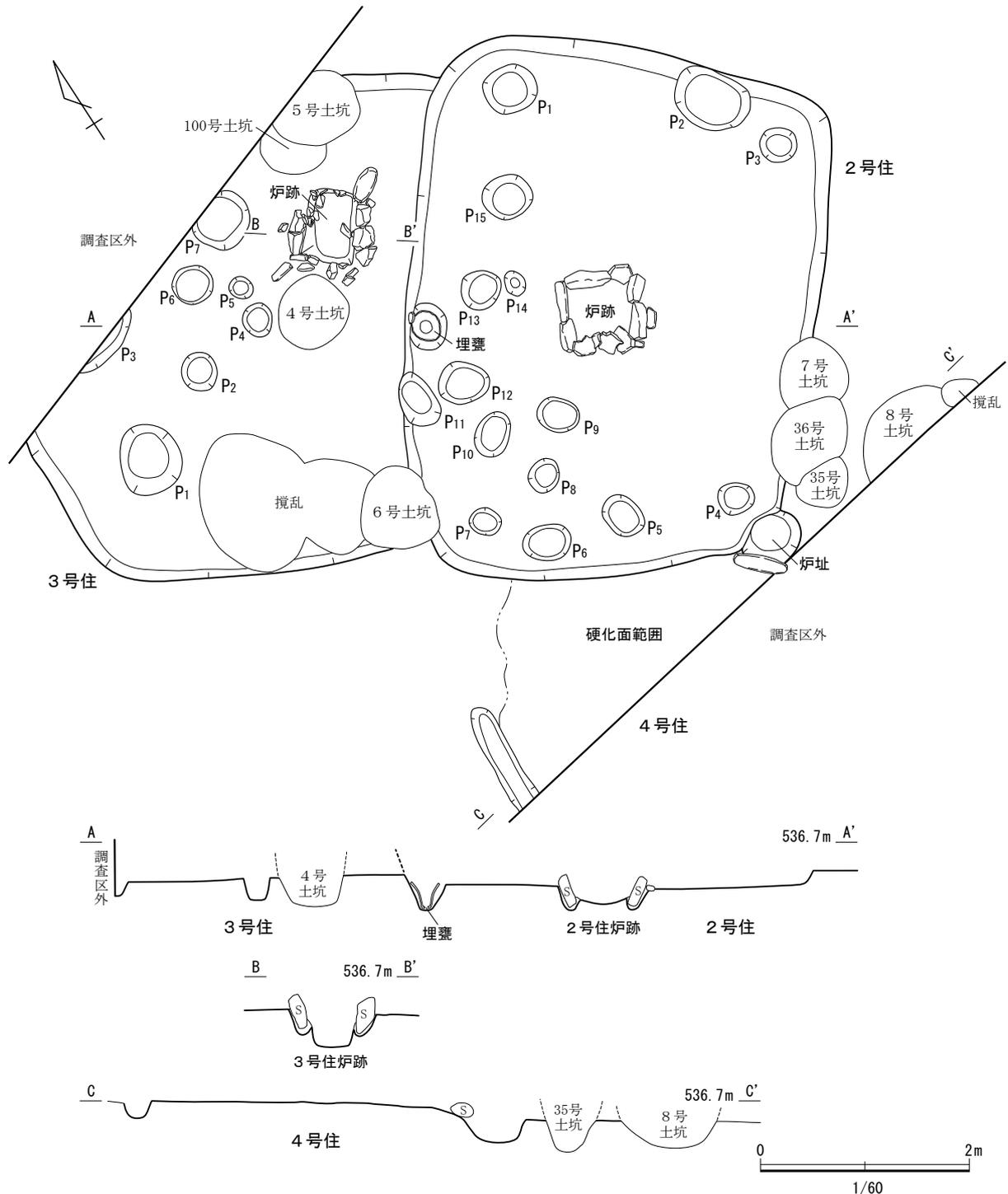
1は長身の二等辺三角形を呈する凹基無茎石鏃、2は棒状の石錐、3は剥片の一端に細かい片面加工を施したスクレイパーである。4・5はクサビ形石器で、4は方形、5は縦形の柱状を呈し、いずれも上下両端に加工がある。7~10は横刃形石器である。7・8は両面加工が施されたもので、8は上下辺とも刃部となる。9・10は横長剥片のまま使用されたもので、下辺刃部に微細剥離痕が認められる。6・11は定角式の磨製石斧で、6は尖頭状を呈した刃部を持つ小形品である。12~15は打製石斧である。12・14は短冊形、13・15は撥形を呈する。16は上下端に敲打痕が見られる凹石で、窪みは両面・両側面にある。17は縁付石皿の縁部破片である。これは炉跡b北東辺から出土したもので、囲い石の部材と考えられる。18・19は剥片素材の薄い石核で、両面に剥片剥離が認められる。18は両面とも1方向の剥片剥離、19は正面に3方向、裏面に1方向からの剥片剥離が見られる。



第12図 1号住居跡出土石器

2号住居跡 (第13図、第2・4表、図版5・6)

本住居跡は調査区西側のB-6・7区に位置する。3・4号住居跡、6・7・36号土坑と重複し、新旧関係は3・4号住居跡→本住居跡→6・7号土坑→36号土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、検出部分の規模は約5.2×約4.0mを測る。壁は外傾して立ち上がり、深度は約15~20cmを測る。床面は炉跡の西側から南側を中心とした範囲にIV層類似の黄色土によって形成された貼り床が見られ、壁面から床面にかけてはIV・V層の礫が露出する。炉跡は中央に位置し、1辺約85cmを測る方形の石囲炉1基を検出した。囲い石の部材は、厚みのある大形扁平礫と打割礫であった。底面には焼土化が



第13図 2~4号住居跡

認められた。炉跡内からは小形土器が出土している（第18図145）。埋甕は炉跡の北西側の壁面に位置し、径約30cmの掘り込み内に底部穿孔された深鉢形土器が正位の状態で埋設されていた（第14図4）。炉跡と埋甕を結ぶ軸線は北西－南東方向で、住居跡の平面形とややずれている。柱穴は15本を検出した。P1・3・4・7は四隅に位置し、約25～31cmを測る支柱穴と考えられる。その他の柱穴は、住居跡北西～南西側に集中し、壁面に沿う配列が認められる。P14はP1・7の中央付近に位置する径約25cmの小形柱穴だが、深さは約42cmを測る。

本住居跡の時期は、埋甕と炉跡内出土土器から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

出土遺物（第14～21図、第10・17表、図版15～21）

土器（第14～18図1～147、第10表、図版15～19）

1は大きく外反する深鉢である。2～4条1単位の横位沈線文が3帯めぐり、縦位の密接刺突が施される。内面上端には3条の横位沈線文が施され、円形刺突のある沈線端部に弧状の小貼付がある。

2は上端が屈折する加曾利B1～2式類似の深鉢である。屈折面下に斜位の縄文RLを地文とした横位・弧状沈線による粗い磨消縄文が見られる。65が同一個体の可能性がある。

3は算盤玉状の器形をなす注口土器の上半部である。口縁部の一部と注口上端を欠損する。注口は直立する。口縁部には細かい密接刺突が施された突起と橋状把手、肥厚した口唇に縦位の刻み目がある。胴部上半は斜位の細かい縄文LRを地文とし、密接刺突が施された低い貼付隆帯による4単位の方形区画が施されている。

4は埋甕として埋設されていた深鉢である。上半と底部の一部を欠損する。膨らみを持つ胴部で、底面方向からの穿孔が観察できる。全体に斜位・縦位の異方向の縄文RLが施され、底面に網代痕がある。

5～61・81は後期前葉堀之内1～2式並行期の土器群である。5～11は北陸系気屋式土器で、縁帯上には入字文や弧状文、円文などが施文され、上面がS字状の渦巻文をなす内・外面文様と連結した小突起の見られる12・13は堀之内2式の影響が見られる。15～19は口縁部が屈折し、沈線が施される。堀之内2式の深鉢形土器と関係する。20～36は南垣内型鉢と呼称した口縁部が大きく屈折する土器類であり、堀之内2式類似の文様と、宮田式の渦巻などが施される。38～50は宮田式に属す。51は堀之内式の注口土器口縁部把手と見られる。53～56は堀之内1式類似の文様が見られ、57・58・81は堀之内2式類似の文様が見られる。59は内面施文の特徴が見られる。

62～70・72～77は後期中葉加曾利B1式並行期の土器群である。

71・78～80・82～85は後期後葉から末葉の土器群と考えられ、86・87は晩期初頭の土器である。86には細かい縄文を地文とした三叉文が見られる。

88～92は縄文と無文の口縁部破片である。90は内面施文が見られることから、加曾利B1式並行のものかもしれない。93～105は縄文のみの胴部破片で、縦位施文が多い（93～98）。

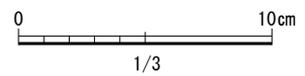
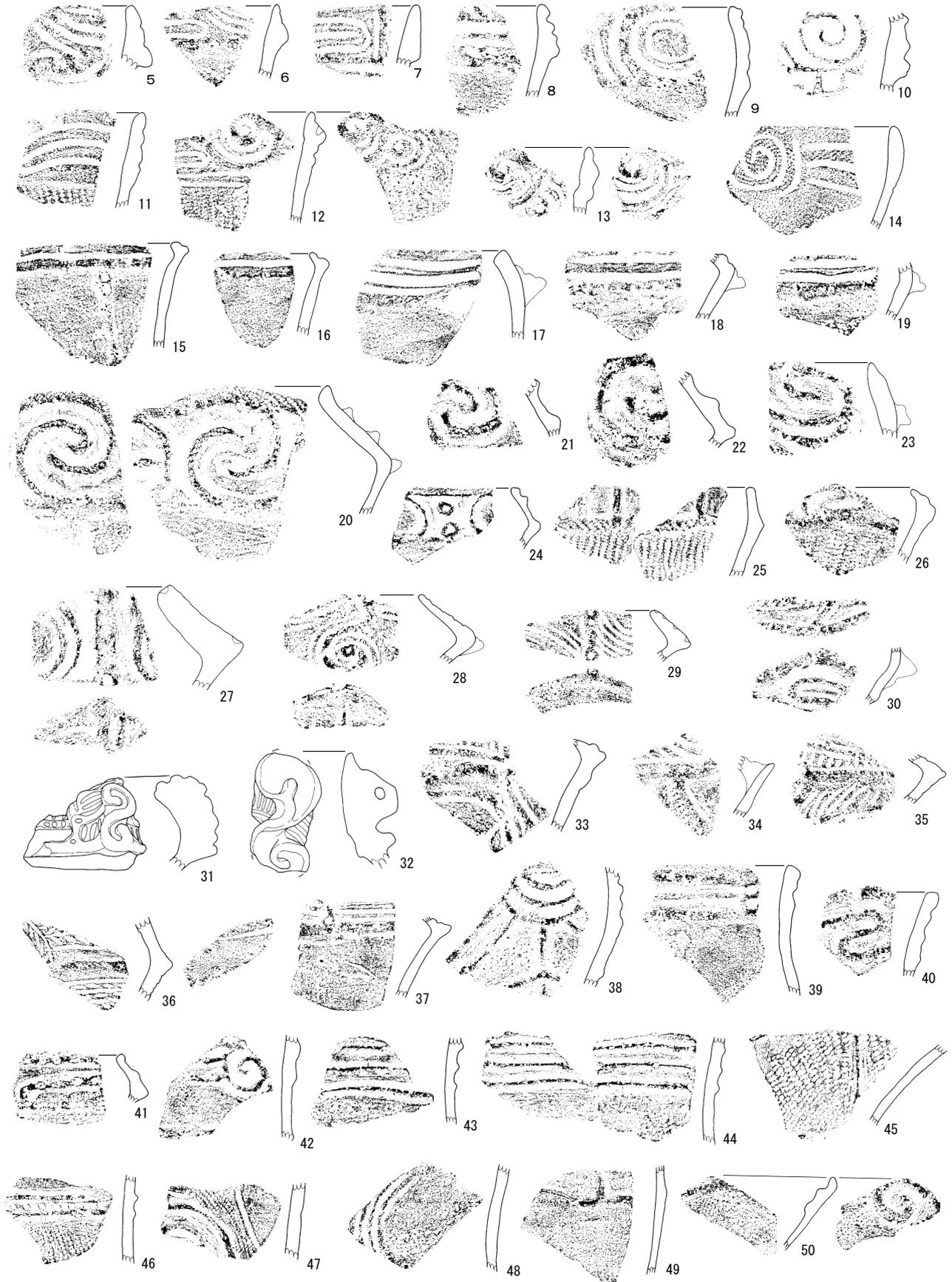
106～126は深鉢を主体とする底部破片である。底面には網代痕が見られるものが多く、胴部下端の文様は縄文と無文となる。

127～147は深鉢以外の破片である。127・128は壺型土器、129～141は加曾利B1式の注口土器の破片であり、129～136は球形を呈する胴部、137～140は注口部、141は把手となる。142・143は口縁部が内側に屈折した器形のもので、後期末葉の異形土器と考えられる。144・145は球形、146・147は浅鉢形を呈する小形土器である。145は丸底で、平行沈線が施されている。炉跡からの出土である。



第14図 2号住居跡出土土器(1)

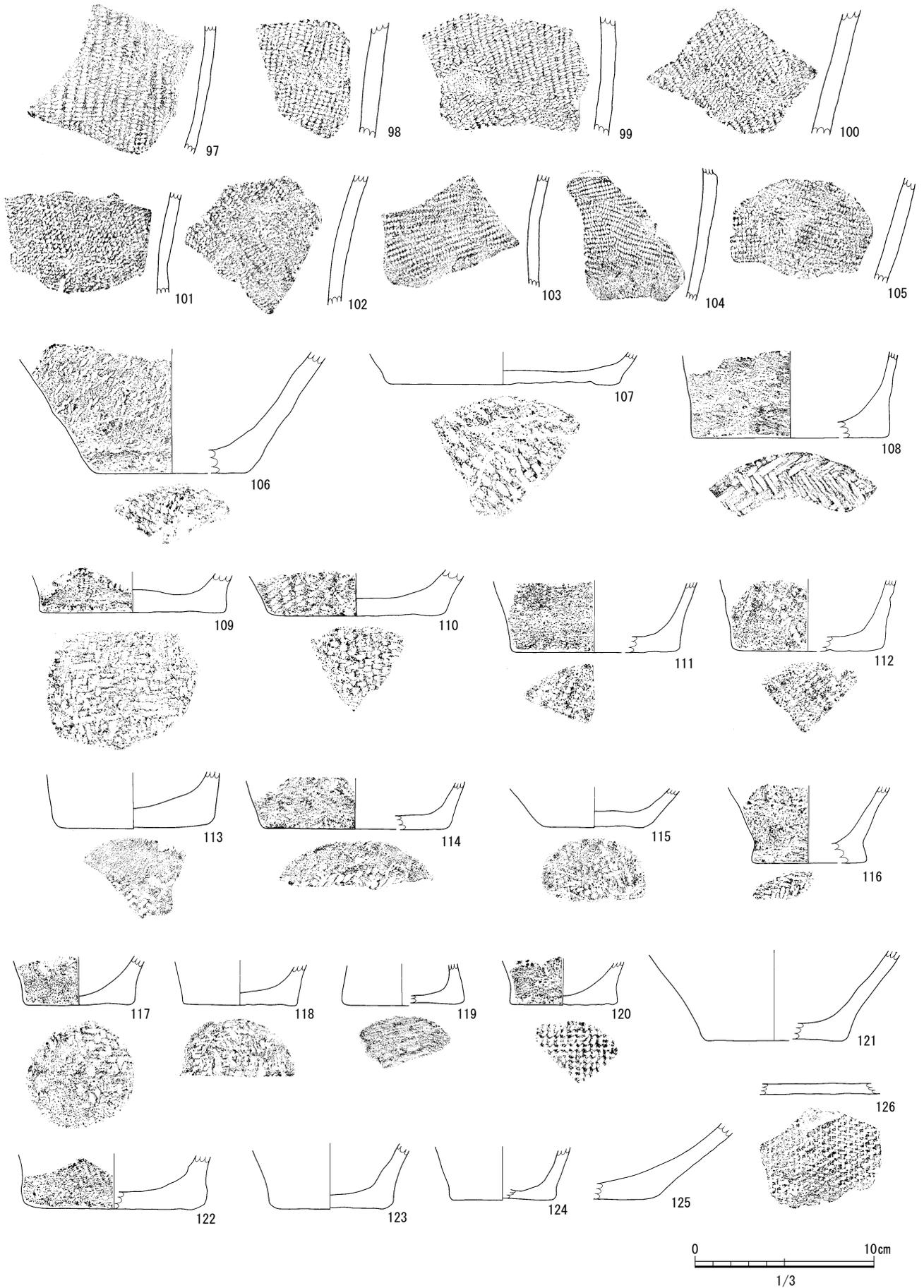
0 10cm
1/3



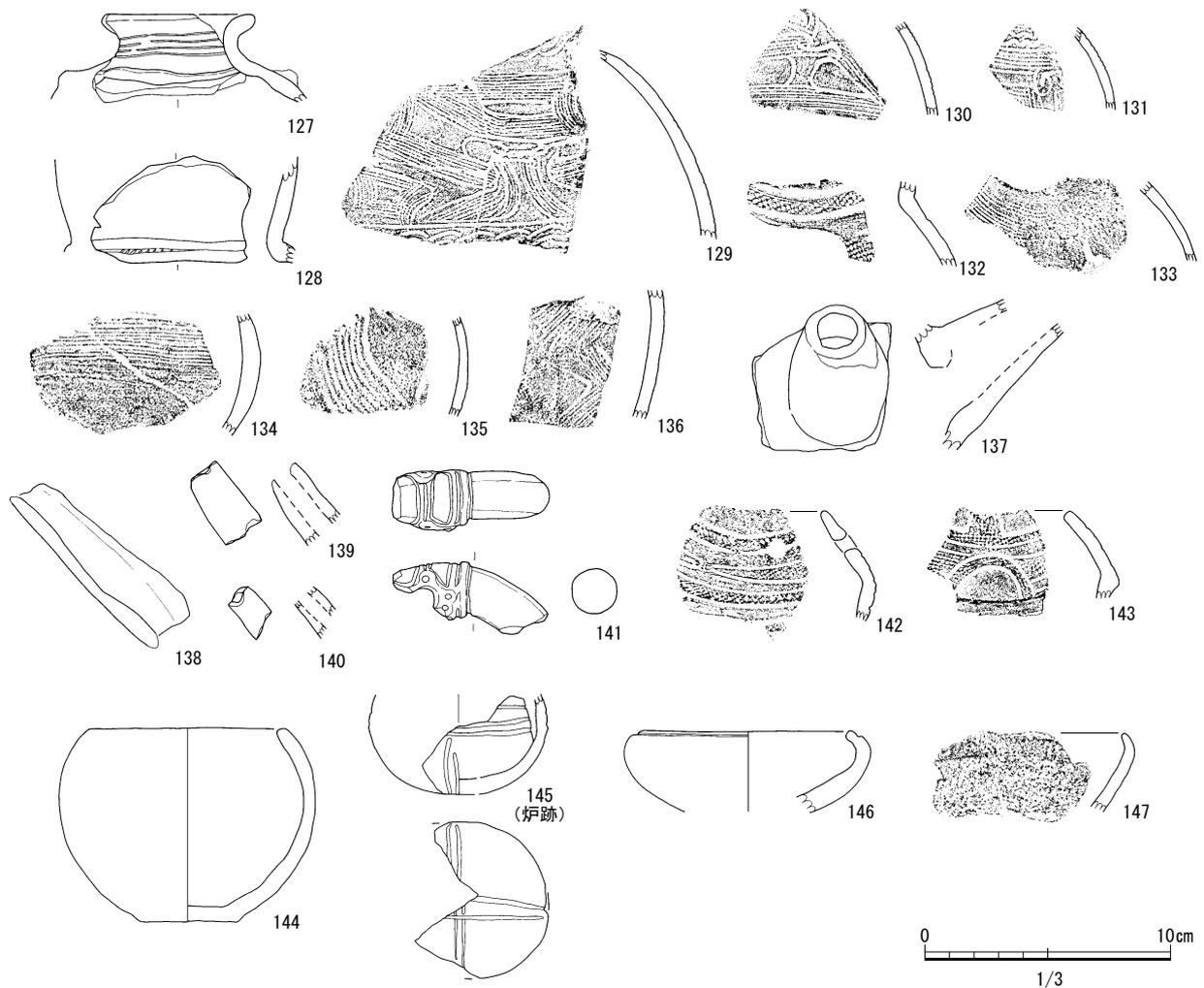
第15図 2号住居跡出土土器(2)



第16図 2号住居跡出土土器(3)



第17図 2号住居跡出土土器(4)

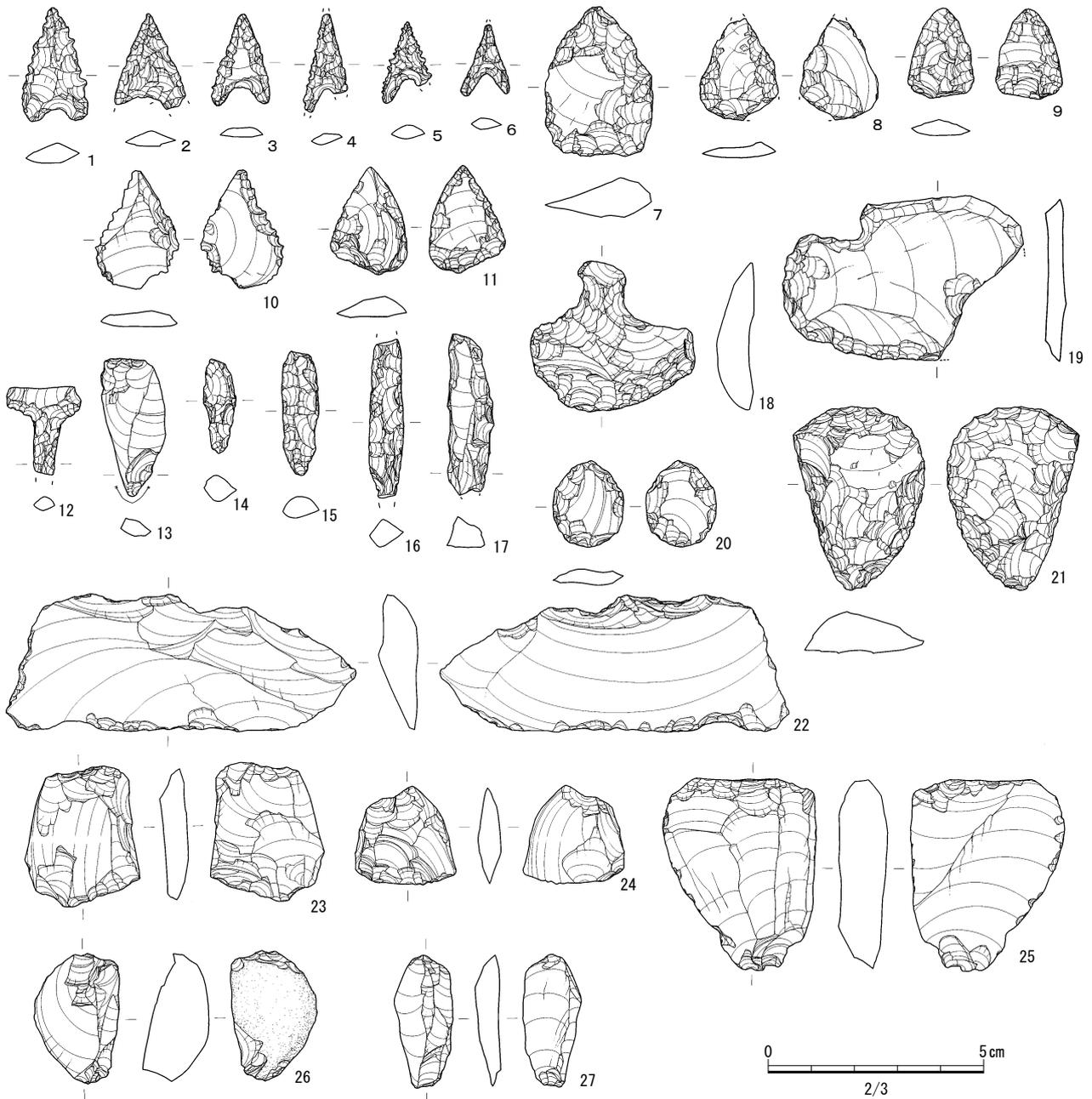


第18図 2号住居跡出土土器(5)

石器(第19~21図1~59、第17表、図版20・21)

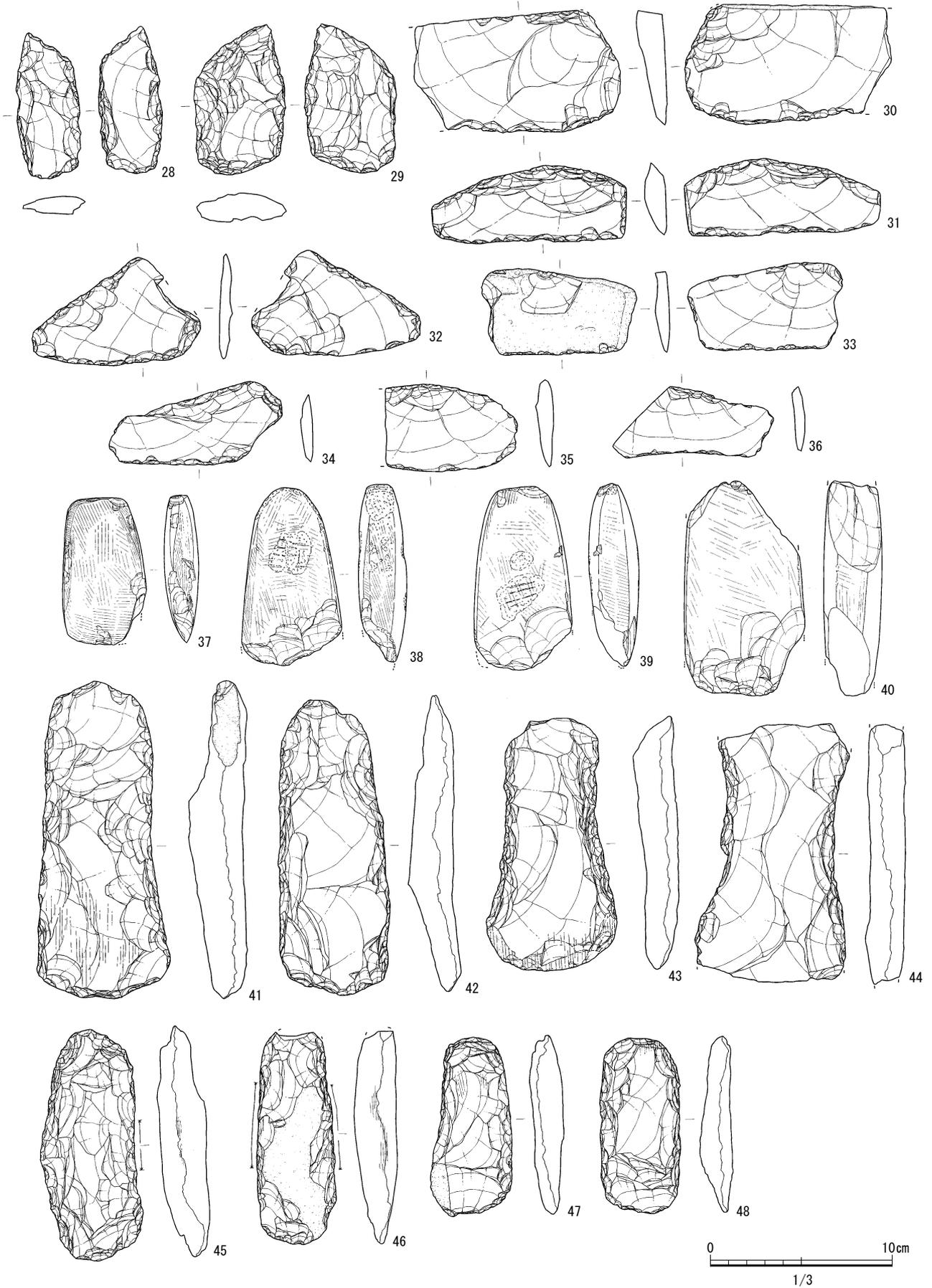
718点が出土した。内訳は石鏃19点、石錐7点、石匙2点、スクレイパー13点、クサビ形石器31点、尖頭状石器2点、横刃形石器16点、磨製石斧7点、打製石斧18点、敲石1点、凹石4点、磨石3点、磨石状軽石製品1点、有頭石器1点、異形石器1点、石核10点、剥片類582点となる。

1~11は石鏃である。1~6は凹基無茎、7は平基無茎の大形品、8~11は凸基無茎で素材剥片面を残すものが多い。12~17は石錐である。12はつまみ部を持つもの、13は尖頭状の剥片利用のもので、先端が摩耗している。14~17は棒状のもので、大きさに差があり、両頭のものを含む。厚みのある凸レンズ状ないし不整形の横断面形態となる。18・19は横形石匙である。19のつまみ部は大きい。20~22はスクレイパーである。20・21は両面加工で、一端が尖頭状となる。22は横長剥片の一辺に小剥離を加えた剥片削器で、横刃形石器に類似するが大きさや石材に差がある。23~27はクサビ形石器である。23~25は不整形、26・27は縦形を呈するもので、いずれも上下両端に加工がある。28・29は尖頭状石器である。縦長の器体に対して斜位の尖頭部が一端に作出された両面加工の特徴的な石器である。30~36は横刃形石器である。30~32は両面加工による刃部を持ち、31・32は上辺も刃部となる。33~36の刃部は微細剥離が見られる素材剥片のままのもので、34・36の上辺には片面加工、35の上辺には両面加工が見られる。37~40は定角式の磨製石斧で、37~39は欠損後も使用され、40はスタンプ

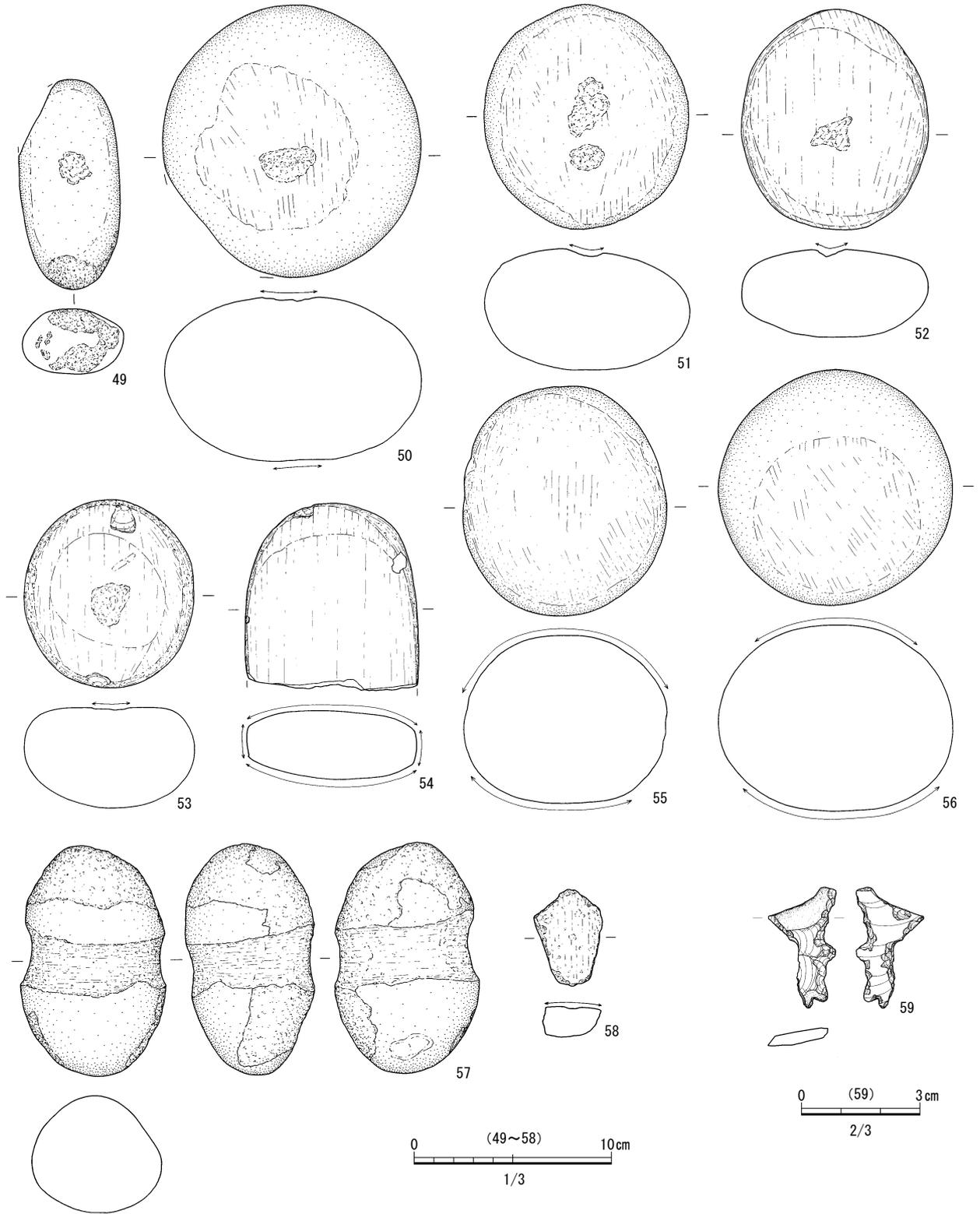


第19図 2号住居跡出土石器(1)

状の敲石に転用される。38・39の両面には敲打痕が見られる。41～48は打製石斧である。41・42・45～48は短冊形、43は撥形、44は分銅形を呈する。49は長円礫素材の敲石で、下端と表面の一部に敲打痕がある。50～53は凹石である。いずれも厚みのある円形を呈し、磨面を伴う。54～56は磨石である。54の側面は面取り状をなした扁平なもので、55・56は球形礫のままである。57は楕円形礫の中央に溝を持つ有頭石器で、有頭石錘または独銼石に分類できるものである。58は表面が磨面となる磨石状の軽石製品である。59は黒曜石製の異形石器で、小突起が作出されている。



第20図 2号住居跡出土石器(2)



第21図 2号住居跡出土石器(3)

3号住居跡 (第13図、第2・5表、図版7・8)

本住居跡は調査区西側のA・B-5・6区に位置する。2号住居跡、5・6・100号土坑と重複し、新旧関係は本住居跡→2号住居跡→100号土坑→5・6号土坑である。平面形態は不整な隅丸方形を呈し、検出部分の規模は約5.0×約4.0mを測る。壁は外傾して立ち上がり、深度は約15cmを測る。床面にはIV層類似の黄色土によって形成された貼り床が部分的に見られ、壁面から床面にかけてはIV・V層の礫が露出する。炉跡は中央より東側に位置し、1辺約110×85cmを測る長方形の石囲炉1基を検出した。囲い石は南東辺と北西辺の一部に残存し、厚みのある大形扁平礫と中形円礫・打割礫を部材としていた。底面には焼土化が認められた。柱穴は7本を検出した。西隅に位置するP1は深度約26cmを測り支柱穴の一部と考えられるが、同様な規模の柱穴はP7を確認したのみであり、規則的な配置・配列は認められない。2号住居跡に本住居跡の柱穴が含まれている可能性もある。

本住居跡の時期は、覆土出土土器から縄文時代中期後葉串田新I式以降と考えられる。



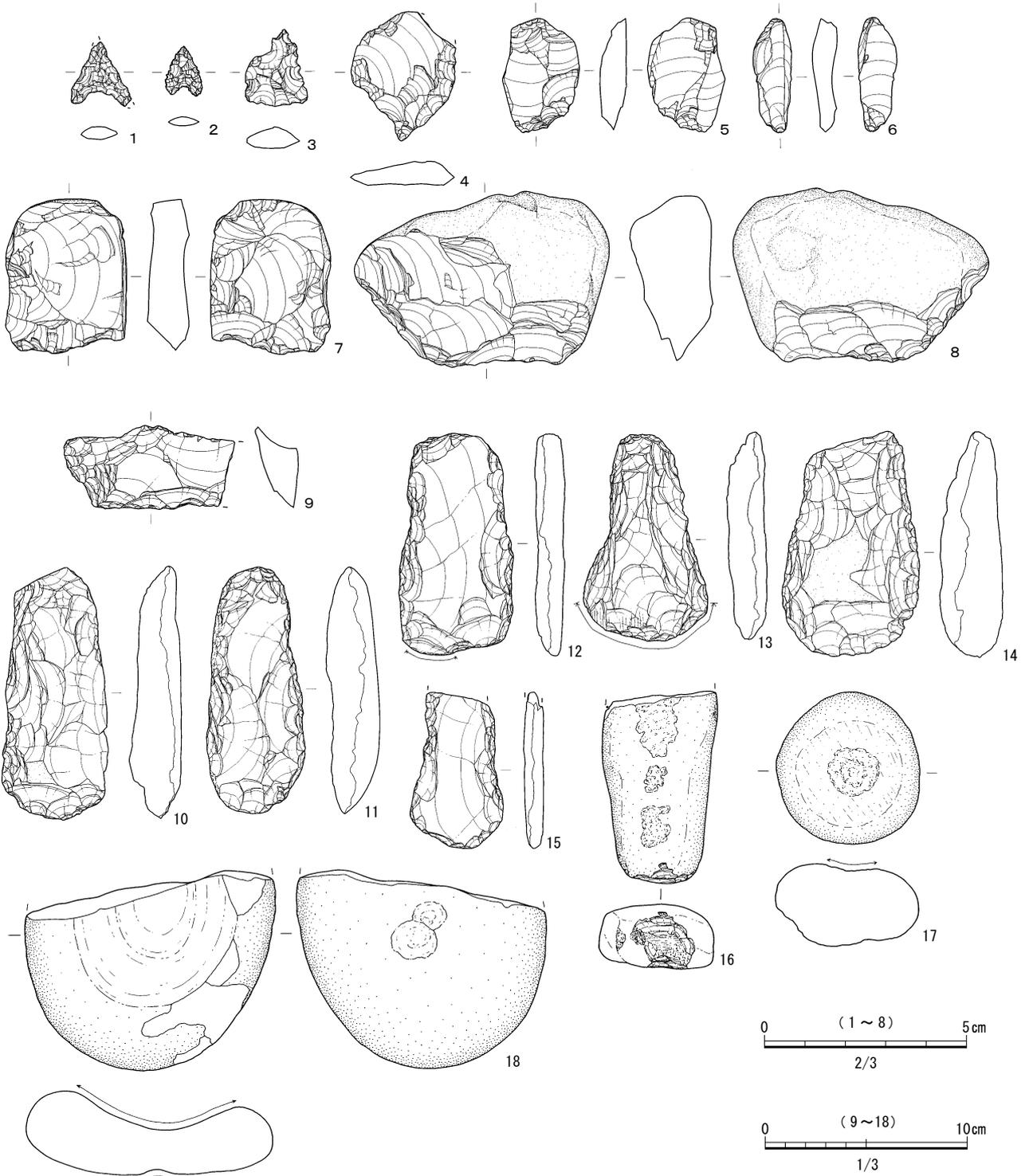
第22図 3号住居跡出土土器

出土遺物 (第22・23図、第11・18表、図版22・23)

土 器 (第22図1～7、第11表、図版22)

1は深鉢である。口縁部は外反した無文で、上端は縁带状となる。胴部には8条1単位の櫛歯状工具による縦位の条線文が施される。7は1と同一個体の底部で、底面に網代痕が見られる。

2・3は口縁部破片である。3の上端は欠損するが、いずれも横位の刻み目隆線が施され、平行・波状沈線が併用される。2の口唇部には横位隆線がある。4～6は胴部破片である。4・5は粗い縦



第23図 3号住居跡出土石器

位の集合沈線と波状沈線が施されたもので、2・3を含め同一個体と考えられる。6は斜位の縄文が施される。

石器 (第23図1~18、第18表、図版22・23)

155点が出土した。内訳は石鏃6点、石錐1点、スクレイパー2点、クサビ形石器5点、横刃形石器1点、磨製石斧1点、打製石斧6点、敲石1点、凹石1点、石皿1点、石核1点、剥片類129点となる。

1~3は石鏃である。1・2は凹基無茎、3は平基無茎となる。4は幅広な剥片の一端に錐部を作出した石錐である。5・6は縦形のクサビ形石器で、6は柱状を呈する。いずれも上下両端に加工がある。7・8はスクレイパーである。7は両側縁に二次加工が施された下端を刃部とする方形のもので、刃部には小剥離が見られる。8は扁平な亜円礫に両面加工が施された小形礫器様のもので、大きさと器厚からスクレイパーに分類した。9は横刃形石器で、下辺は片面加工の刃部だが、上下辺とも微細剥離が見られる。10~15は打製石斧である。10~12は短冊形、13~15は撥形を呈する。16は扁平な柱状の敲石で、下端と正面に敲打痕が見られる。17は厚みのある円形の凹石で、正面に窪みと磨面がある。18は小形の縁付石皿である。裏面に窪みが見られる。

4号住居跡 (第13図、第2・6表、図版8・9)

本住居跡は調査区西側のB・C-6区に位置する。2号住居跡、7・8・35・36号土坑と重複し、新旧関係は本住居跡→2号住居跡、7・8・35号土坑→36号土坑である。遺存状態は削平によって悪く、貼り床と考えられる硬化面・周溝の一部と炉跡が検出できたにすぎない。検出部分の規模は約3.6×約1.7mを測る。貼り床はIV層類似の黄色土によって形成されていた。炉跡は貼り床検出範囲の東端に位置し、石囲炉1基を検出した。囲い石は南西辺の大形棒状礫のみが残存し、1辺約60cmを測る方形を呈していたものと考えられる。底面には焼土化が認められた。炉跡内には潰れた状態で土器が出土している(第24図)。貼り床検出範囲の西端からは、周溝の一部と考えられる長さ約110cm、幅約25cm、深さ約15cmを測る北-南方向の小溝を検出した。柱穴は確認できなかった。



第24図 4号住居跡出土土器

本住居跡の時期は、炉跡内出土土器から縄文時代中期後葉曾利Ⅲ式期と考えられる。

出土遺物(第24図、第12表、図版23)

土器(第24図1～5、第12表、図版23)

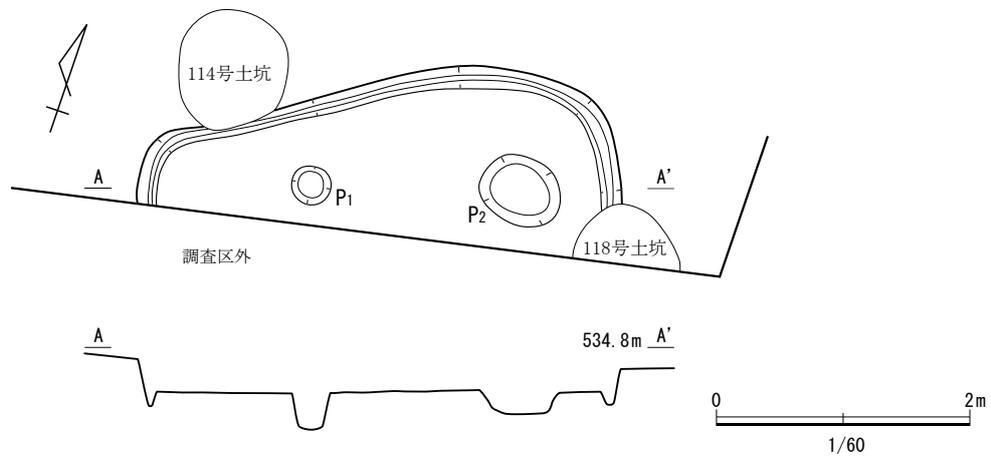
いずれも炉跡内から出土した。1・3～5は同一個体と考えられる曾利Ⅲ式土器である。口縁部は上端の無文部にわずかな貼付文と弧状沈線が施され、2条の横位隆線以下に斜位の縄文を地文として交互刺突、貼付隆線による渦巻文が見られる。胴部下半にはH状に連結する縦位貼付隆線と縦位の小波状沈線が見られる。2は粗い縦位沈線が充填された刻み目隆線の方形区画文を持つ口縁部である。

なお、本住居跡から石器は出土しなかった。

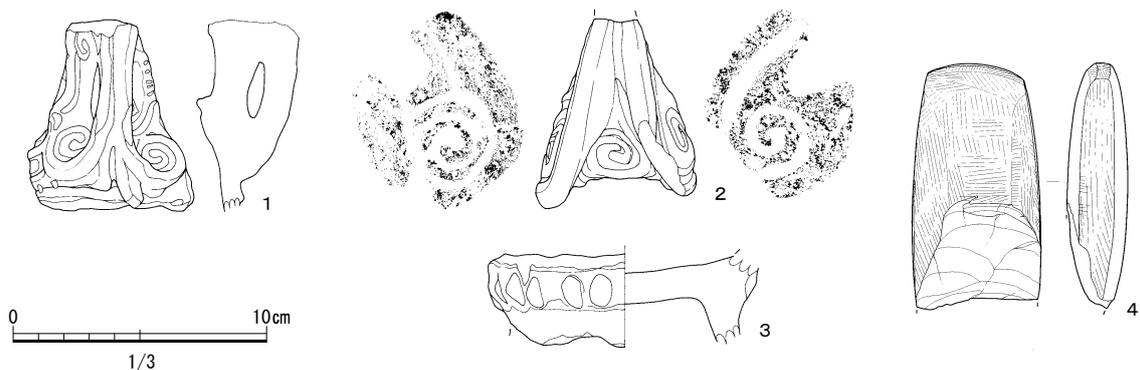
5号住居跡(第25図、第2・7表、図版8・9)

本住居跡は調査区東側のB・C-14・15区に位置する。調査区壁面に接し、本住居跡の中央から南東側は調査区外へ延び、部分的な検出となった。114・118号土坑と重複し、新旧関係は本住居跡→114・118号土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、検出部分の規模は約4.5×約1.5mを測る。壁は外傾して立ち上がり、深度は25～40cmを測る。床面にはⅣ層類似の黄色土によって形成された貼り床が見られられた。柱穴は2本を検出した。P1の深度は約30cmを測るが、P2は浅い皿状を呈する。周溝は壁面を回り、幅約15～20cm、深さ約10cmを測る。

本住居跡の時期は、覆土出土土器から縄文時代中期後葉曾利Ⅱ式期の唐草文系土器と考えられる。



第25図 5号住居跡



第26図 5号住居跡出土土器・石器

出土遺物(第26図、第13・19表、図版23)

土器(第26図1～3、第13表、図版23)

1は信州の唐草文系土器の影響が認められる口縁部破片である。渦巻文と連鎖する突起状の把手を持ち、内面の口縁部上端には貼付隆線がある。

2も唐草文系と考えられる中空の大形把手破片で、左・右・下面に沈線による渦巻文がある。

3は台付土器の接合部で、粗い刻み目が施された太い横位貼付隆線が見られる。

石器(第26図4、第19表、図版23)

磨製石斧1点が出土した。4は刃部を欠損する定角式の磨製石斧である。

2. 土坑(第27～34図、第8表、図版10)

土坑は121基が発見された。土坑番号は9・11号にそれぞれa・bを付したことから119までとなる。

土坑の時期決定は、確実に年代を示すような完形土器が出土した土坑が認められず、覆土から小破片が出土したものが主体であったため、こうした破片資料から推定した。時期別の内訳は縄文時代中期14基、後期60基、後～晩期3基、晩期3基、時期不明41基となる。

分布は調査区中央から東側の標高534.50～536.00m付近の住居跡に挟まれた区域に集中し、その東側に長軸100cm以上の大形土坑が目立つ。調査区西側では竪穴住居跡と重複しながら10基ほどが分布し、いずれも住居跡の一部を壊して構築されている。平面形は楕円形または略円形のもものが主体となり、わずかに不整形円形・不整形楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・略台形のものも含まれている。規模は長軸100cm以上の大形土坑が37基を数え、それらは長軸100～179cm、短軸65～137cm、深さは15～74cmを測る。一方、長軸が40～60cmほどの小形土坑が13基見られる。

時期別分布には偏りが認められる。中期の14基(1・3・33・34・47・49・54・55・57・58・84・113・116・118号)は、3ヶ所のまとまりが確認され、調査区西側のB-3・4区に2基、東寄りのA・B-9～11区に9基、東端のB・C-14・15区に3基が位置する。平面形は楕円形が主体で、わずかに略円形のものも検出された。規模は長軸55～155cm、短軸51～111cm、深さ12～64cmを測る。

後期の60基(2・6～8・17～22・24・26～32・40・41・45・46・48・50～53・59・73・75・76・79～81・83・85～87・90～96・98・99・101・103～109・111・112・114・117・119号)は、調査区のほぼ全体に分布するが、その中心は調査区中央から東側のA～C-8～14区で、規模で分類した土坑とほぼ同様の分布を示している。平面形は楕円形・略円形が主体で、わずかに不整形円形・不整形楕円形・略台形のものも検出されている。規模は長軸48～179cm、短軸48～137cm、深さ13～74cmを測り、その中で21基は大形のものである。

後～晩期の3基(4・12・14号)は、調査区中央付近のB・C-8区に2基、中央やや西寄りのB-6区に1基が分布する。平面形は楕円形と略円形のもものが検出された。規模は長軸76～115cm、短軸65～70cm、深さ18～40cmを測り、1基は大形のものである。

晩期の3基(10・16・44号)は、調査区中央やや東寄りのA・B-8～10区に分布する。平面形はいずれも楕円形で、規模は長軸93～141cm、短軸74～106cm、深さ23～66cmを測り、2基は大形のものである。

大形のものを含む深さが40cmを超える後期のものは26基を数え、調査区西側から3基が検出されているが、調査区東側で明瞭な弧状・帯状の分布が認められる。調査区中央から東側のB-9区からB

-14区にかけて、4～5mの幅で複数の列が弧を描きながら帯状に分布している。これらは柱穴列や建物跡などの可能性も考えられるが、調査区の制約や攪乱などの影響からその配置は明確に捉えきれない。

覆土は、黒色土・黒褐色土・暗褐色土を主体に形成されている。覆土中に炭化物が含まれるものは85基を数え、その中で7基(5・44・51・73・76・87・114号)には炭化物が多量に含まれている。その時期的な内訳は、後期5基(51・73・76・87・114号)、晩期1基(44号)、不明1基(5号)である。また、9基(4・7・10・11a・11b・31・95・111・114号)からは骨角破片が出土しており、その時期的な内訳は、後期5基(7・31・95・111・114号)、後～晩期1基(4号)、晩期1基(10号)、不明2基(11a・b)である。なお、土坑の詳細は第8表を参照されたい。

出土遺物(第35～39図、第14・20・22表、図版24～28)

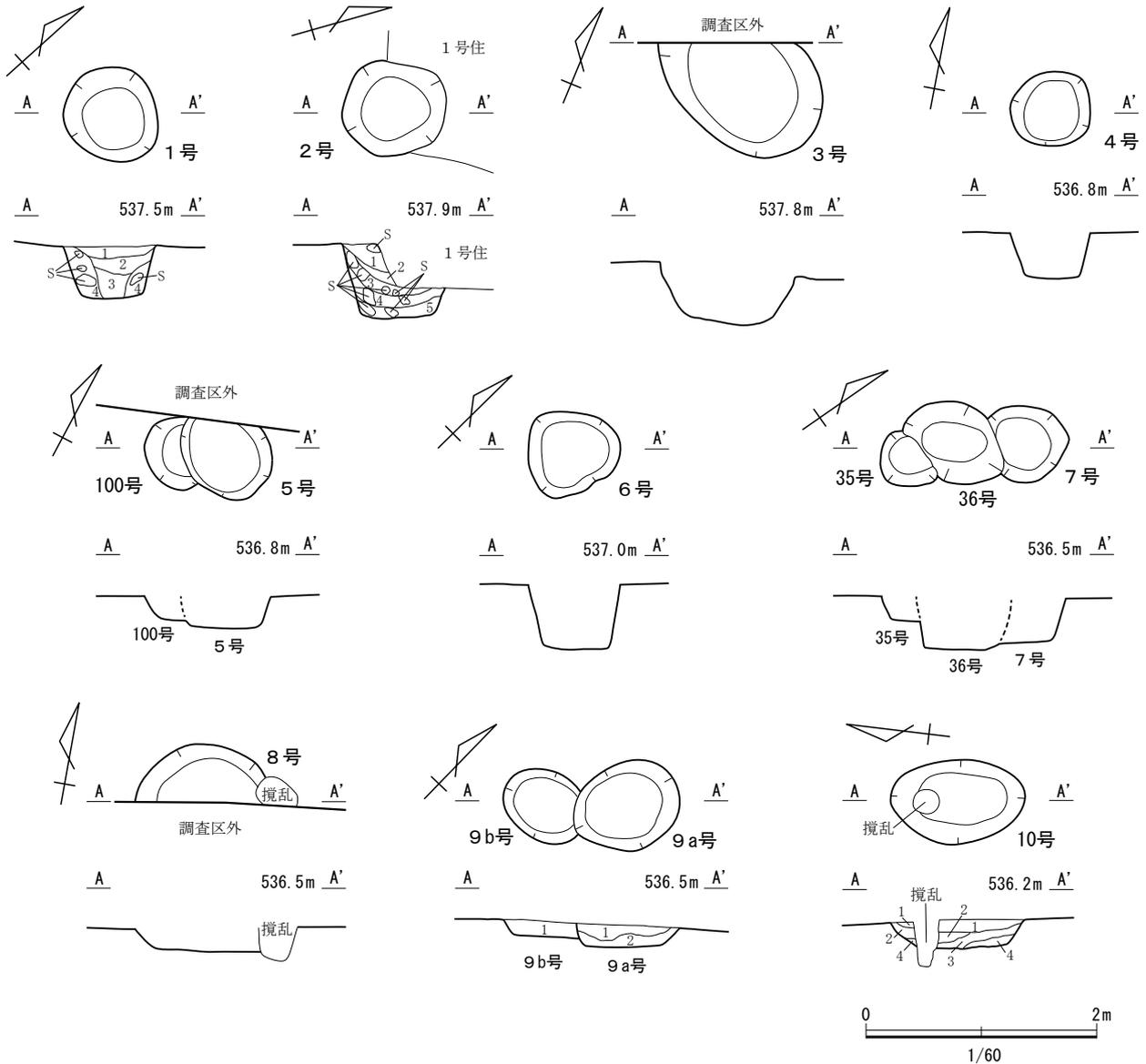
土坑内の遺物は覆土中に混在した状態での出土であり、埋設・埋納されたような出土状態を示すものは認められなかった。

土器・土製品(第35・36図1～99、第14表、図版24・25)

土器は小破片が中心である。時期は中期後葉から晩期初頭まで見られ、ごくわずかに条痕文土器が含まれていた。4・10号土坑から出土した晩期初頭の玉抱き三叉文土器は、接合して口縁部から胴部の大形破片となった(第35図6)。土製品は、遺跡全体で3点出土した耳飾りのうち、土坑から2点(26・44号土坑から各1点-第36図98・99)が出土した。耳飾りの時期は後期(99)と晩期初頭(98)で、いずれも破片である。

石器・石製品(第37～39図1～86、第20・22表、図版26～28)

土坑出土石器の組成は第22表に示した。土坑出土の石器群は、全体で1,166点が出土した。その内訳は石鏃55点、石錐11点、スクレイパー6点、クサビ形石器38点、横刃形石器5点、磨製石斧6点、打製石斧24点、敲石2点、凹石1点、台石1点、礫石錘1点、石棒1点、垂飾3点、石核16点、剥片類996点となる。定形石器としては、石鏃、クサビ形石器、打製石斧が多い。玉類は遺跡全体で5点出土したうちの3点(5・41・107号土坑から各1点-第39図79～81)、有茎石鏃は遺跡全体で3点出土したうちの1点(106号土坑-第37図34)が土坑から出土した。また、右端が尖頭状を呈する横刃形石器(2号土坑-第38図51)、磨面に赤色物が付着する凹石(107号土坑-第39図75)が見られる。



1号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。焼土・炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を10%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。砂を20%含む。
- 4層 黒色土 (10YR1.7/1)。礫を30%、砂を10%含む。

2号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を1%、礫を20%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)。砂をラミナ状に40%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR3/2.5)。礫を30%、砂を15%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR3/2)。礫を20%、砂を30%含む。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/3)。礫を20%、砂を40%含む。

9a号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)。砂を斑紋状・ラミナ状に25%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)。砂を40%含む。

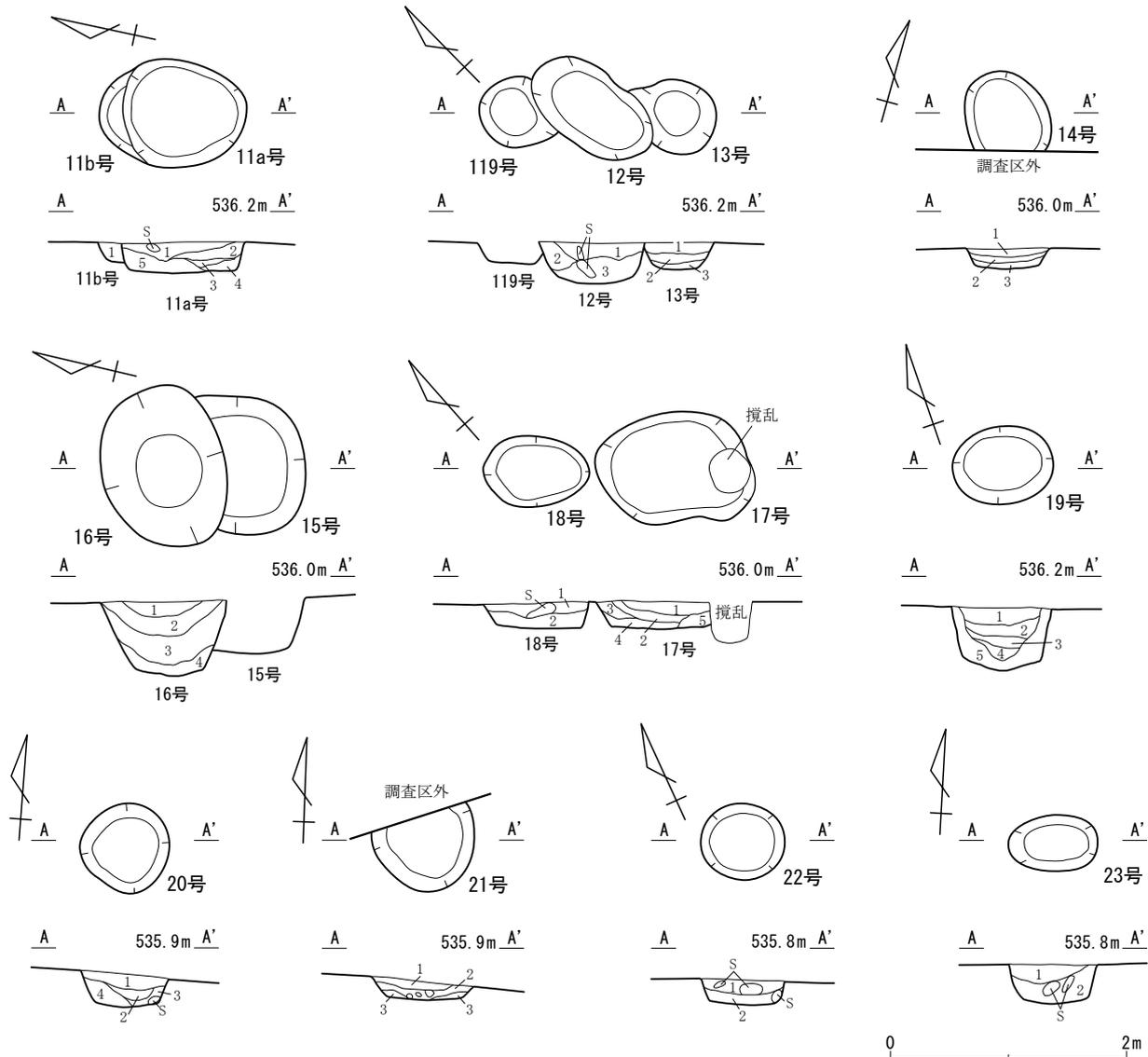
9b号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)。砂を斑紋状・ラミナ状に25%含む。

10号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、砂を30%含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4)。砂を40%含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/4)。砂を50%含む。

第27図 1～10・35・36・100号土坑



11 a 号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、礫を5%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。斑紋状の砂を20%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。黒色土をラミナ状に含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。砂を60%含む。
- 5層 黒色土 (10YR2/1)。塊状の砂を25%含む。

11 b 号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、砂を20%含む。

12号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を5%、礫を7%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。1層に比べ、色調が暗い。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を10%、砂を20%含む。

13号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を20%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を25%含む。

14号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を10%、砂をラミナ状に40%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を30%含む。

16号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を3%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%、砂を7%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%、砂を10%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を20%含む。

17号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)。炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)。焼土粒子を2%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/3)。焼土粒子を3~5%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/3)。砂を40%含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/3)。焼土粒子を5%、砂を30%含む。

18号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。礫を25%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。砂を40%含む。

19号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を10%、砂を15%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を5%、砂を20%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を25%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を20%含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を40%含む。

20号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を5%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。礫を25%含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。砂を斑紋状に20%含む。

21号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。焼土粒子を3%、炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。礫を20%、砂を15%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。

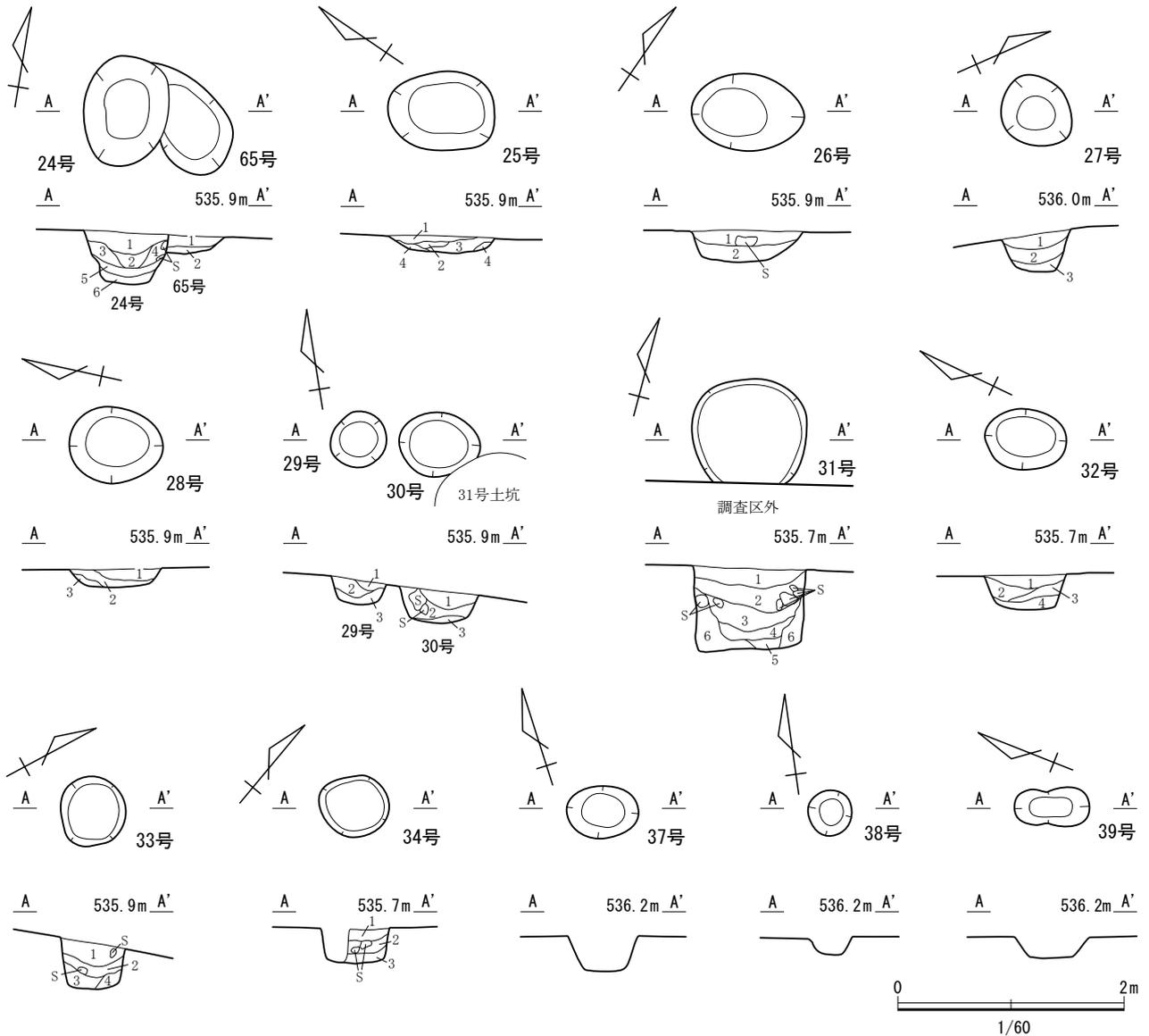
22号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を10%、礫を25%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を10%、砂を25%含む。

23号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)。炭化物粒子を1%、砂を20%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3)。礫を10%、砂を40%含む。

第28図 11~23・119号土坑



24号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を5%、砂を7%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を10%含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。礫を25%含む。
- 5層 黒色土 (10YR2/1)。砂を15%含む。
- 6層 黒色土 (10YR2/1)。砂を30%含む。

25号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を25%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。砂を40%含む。

26号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。炭化物粒子を3%、礫を10%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2.5)。炭化物粒子を3%、砂を20%含む。

27号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。焼土粒子を3%、炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂を5%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を斑紋状に10%含む。

28号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を1%、砂を25%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1)。砂を5%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を40%含む。

29号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を1%、砂を10%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂をラミナ状に10%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を15%含む。

30号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を1%、砂を5%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。礫を20%、砂を10%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。

31号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を10%、砂を5%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を10%、砂を15%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を5%、砂を20%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を25%含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を30%含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を10%、砂を40%含む。

32号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂をラミナ状に10%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を10%含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、砂を10%含む。

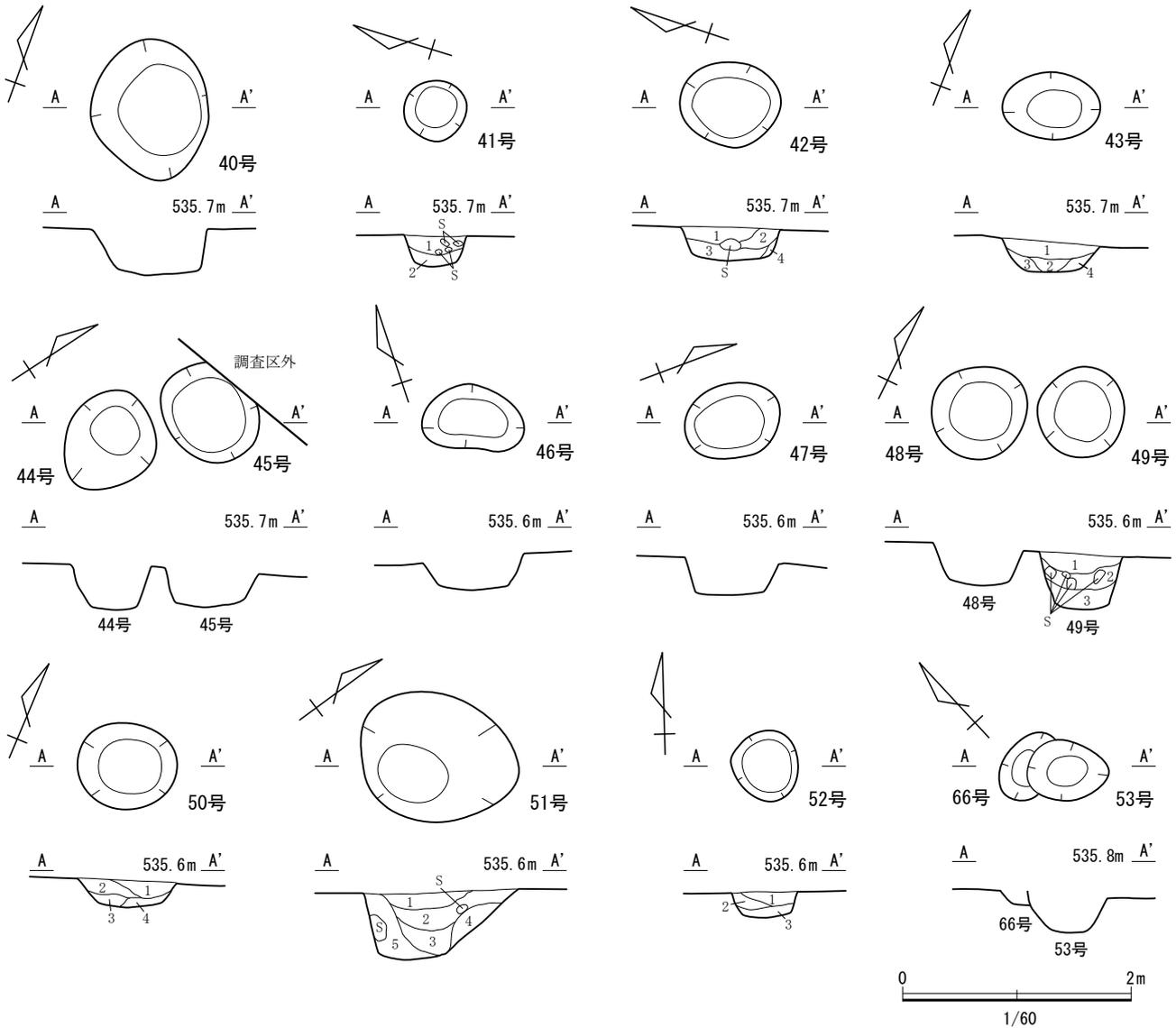
33号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を1%、礫を3%、砂を10%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を5%、砂を15%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を25%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を30%含む。

34号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を1%、砂をラミナ状に5%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を25%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を25%含む。

第29図 24~34・37~39・65号土坑



41号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、礫を30%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。焼土粒子を2%、炭化物粒子を1%含む。

42号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を5%、砂を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。礫を25%、砂を20%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を25%含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。砂を30%含む。

43号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を1%、砂を10%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂を15%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を25%含む。
- 4層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。

49号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を5%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。礫を25%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を10%含む。

50号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。焼土粒子を2%、炭化物粒子を30%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。焼土粒子を2%、炭化物粒子を3%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂をラミナ状に10%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。焼土粒子を5%含む。

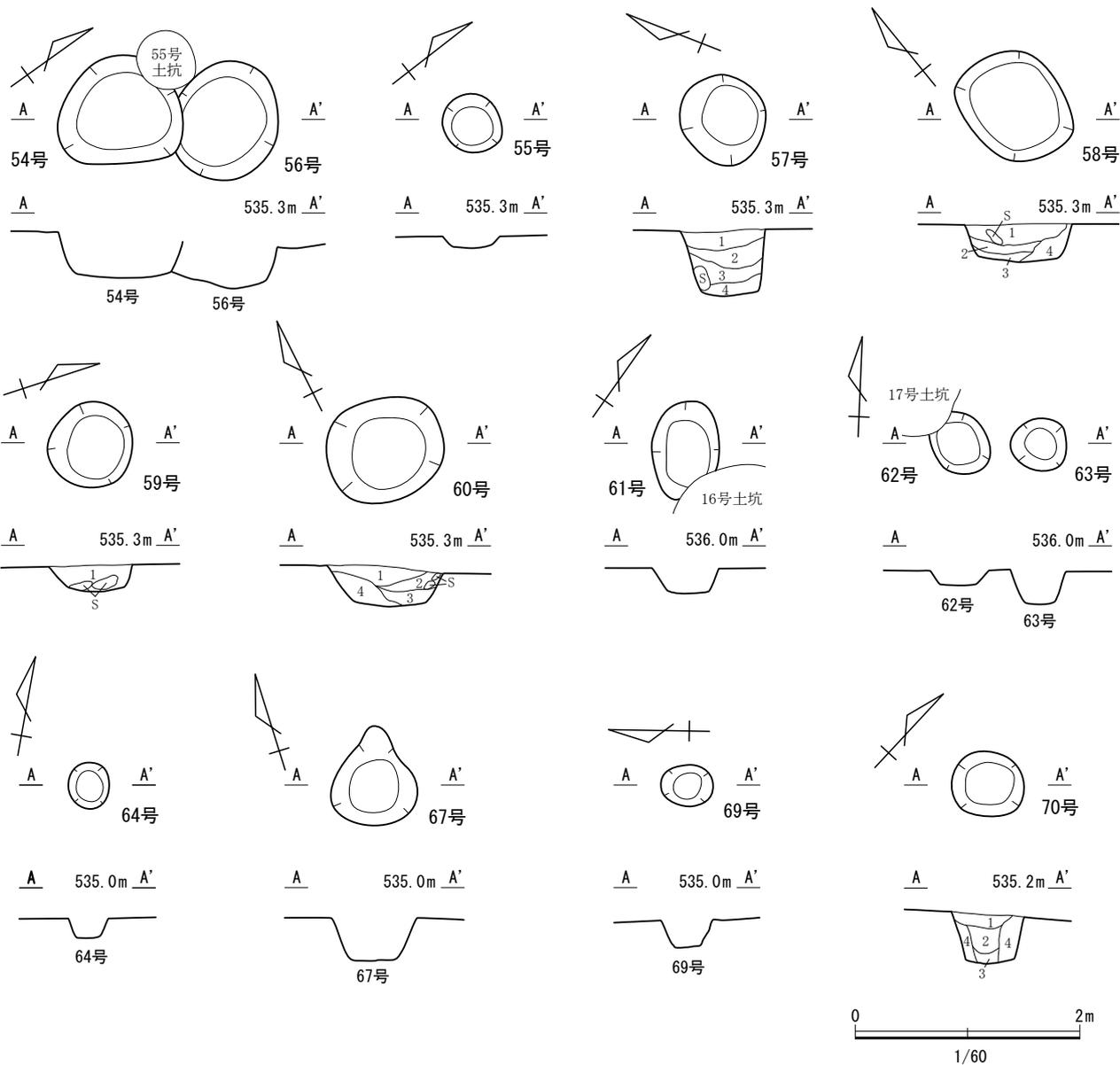
51号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を5%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を10%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を20%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を30%含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を40%含む。

52号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。焼土粒子を3%、炭化物粒子を1%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を10%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を25%含む。

第30図 40～53・66号土坑



57号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を10%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を25%、砂を10%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を30%含む。

58号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%、礫を5%含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を20%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を25%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を30~40%含む。

59号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を1%、礫を25%含む。

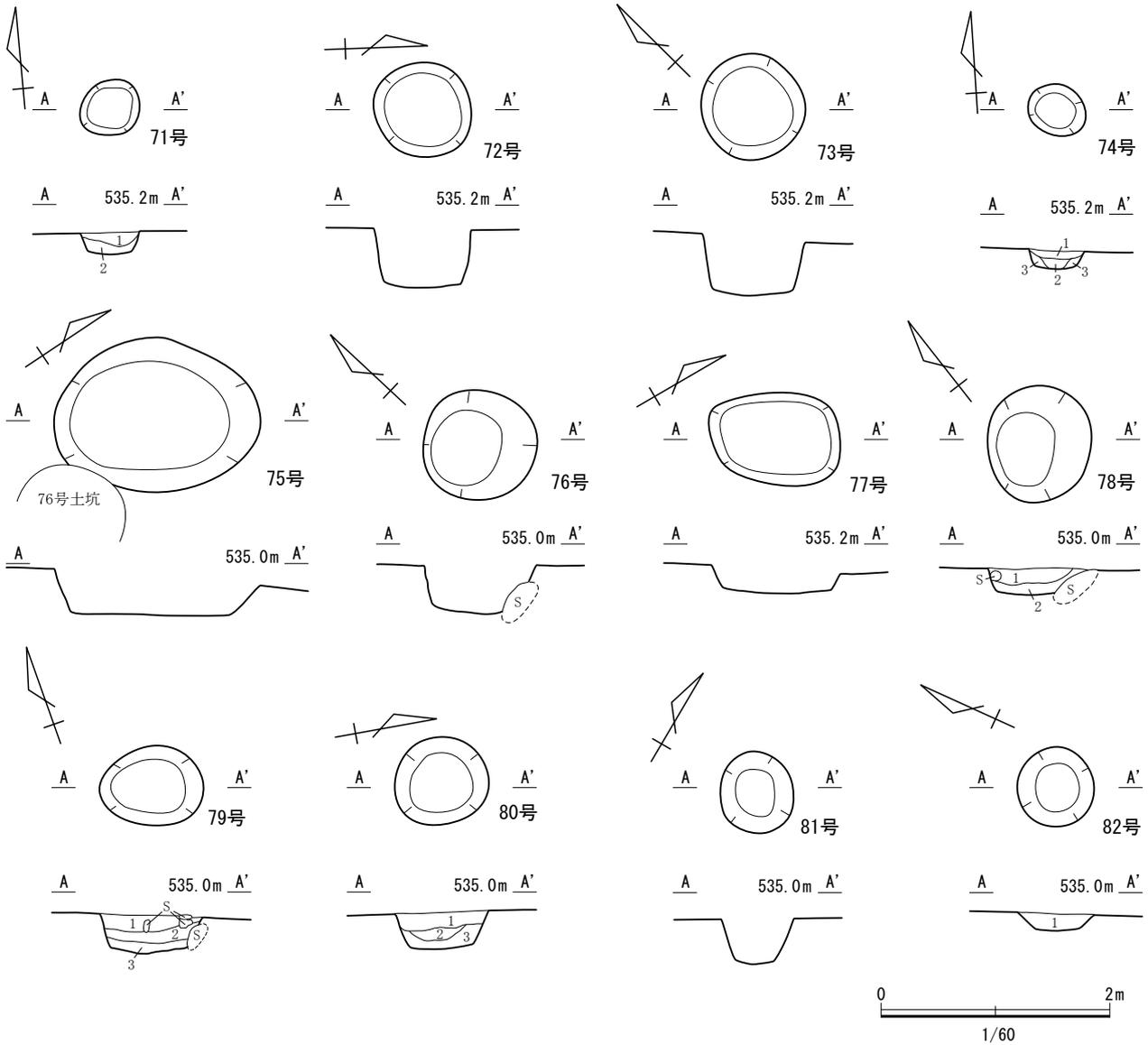
60号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を5%、層下位に砂を斑紋状・ラミナ状に含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を20%含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を15%含む。
- 4層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を30%含む。

70号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を7%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を30%含む。
- 4層 黄色土 (2.5Y2/8)。砂主体。

第31図 54~64・67・69・70号土坑



71号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂を10%含む。

74号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を5%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。

78号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。焼土粒子を2%、炭化物粒子を5%、礫を7%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。焼土粒子を2%、炭化物粒子を5%含む。

79号土坑土層説明

- 1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、礫を10%含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%含む。
- 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を25%含む。

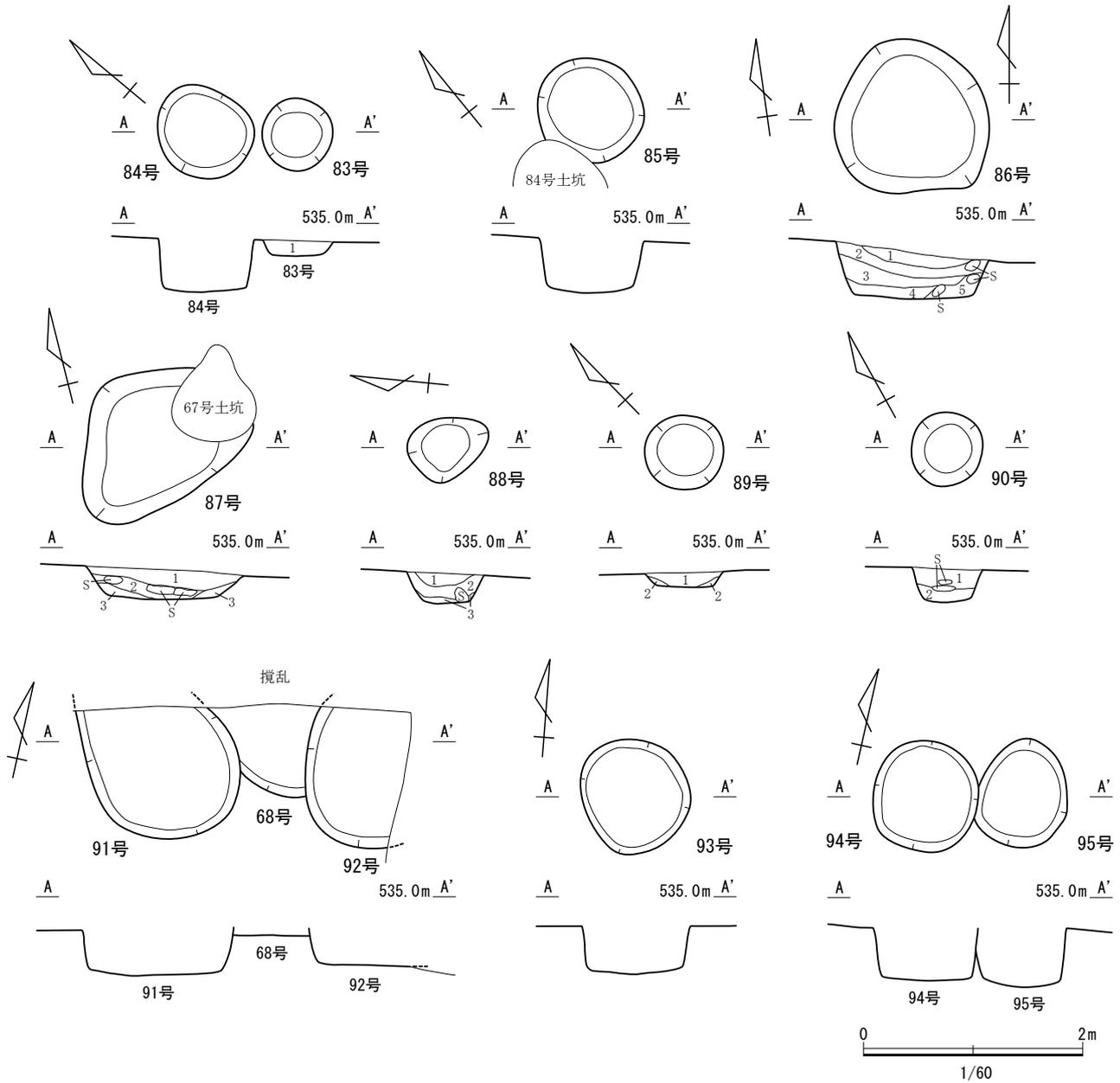
80号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を1%、砂を10%含む。
- 2層 黄色土 (2.5Y2/8)。砂がラミナ状に堆積。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を30%含む。

82号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を2%、砂を10%含む。

第32図 70~82号土坑 (1/60)



83号土坑土層説明

1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を5%含む。

86号土坑土層説明

1層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。炭化物粒子を2%含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。1層に類似。
 3層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂をラミナ状に20%含む。
 4層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を40%含む。
 5層 黒褐色土 (10YR2/1.5)。砂を40%、礫を15%含む。

87号土坑土層説明

1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を20%含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。礫を30%含む。
 3層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を40%含む。

88号土坑土層説明

1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を2%含む。
 2層 黒色土 (10YR2/1)。礫を15%含む。
 3層 黒色土 (10YR2/1)。砂を20%含む。

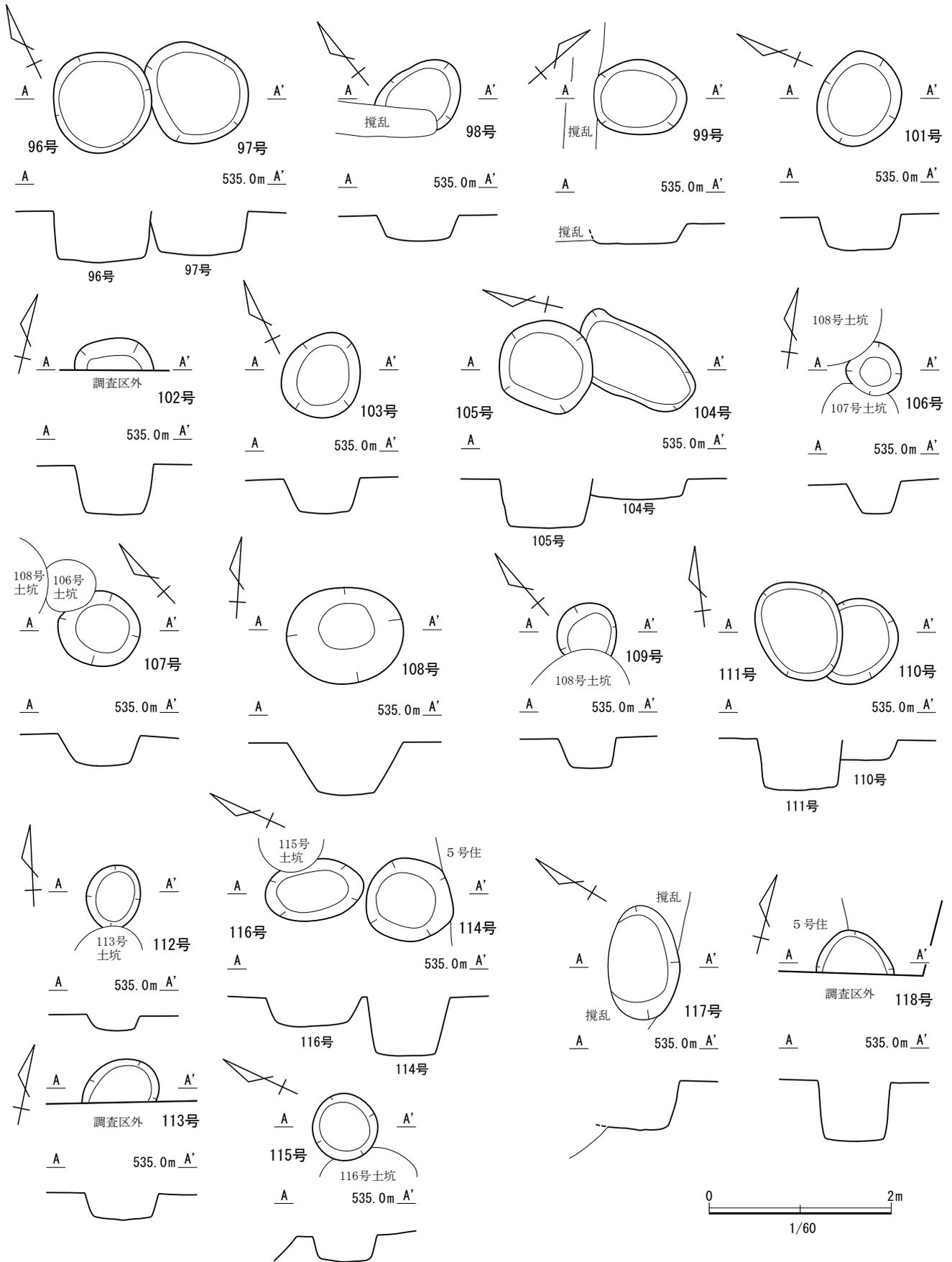
89号土坑土層説明

1層 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物粒子を3%含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/2)。砂を20%含む。

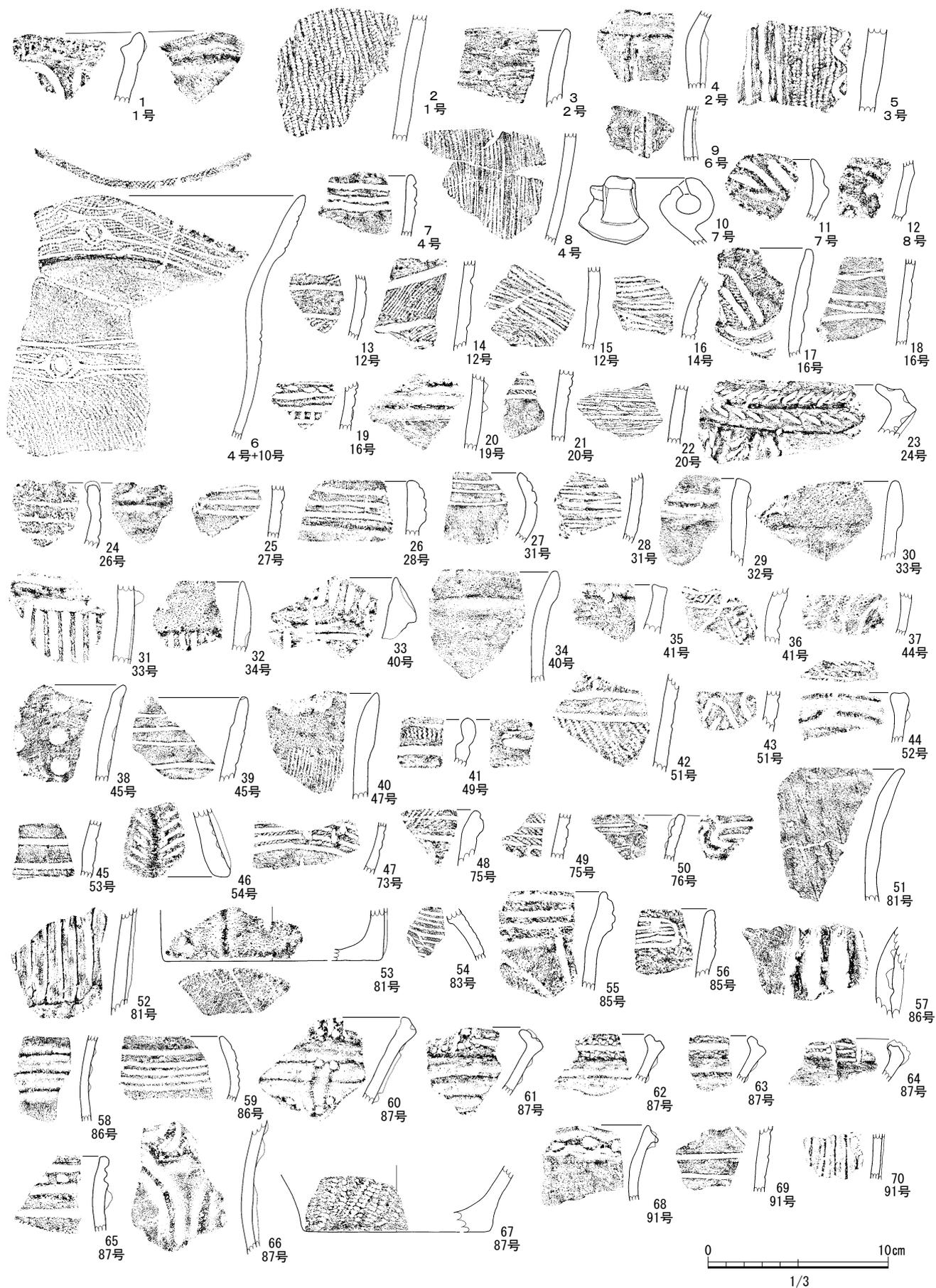
90号土坑土層説明

1層 黒色土 (10YR2/1)。炭化物粒子を3%、礫を15%含む。
 2層 黒色土 (10YR2/1)。砂を15%含む。

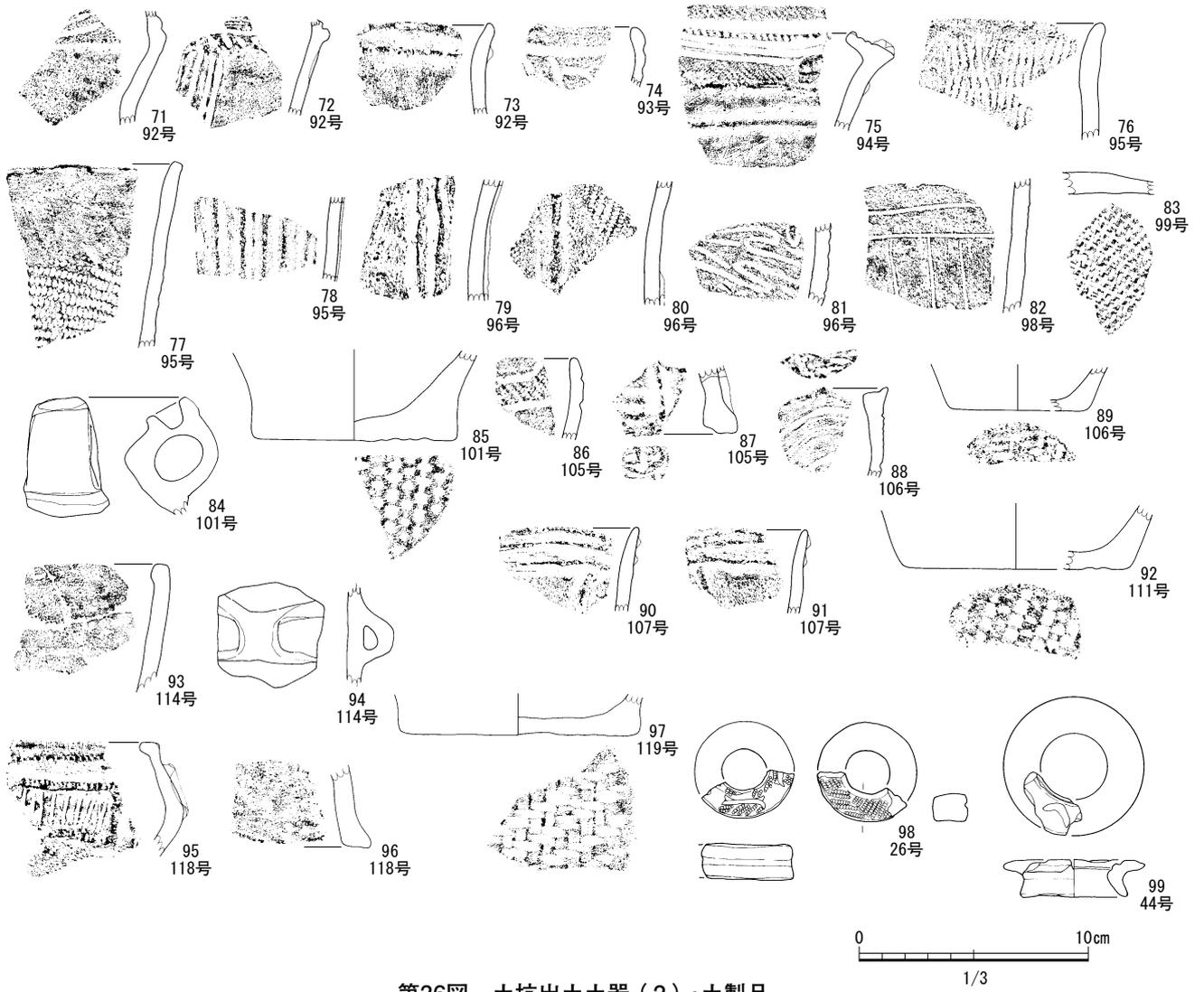
第33図 68・83~95号土坑 (1/60)



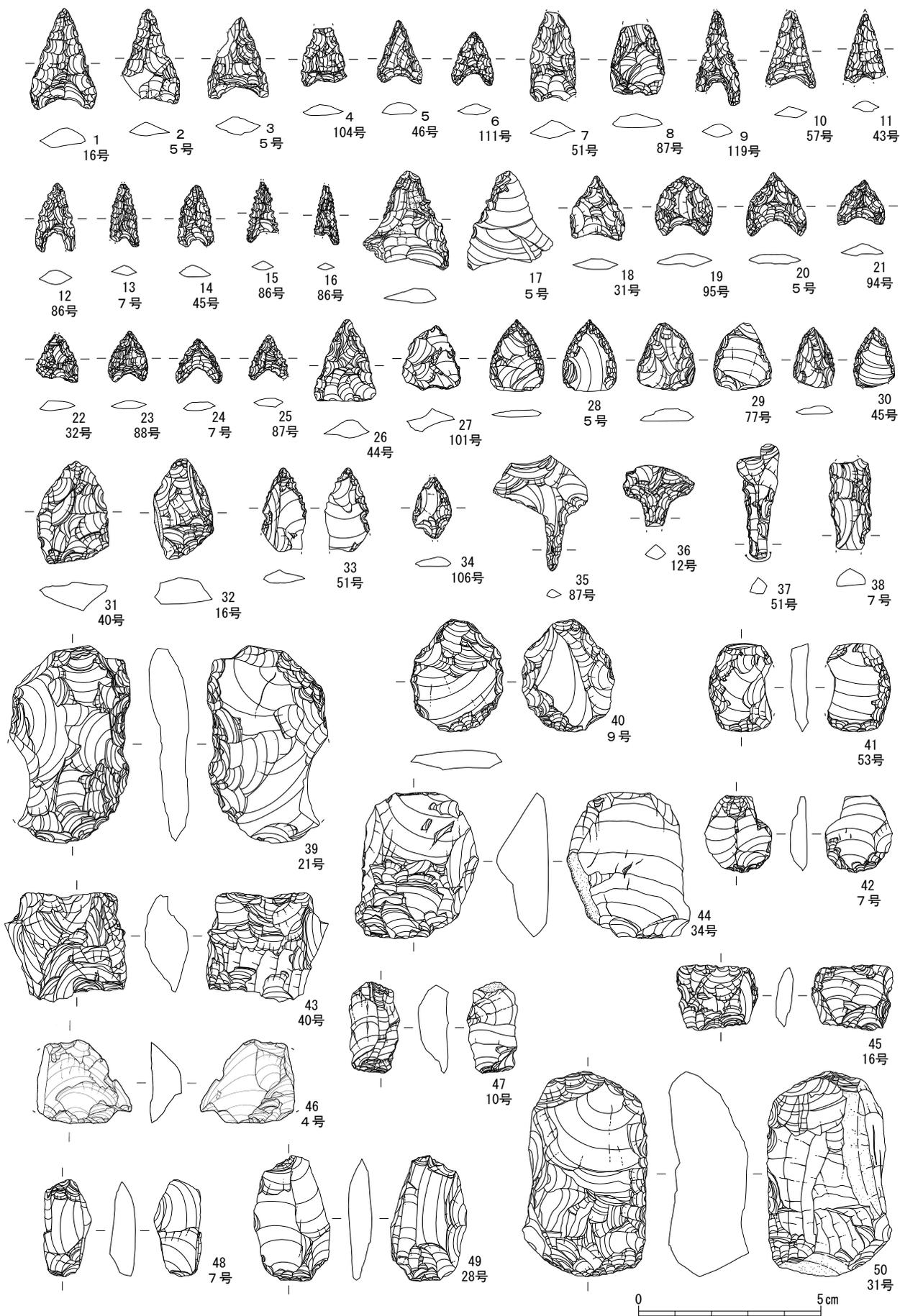
第34図 96~99・101~118号土坑



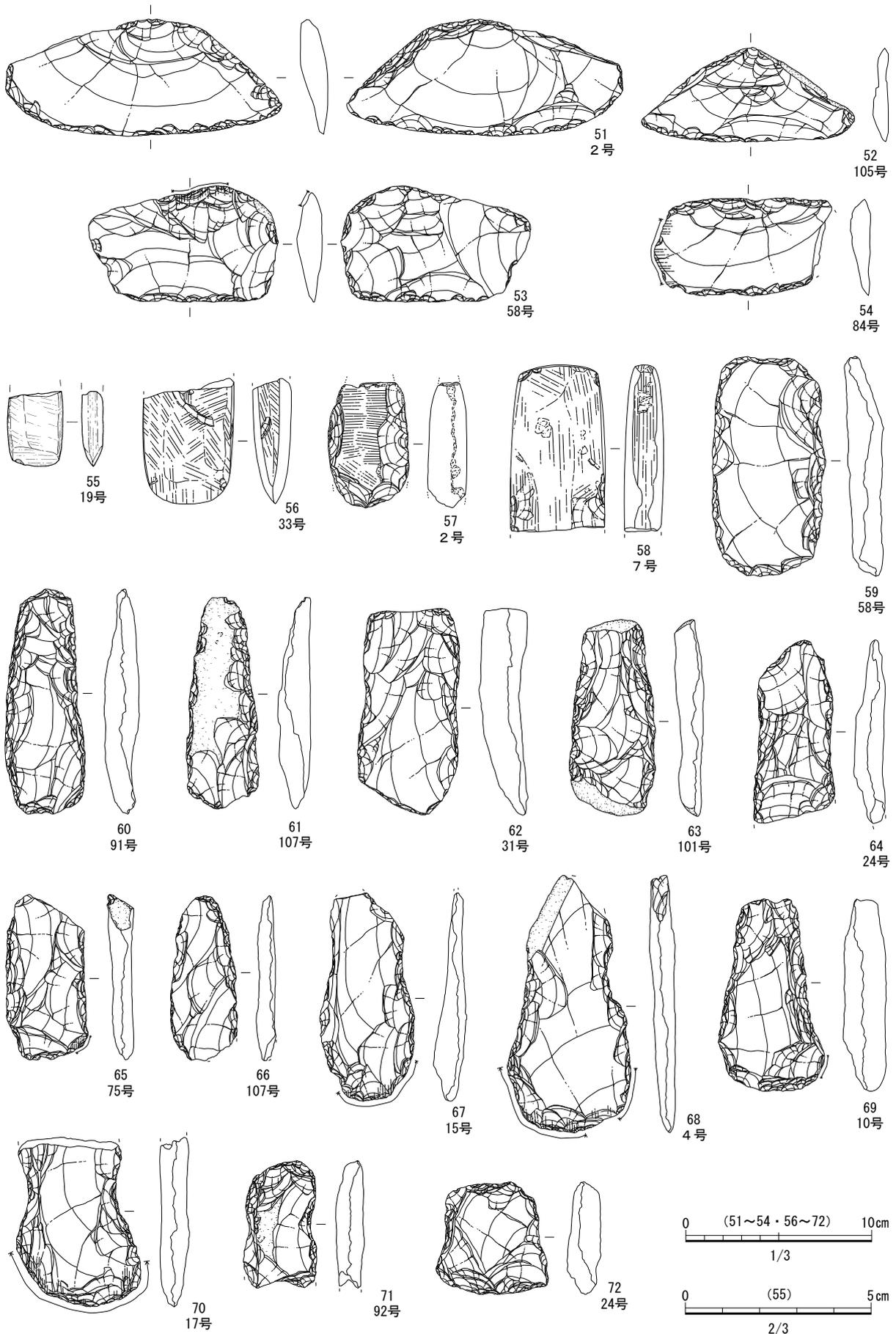
第35図 土坑出土土器(1)



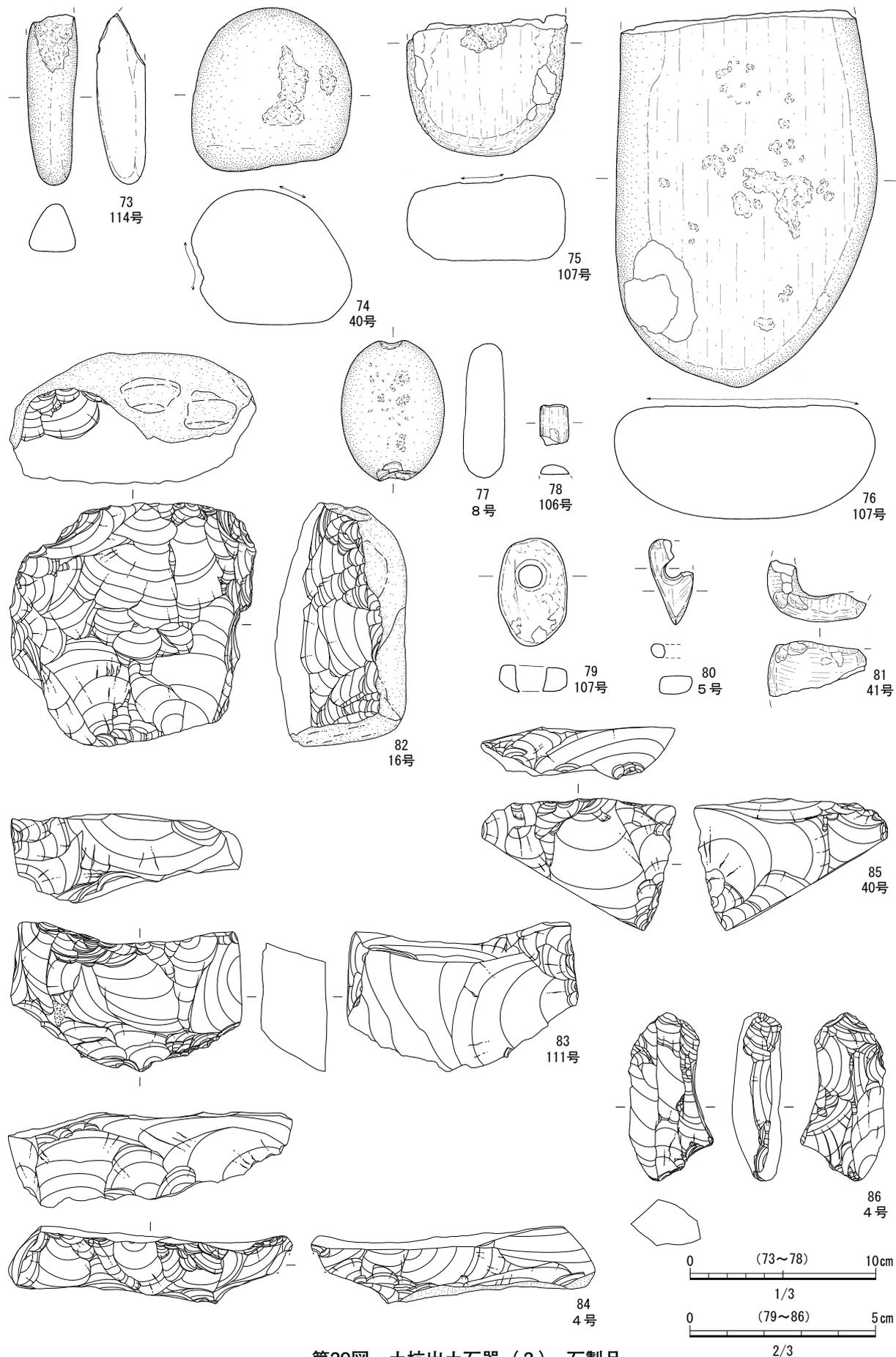
第36図 土坑出土土器(2)・土製品



第37図 土坑出土石器(1)



第38図 土坑出土石器(2)



第39図 土坑出土石器 (3)・石製品

第4節 包含層出土遺物

1. 土器 (第40～43図1～139・144～157、第15表、図版29～32)

第40図1～23は中期後葉の土器群である。1～11・16は沈線文による文様を主とする北陸系串田新式系統の土器群であり、12～14は横位の区画文を口縁部文様とし、口縁内面に太い隆線や稜線が見られるものがある。12～14は渦巻文がある口縁部と突起破片で、17～23はハの字文・綾杉文が認められる曾利式後半あるいは大杉谷式系統の土器類である。

第40図24～33・37～53は後期前葉堀之内式並行期の土器群である。24～33は堀之内式1(古)式並行期の北陸系気屋式土器である。37～41は堀之内2(古)式に並行する強い屈折を特徴とした南垣内型鉢の波状口縁部で、宮田式特有の貼付微隆線が施されたものがあり(37～39)、39には堀之内2古～新式並行の宮田(新)式の刻み目微隆線文が見られる。42～48・50は宮田式を含む横位・縦位の貼付微隆線が施された土器である。

第41図54～77、第43図133～135は後期中葉の加曾利B式並行期の土器群である。54・55・63・71などには加曾利B1式類似の文様が見られる。75～77は加曾利B1～2式並行期と考えられ、矢羽根状ほかの沈線文帯が見られる。第40図34～36、第41図78～82、第42図111・112は後期後葉から末葉に属すと考えられる土器群である。80～82は加曾利B2式から曾屋式に類似している。

第41図83～87・第42図114は晩期初頭の土器群である。縄文は非常に細かく、84・114には三叉文が見られる。第41図88は晩期中葉中屋式の横位沈線による入り組み状の弧線文が見られる。

第41図91～101・第42図106～111は縄文施文の土器である。91～101は口縁部破片で、中期後葉～後期前葉を中心とするものと考えられるが、口縁部上端に帯状の縄文が見られる99～101は後期末葉以降の可能性があり、106～111は胴部破片である。

第41図102～105は無文土器の口縁部である。102は胴部縄文施文の口縁部の可能性があり、ほかは堀之内1・2式並行の土器と考えられる。

第42図115～131は深鉢の底部である。115・116は中期後葉、ほかは中期後葉～後期前葉のものが主体と考えられる。網代痕を残すものが多い。底部にまで縄文が施されるものが見られる。

第43図132はほぼ完形の釣手土器である。上面は楕円形を呈した隅丸長方形の二窓のもので、把手の上端に突起、両端に突起の痕跡が見られる。窓の縁辺は縄文が施された幅広な隆帯による縁取りがある。時期認定が難しいが、中期後葉と考えられる。

第43図136～139は器台の底部破片である。いずれにも円形透かしの一部が認められる。136には縦位の隆線と綾杉状の条線文が施されている。

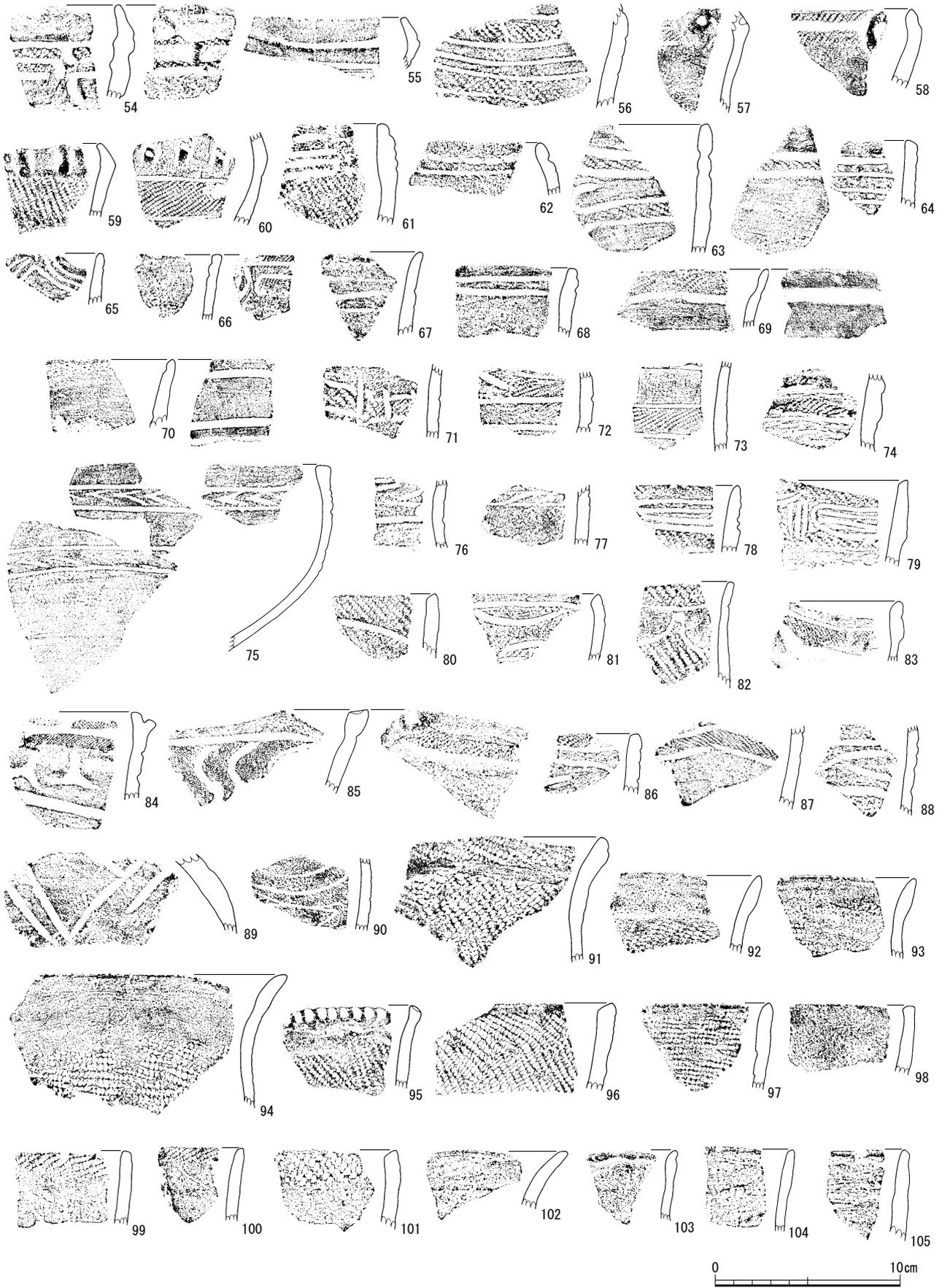
第43図144～156は晩期中葉～弥生前期の土器破片である。144～153には細い条線文が施され、146～148の口唇には指頭押圧が加えられる。154～157は水神平式の条痕文土器である。

2. 土製品 (第43図140～143、第15表、図版32)

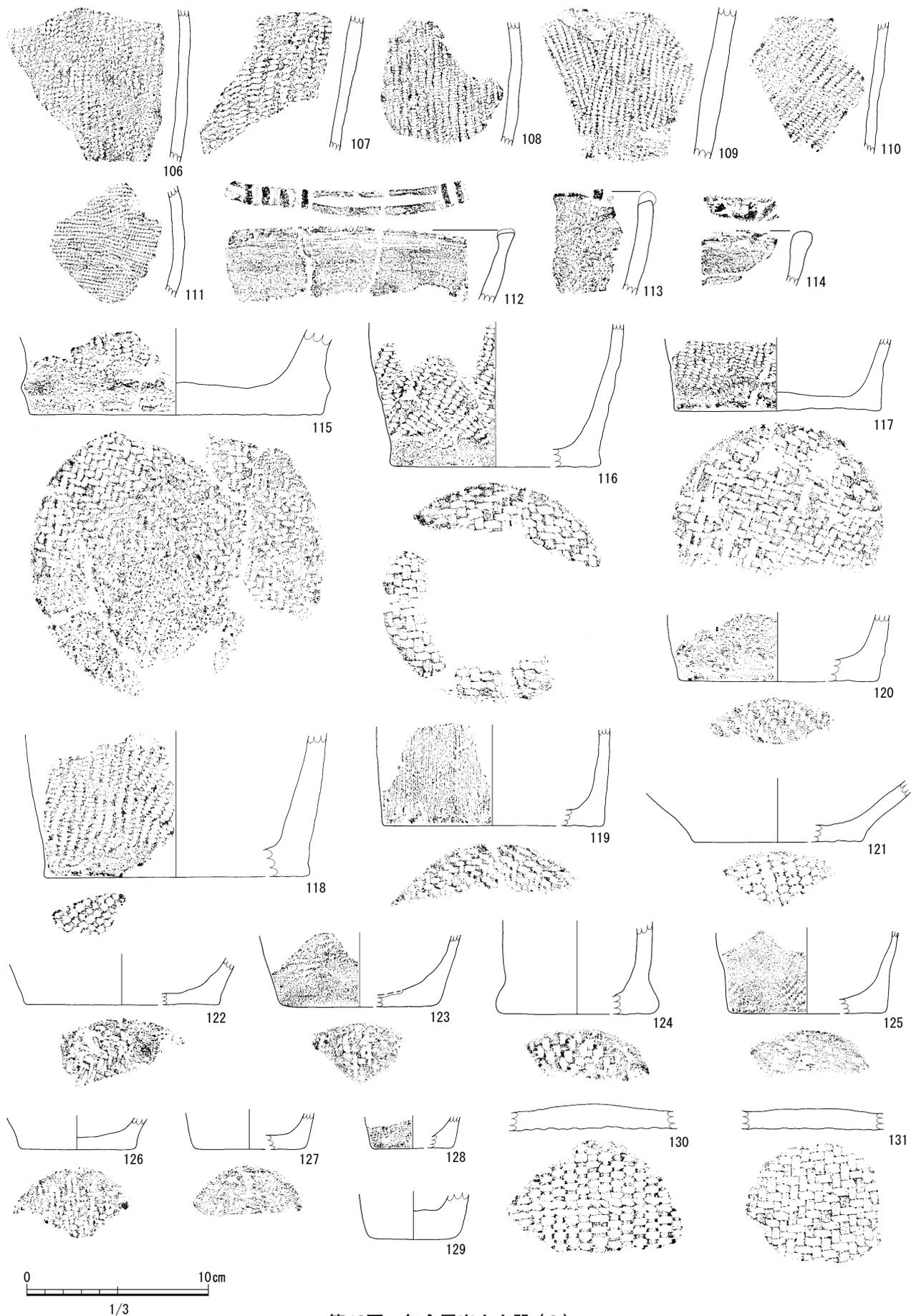
140は耳飾り、141～143は土偶である。141は堂之上タイプ土偶とされる扁平土偶の頭部であり、横方向の貫通孔をもつことが特徴的である。頭部に環状把手、耳部に小孔が見られる。大形の土偶であり、表裏面に沈線による杵状文が施され、串田新式の文様に類似する。中期後葉～末の所産と考えられる。



第40図 包含層出土土器(1)



第41圖 包含層出土土器(2)



第42図 包含層出土土器(3)



第43図 包含層出土土器(4)・土製品

3. 石器 (第44～54図1～199・213～223、第21・22表、図版33～39・41・42)

5,217の石器が出土している(第22表)。内訳は、石槍2点、石鏃104点、石錐42点、スクレイパー85点、石匙1点、クサビ形石器155点、横刃形石器24点、磨製石斧40点、打製石斧235点、敲石7点、凹石7点、磨石12点、石皿1点、台石1点、砥石6点、礫石錘14点、石棒・未成品6点、石剣・石刀3点、玉2点、原石3点、石核98点、剥片類4,365点となる。定形石器では打製石斧が最も多く、次いでクサビ形石器、石鏃となる。また、小形石器の素材剥片製作を示すと考えられる石核も多く、これらに伴うと考えられる大量の剥片類が出土している。層位別の内訳はⅢ層516点、Ⅱ層181点、Ⅰ層4,520点であった。9割近くがⅠ層からの出土となるが、出土土器と同じく縄文時代中期～後期を主体とするものと考えられる。

石 槍 (第44図1・2、図版33)

1・2とも柳葉形の基部破片で、断面凸レンズ状を呈する。いずれも剥片を素材とし、粗い両面加工によって作出される。2の裏面には自然面が残る。

石 鏃 (第44図3～42、図版33)

石鏃は打製石斧、クサビ形石器に次いで出土量が多い定形石器である。①凹基無茎のもの(3～30)、②平基無茎のもの(31～35)、③凸基無茎のもの(36・37・39・40)、④有茎のもの(41・42)がある。①凹基無茎は石鏃の主体をなし、長身の二等辺三角形、細身の二等辺三角形、正三角形を呈するものがあり、基部の挟りにも差がある。ほぼ同形同大のものも見られる(20・21)。②平基無茎には正三角形をなすものが多く、凹基を意識した二次加工が認められるものもある。③凸基無茎の基部には弧状にやや膨らむもの(36)、円基となるもの(37)、偏基となるもの(39・40)がある。38は37に類似し、40は凹基無茎の再生品と考えられる。平基・凸基のものには、二次加工が少ない剥片鏃と大形品が目立つ。41は有茎としたが幅広の菱形を呈するもので、42は細身のものである。

石 錐 (第44図43～51、図版33)

①棒状の錐部につまみ部が付くもの(43)、②幅広な剥片の一端に錐部を作出したもの(44～46)、③棒状のもの(47・48)、④尖頭状の剥片利用のもの(49～51)がある。いずれの二次加工も錐部中心に施され、棒状の錐・錐部(43・47・48)は細かい両面加工によって厚みのある凸レンズ状ないし方形をなすものが多く、つまみ部には素材面を残す。47・48は両頭のものとなる。

スクレイパー (第44・45図52～64・77、図版33・34)

①両面加工の小形品(52～55)、②両側縁に両面加工された方形状のもの(56～58)、③一側縁に両面(59)・片面加工されたもの(60・61)、④剥片のまま使用されたものを中心とする剥片削器(62～64)、⑤円盤状の粗製品(77)がある。①の小形品には両面加工がほぼ全縁辺に及ぶもの(52・53)と片側のみなもの(54・55)があり、54・55の未加工縁辺も微細剥離痕が認められる刃縁となる。②の56・57の下端と58の両端にも微細剥離痕が見られる。③は下辺を刃部とするもので、61の上端に見られる粗い二次加工は刃縁になっていない。これは横刃形石器に類似するが、石材の違いからスクレイパーとしたものである。④の剥片削器には小剥離による片面加工が認められるもの(63)と剥片縁辺に微細剥離痕が認められるもの(62・64)がある。77は粗い両面加工が施され、上端縁辺が潰れる。

クサビ形石器 (第45図65~76、図版34)

クサビ形石器は定形石器中打製石斧に次いで多い241点が出土している。形態によって2類に分けられる。A類は方形あるいは不整形を呈するものである(65~72)。クサビ形石器の主体をなし、形態上のバラエティが多い。扁平な器体をなすものが多く(65~69)、厚みのあるものや石核状のものもあり(70・71)、加工端部は平刃の削器状を呈するものが多い(65~72)。B類は縦形の柱状を呈するものである(73~76)。厚みのある柱状・紡錘状のもの(73・74・76)や扁平なもの(75)があり、加工部位は尖刃状をなすものが中心となる(74~76)。A・B類とも加工・使用の位置は両端にあるものを基本とし、数は少ないが側縁に加工・使用が見られるものもあり、これらは平刃状の縁辺を持った方形を呈するものが多い(72)。加工には両面加工と片面加工が見られ、両端の組み合わせには両面加工+両面加工(66・68・69・70・74)、両面加工+片面加工(65・67・71・73・75)があり、側縁加工を持つものには両者を合わせ持つ場合もある(72)。わずかに片面加工+片面加工のものも見受けられるが、別器種とすべきものかもしれない。また、剝離面の大きさにも大小があり、微細な剝離面や縁辺が潰れただけのものも見られ、加工・使用縁辺の形態や加工位置・状態、これらの組み合わせにバラエティが多く、石核との区別が難しいものもある。クサビ形石器の素材については、自然面や主要剝離面等の剝片素材面を残すものが見られるが、小円礫素材のものは認められない。石材は下呂石を主体とし、次いでチャートが多い。

横刃形石器 (第46図78~80、図版35)

横刃形石器は、薄い横長剝片の自然面や主要剝離面等の素材面を上手く利用した鋭利な縁辺に刃部を持つものである。刃部の作出方法には、①二次加工を施すもの(80)と②剝片の縁辺のまま使用し微細剝離痕のみが認められるもの(79)がある。上辺は素材のままとなることもあるが粗い二次加工によって整形されるものが多く(78~80)、上辺も刃部となるものも見られる。このように横刃形石器は打製を基本とする石器であるが、刃部磨製のもの(78)が1点見られた(78)。これは両面下半が研磨されたものであるが、砂岩製であることから石庖丁様石器あるいは石鋸とされる砥石類に分類できる可能性もある。

磨製石斧 (第46・47図81~112、図版35・36)

①定角式のもの(81~100・102~105・107~112)を主体とし、②横断面が丸みのある長方形を呈するもの(101・106)がわずかに見られる。定角式の大きさには極小~大形があり、平面形態は撥状と短冊状が見られ、胴張りのものが多い。弱い撥状のものは胴張り短冊形の刃部再生によって短くなったものとなる可能性がある。断面形態は凸レンズ状に膨らむものが多く、各面の稜線には、鋭く角張ったもの(82・83・85・91・93・98・103)や丸みのあるもの(87・90・94~97・100・101・109)があり、薄い板状の扁平なもの(82・85)も見られる。使用に伴う剝落を研磨再生し偏刃化したもの(93・99)や頭部を敲打・研磨再生したもの(81・82・88・94~96・109・111)、大形品の欠損品を敲打によって両側縁・頭部を再生させたもの(96)がある。また、欠損した刃部を敲石に転用したものが多く見られ(105~112)、刃縁縁辺がそのまま使用されたもの(105・109・111)や、切断状の欠損面がスタンプ状に使用されたものもある(106・110)。頭部・上端欠損面に敲打痕を持つものもあり、頭部再生との区別が難しい(107~112)。

打製石斧 (第47・48図113~154、図版36・37)

打製石斧は定形石器中最も多い235点が出土している。①短冊形(113~136)と②撥形(137~154)

があり、撥形の点数は多いが欠損品・破片を主体とする。短冊形は両側縁あるいは片側縁に弱い抉りを持つものがある(113・114・117・120・121・122・124・127・128・133・136)。短冊形・撥形とも刃縁に擦れが認められるものがあり、偏刃形の刃部は使用による変形が多いようである。143は右側縁下半の欠損再生により非対称形となったものと考えられる。横長剥片を素材とした薄手のものが多いが、重厚なものもある。150は頭部再生の可能性のある扁平礫素材のものである。

敲石(第49図155~160、図版38)

凹石に見られるような窪み以外の敲打痕があるものを敲石とした。磨面を併せ合わせ持つものも見られる(155・158~160)。①球形のもの(155)、②細長い礫端部使用のもの(156・157)、③厚みのある楕円形の礫端部・縁辺使用のもの(158~160)がある。155は形状と大きさから敲石とした。面取り状あるいはスタンプ状をなす端部使用のものも見られる(159・160)。

凹石(第49・50図161~169、図版38)

厚みのある掌大の礫に敲打による窪みを持つものを凹石とした。両面あるいは片面中央に1~2ヶ所の窪みを持つものを基本とし、側縁に見られるものもある(163)。敲打痕や磨面を合わせ持つものも見られ、①打磨面を端部・縁辺に持つもの(161~166)、②両面・両側縁に磨面を持つもの(168・169)、③窪みのみのもの(167)がある。スタンプ状に使用されたものも認められる(161・163)。163は塩屋石製のもので、石棒の転用品となる可能性がある。

磨石(第50図170~180、図版38・39)

磨痕のみが見られる自然礫を磨石とした。磨面は全面あるいは両面に見られ、①球形(170~173)のもの、楕円形のもの(174・180)、③厚みのある円形のもの(175~179)がある。球形のものは小形が多い。173の正面には、赤色物付着の痕跡が認められる(173)。

石皿(第51図181、図版39)

181は縁付の石皿である。作業面はほぼ平坦で、裏面に敲打による2ヶ所の窪みが見られる。

台石(第51図182、図版39)

182は隅丸角柱状礫を利用した台石である。正面に部分的な敲打痕が認められ、据え置ける大きさと形状から台石に分類した。

砥石(第51図183~188、図版39)

①小形で扁平な柱状のもの(183)、②大形で厚みのあるもの(186)、③刃縁状の縁辺を持つもの(187・188)、④有溝のもの(184・185)がある。小形で扁平な柱状のものは4面使用である。刃縁状の縁辺を持つものは薄い器体で、石庖丁様石器あるいは石鋸に分類することも可能である。有溝の溝断面は幅広なV字状を呈する。石材はいずれも砂岩であり、各砥石の粒子は②大形・①小形扁平柱状・④有溝・③刃縁状の順で粗から密となる。

礫石錘(第51図189~199、図版39)

紐掛け部の作出は、①擦切(189・190)、②敲打(191~194・198)、③剥離(196・199)があり、敲打と剥離の併用(195)や剥離後の擦切(197)も見られる。剥離による縁辺には、潰れが認められる(196・199)。形状や大きさ・重量にも差があり、楕円形を主体として長円形(196・197)のものがある。重量は50g以下(189~191)、100g前後(192~195・197・198)、150g以上(196・199)に分けられ、100g前後のものが多い。

石核 (第53・54図213～223、図版41・42)

石核には原石に近い状態のものから小形化したものまで見られ、大部分は欠損片や残核等であった。石材はチャートと下呂石が主体となり、その他の石材はごく僅かであった。剥片類の石材も同様な傾向となっている。

チャート製石核の素材には①自然礫 (213・215)、②自然面を残すブロック状の打割礫 (214・216・217)、③剥片 (218・219) が見られた。原石となる自然礫は平坦面と稜線を持つ垂円礫で、ブロック状の打割礫素材の石核も垂円礫に見られる立体面や屈曲の強い部分を上手く利用した立方体を呈するものとなっている。剥片素材には厚みのあるものと薄いものがある。原石には大形のもの (213) と小形のもの (215) が見られ、小形のものそのまま石核として用いられている。大形原石はブロック状の打割礫を取り出し (214)、これを石核として用いた (216・217) 工程が認められる。石核の大きさや自然面、剥離面の残され方を見ると、大形原石のまま石核としたものは少なく、打割礫素材のものが多い。剥片を素材とする石核も多く認められる。

下呂石製石核は最も大形の石核 (221) にも自然面が見られず、剥片類にも自然面が残されるものが少ないことから、原石の大きさや形状は不明であり、原石からの工程も推定できなかった。221は全面剥離面による立方体を呈する石核で、剥片剥離によって小形化する過程が認められるが、主体となる石核素材は剥片が多い。

218は頁岩製の剥片を素材とし、220は黒曜石製の打割礫を素材としたと考えられる石核であり、こうした石材にも石核素材のバラエティが認められる。

【石核の剥片剥離工程】

石核には、遺構出土資料を含め大きくA類からD類の4段階を示す剥片剥離の進行状態が認められた。石核の大きさは剥片剥離の進行に伴って小形化するが、小形素材を用いた石核が多く見られるため、大きさと剥片剥離の進行が必ずしも一致しない場合が多い。また、頁岩 (包218)、黒曜石 (包220)、玉随 (4土86) 製の石核もわずかに認められるが、チャート・下呂石製石核と同じ剥片剥離の進行状態が認められる。

A類は一方向からの剥片剥離が見られるものである (1住18、4土84、包215・218)。同一の打面で表裏両面に剥片剥離されるものも認められる。215は柱状の垂円礫を原石とし、これを横位にして上面の自然面を打面とした1回の剥片剥離が認められる。下端縁辺の稜線は潰れ・小剥離が集中する。218は厚みのある剥片を素材としたもので、正面に上面を打面とした2回の剥片剥離が認められる。

B類は二～三方向からの剥片剥離が見られるものである (1住19、16土84、40土85、111土83、包213・214・216・220)。90°の回転を基本とした打面転位が行われる。213は立体的な面・稜線を持つ垂円礫を原石とする。正面上半に大きな剥離面が見られ、この上面・両側面にも剥片剥離が行われている。上面の剥離面は打面調整と考えられる。214・216は自然面を残すブロック状の打割礫を素材とする。214は稜線を持つ自然面が2面に残され、ほかの面には大きな剥離面が見られる。縁辺の一部に小剥離が認められるが、剥片作出のための連続的な剥片剥離は少ない。216は正面に上面・右側面を打面とした剥片剥離、底面に右側面を打面とした剥片剥離が見られる。220は上面に自然面を残す角柱状の黒曜石製小形石核で、残核に近いものと考えられる。正面に上面を打面とする剥片剥離、裏面に上面・左側面を打面とする剥片剥離が認められる。

C類は四方向以上の剥片剥離が見られるものである (包217・219・221)。B類よりも多く打面転位

が繰り返されたもので、全面を剥離面とする立方体を呈するものも見られる。217は自然面を残すブロック状の打割礫を素材とし、正面に上面・右側面を打面とした剥片剥離、左側面に裏面・下面を打面とした剥片剥離が認められる。219は上面を主要剥離面とする厚みのある剥片を石核としたもので、正面・左側面に上面を打面とした剥片剥離、上面に左側面・裏面を打面とした剥片剥離が認められる。

221は各面が剥片剥離により立方体を呈する。正面・下面に三方向、右側面・左側面に二方向、裏面・上面に一方向からの剥片剥離が認められ、各面を回転しながら打面転位が繰り返されている。

D類はクサビ状の小形のものである(4土86、包222・223)。両極打法によるものでクサビ形石器との区別が難しく、残核に近いものが多い。222・223は剥片を素材とするものと考えられる。222は薄く扁平な方形を呈するもので、上面に平坦な自然面、下面に切断状の剥離が見られる。正面・裏面に上下方向の両極打法と正面に右端を打面とする剥片剥離が認められる。223は縦形の錐状のもので、上下方向からの両極打法が認められる。

4. 石製品 (第52図200～212、第21・22表、図版40)

石棒・石棒未成品 (第52図200～205、図版40)

①中形のもの(200・201)と②小形のもの(202～205)がある。200は中形の破片で、敲打による窪みが両面・両側面にあり、上下端に敲打痕と小剥離が認められる。201は柱状節理の原石稜線と上端縁辺に剥離が見られる未成品で、いずれも塩屋石製である。202は小形品の先端部破片で、203・205と同一個体となる可能性がある。

石 刀 (第52図206・208、図版40)

206は両側縁が刃縁状と鋒状を呈し、断面形態が厚みのある扁平な状態となることから、石刀の破片と考えられる。208も同様に石刀の小破片とした。

石 剣 (第52図207、図版40)

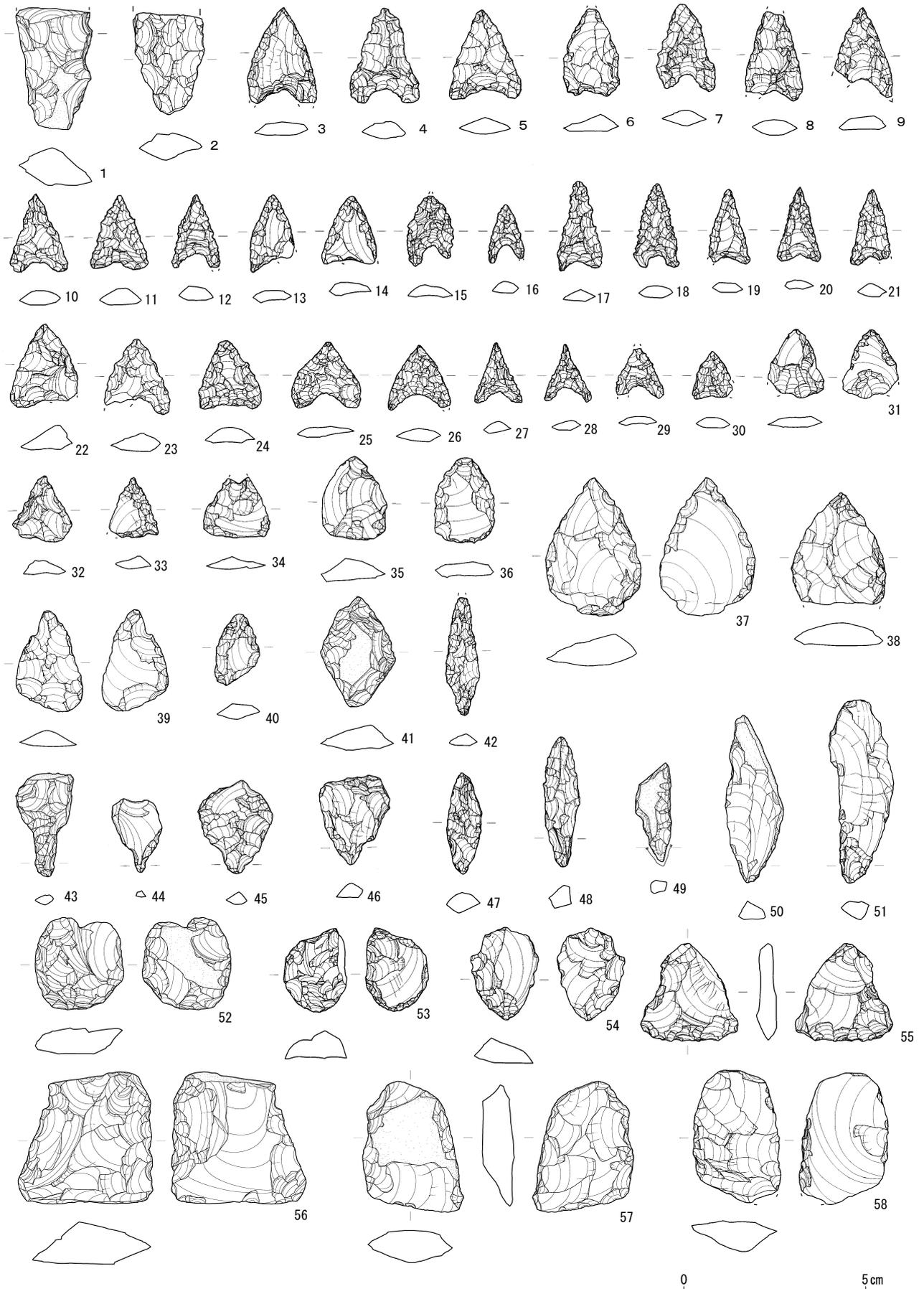
207は両側縁とも丸みのある扁平な凸レンズ状を呈した断面形態となることから、石剣の破片と考えられる。

石 冠 (第52図209・210、図版40)

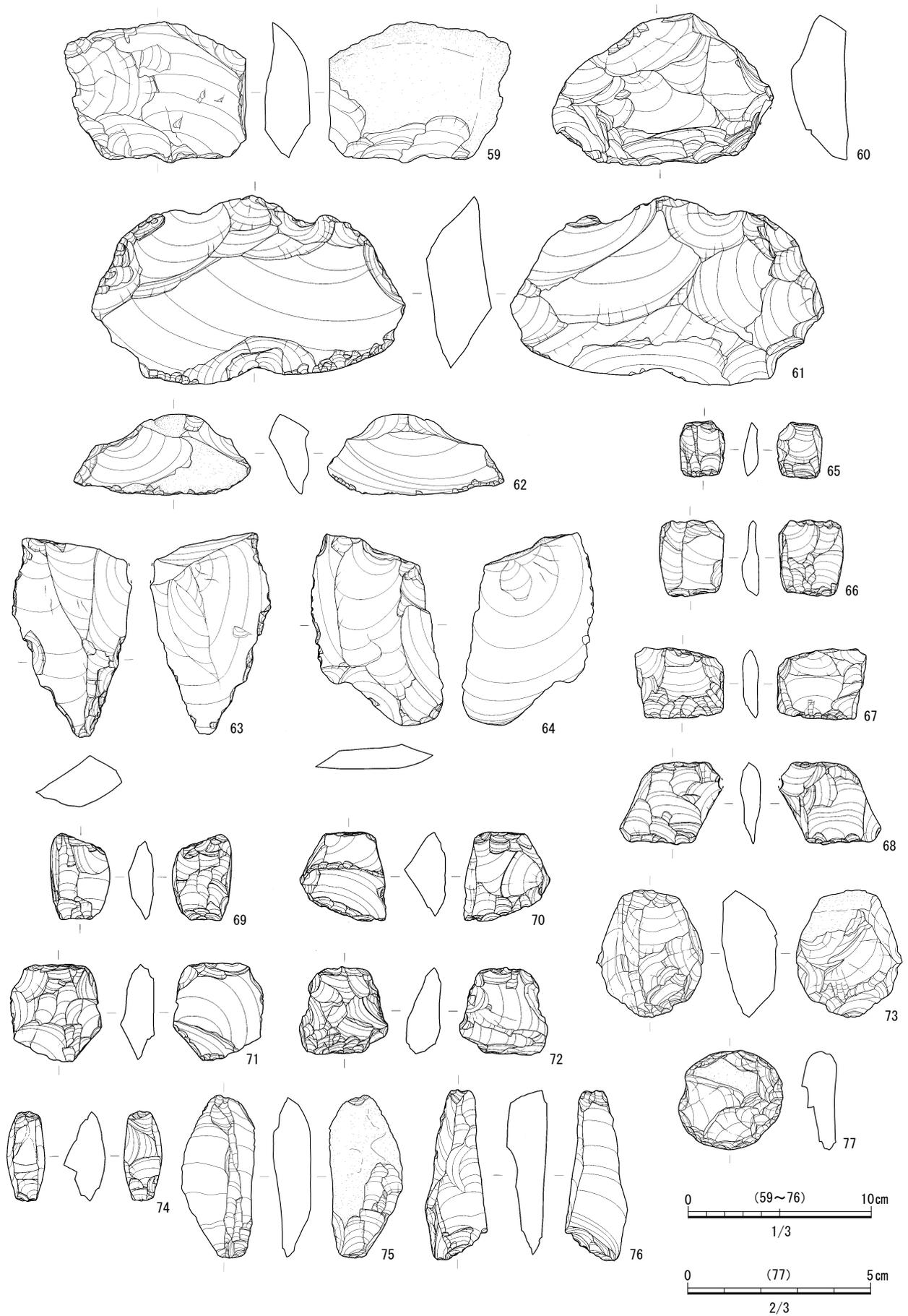
209は半円形の石冠である。厚みのある円礫を打割して作出されたもので、頭部は丸みのあるままとなる。底面と両端部は研磨され、底面中央は緩く内湾する。210は厚みのある円礫を素材とした石冠の頭部破片で、研磨によって刃部状に頭部が作出されている。

玉 (第52図211・212、図版40)

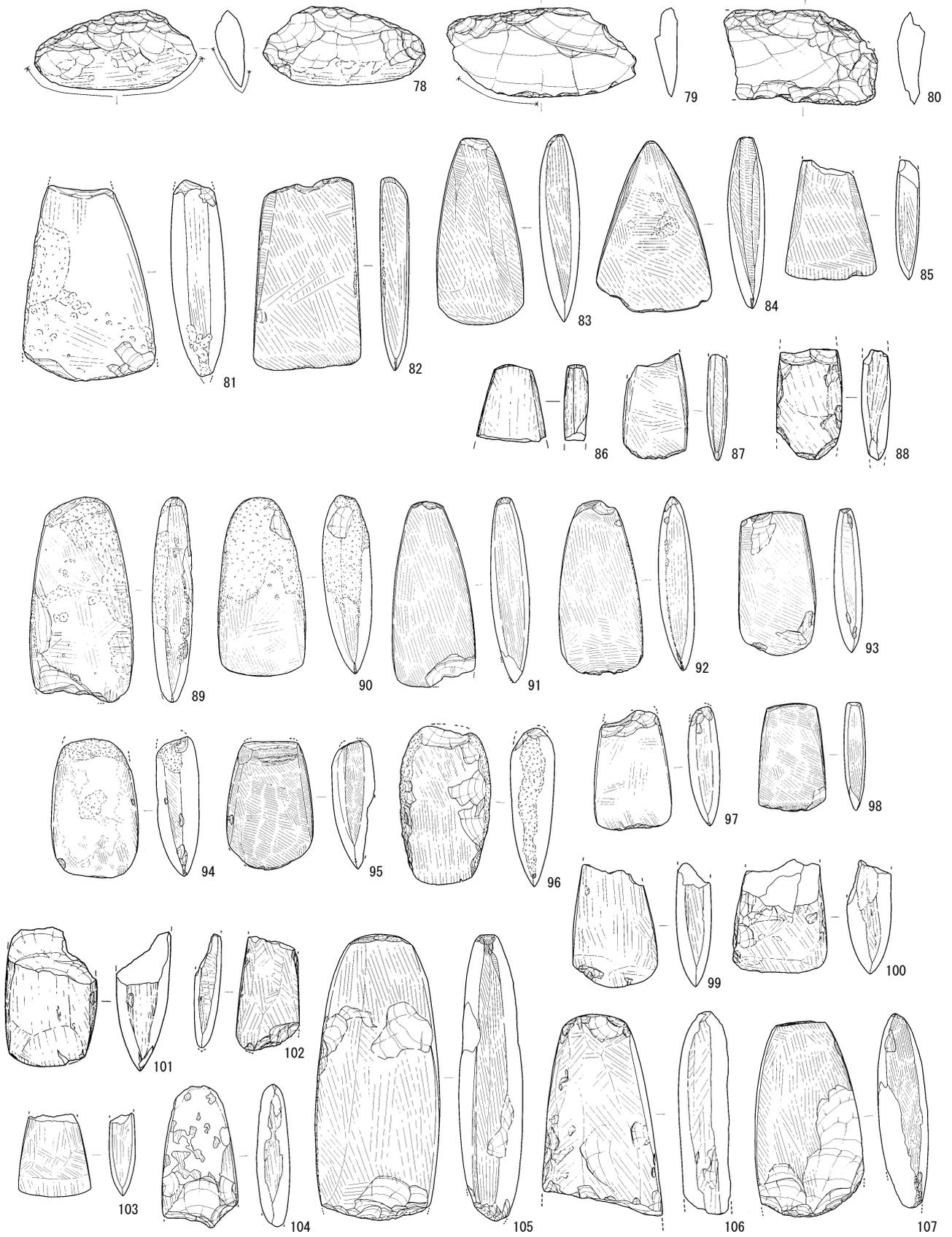
211は下端が偏った長方形の玉である。両側縁が面取り状に整形され、上端は両刃状の断面形態となる。孔は上位に穿たれる。212は隅丸方形の平玉破片である。欠損面には摩耗が認められる。



第44圖 包含層出土石器(1)



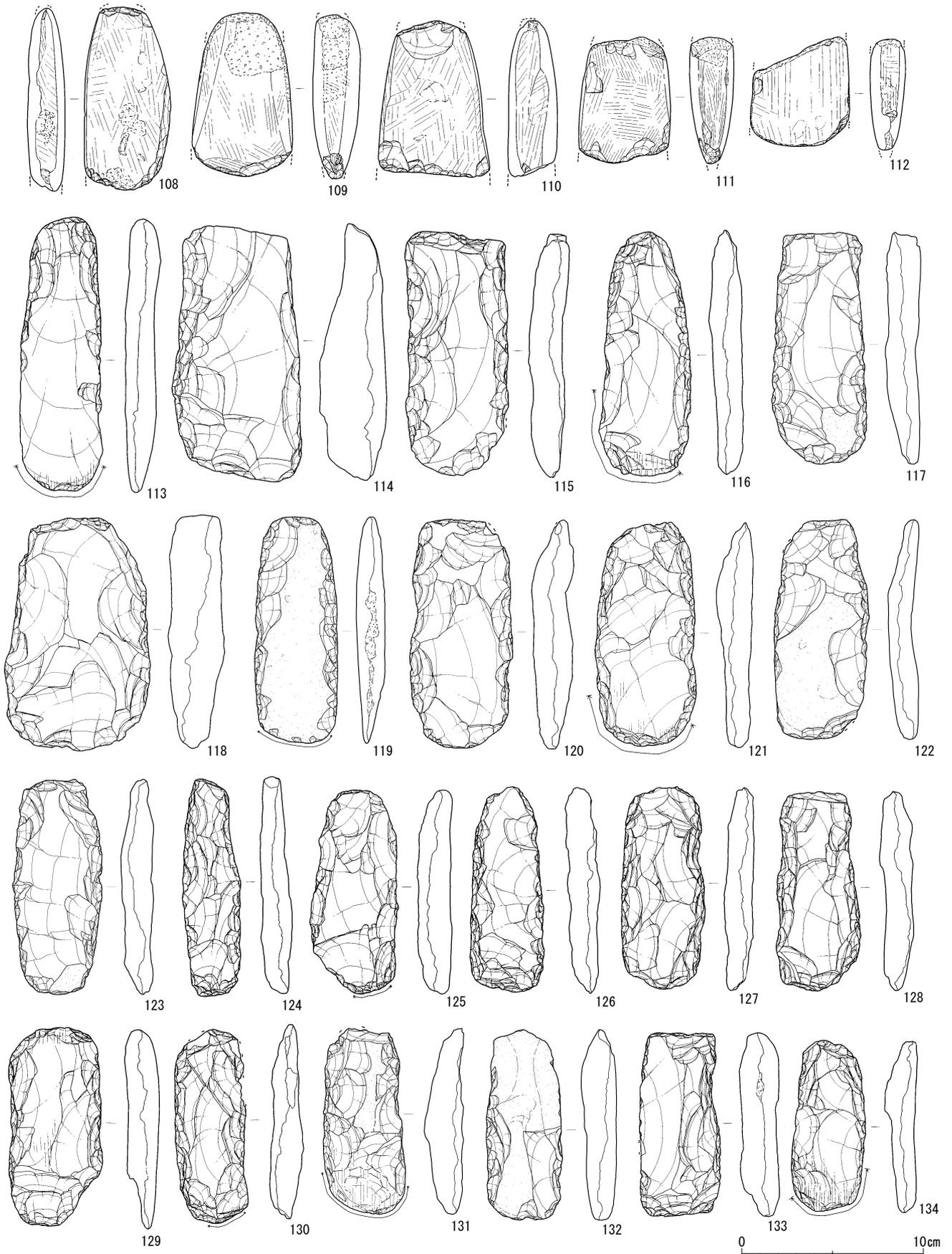
第45図 包含層出土石器(2)



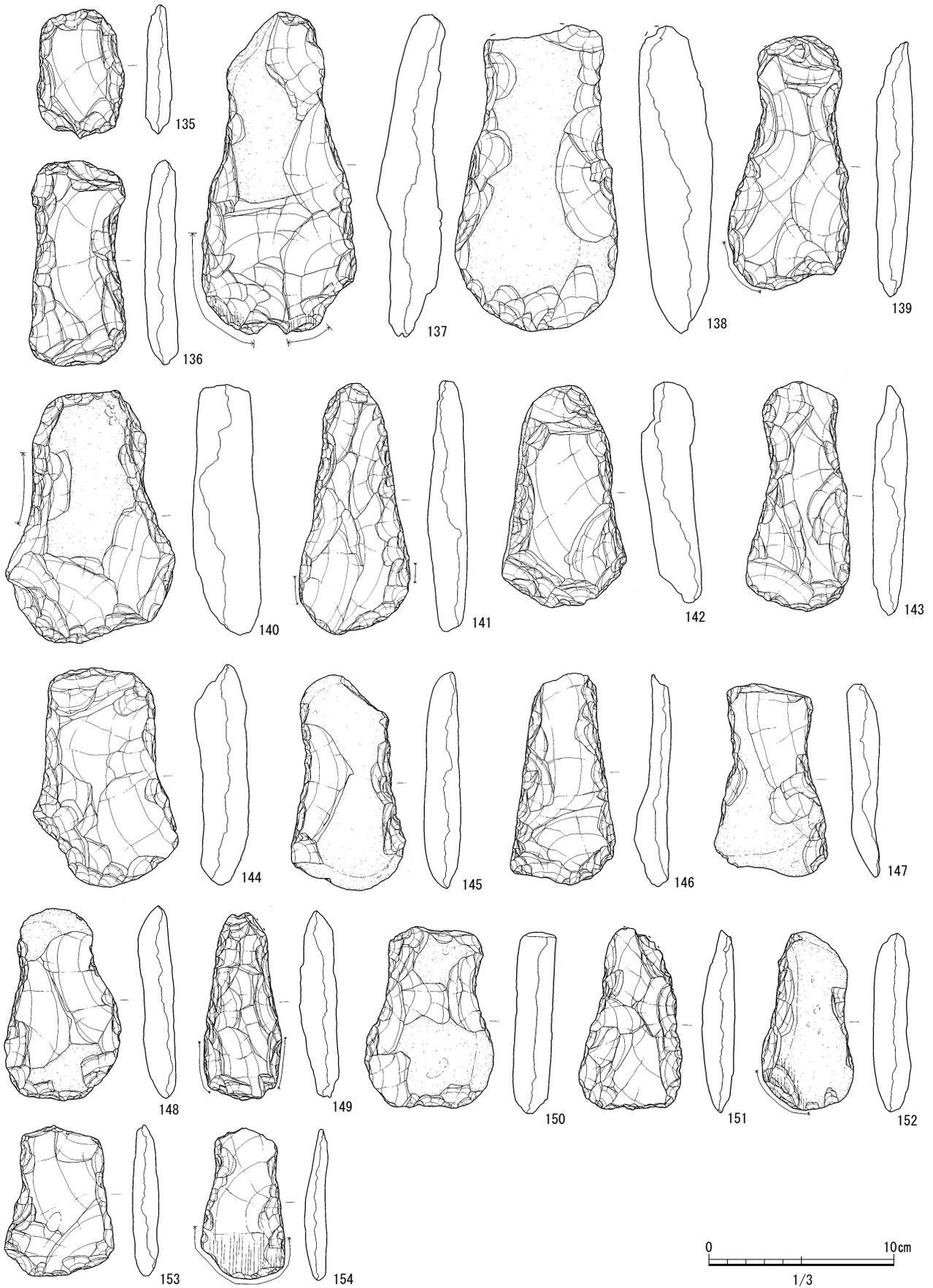
0 (81~88) 5cm
2/3

0 (78~80·89~107) 10cm
1/3

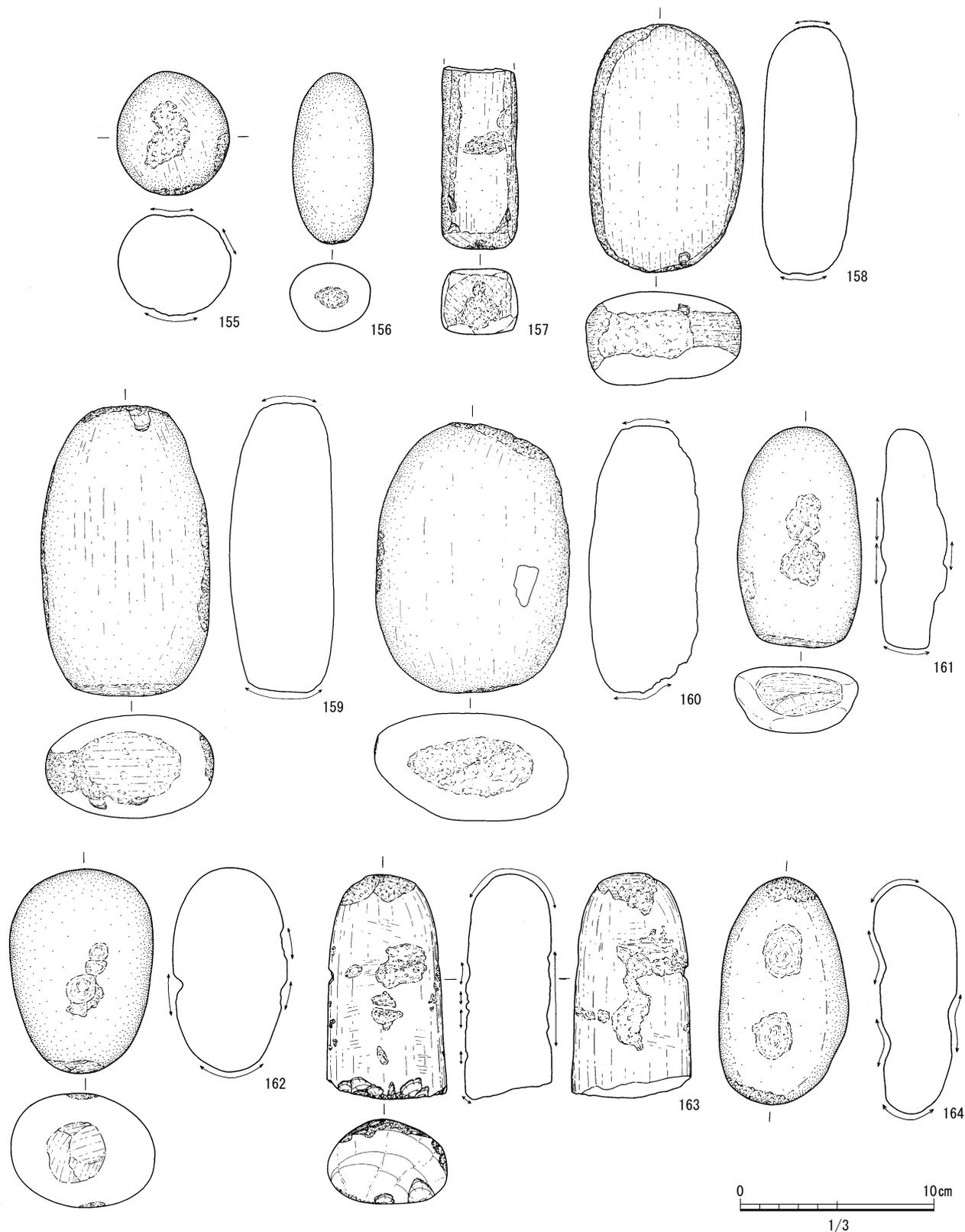
第46図 包含層出土石器(3)



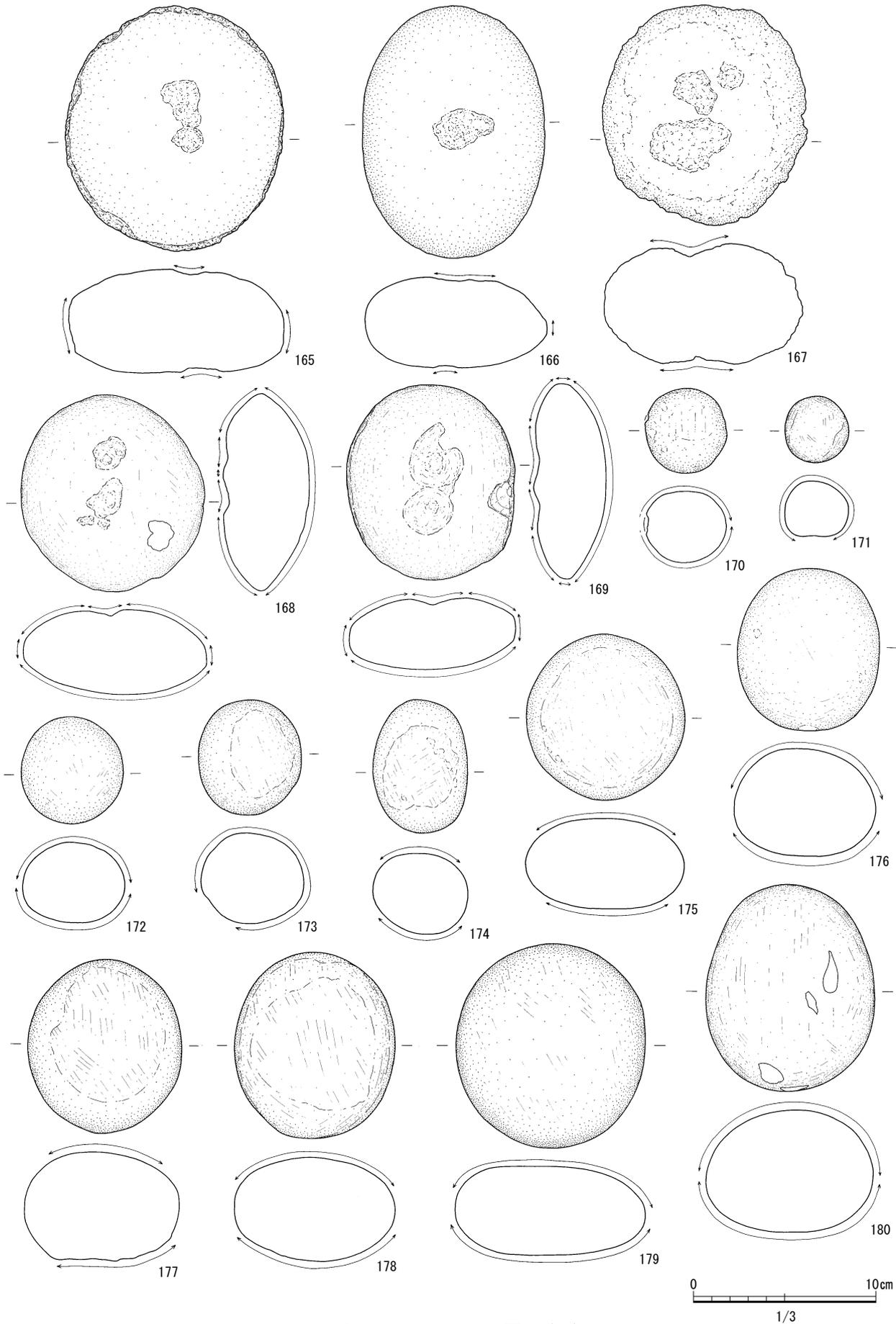
第47図 包含層出土石器(4)



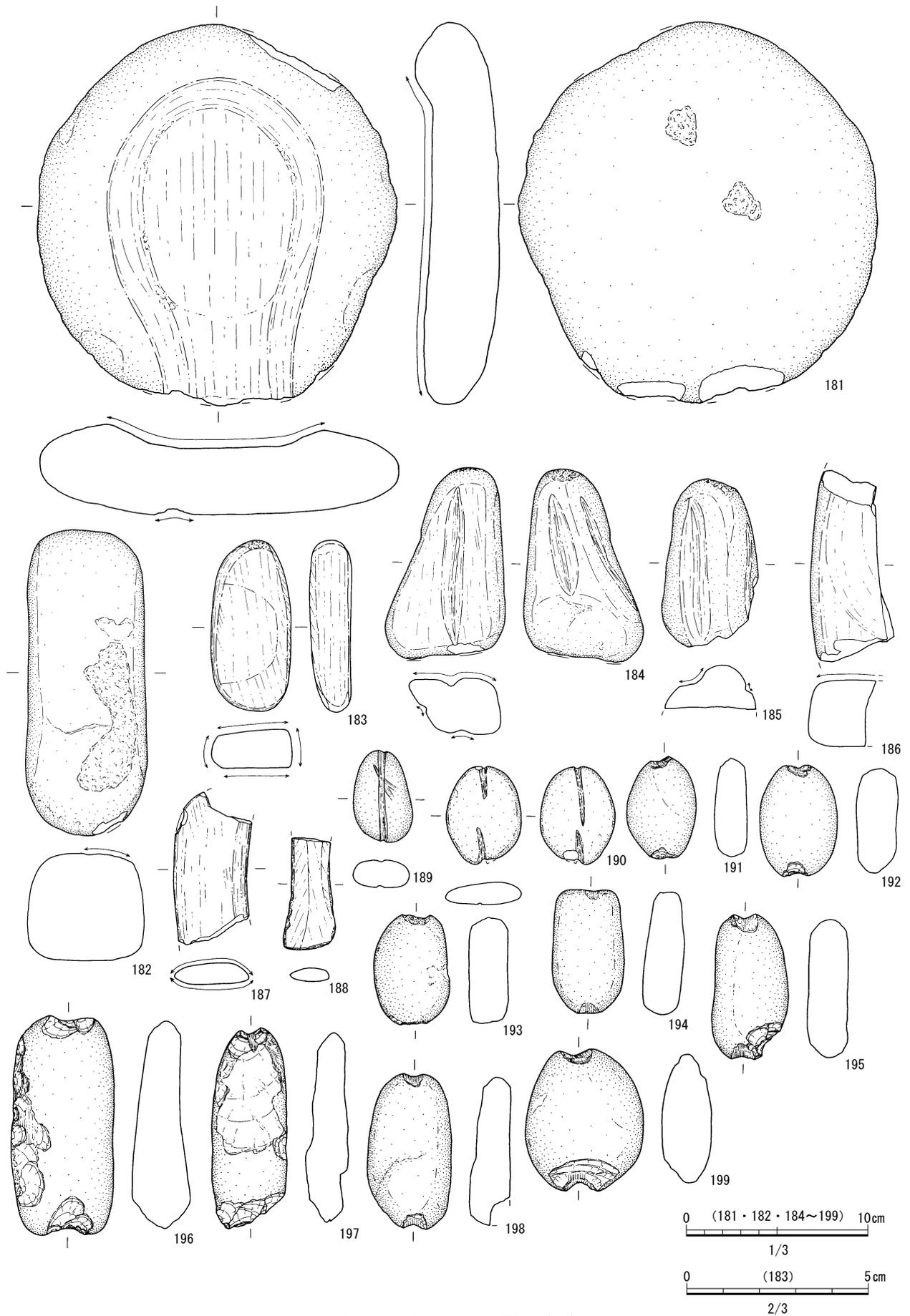
第48圖 包含層出土石器(5)



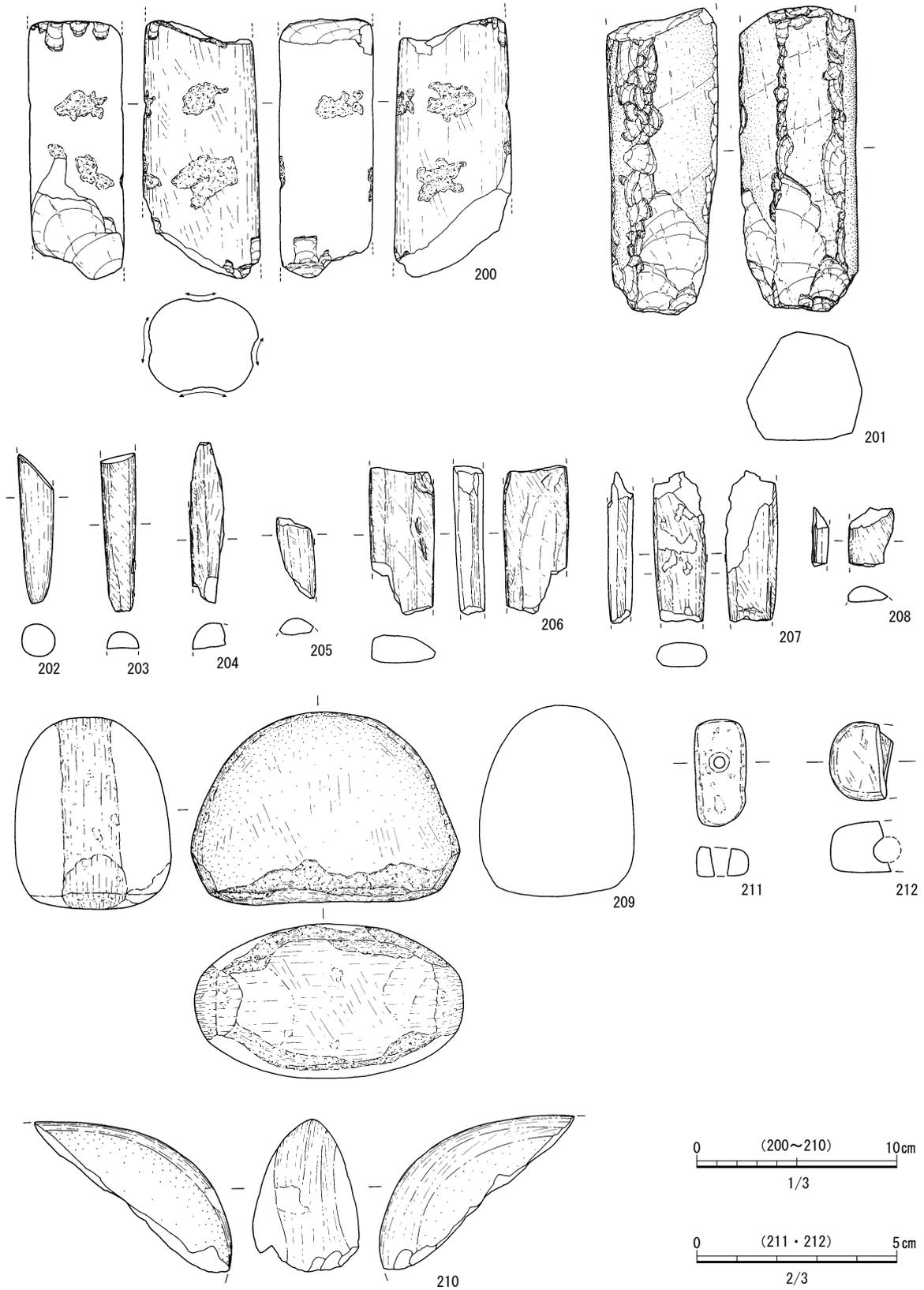
第49図 包含層出土石器(6)



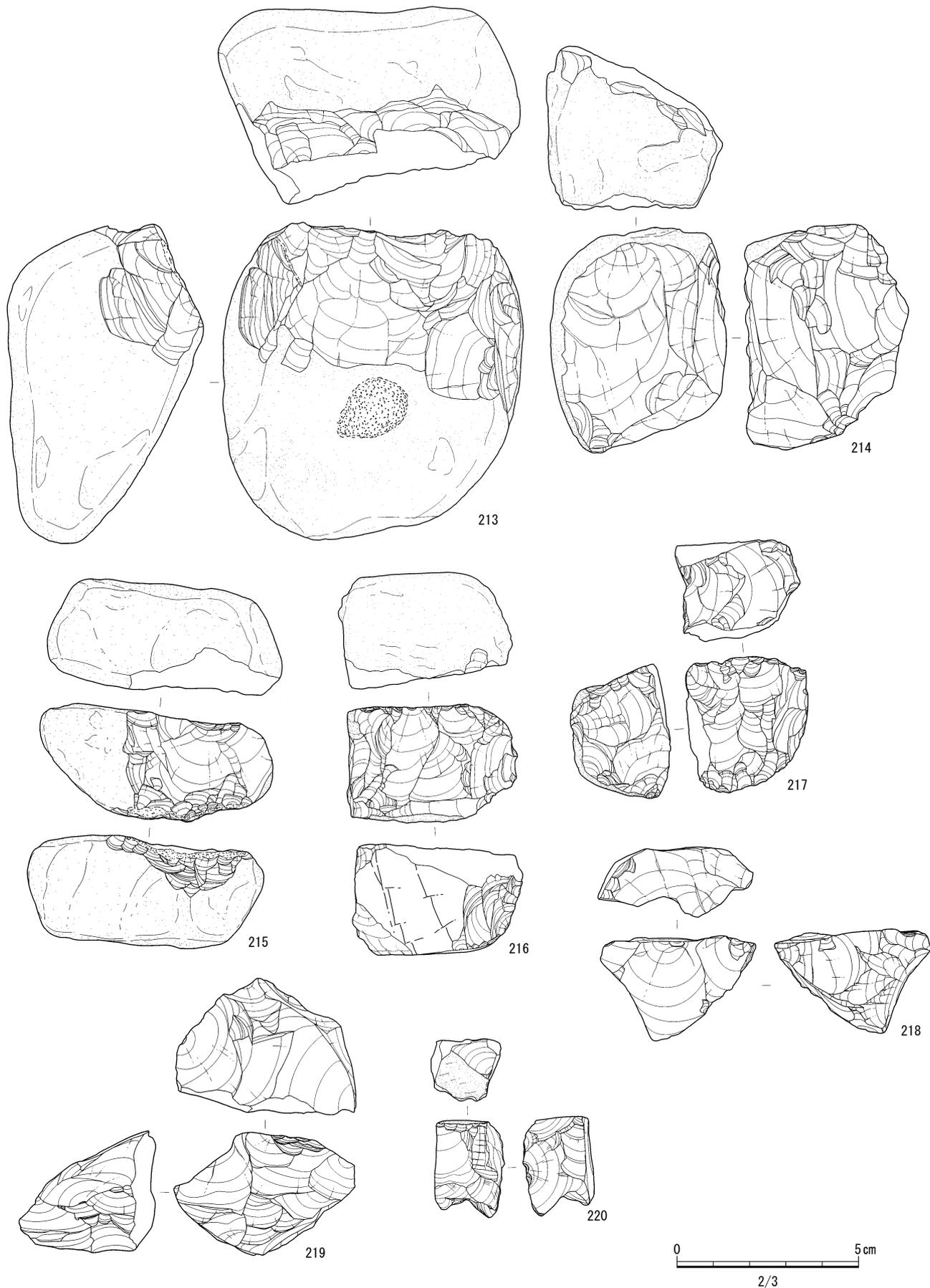
第50圖 包含層出土石器(7)



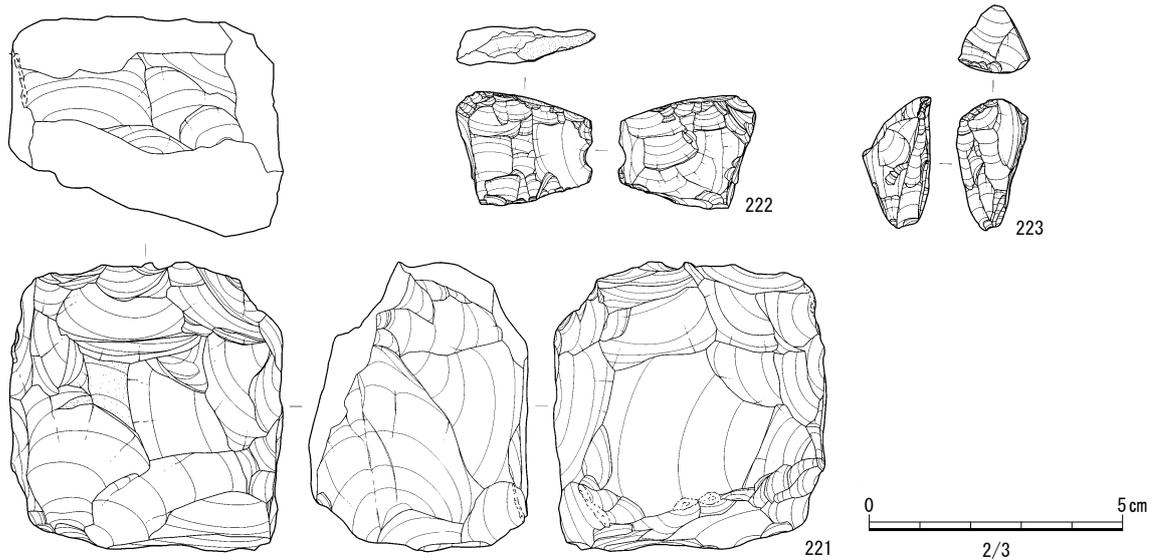
第51図 包含層出土石器(8)



第52図 包含層出土石製品



第53図 包含層出土石器(9)



第54図 包含層出土石器 (10)

5. 古代・中世の遺物 (第55図、第23表、図版43)

黒内細野遺跡では、古代から中世の遺構は発見されなかったが、基本層序の第I層にあたる耕作土を中心とした土層中から9世紀代を中心とする須恵器壺・甕類を主体とした遺物が収納箱(55×39×15cm)で約1箱出土した。調査前より当該地区を含めた周辺地域では、土地改良事業や道路整備事業などが実施されており、今回出土した遺物の多くはこれらの事業などに伴って出土した散逸遺物である。須恵器以外では灰釉陶器類などの破片がわずかに出土したが、同時期の土師器類は確認されていない。古代以外の遺物では、中世に比定される資料が少量出土している。

掲載し得た資料の多くは、須恵器を中心とした食膳具の類で、貯蔵具の類は胴部の小破片が多かったため、図示し得た資料は少ない。須恵器以外では同時期の灰釉陶器が少量ある。また、中世の資料では陶器類がある。須恵器や灰釉陶器の時期比定については、尾張や美濃などの編年研究(田辺1981、尾野1997 a・b、尾野2009)を適宜準用した。なお、須恵器の産地は古川盆地を含む飛騨地域と考えられる。

須恵器では壺類などの食膳具を中心とした26点を載せた。その内訳は、壺Aが7点(1～7)、壺Bが4点(9～12)、壺Bないし皿Bが3点(13～15)、皿Bが5点(16～20)、坏Bが1点(8)、甕が6点(24～29)である。灰釉陶器は、壺が2点(21・22)、長頸瓶が1点(23)の計3点である。中世の資料では、山茶壺窯系の捏ね鉢が1点(30)、大窯期の灰釉壺が1点(31)、無釉焼締甕が1点(32)の計3点である。

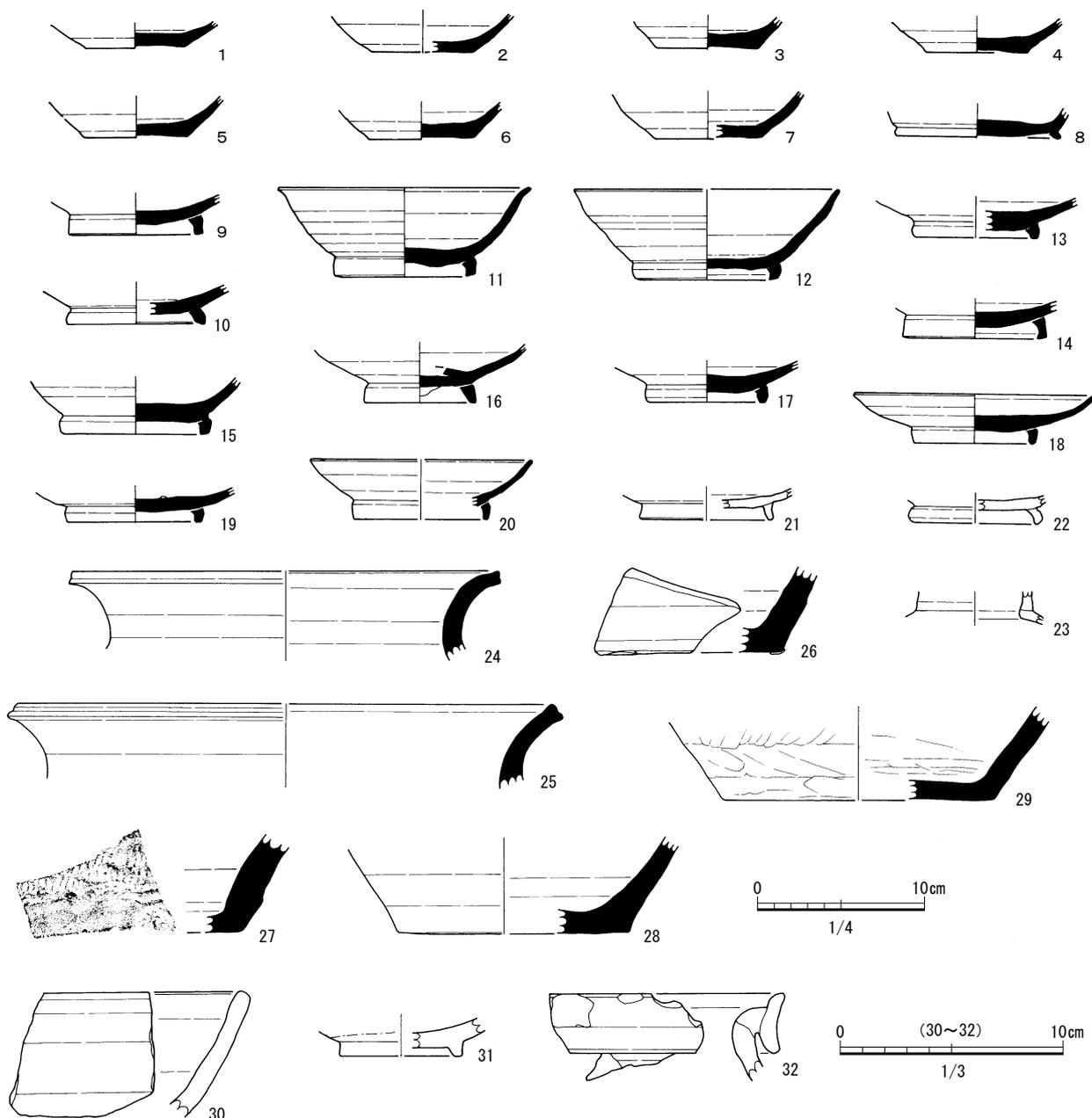
須恵器壺A(1～7)は、底部の切り離し技法が回転糸切りによるもので、底径はすべて6cm台に収まっている。編年型式では、折戸10号窯式期以降、井ヶ谷78号窯式期までの範疇と考えられる。須恵器壺B(9～12)は、底部外面に糸切り痕を明瞭に残す資料である。体部形態は直線的に立ち上がるが、口縁部形態において口唇部がわずかに外反するものと、わずかに内湾するものがある。編年型式では、折戸10号窯式期以降、井ヶ谷78号窯式期までの範疇と考えられる。また、須恵器壺Bないし皿B(13～15)も、前者とほぼ同じ時期と考えられる。須恵器皿B(16～20)は、底部の切り離し技法が回転糸切りで、高台は貼付したのち周縁部をナデ調整されている。なお、体部は内湾ぎみに立ち上

がっている。編年型式では折戸10号窯式期以降、井ヶ谷78号窯式期ないし黒笹14号窯式期の範疇と考えられる。須恵器坏B(8)は、高台が底部外周付近に付き、高台がやや低い形態である。編年型式ではおおよそ岩崎41号窯式から高蔵寺2号窯式期にかけての範疇と考えられる。

灰釉陶器碗(21・22)は、猿投窯編年における黒笹90号窯式期に比定される資料で、底部外面は回転糸切りののちヘラケズリ調整され、高台は貼付したのち周縁部をナデ調整されている。このほかに長頸瓶(23)の頸基部の破片が出土している。これらの施釉方法は刷毛塗りと推定される。

須恵器甕(24~29)は、口縁部(24・25)および底部(26~29)であるが、口縁部の短い24・25はおおよそ8世紀前半代までの資料と考えられる。

中世の資料では、山茶碗窯系の捏ね鉢の口縁部片(30)は13世紀代と考えられる。大窯期の灰釉碗(31)は、削り出し高台で、16世紀代と推定される。常滑産と推定される無釉焼締甕(32)は、N字状口縁を呈する口縁部片で、おおよそ14世紀代と考えられる。



第55図 包含層出土古代・中世遺物

第4章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

第1節 土器付着物・圧痕の観察

1. 試料

試料は、土器片4点である。84号土坑 漆?、Ⅲ層、Ⅲ層 漆?の3点は、土器表面に黒色の付着物が認められる。2号住居跡 種子痕?は、土器に小豆大の窪みが認められる。

2. 分析方法

土器の塗布物や圧痕について、双眼実体顕微鏡およびマイクロスコープを用いて、表面および断面の特徴を観察する。

3. 観察結果

(1) 84号土坑 漆?

土器の内外面に黒色物質が認められ、特に内側は塗られたような状況を呈する。いずれも光沢は認められず、漆か否かの判断は難しい。

仮に漆だった場合、漆が酸化して黒色に見える場合、黒色物質を混和して黒色に見える場合、2層構造で下部に黒色物質を塗って、その上に漆を塗る場合の3パターンが考えられる。漆が塗布されているかも含めて、薄片で断面の状況を観察することで、より詳細な状況を明らかにできる可能性がある。

(2) Ⅲ層

破片であるが、土器内面の一面にほぼ均等に黒色の塗布物があり、光沢も認められる。光沢を有する状況から、漆が塗られていると考えられる。

塗布方法については、断面観察でも明瞭には確認できない。今後、薄片観察を行うことで、詳細な塗布方法が確認できる可能性がある。

(3) Ⅲ層 漆?

土器内面に黒褐色の付着物が認められ、状況から何らかの物質が塗られている可能性がある。残存状況から、本来は全面に認められた可能性がある。光沢が認められないため、漆か否かの判別は難しい。

84号土坑の土器と同じく、薄片作成により漆か否かも含めた塗布物の詳細が確認できる可能性がある。

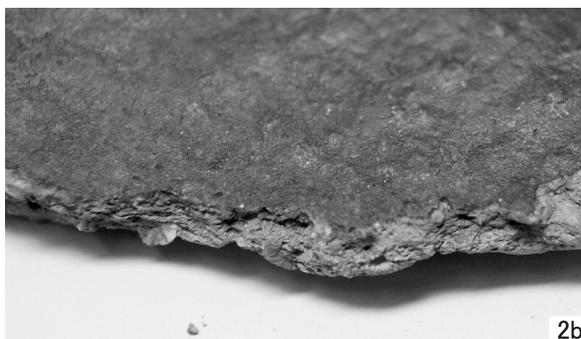
(4) 2号住居跡 種子痕?

種子痕とされる圧痕の大きさは長さ8mm、長さ5mm、深さ6mm程度の楕円形である。側面はほぼ垂直に切り立っているため、正面像ならびに3D合成像では側面の形状は不明である。側面は、マイクロスコープをできるだけ傾けて観察、撮影を行ったが、ややオーバーハンクしているため観察条件は悪い。側面には、マメ類の臍のようなものが観察されるため、ダイズ類など比較的大型のマメ類の圧痕である可能性が高い。しかしながら、圧痕の形状による制約から、詳細に観察するために、機器の

ワーキングディスタンスが十分確保できないため、内部の細かな観察は難しく、細かな同定ができない。

今後、シリコンによる型取りなどの観察が有効であるが、種子痕が深く、作業中に破損する恐れもあることから、行うにあたっては、十分な検討が必要である。

飛驒市黒内細野遺跡出土土器の塗布物



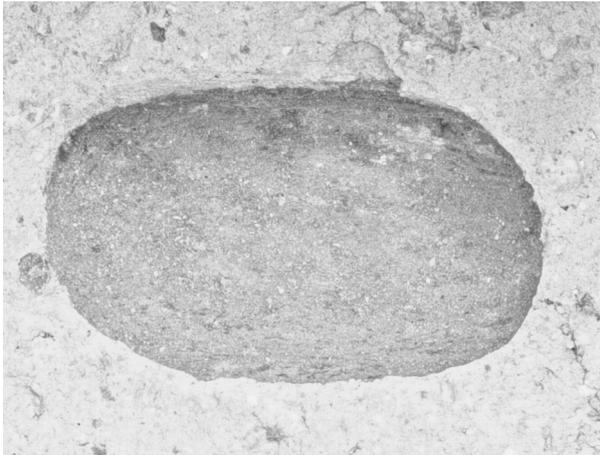
1. 84号土坑 漆?

2. Ⅲ層

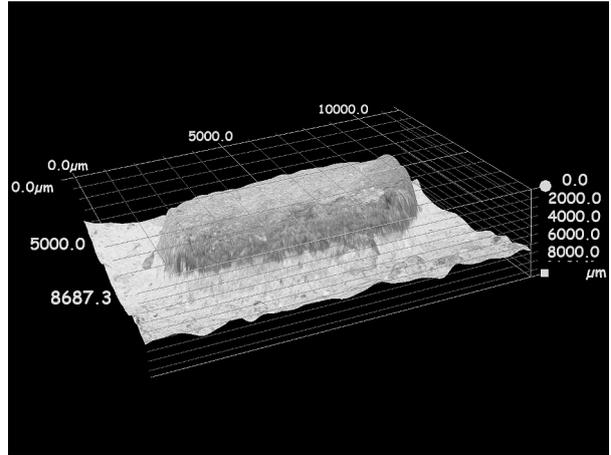
3. Ⅲ層 漆?

a: 土器片の全景, b: 塗布物の拡大写真

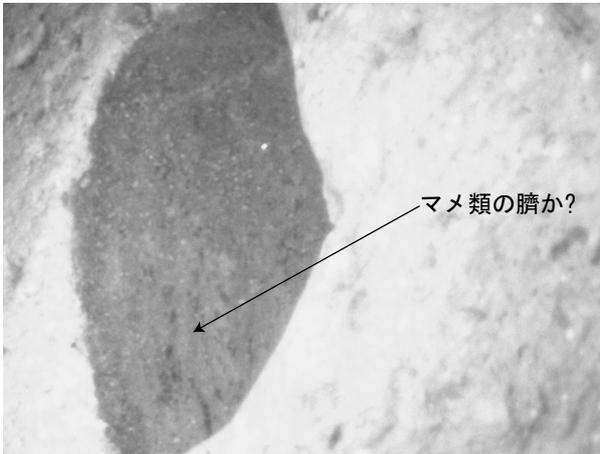
飛騨市黒内細野遺跡 2号住居跡出土土器の圧痕



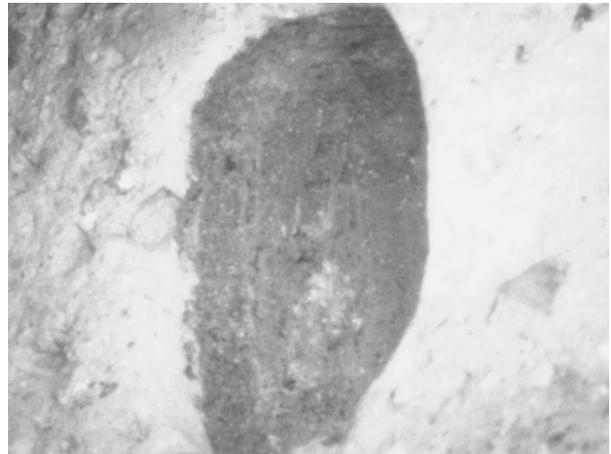
正面像



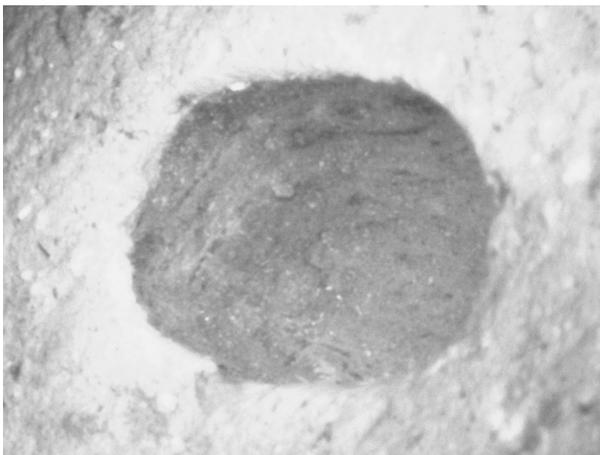
3D合成像



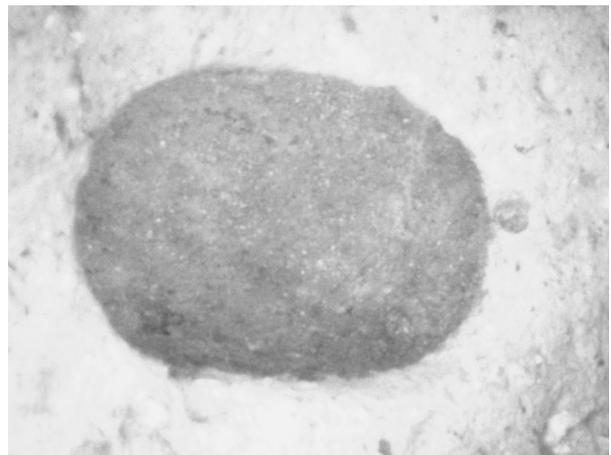
側面像



側面像



側面像



側面像

1 mm

第2節 炭化種実の同定と年代

はじめに

黒内細野遺跡は、岐阜県飛騨市古川町に所在し、縄文時代中期から後期にかけての集落遺跡である。1988年の発掘調査では、住居跡から大量の土器が出土した他に、多数の土坑が検出されている。

本報告では、住居跡出土埋甕内の土壌を対象として、洗い出しによる炭化種実の回収・同定・放射性炭素年代測定を実施し、当時の植物利用および年代に関する資料を作成する。また、縄文時代中期～晩期の各時期の土坑から出土した炭化種実の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を作成する。

1. 試料

試料は、1号住居跡埋甕内土壌3点（1号住埋甕a（古）土器片混、1号住埋甕a（古）、1号住埋甕b（新））と、土坑出土炭化物45点の、計48点である。試料は、全て乾燥した状態でポリ袋に入っている。51号土坑出土炭化物には、外袋と内袋の2袋が存在する。各試料の詳細は、結果とともに表3、表4に示す。

土壌洗い出しは、1号住居跡埋甕内土壌3点を対象に実施する。種実同定は、1号住居跡埋甕内土壌洗い出し後の試料3点および土坑出土炭化物45点の、計48点を対象に、炭化種実の抽出同定を実施する。

放射性炭素年代測定は、玉川文化財研究所との協議の上、1号住埋甕a（古）土器片混（図版1-10）、1号住埋甕a（古）（図版1-11）、1号住埋甕b（新）（図版1-12）より同定されたトチノキの炭化種子3個を対象とする。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma ; 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0 (Copyright 1986–2014 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い (¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正することである。暦年較正は、CALIB REV7.0のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

(2) 埋甕内土壌洗い出し

土壌試料から炭化種実を可能な限り壊さず回収するために、試料を秤量、常温乾燥後、肉眼観察で確認された炭化種実や炭化材、土器片等の遺物を拾い上げる。

乾燥後の試料を、水を満たした容器に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて静かに攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す (20~30回)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。

篩内の試料を粒径別に常温乾燥後、双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実の他に、炭化材 (主に径4mm以上) や土器片などの遺物を抽出する。

(3) 炭化種実同定

土坑出土炭化物は、篩別後、粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実を抽出する。

炭化種実の同定は、現生標本および石川 (1994)、中山ほか (2000) 等を参考に実施し、部位・状態別の個数、重量、最大径を求めて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。同定後は、炭化種実を分類群別に容器に入れて保管する。

その他の抽出物は、重量および一部の個数と最大径を求めて一覧表に示す。分析残渣は、炭化材・炭化物主体と、砂礫主体とに大まかに分け、重量を表示する。分析後は、抽出物と分析残渣を容器に入れて保管する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に、較正暦年代を表2に示す。

(補正)年代は、1号住埋甕 a (古) 土器片混と1号住埋甕 a (古) は、ともに $4,120 \pm 30$ yrBPを示し、1号住埋甕 b (新) は $4,150 \pm 30$ yrBPを示す。測定誤差を σ の年代でみると、1号住埋甕 a (古) 土器片混はcalBP4,804–4,571、1号住埋甕 a (古) はcalBP4,806–4,575、1号住埋甕 b (新) はcalBP4,817–4,623である。

表1 放射性炭素年代測定結果

試料名	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
1号住 埋甕 a (古)土器片混	トチノキ 炭化種子	4,120 ± 30	-23.28 ± 0.64	4,090 ± 30	IAAA-140947
1号住 埋甕 a (古)	トチノキ 炭化種子	4,120 ± 30	-23.65 ± 0.52	4,100 ± 30	IAAA-140948
1号住 埋甕 b (新)	トチノキ 炭化種子	4,150 ± 30	-22.96 ± 0.56	4,120 ± 30	IAAA-140949

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代							相対比	Code No.
		σ	cal BC 2,854	-	cal BC 2,812	cal BP 4,804	-	4,762		
1号住 埋甕 a (古) 土器片混	4,116 ± 29	σ	cal BC 2,746	-	cal BC 2,725	cal BP 4,696	-	4,675	0.127	IAAA- 140477
			cal BC 2,697	-	cal BC 2,621	cal BP 4,647	-	4,571	0.564	
			cal BC 2,865	-	cal BC 2,804	cal BP 4,815	-	4,754	0.264	
		2σ	cal BC 2,772	-	cal BC 2,770	cal BP 4,722	-	4,720	0.001	
			cal BC 2,763	-	cal BC 2,577	cal BP 4,713	-	4,527	0.735	
			cal BC 2,856	-	cal BC 2,811	cal BP 4,806	-	4,761	0.304	
1号住 埋甕 a (古)	4,121 ± 28	σ	cal BC 2,747	-	cal BC 2,725	cal BP 4,697	-	4,675	0.150	IAAA- 140478
			cal BC 2,698	-	cal BC 2,625	cal BP 4,648	-	4,575	0.545	
			cal BC 2,865	-	cal BC 2,804	cal BP 4,815	-	4,754	0.272	
		2σ	cal BC 2,773	-	cal BC 2,769	cal BP 4,723	-	4,719	0.005	
			cal BC 2,764	-	cal BC 2,580	cal BP 4,714	-	4,530	0.723	
			cal BC 2,867	-	cal BC 2,837	cal BP 4,817	-	4,787	0.209	
1号住 埋甕 b (新)	4,151 ± 28	σ	cal BC 2,815	-	cal BC 2,804	cal BP 4,765	-	4,754	0.083	IAAA- 140478
			cal BC 2,776	-	cal BC 2,768	cal BP 4,726	-	4,718	0.053	
			cal BC 2,765	-	cal BC 2,673	cal BP 4,715	-	4,623	0.655	
		2σ	cal BC 2,875	-	cal BC 2,831	cal BP 4,825	-	4,781	0.195	
			cal BC 2,821	-	cal BC 2,631	cal BP 4,771	-	4,581	0.805	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

(2) 埋甕内土壌洗い出し

結果を表3に示す。全3試料8.8kgを通じて、炭化種実が1337個(33.4g)検出された。その他に、炭化物・炭化材主体が86.0g、炭化材が39.9g、土器片が42個(207.9g)、砂礫主体が3061.5g、非炭化の植物片・種実が0.07g、ミミズ類の卵胞?が3個(0.001g)が検出された。このうち、非炭化の植物片・種実には、栽培種のイネの穎(埋甕a、埋甕b)や、イヌタデ近似種(埋甕b)、スベリヒユ(埋甕b)、エノキグサ(埋甕a)、アリノトウグサ(埋甕a)、イヌコウジュ属(埋甕a)、キク科(埋甕b)などの、明るく開けた場所に生育する草本類の種実が確認された。ミミズ類の卵胞?(埋甕b)を含め、これらは後代の混入と判断し、解析より除外している。以下に、試料別出土状況を述べる。

- ・ 1号住埋甕 a (古) 土器片混

試料841.9gより、炭化種実(オニグルミ、タデ属) 32個(0.3g)の他に、炭化物・炭化材主体が0.4g、炭化材が0.6g(最大1.1cm)、土器片が20個(152.8g; 最大7.5cm)、砂礫主体が364.6g検出された。

- ・ 1号住埋甕 a (古)

試料4.0kgより、炭化種実(オニグルミ、トチノキ、タデ属、マメ科) 835個(23.1g)の他に、炭化物・炭化材主体が49.2g、炭化材が22.1g(最大2.1cm)、土器片が18個(54.5g; 最大4.1cm)、砂礫主体が1325.4g検出された。

- ・ 1号住埋甕 b (新)

試料4.0kgより、炭化種実(オニグルミ、トチノキ、ミズキ) 470個(10.1g)の他に、炭化物・炭化材主体が36.3g、炭化材が17.2g(最大2.3cm)、土器片が2個(0.6g; 最大1.7cm)、砂礫主体が1371.5g検出された。

(3) 炭化種実同定

1) 出土状況

同定結果を表3、表4に、炭化種実出土状況を表5に示す。1号住居跡埋甕内土壌3試料、土坑出土炭化物45試料の、計48試料を通じて、被子植物8分類群(木本のオニグルミ、クヌギ、ミズナラ、クリ、トチノキ、ミズキ、草本のタデ属、マメ科) 1871個(108.7g)の炭化種実が同定された。51個(4.1g)は同定ができなかったため不明とし、うち20個(0.7g)を堅果類の子葉としている。以下に、炭化種実の出土状況を述べる。

- ・ 1号住居跡埋甕内出土炭化種実

3試料を通じて、木本3分類群(オニグルミ、トチノキ、ミズキ) 1328個(33.4g)、草本2分類群(タデ属、マメ科) 8個(0.01g)の、計1336個(33.4g)が同定された他に、1号住埋甕 b (新)から不明が1個(0.001g)確認された(表3)。

炭化種実群は、全て河畔林要素で高木になる落葉広葉樹から成り、堅果類のトチノキの種子(種皮・子葉)の破片が1312個(33.1g)、オニグルミの核の破片が15個(0.27g)と、ミズキの核の破片が1個(0.001g未満)確認された。草本類は、1号住埋甕 a (古)から、タデ属の果実が7個(0.001g未満)と、栽培の可能性があるマメ科(アズキ類)の種子が1個(0.007g)確認された。トチノキが最も多く(全個数の98.1%、全重量の99.2%)、1号住埋甕 a (古)土器片混、1号住埋甕 a (古)ではほぼ100%を占め、1号住埋甕 b (新)ではオニグルミがごく少量(2%)混じる(表5)。

- ・ 土坑出土炭化種実

45試料を通じて、木本5分類群(オニグルミ、クヌギ、ミズナラ、クリ、トチノキ) 535個(75.3g)が同定された他に、堅果類の子葉が20個(0.7g)、不明が30個(3.4g)確認された。種実以外では、炭化材が659.9g(最大2.9cm; 44号土坑)、炭化物主体が23.7g、砂礫・泥粒主体が23.4g、動物遺存体が1個(0.01g; 0.5cm)、土器片が26個(9.4g)(最大2.5cm; 32号土坑)確認された他に、後代の混入と判断される非炭化植物片(アカマツ・クロマツの葉、蘚苔類など)が0.03g確認された(表4)。

炭化種実群は、全て高木になる落葉広葉樹の堅果類から成る。河畔林要素のトチノキの種子(種皮・子葉)の破片が234個(36.3g)と最も多く、オニグルミの核の破片が107個(7.5g)と次いで多い。その他に、二次林要素のクリの子葉が43個(9.1g)、クヌギの果皮・子葉が1個(0.4g)、子葉が29個(7.3g)、コナラの子葉が1個(0.1g)、山地～亜高山帯に分布するミズナラの子葉が14個(4.8g)、クヌ

表3 埋壘内土壌洗い出し・炭化種実同定結果

分類群	部位・状態	1号住埋壘 a (古)			1号住埋壘 a (古)						1号住埋壘 b (新)						備考
		土器片混			個	g	mm	個	g	mm	個	g	mm	個	g	mm	
炭化種実																	
オニグルミ	核 破片	-	-	-	6	0.05	4.7	-	-	-	5	0.07	6.3	4	0.15	9.0	
トチノキ	種皮 破片	15	0.04	5.3	260	1.10	7.1	314	2.19	11.0	59	0.32	9.1	241	1.82	12.3	
	種皮・子葉 破片	1	0.11	10.0	1	0.31	14.5	-	-	-	1	0.35	15.0	-	-	-	放射性炭素年代測定対象
	種皮・子葉 破片	-	-	-	7	0.47	9.8	33	3.69	22.1	13	0.28	9.3	42	1.75	13.2	
	子葉 半分	-	-	-	1	1.00	22.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	破片	14	0.15	7.4	72	3.37	16.4	135	10.86	19.1	23	1.25	10.9	80	4.07	13.8	
ミズキ	核 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	<0.001	2.6		
タデ属	果実 完形	1	<0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イシミカワ類の可能性
	破片	1	<0.001	-	5	<0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マメ科	種子 完形	-	-	-	-	-	-	1	0.01	4.3	-	-	-	-	-	-	アズキ類?
不明	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.001	3.7		
炭化物・炭化材主体	4-2mm	-	-	-	+	2.1	-	+	3.93	-	+	0.9	-	+	2.47	-	トチノキ含む
	2-1mm	+	0.4	-	+	6.3	-	+	14.2	-	+	3.0	-	+	11.9	-	
	1-0.5mm	-	-	-	+	5.9	-	+	16.8	-	+	4.8	-	+	13.3	-	
炭化材	>4mm	+	0.2	11.3	+	2.4	17.8	+	8.8	21.1	+	1.1	10.8	+	7.7	22.5	
	4-2mm	+	0.3	-	+	2.0	-	+	8.9	-	+	2.0	-	+	6.4	-	
土器片	>4mm	20	152.8	74.7	-	-	-	18	54.5	41.3	2	0.1	7.9	2	0.6	16.5	
砂礫主体	>4mm	-	199.4	-	-	73.4	-	-	335.0	-	-	82.5	-	-	288.4	-	
	4-2mm	-	41.3	-	-	43.4	-	-	123.1	-	-	47.8	-	-	150.2	-	
	2-1mm	-	66.2	-	-	85.8	-	-	286.3	-	-	78.7	-	-	284.7	-	
	1-0.5mm	-	57.7	-	-	96.7	-	-	281.8	-	-	110.2	-	-	329.0	-	
後代の混入の可能性																	
植物片・種実		-	-	-	-	0.04	-	-	0.03	-	-	0.001	-	-	<0.001	-	埋壘 a: イネ類, エノキグサ, アリノトウグサ, イヌコウジュ属
ミミズ類 卵胞?		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	<0.001	-	-	埋壘 b: イネ類, イヌタデ近似種, スベリヒユ, キク科
合計																	
炭化種実		32	0.3	-	352	6.3	-	483	16.7	-	101	2.3	-	369	7.8	-	
炭化物・炭化材主体		-	0.4	-	-	14.3	-	-	34.9	-	-	8.7	-	-	27.6	-	
炭化材		-	0.6	-	-	4.5	-	-	17.7	-	-	3.2	-	-	14.1	-	
土器片		20	152.8	-	-	-	-	18	54.5	-	2	0.1	-	2	0.6	-	
砂礫主体		-	364.6	-	-	299.3	-	-	1026.1	-	-	319.2	-	-	1052.3	-	
分析量		-	841.9	-	-	1000	-	-	3000	-	-	1000	-	-	3000	-	

ギ-ミズナラの子葉の破片が80個(8.7g)、ミズナラ-コナラの子葉の破片が9個(0.8g)、コナラ属(クヌギ、ミズナラ、コナラの類)の子葉の破片が17個(0.2g)確認された。クリ、クヌギ、ミズナラ、コナラは、1号住居跡埋壘内では確認されなかった分類群である。

炭化種実の出土個数、重量は、51号土坑が190個(34.8g)と最も多い。51号土坑に次いで、重量では114号土坑(7.8g)、73号土坑(7.3g)、72号土坑(5.5g)、個数では76号土坑(52個)、114号土坑(51個)、73号土坑(43個)の順に次いで多い。なお、12号土坑、14号土坑、20号土坑、24号土坑、44号土坑、56号土坑、57号土坑、79号土坑、105号土坑からは、炭化種実が1個も確認されなかった。

炭化種実群の組成は、最も多く検出された51号土坑は、全ての堅果類から構成される。一方、60号土坑、70号土坑、72号土坑、73号土坑、75号土坑、76号土坑、77号土坑、87号土坑、98号土坑、101号土坑、107号土坑、108号土坑、111号土坑、114号土坑は、トチノキ主体である。また、32号土坑、40号土坑、48号土坑、81号土坑、85号土坑、93号土坑、94号土坑は、オニグルミ主体で、7号土坑、19号土坑、22号土坑、42号土坑、119号土坑はクリ主体であり、土坑によって多産(優占)する堅果類の種類が異なる傾向が窺える。

表5 炭化種実出土状況

遺構	種類											合計	重量											合計			
	オニグルミ	クスギ	クスギミズナラ	ミズナラ	ミズナラコナラ	コナラ	コナラ属	クリ	トチノキ?	トチノキ	ミズキ		タデ属	マメ科	オニグルミ	クスギ	クスギミズナラ	ミズナラ	ミズナラコナラ	コナラ	コナラ属	クリ	トチノキ?		トチノキ	ミズキ	タデ属
5号土坑	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	4	0.18	-	0.07	-	-	-	-	-	-	0.39	-	-	0.6	
7号土坑	12	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	13	0.09	-	-	-	-	-	-	0.16	-	-	-	-	0.2	
12号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16号土坑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	0.18	-	-	0.3	
19号土坑	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	0.12	-	0.07	-	-	-	0.2	
20号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22号土坑	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	0.12	-	-	-	-	-	0.1	
24号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
31号土坑	3	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	9	0.31	-	-	-	-	-	0.44	-	0.36	-	-	-	1.1	
32号土坑	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.38	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	
40号土坑	10	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	14	0.51	-	-	-	-	-	-	-	0.26	-	-	-	0.8	
42号土坑	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	0.16	-	-	-	-	-	0.2	
44号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
45号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	0.09	-	-	-	0.1	
48号土坑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	
49号土坑	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	0.10	-	-	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	0.2	
51号土坑	8	25	75	14	2	-	17	28	-	21	-	-	190	0.96	7.11	8.25	4.76	0.28	-	0.19	6.91	-	6.35	-	-	34.8	
56号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
57号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60号土坑	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	6	-	-	-	-	-	-	0.11	-	0.66	-	-	-	0.8	
70号土坑	2	-	-	-	5	-	-	-	-	9	-	-	16	0.44	-	-	-	0.32	-	-	-	1.38	-	-	-	2.1	
72号土坑	1	-	-	-	1	-	-	1	-	34	-	-	37	0.08	-	-	-	0.13	-	-	0.06	-	5.21	-	-	5.5	
73号土坑	10	-	-	-	-	-	-	1	-	32	-	-	43	0.87	-	-	-	-	-	0.34	-	6.07	-	-	-	7.3	
75号土坑	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	0.24	-	-	-	-	-	-	-	0.34	-	-	-	0.6	
76号土坑	23	-	-	-	-	-	-	2	18	9	-	-	52	0.70	-	-	-	-	-	0.23	0.06	1.29	-	-	-	2.3	
77号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1.31	-	-	-	1.3	
79号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
81号土坑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	
84号土坑	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	6	0.23	-	-	-	-	-	-	-	0.37	-	-	-	0.6	
85号土坑	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	
86号土坑	5	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	9	0.47	0.14	-	-	-	-	-	-	0.48	-	-	-	1.1	
87号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1.03	-	-	-	1.0	
93号土坑	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	0.15	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	0.2	
94号土坑	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	
95号土坑	2	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	8	0.29	-	-	-	-	-	0.17	-	0.21	-	-	-	0.7	
96号土坑	1	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	5	0.19	-	0.12	-	-	-	-	-	0.24	-	-	-	0.6	
98号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.32	-	-	-	0.3	
101号土坑	-	-	2	-	-	-	-	-	-	3	-	-	5	-	-	0.25	-	-	-	-	-	0.76	-	-	-	1.0	
105号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
107号土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.38	-	-	-	0.4	
108号土坑	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	6	0.29	-	-	-	-	-	-	-	0.90	-	-	-	1.2	
111号土坑	1	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	9	0.07	-	-	-	-	0.12	-	0.09	-	0.47	-	-	0.7	
114号土坑	3	2	-	-	-	-	-	-	-	46	-	-	51	0.21	0.45	-	-	-	-	-	-	7.10	-	-	-	7.8	
119号土坑	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	0.11	-	-	-	-	-	0.22	-	-	-	-	0.3	
1号住埋甕 a (古) 土器片混	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	2	32	-	-	-	-	-	-	-	-	0.30	-	<0.01	-	0.3	
1号住埋甕 a (古)	6	-	-	-	-	-	-	-	-	823	-	5	835	0.05	-	-	-	-	-	-	-	23.00	-	<0.01	0.01	23.1	
1号住埋甕 b (新)	9	-	-	-	-	-	-	-	-	459	1	-	469	0.22	-	-	-	-	-	-	-	9.84	<0.01	-	-	10.1	
合計	122	30	80	14	9	1	17	43	18	1528	1	7	1871	7.7	7.9	8.7	4.8	0.8	0.1	0.2	9.1	0.1	69.4	<0.01	<0.01	0.01	108.8
単位	(個)											重量(g)															

2) 炭化種実の記載

炭化種実の保存状態は、全て炭化しており黒色を呈し、破損や泥の付着などにより極めて不良である。

各分類群の写真を図版1に示し、形態的特徴等を以下に述べる。また、一部の炭化種実の大きさをデジタルノギスで計測した結果を表6に示す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

核は、径2.5~3.5cmの広卵形で頂部が尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には維管束の痕跡である縦網状の彫紋があり、ごつごつしている。縫合線に沿って半割した内部に子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある(図版1-1、2)。出土核は全て破片で、最大11.6cmを測る(51号土坑)。

・コナラ属 (*Quercus*) ブナ科

子葉は偏球体または狭卵状楕円体で、頂部が尖る成熟個体が多く、基部は切形が多い。大半は、2枚からなる子葉の合わせ目に沿って割れた半分以下の破片である。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がある。半割面は平滑で、正中線上はやや窪み、頂部に長径1~3mmの楕円形の孔(主根)がある。

クヌギ (*Q. acutissima* Carruthers; クヌギ節) の子葉は、長さ1.2~1.6cm、径1.1~1.5cmの偏球体を呈す(表6、図版1-3~5)。2個は完全な形状をとどめ、1個の表面には果皮片が残る(51号土坑; 図版1-3)。果皮は薄く(約0.5mm)、表面は平滑で、浅く微細な溝が密に並ぶ。出土子葉は、偏球体を呈する点では、アベマキ (*Q. variabilis* Blume; クヌギ節) やカシワ (*Q. dentata* Thunb. ex Murray; コナラ節) との区別は難しい。ただし、子葉の離れにくさ(岡本1979)や、分布を考え合わせると、クヌギである可能性が高いと判断している。

ミズナラ (*Q. crispula* Blume; コナラ節) の子葉は、長さ1.7~2.2cm、径0.9~1.2cmの狭卵状楕円体で、クヌギよりも長細い(表6、図版1-6)。なお、クヌギとミズナラとの区別が難しい破片は、両種をハイフォンで結んでいる。コナラ (*Q. serrata* Thunb. ex Murray; コナラ節) の子葉は、長さ1.3cm、径0.6cmの狭卵状楕円体で、ミズナラよりも小型である(表6、図版1-7)。なお、コナラとミズナラは種間交雑が容易で、分布が重なるところでは雑種が存在するため、ミズナラとコナラの区別が難しい破片は、両種をハイフォンで結んでいる。また、同定が難しい微細片は、コナラ属としている。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

子葉は、長さ0.8~1.8cm、幅0.9~1.6cm、厚さ0.4~1.1cmの三角状広卵体を呈し、重量は0.2~1.0gを量る(表6、図版1-8、9)。腹面は平らで背面は丸みがある個体が多い。頂部は尖り、基部は切形。子葉は硬く緻密で、表面には種皮(渋皮)の圧痕の縦筋が粗く波打つ。2枚からなる子葉の合わせ目の線に沿って割れた半分以下の破片もみられる。半割面は平滑で、正中線はやや窪み、頂部には小さな孔(主根)がある(図版1-8b)。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

種子は、径2.5~3.5cmの偏球体で、表面にはほぼ赤道面を蛇行して一周する曲線を境に、不規則な流理状模様がある光沢の強い黒色の上部と、粗面で光沢のない灰褐色の下部の着点に別れる。種皮は薄く硬く、不規則に割れており、出土種皮片は最大1.5cmを測る(31号土坑)。種子内に入る子葉

は、オニグルミやコナラ属、クリよりも粗面で不規則に割れており、最大2.3cmを測る（1号住埋甕 a（古））。表面に種皮が残る子葉も多くみられる（図版1-10~12）。

・ミズキ (*Swida controversa* (Hemsl.) Sojak) ミズキ科ミズキ属

核（内果皮）は、径0.3~0.4cmの偏球体で、基部に径1mm程度の大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する1本の幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。内部には2室を形成する隔壁がある。出土核は破片で、残存径は2.6mmを測る（1号住埋甕 b（新）；図版1-13）。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実は、径2.6mmの球体で、基部に径0.7mmの円形の萼が残る完形個体（図版1-14）や、3稜に沿って割れた破片がみられる。果皮表面は粗面。出土果実は球状を呈すことから、イシミカワの類と考えられる。

・マメ科 (Leguminosae)

1号住埋甕 a（古）より出土した炭化種子は、長さ4.3mm、幅2.6mm、厚さ2.4mmの直方体状楕円体を呈し、重量は0.007gを量る（図版1-15）。腹面の子葉合わせ目は摩耗しており、臍や幼根は不明瞭である。種皮は薄く、表面は粗面で摩耗している。出土種子は、直方体状楕円体を呈する点でアズキ類に似るが、臍等の形状が不明瞭なため、マメ科にとどめている。

表6 主な炭化種実の計測値

分類群	部位	状態	遺構	No.	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	図版	備考
クスギ	果皮・子葉	完形	51号土坑	-	13.6	10.6	11.3	0.57	1-3	果皮：頂部付近に残存（径6mm）
クスギ	子葉	完形	51号土坑	-	11.9	10.6	10.0	0.38	-	
クスギ	子葉	破片	51号土坑	1	14.3	14.6	6.4 +	0.33	1-4	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	2	14.0	13.2	7.1 +	0.39	1-5	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	3	14.3	13.8	6.6 +	0.47	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	4	13.5	13.7	7.9 +	0.42	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	5	13.9	11.5	6.3 +	0.28	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	6	13.7	11.6	6.4 +	0.36	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	7	13.6	12.9	6.3 +	0.28	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	8	14.9	11.5 +	6.6 +	0.39	-	半分厚, 復元幅12-13mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	9	16.3	10.6 +	8.8 +	0.28	-	半分厚, 復元幅13-14mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	10	12.8	10.1 +	6.8 +	0.29	-	半分厚, 復元幅13-14mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	1	13.2	11.0	5.3 +	0.32	-	半分厚
クスギ	子葉	破片	51号土坑	2	12.6	11.4 +	6.8 +	0.36	-	半分厚, 復元幅12mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	3	15.5	10.2 +	6.9 +	0.26	-	半分厚, 復元幅12-13mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	4	13.3	8.7 +	6.2 +	0.27	-	半分厚, 復元幅12mm
クスギ	子葉	破片	51号土坑	5	12.9	10.2 +	6.5 +	0.24	-	半分厚, 復元幅12-13mm
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	1	21.7	12.2	6.5 +	0.54	1-6	半分厚
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	2	19.1	12.2	6.6 +	0.51	-	半分厚
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	3	17.6	10.3	6.4 +	0.41	-	半分厚
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	4	21.2	7.6 +	5.8 +	0.29	-	半分厚, 復元幅10-12mm
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	1	19.7 +	9.3	6.5 +	0.37	-	基部欠損, 復元長21-23mm, 半分厚
ミズナラ	子葉	破片	51号土坑	2	17.1	10.1	5.7 +	0.46	-	半分厚
コナラ	子葉	破片	111号土坑	-	12.6	6.2	3.6 +	0.12	1-7	半分厚
クリ	子葉	完形	51号土坑	-	14.7	16.4	8.2	1.04	1-9	
クリ	子葉	破片	51号土坑	1	16.2	14.3 +	8.6 +	0.79	-	背面, 復元幅17-18mm
クリ	子葉	破片	51号土坑	2	14.6	14.2 +	7.6 +	0.50	-	背面, 復元幅15mm
クリ	子葉	完形未滿	7号土坑	-	11.9	8.0 +	4.1	0.16	-	復元幅:11-12mm
クリ	子葉	完形	31号土坑	-	12.4	11.0	5.4	0.22	-	
クリ	子葉	破片	31号土坑	-	10.8 +	13.4 +	3.9 +	0.23	-	腹面, 復元長12-14mm, 復元幅13-14mm
クリ	子葉	完形未滿	51号土坑	-	17.1	12.6 +	10.0 +	0.51	-	
クリ	子葉	破片	51号土坑	-	14.8	11.7 +	7.0 +	0.31	-	腹面, 復元幅13-14mm
クリ	子葉	完形未滿	73号土坑	-	14.5	14.5	10.4 +	0.34	-	
クリ	子葉	破片	76号土坑	-	11.3	11.2	4.3	0.23	-	
クリ	子葉	破片	95号土坑	-	8.2	9.1	3.2 +	0.13	1-8	腹面
クリ	子葉	完形未滿	119号土坑	-	12.3	8.4 +	5.7	0.22	-	復元幅12-13mm
マメ科	種子	完形	1号住埋甕 a（古）	-	4.3	2.6	2.4	0.01	-	臍不明瞭, アズキ類?

注) 計測はデジタルノギスを使用。

4. 考察

1号住居跡埋甕内と各土坑から出土した炭化種実、木本6分類群（オニグルミ、クヌギ、ミズナラ、クリ、トチノキ、ミズキ）、草本2分類群（タデ属、マメ科）が確認され、堅果類主体の組成を示した。

また、1号住居跡埋甕内より同定されたトチノキ種子の測定（補正）年代は、3点とも非常に近似した年代であった。小林編（2008）の編年表や小林（2008）による東日本の縄文土器の年代測定例等を参考とすると、暦年代は、3点とも縄文時代中期後葉頃の範囲にそれぞれ相当し、1号住埋甕a（古）土器片混、1号住埋甕a（古）よりも、1号住埋甕b（新）の方が若干古い傾向にある。この若干の差が土器の形式年代差を反映しているかは、検討を要す。

炭化種実群は、木本類を主体とし、木本類は全て高木になる落葉広葉樹から構成される。オニグルミやトチノキ、ミズキは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育する河畔林要素で、クヌギやコナラ、クリは、丘陵や山地に生育する二次林要素である。ミズナラは、山地～亜高山帯に分布する。これらの樹種は、現在の本地域にも分布しており、本遺跡の立地等を考慮すると、当時の宮川流域に分布した落葉広葉樹林内に生育していたと考えられる。

最も多く確認されたトチノキや、クヌギ、ミズナラ、コナラなどのナラ類は、あく抜きすることで子葉が食用可能となる。ただし、クヌギは、ドングリ類のなかでも特にあくが強いいため、何度も茹でこぼしたり、灰汁を加えるなどの高度なあく抜き技術を要し、現在では食用に利用する地域はなく、加工のための伝承が途絶えたとされる（渡辺1975など）。トチノキに次いで多く確認されたオニグルミやクリは、あく抜きせずに子葉が食用可能である。

これらの堅果類は、長期保存可能で収量も多いことから、古くから利用され、遺跡出土例も多い（渡辺1975など）。出土炭化堅果類は、成熟した果実に由来する子葉が多く、食用に適さない幼果や殻斗を含まない出土状況を考え合わせると、当時の遺跡周辺の森林より成熟果実が選択的に採取され、持ち込まれた植物質食料と示唆され、火を受けたとみなされる。

堅果類は、1号住居跡埋甕内と土坑36基から出土し、遺構によって優占する種類が異なるものの、遺構の時期による大きな違いは認められなかった。出土重量に基づく相対比をみると、51号土坑（後期前葉）は全種類から構成され、1号住居跡埋甕内（中期後葉）や60号土坑（時期不明）、70号土坑（時期不明）、72号土坑（時期不明）、73号土坑（後期中葉）、75号土坑（後期前葉）、76号土坑（後期中葉～）、77号土坑（時期不明）、87号土坑（後期前～中葉）、98号土坑（後期前葉）、101号土坑（後期前葉）、107号土坑（後期前葉）、108号土坑（後期？）、111号土坑（後期前葉）、114号土坑（後期前葉）は、トチノキを主体とする。また、32号土坑（後期前葉）、40号土坑（後期前葉）、48号土坑（後期）、81号土坑（後期前葉）、85号土坑（後期後葉）、93号土坑（後期前葉）、94号土坑（後期前葉）はオニグルミ主体で、7号土坑（後期前葉（堀之内式））、19号土坑（後期前葉）、22号土坑（後期前葉）、42号土坑（時期不明）、119号土坑（後期前葉）はクリ主体である。

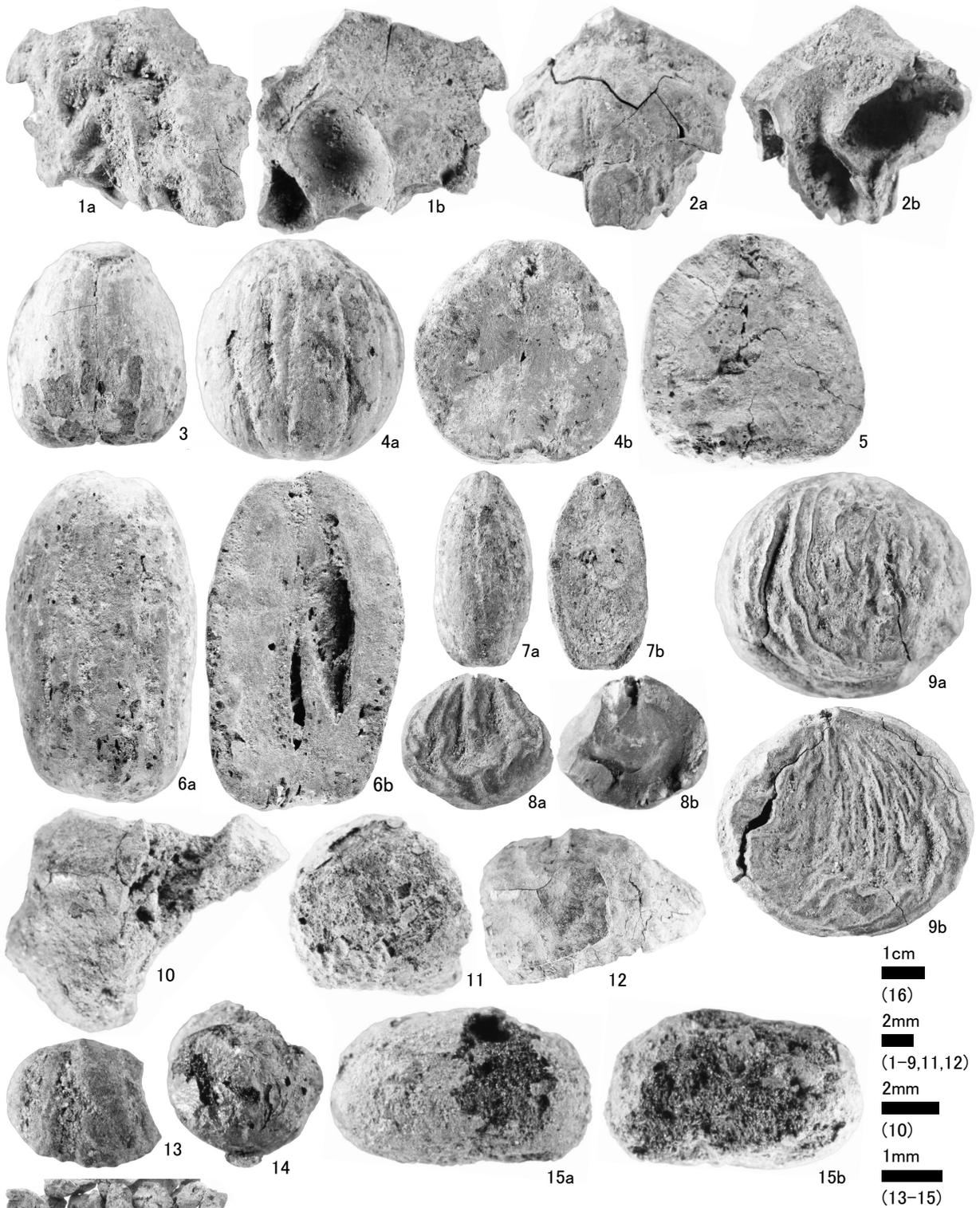
また、堅果類の出土部位は、食用可能な子葉が多く、食用できない部位は、オニグルミの核、トチノキの種皮、クヌギの果皮が確認されたのみである。このような出土状況から、トチノキやクヌギ、ミズナラ、コナラ、クリは、食用されずに火を受け残存したとみなされ、オニグルミは、可食部の子葉を取り出した後の状況を示しているとみなされる。ただし、遺構内に貯蔵保管された状態で火を受けたのか、別の場所で火を受け炭化した食糧残滓が遺構内に廃棄されたのかについては、分析段階で判断することはできないため、発掘調査所見や上述の指摘事項と併せて検討することが望まれる。

草本類は、1号住埋甕 a (古) から、タデ属とアズキ類に似るマメ科が確認された。当時の調査区周辺域の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられる。アズキ類は、近年の土器圧痕調査や種実遺体の研究で、縄文時代における栽培の可能性が検討されている(小畑2008・2011、西本ほか2012、など)。マメ科は、上述の堅果類とともに利用された植物質食料に由来する可能性があるが、1個のみの出土であるため、周辺での栽培の可能性や利用状況の検討については、今後の課題である。

引用文献

- 石川茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p.
- 小林謙一 2008「縄文土器の年代(東日本)」『小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション 896-903p.
- 小林達雄編 2008『小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション 1322p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p.
- 西本豊弘・住田雅和・竜子正彦・高橋 潔・近藤奈央・吉崎 伸 2012「縄文時代のアズキについて - 京都市上里遺跡出土のアズキ類の検討 -」『動物考古学』第29号 45-53p.
- 小畑弘巳 2008 マメ科種子同定法「極東先史古代の雑穀3」日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書 小畑弘巳編 熊本大学埋蔵文化財調査室 225-252p.
- 小畑弘巳 2011『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』同成社 309p
- 吉崎昌一 1992「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 2-14p.
- 岡本素治 1979「遺跡から出土するイチイガシ」『大阪市立自然史博物館研究報告』32号 31-39p
図版4-5
- 渡辺 誠 1975『縄文時代の植物食』雄山閣出版 187p

図版1 炭化種実



- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1. オニグルミ 核(76号土坑) | 2. オニグルミ 核(頂部)(76号土坑) |
| 3. クヌギ 果皮・子葉(51号土坑) | 4. クヌギ 子葉(51号土坑) |
| 5. クヌギ 子葉(51号土坑) | 6. ミズナラ 子葉(51号土坑) |
| 7. コナラ 子葉(111号土坑) | 8. クリ 子葉(95号土坑) |
| 9. クリ 子葉(51号土坑) | |
| 10. トチノキ 種子(年代測定対象)(1号住埋壁a(古)土器片混) | |
| 11. トチノキ 種子(年代測定対象)(1号住埋壁a(古)) | |
| 12. トチノキ 種子(年代測定対象)(1号住埋壁b(新)) | |
| 13. ミズキ 核(1号住埋壁b(新)) | 14. タデ属 果実(1号住埋壁a(古)土器片混) |
| 15. マメ科(アズキ類?) 種子(1号住埋壁a(古)) | 16. トチノキ 種子(1号住埋壁a(古)) |

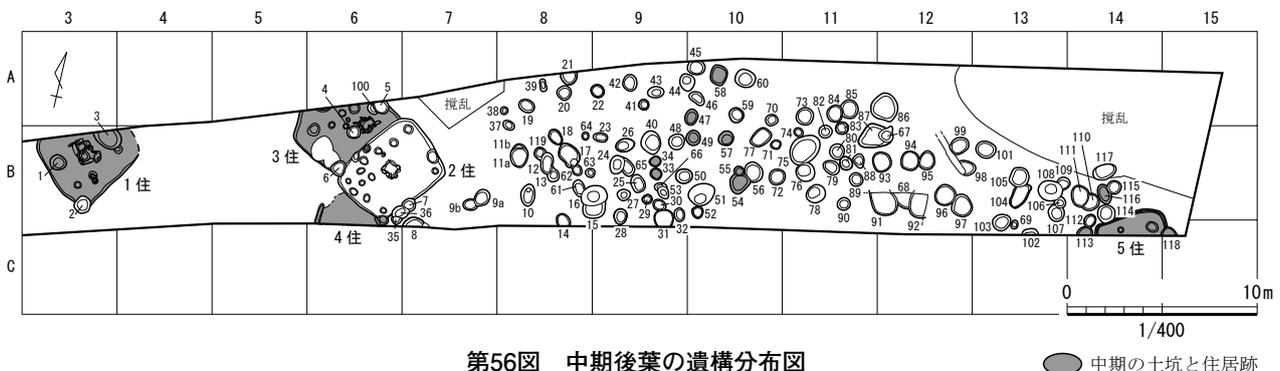
第5章 総括

第1節 発見された遺構

今回の調査によって発見された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡5軒、土坑121基である。これら遺構群は、出土土器の検討によって中期後葉から晩期初頭までの時間幅を持ち、住居跡が検出された中期後葉と、後期前～中葉の2時期において集落跡の存在が判明した。

遺構群の時期別内訳は、中期後葉の竪穴住居跡4軒、土坑14基、後期前～中葉の竪穴住居跡1軒、土坑60基、後期後葉～晩期初頭の土坑6基（後期後葉～晩期初頭3基、晩期初頭3基）、時期不明の土坑41基となる。住居跡は中期後葉と後期前葉の2時期に分かれるが、5軒中4軒が中期後葉の住居跡となっている。一方の土坑は後期前～中葉を主体としており、遺跡全体の出土土器も後期前～中葉が主体であった。

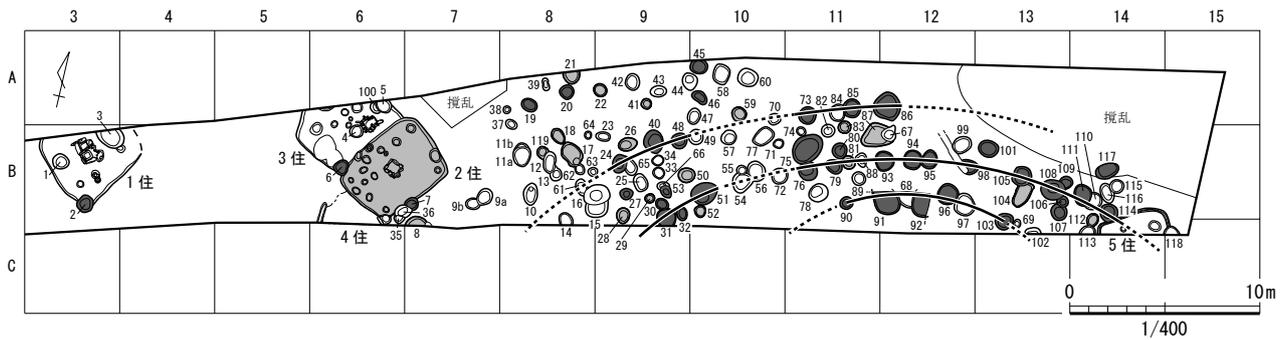
串田新I式並行期を中心とする中期後葉の遺構分布（第56図）は、住居跡が調査区の西側に3軒（1・3・4号）、約35mの間隔を空けて東側に1軒（5号）の2ヶ所に分布し、土坑は西側の1号住居跡と重複する2基（1・3号）、東側の5号住居跡と重複あるいは隣接する3基（113・116・118号）、東西住居跡群に挟まれた中央域に8基（33・34・47・49・57・58・54・55号）の3ヶ所に分かれている。8基の土坑群は中央域の中心部に位置しており、径約7mの範囲内にまとまっている。東西に住居跡群が二分し、中央に土坑群が集中する分布状態から、中期後葉の集落は環状集落となる可能性がある。



第56図 中期後葉の遺構分布図

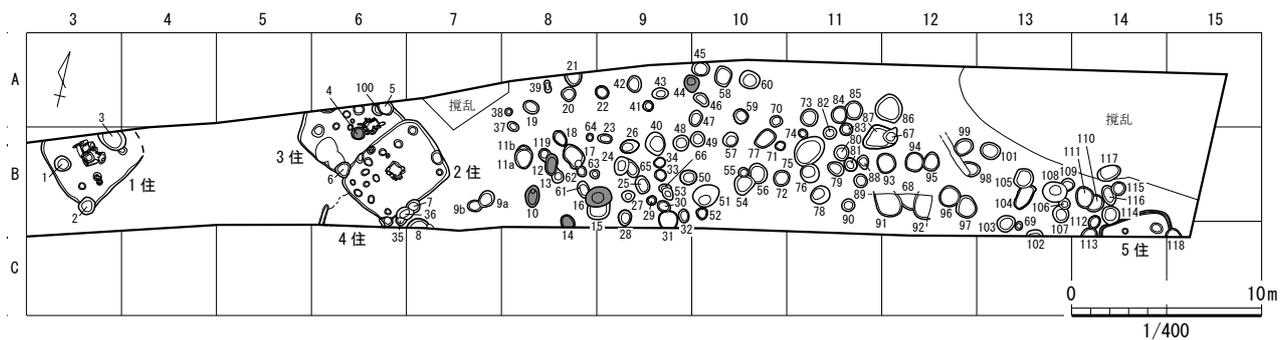
○ 中期の土坑と住居跡

堀之内式～加曾利B1式並行期を中心とする後期前～中葉の遺構分布（第57図）は、住居跡が調査区西側に1軒（2号）あり、その東側約32mの範囲内に56基からなる土坑群が位置する。西側の中期住居跡分布域には、土坑4基（2・6～8号）がある。東側土坑群は弧を描いた列状の並びが帯状に分布するように見えることから、こうした分布状態を明確に捉えるために土坑の規模や深度別の分布を検討してみた。第57図には特に明瞭な分布状態が抽出できた深度30cm以上の土坑42基の分布を示した。図示したように東側土坑群には複列あるいは帯状に弧状配列されるような土坑分布が認められ、三重の弧状配列を想定してみたが、中でも中央に見られる配列は最も明瞭な弧状配列を示しており、また長軸100cm以上・深度40cm以上に限定した土坑分布においても土坑8基（31・51・93～95・105・108・111号）によって明瞭な弧状配列を示している。こうした分布状態から、後期前～中葉期の東側土坑群は、弧状に近い配列を持った土坑群が形成されていた可能性がある。



第57図 後期前～中葉の遺構分布図

○ 後期の土坑（深さ29cm以下）と住居跡
 ● 後期の土坑（深さ30cm以上）



第58図 後期後葉～晩期初頭の遺構分布図

● 後期後葉～晩期初頭の土坑

後期後葉～晩期初頭にわたる土坑分布（第58図）は、後期後半～晩期初頭の3基（4・12・14号）と晩期初頭の3基（10・16・44号）をまとめて示した。これらは、調査区中央からやや西側に偏って分布しているが、全体的な広がり是不明である。

なお、時期不明の土坑41基については、後期前～中葉の土坑群分布域に共存することから、後期前～中葉に帰属できる可能性が高いと考えられる。

竪穴住居跡は、中期後葉の1・3～5号住居跡の4軒と、後期前葉の2号住居跡の1軒を加え合計5軒を今回調査した。このうち全体が調査できたのは後期前葉の2号住居跡のみであった。中期後葉の4軒は調査区外へ延び、後期前葉住居跡との重複（2～4号）も見られた。3号住居跡の遺存状態は悪く、4・5号住居跡も部分的な検出・残存であり、ほぼ全貌が把握できた中期後葉の住居跡は1号住居跡のみであった。この1号住居跡からは新旧2基の炉跡と埋甕を確認している。

全容が分かる中期後葉の1号住居跡は正方形、後期前葉の2号住居跡は長方形のプランを呈している。炉跡は1～4号住居跡から方形の石囲炉を確認した。囲い石が抜き取られたものもあり、1号住居跡の炉跡a・bは複式炉の可能性を残す。埋甕は1・2号住居跡で確認した。これらの埋甕は、1号住居跡では南東壁寄りの床面、2号住居跡では北西壁際に埋設されていた。

第2節 出土遺物について

出土遺物は土器・土製品17箱、石器・石製品15箱、須恵器1箱、炭化物・骨片類2箱があった。これらの中で主体となる土器と石器についてまとめておきたい。

土器

縄文土器は遺構中および包含層から中期後葉申田新I式並行期、後期前葉堀之内式並行期、後期中葉加曾利B1式並行期、後期後葉（加曾利B2式以降）～晩期中葉の土器群が出土し、出土量では後

期前葉～中葉を主体とする。なお、包含層からは少量の弥生時代水神平式・続水神平式土器破片も出土している。

1号住居跡の土器群は、埋甕2個体と覆土中出土の完形・大形破片などを含む中期後葉の一段階を示す一括性の高い土器群として捉えられる(第7～10図)。土器群の内容は北陸系串田新I式土器(1号住2～15)を主体として曾利Ⅲ式(1号住17)、大杉谷式系(1号住16)、北陸系と信州系の文様が混交している感のある在地土器(1号住1)などにより構成されており、串田新I式と曾利Ⅲ式の共存によつての同時性が確認されたといえる。

2号住居跡の覆土中からは後期前葉～中葉の良好な破片資料が出土している。住居跡に埋設されていた埋甕は口縁部を欠損した縄文施文のみの深鉢であったが、この土器は斜位・縦位の異方向に縄文RLが施文された胴部が膨らむ器形をなす厚みのある器厚の土器であることから堀之内式並行のものと考えた。また、炉跡内からも堀之内1式に近似する沈線文が施文された球形の小形土器下半部が1点出土していることから、本住居跡の年代を後期前葉とした。なお、覆土中に大量に含まれていた後期中葉の加曾利B1式並行期の土器は、住居跡発掘後の覆土中に堆積した土器群と考えられる。後期前葉の土器には気屋式土器、南垣内型鉢(戸田1993)を含む宮田式土器、堀之内1式類似の土器が出土しており、同様の段階の中野山越遺跡4号住居跡(中野山越遺跡発掘調査団1993)と比べ宮田式や南垣内型鉢の存在が顕著な内容となっている。

石 器

今回の調査では、試掘によつて表土層にも多量の遺物が含まれていることが判明していたため、表土から遺物摘出のために篩いを実施した結果、7,323点の石器・石製品を得ることができた(第22表)。定形石器・石製品類は1,085点、剥片類6,108点(下呂石4,009点、チャート1,764点、その他335点)、残核・欠損破片を含む石核127点、原石3点(黒曜石2点、玉随1点)で、最も多い器種は打製石斧293点、次いでクサビ形石器234点、石鏃185点となる。本項では、比較的多く出土した石核に認められる素材のあり方と剥片剥離の過程についてまとめておきたい。

本遺跡の石核はチャートと下呂石を主体とする。チャート製石核の素材には①自然礫、②自然面を残すブロック状の打割礫、③剥片が認められた。チャート原石の自然礫は垂円礫が用いられ、大形と小形のものがあり、小形原石はそのまま石核としている。剥片類にも自然面を残すものが多い。

下呂石製石核は自然面を残すものが少なく、下呂石製剥片類も同様であった。そのため原石が角礫を主体とすることは窺えたが、その大きさや形状は不明で、原石からの①・②工程は掴めない。下呂石を用いた剥片剥離には、全面剥離の立方体を呈する石核が剥片剥離の進行によつて小形化する過程が認められたほかに、③剥片素材の石核がある。

剥片剥離の過程は大きく4つに分けられる。A類は一方向からの剥片剥離が見られるもので、同一打面の剥片剥離が両面に認められるものもある。B類は二～三方向からの剥片剥離が見られるもので、各面を回転して打面転位を繰り返している。C類は四方向以上の打面転位が繰り返されたもので、各面が剥片剥離され立方体を呈するものもある。D類は小形で残核に近いクサビ状のもので、両極打法による剥片剥離であるためクサビ形石器との区別が難しい。素材は③を主体とする。

なお、クサビ形石器にも剥片剥離が上下と両側縁に加えられたものが見られた。こうしたクサビ形石器に認められる90°の剥離方向転位は、石核B・C類の打面転位と共通する剥離技術を持っていることを指摘しておきたい。

第3節 自然科学分析についての考察

発掘調査時から、将来の自然科学分析が行われることを予測して、埋甕中の土壌全てを保存し、また調査中出土の炭化種実については、破損、散逸させることなく保管しており、今回の報告書作成に加える形で自然科学分析が可能となった。分析はパリノ・サーヴェイ社に依頼し、分析報告を第4章として掲載している。ここではその報告をもとに調査時の所見および考古学的成果をとり入れる形で考察を行いたい。なお土壌分析、特に土壌の洗い出しによる微細遺物の検証は見逃され易い多くの考古学的成果が内包されていることを改めて認識させられたところである。

埋甕中出土の炭化種実

中期後葉に属す1号住の埋甕2個体(埋甕a、埋甕b)に詰まっていた土壌について、洗い出しを行い炭化物を摘出し、種実類について同定を行った。

埋甕a中からはトチノキの種皮破片589片、子葉(実)破片221片がカウントされた。埋甕b中からはトチノキの種皮破片300片、子葉(実)破片103片がカウントされた。その他極く少量のオニグルミ、ミズキ、タデ属、マメ科の種実が出土しているが意図的なまとまりをもったものとはいえない。それに比べ、トチノキの種実の出土量は何等かの目的をもったまとまりとして捉えることができよう。その場合、種皮と子葉(実)の比率が埋甕a、bの双方いずれも3:1の割合となっており、このことは種皮のついた状態で2基の埋甕内の内容物は同じように炭化(燃焼)したことを示しているものと考えられる。

問題となるのはこのような住居内埋甕2基の埋甕中より大量なトチノキの炭化種実が出土したというあり方であり、埋甕2基は同時存在も推定されることとなる。これまで学史的に胎盤、ヘソの緒などの収納という出産儀礼などの用途が推測されていた中期後葉住居内埋甕に対して、全く新たな知見を与えるものとなり、埋甕の用途に一考を促すこととなった。さらに炭化の原因について、種実食用の方途の一つとしての加熱処理に求めるか、あるいは住居の火災による炭化を想定するとすれば埋甕内にトチノキの種実が貯蔵されていた可能性が出てこよう。なお炭化の問題については次の土坑中出土例とも合わせて検討されねばならない。

土坑中出土の炭化種実

調査時において土坑中の覆土に含まれる炭化種実はある範囲で摘出し、取り出しを行った。ただし篩がけ、洗い出しなどの作業は行っていないため土坑内に含まれていた炭化種実の一部として捉えねばならない。したがって以下に取りあげる出土点数の多い7基の土坑では採集量の数倍あるいはそれ以上の内包量であった可能性が高い。

今回の同定結果から出土量の多い以下の7基の土坑についてまとめておきたい。

後期前葉(堀之内式並行期)51号土坑(ドングリ類を主体とし、オニグルミ中量、トチノキ中量、クリ中量)。

後期前葉(堀之内式並行期)7号土坑(オニグルミ主体、クリ少量)。

後期前葉(堀之内式並行期)40号土坑(オニグルミ主体、トチノキ少量)。

時期不明(後期の可能性大)72号土坑(トチノキ主体、オニグルミ少量、ドングリ少量、クリ少量)。

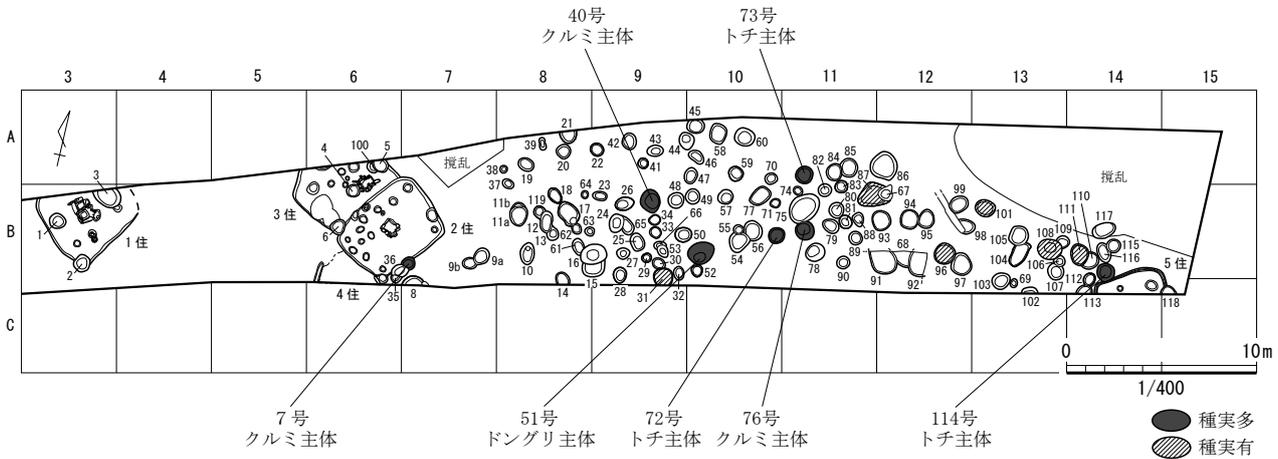
後期中葉(加曽利B1式並行期)73号土坑(トチノキ主体、オニグルミ中量、クリ少量)。

時期不明(後期の可能性大)76号土坑(オニグルミ主体、トチノキ中量、クリ少量)。

後期前葉（堀之内式並行期）114号土坑（トチノキ主体、オニグルミ少量、クヌギ少量）。

上記7基の土坑は全て後期前～中葉に属するものと考えられ、土坑の直径は80cmを超え、深さも50cm以上を測る大形の土坑が多い。7基の分布状態は、土坑群中央付近に5基があり、土坑群の西端と東端に各1基という分布を示すが、7基に次ぐ炭化種実類の出土が見られる31号、87号、96号、101号、108号、111号の6基を加えると、土坑群分布範囲のほぼ全域に広がる状況を示し弧状列を形成している土坑の分布と重なる点を注目したい。

7基の土坑では、トチノキ主体が3基、オニグルミ主体が3基、ドングリ類主体ほか各種が混じるものが1基、というように主体種実が異なっていることが注意される。また全てが炭化していることから燃焼後に土坑中に廃棄された可能性があり、土坑の性格を考えるうえでの注意点となるが、前述のように住居内埋甕内からのまとまった出土があることも考慮しなければならない。種実類が炭化する原因については、推定の域を出ないが、火熱による調理法によって炭化し過ぎてしまったものではないかと考えておきたい。



第59図 炭化種実出土の土坑分布図（後期前～中葉）

放射性炭素年代測定

1号住居に伴う埋甕 a、b 中の土壌洗い出しによりまとまった炭化種実が検出されたことは前述のとおりであり、住居使用時に伴う資料として炭化トチノキ種実3個を選び年代測定を行った。

結果として3点の測定年代を補正した数値をもって、埋甕 a の2点はBP 4,120 ± 30年の同数値が与えられ、埋甕 b の1点はBP 4,150 ± 30年であった。この3点は極めて近い年代を示しており、また2個体の土器の型式も同一型式であることをふまえ、串田新I式－曾利III式期の年代を示す良好な事例となるものといえる。

なお調査所見によると2基の埋甕の新旧関係は a が古く b が新しいとされるが、この2個体は重複（切り合い）関係にはないため、年代測定結果を重視すれば前後関係が逆転することも考えねばならないであろう。

次に3点の暦年較正結果では cal BP 4,817～4,571年と250年近い年代幅をもっており、かつ補正数値よりも最大630～727年古い年代となるものである。日本の先史考古学における¹⁴C年代の適用に関しては以前にも述べたことがあるが、年代幅の振れが大きい暦年較正值との混用を避け、現在のところは、補正年代値によって蓄積データの整合性を計ることが必要であろうと考えている。

（戸田 哲也・中山 豊）

引用・参考文献

- 『姉小路と廣瀬』出版事務局編 2011『応永飛驒の乱600年記念誌 姉小路と廣瀬』姉小路家・廣瀬家特別事業実行委員会
- 尾野善裕 1997 a 「猿投窯と西三河の窯跡」『第1回三河考古合同研究会 須恵器から灰釉陶器へー生産地から消費地からー』三河考古刊行会
- 尾野善裕 1997 b 「V尾張・三河・遠江・美濃 尾張・三河・美濃（消費遺跡）」『古代の土器5-17世紀の土器（近畿東部・東海編）』古代の土器研究会
- 尾野善裕 2009 「猿投窯系須恵器・灰釉陶器の編年と問題点」『古代の相模を考える会・東海土器研究会合同研究会資料』古代の相模を考える会・東海土器研究会
- 河合村 1990『河合村誌 通史編全』
- 河合村教育委員会 1971『下小鳥ダム関係埋蔵文化財調査報告書』
- 河合村教育委員会 1987『下田遺跡』
- 岐阜県教育委員会 1990『岐阜県遺跡地図』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』
- 杉崎廃寺跡発掘調査団編 1998『古川町埋蔵文化財調査報告第5集 岐阜県吉城郡古川町 杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 戸田哲也 1993「飛驒を中心とした縄文後期前半土器の様相」『先史考古学研究』第4号 阿佐ヶ谷先史考古学研究会
- 中野山越遺跡発掘調査団編 1993『古川町埋蔵文化財調査報告第3集 中野山越遺跡発掘調査報告書』岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 野沢 保・河田清雄・河合正虎 1975『飛驒古川地域の地質 地域地質研究報告（5万分の1図幅）』飛驒市教育委員会 2013『大明神遺跡』飛驒市文化財調査報告書第7集

第2表 竪穴住居跡一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			周溝	炉	柱穴	埋甕	時代	重複関係 (旧→新)	備考
					上端		壁高							
					長軸	短軸								
S I	1	B-3・4	地山	隅丸方形	-	-	最大0.35	(無)	石囲炉	(2)	(2)		本址→SK1~3	北西側は調査区外
S I	2	B-6・7	地山	隅丸方形	4.50~5.20	3.60~3.95	0.15~0.35	無	石囲炉	15	1		S I 3・4→本址	
S I	3	A・B-5・6	地山	隅丸方形	4.70(南北)	-	最大0.15	(無)	石囲炉	(4)	-		本址→S I 2→SK5・6→SK100	北側は調査区外
S I	4	B・C-6	地山	不明	-	-	-	一部	(石囲炉)	-	-		本址→S I 2→SK7・8・35→SK36	南側は調査区外・周溝と床面の一部を確認
S I	5	B・C-14・15	地山	隅丸方形	3.80(東西)	-	0.27~0.37	(全周)	-	(1)	-		本址→SK114・118	南側は調査区外

第3表 1号住居跡に伴う遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			備考
					上端		深さ	
					長軸	短軸		
炉跡	a	B-3・4	地山	方形	0.95	0.65	0.2	炉a(本址)→b 囲石の抜き取り痕跡あり
炉跡	b	B-3・4	地山	方形	1.05	0.8	0.3	炉p a→b(本址)
埋甕	a	B-3・4	地山	円形	0.5	0.45	0.4	埋甕a(本址)→b
埋甕	b	B-3・4	地山	円形	0.32	0.3	0.32	埋甕a→b(本址)
P	1	B-3・4	地山	円形	0.45	0.4	0.29	主柱穴か
P	2	B-3・4	地山	円形	0.4	0.35	0.37	主柱穴か

第4表 2号住居跡に伴う遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			備考
					上端		深さ	
					長軸	短軸		
炉跡		A・B-6・7	地山	方形	0.85	0.85	0.2	
埋甕		A・B-6・7	地山	楕円形	0.45	0.35	0.28	
P	1	A・B-6・7	地山	円形	0.5	0.45	0.26	主柱穴か
P	2	A・B-6・7	地山	楕円形	0.75	0.55	0.36	
P	3	A・B-6・7	地山	円形	0.35	0.35	0.32	主柱穴か
P	4	A・B-6・7	地山	円形	0.35	0.3	0.25	主柱穴か
P	5	A・B-6・7	地山	円形	0.42	0.32	0.22	
P	6	A・B-6・7	地山	楕円形	0.48	0.35	0.07	
P	7	A・B-6・7	地山	円形	0.3	0.27	0.27	主柱穴か
P	8	A・B-6・7	地山	円形	0.35	0.3	0.1	
P	9	A・B-6・7	地山	楕円形	0.4	0.32	0.16	
P	10	A・B-6・7	地山	楕円形	0.45	0.32	0.15	
P	11	A・B-6・7	地山	楕円形	0.55	0.35	0.16	
P	12	A・B-6・7	地山	楕円形	0.5	0.43	0.25	
P	13	A・B-6・7	地山	円形	0.4	0.38	0.16	
P	14	A・B-6・7	地山	円形	0.25	0.21	0.42	
P	15	A・B-6・7	地山	円形	0.47	0.42	0.14	

第5表 3号住居跡に伴う遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			備考
					上端		深さ	
					長軸	短軸		
炉跡		A・B-5・6	地山	長方形	1.1	0.85	0.4	
P	1	A・B-5・6	地山	円形	0.7	0.6	0.67	主柱穴か
P	2	A・B-5・6	地山	円形	0.37	0.35	0.26	
P	3	A・B-5・6	地山	(円形)	(0.78)	(0.16)	(0.19)	
P	4	A・B-5・6	地山	円形	0.33	0.28	0.31	
P	5	A・B-5・6	地山	円形	0.23	0.2	0.17	
P	6	A・B-5・6	地山	円形	0.39	0.37	0.17	
P	7	A・B-5・6	地山	円形	0.59	(0.45)	0.33	

第6表 4号住居跡に伴う遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			備考
					上端		深さ	
					長軸	短軸		
炉跡		B・C-6	地山	(方形)	0.6	0.55	0.25	
周溝		B・C-6	地山		1.1	0.25	0.15	

第7表 5号住居跡に伴う遺構一覧表

遺構種別	遺構番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規模 (m)			備考
					上端		深さ	
					長軸	短軸		
周溝		B・C-14・15	地山	-	幅0.15~0.2		0.1	
P	1	B・C-14・15	地山	円形	0.3	0.3	0.3	
P	2	B・C-14・15	地山	楕円形	0.65	0.53	0.16	

第8表 土坑計測表

遺構 種別	遺構 番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規 模 (cm)			重複関係 (旧→新)	時 期	土器片数 (掲載数)	備 考
					上 端		深 さ				
					長 軸	短 軸					
SK	1	B-3	SI1覆土内	楕円形	87	79	47	SI1→本址	中期後半	13(2)	
SK	2	B-3	SI1覆土内	楕円形	89	82	64	SI1→本址	後期前葉	14(2)	条痕文破片1点あり
SK	3	B-3・4	SI1覆土内	(楕円形)	155(検出長)	111	56	SI1→本址	中期後半	23(1)	北西側は調査区外
SK	4	B-6	SI3覆土内	略円形	76	-	40	SI3→本址	後期後半～晚期 (条痕)	36(2)	抽出土器に10号土坑 と接合あり
SK	5	A-6	SI3覆土内	楕円形	84(検出長)	70	27	SI3→SK100→ 本址	不明	18	
SK	6	B-6	SI2・3覆 土内	不整円形	80	73	56	SI3→SI2→ 本址	後期前葉?	8(1)	
SK	7	B-7	SI2覆土 内・地山	(楕円形)	73(検出長)	65	40	SI2→本址→S K36	後期前葉 (堀之 内式)	14(2)	
SK	8	C-7	地山	(楕円形または 略円形)	-	-	22		後期前葉?	13(1)	
SK	9a	B-7	地山	楕円形	96	77	19	SK9b→本址	不明	5	
SK	9b	B-7	地山	(楕円形)	74	61	16	本址→SK9a			
SK	10	B-8	地山	楕円形	117	74	23	本址→ピット	晩期初頭	20(1)	抽出土器に4号土坑 と接合あり
SK	11a	B-8	地山	楕円形	122	96	25	SK11b→本址	不明	1	
SK	11b	B-8	地山	不明	-	-	17	本址→SK11a			
SK	12	B-8	地山	楕円形	115	65	34	SK13・119→本址	後期末～晚期	13(9)	
SK	13	B-8	地山	(楕円形)	77(検出長)	60	24	本址→SK12	不明	0	
SK	14	B・C-8	地山	(楕円形)	85(検出長)	70	18		後期末～晚期	9(1)	南側は調査区外
SK	15	B-8・9	地山	(隅丸方形)	117(東西)	-	50	本址→SK16	不明	2	
SK	16	B-8・9	地山	楕円形	141	106	66	SK15・61→本址	晩期前半	150(3)	土器は後期末から含 まれる
SK	17	B-8	地山	楕円形	133	93	23	本址→ピット	後期?	19	
SK	18	B-8	地山	楕円形	88	60	21		後期?	8	
SK	19	A-8	地山	楕円形	85	68	55		後期前葉	5(1)	
SK	20	A-8	地山	略円形	73	-	31		後期	41(2)	条痕文破片1点あり
SK	21	A-8	地山	(楕円形または 略円形)	90(東西)	-	20		後期前葉	14	北側は調査区外
SK	22	A-8・9	地山	楕円形	71	64	21		後期前葉	1	
SK	23	B-9	地山	楕円形	77	50	35		不明	0	
SK	24	B-9	地山	楕円形	99	74	49	SK65→本址	後期前葉	32(1)	
SK	25	B-9	地山	楕円形	96	71	15		不明	0	
SK	26	B-9	地山	楕円形	102	67	26		後期	1(1)	
SK	27	B-9	地山	楕円形	69	61	40		後期前葉	10(1)	
SK	28	B・C-9	地山	楕円形	83	68	18		後期前葉	6(1)	
SK	29	B-9	地山	略円形	48	-	27		後期	5	
SK	30	B-9	地山	(楕円形)	71	57	34	本址→SK31	後期	11(2)	
SK	31	B・C-9	地山	(略円形)	100	-	74	SK30→本址	後期中葉以降	44	南側は調査区外
SK	32	B・C-9	地山	楕円形	72	53	32		後期前葉	20(1)	
SK	33	B-9	地山	楕円形	62	57	42		中期後葉	19(2)	
SK	34	B-9	地山	楕円形	62	54	34		中期後葉	6(1)	
SK	35	C-6	地山	(隅丸方形)	50	-	20	本址→SK36			
SK	36	B・C-6・7	SI2覆土 内・地山	楕円形	90	72	47	SK35→本址			
SK	37	A・B-8	地山	楕円形	64	46	32				
SK	38	A-8	地山	略円形	40	-	15				
SK	39	A-8	地山	不整楕円形	65	27~35	19				
SK	40	B-9	地山	楕円形	125	103	44		後期前葉	31(2)	
SK	41	A-9	地山	略円形	54	-	27		後期	14(2)	
SK	42	A-9	地山	楕円形	89	74	30		不明	0	
SK	43	A-9	地山	楕円形	85	61	32		不明	0	
SK	44	A-9・10	地山	楕円形	93	81	44		晩期前葉	10(1)	
SK	45	A-9・10	地山	(楕円形)	92	82	35		後期前葉～後葉	19(2)	北側は調査区外
SK	46	A-10	地山	不整楕円形	92	57	31		後期?	8	
SK	47	A-9・10	地山	楕円形	85	67	36		中期後葉	6(1)	
SK	48	B-9	地山	楕円形	86	79	33		後期	3	
SK	49	B-9・10	地山	略円形	77	-	51		中期後葉(串田 新式)	7(1)	
SK	50	B-9・10	地山	楕円形	87	76	24		後期前葉	7	
SK	51	B-10	地山	楕円形	138	112	61		後期前葉	35(2)	
SK	52	B-10	地山	略円形	60	-	23		後期前葉	7(1)	
SK	53	B-9	地山	楕円形	71	53	33	SK66→本址	後期前葉	13(1)	
SK	54	B-10	地山	楕円形	111	96	42	SK56→本址→S K55	中期後葉	6(1)	
SK	55	B-10	地山	略円形	53	-	12	SK56→SK54→ 本址	中期後葉	2	
SK	56	B-10	地山	(楕円形)	107	95	39	本址→SK54→S K55	不明	1	
SK	57	B-10	地山	楕円形	82	75	62		中期後葉	3	

遺構 種別	遺構 番号	グリッド	検出面	平面形状 ()は推定	規 模 (cm)			重複関係 (旧→新)	時 期	土器片数 (掲載数)	備 考
					上 端		深 さ				
					長 軸	短 軸					
S K	58	A-10	地山	楕円形	107	88	36		中期後葉	5(1)	
S K	59	A-10	地山	略円形	75	-	24		後期前葉	1	
S K	60	A-10	地山	楕円形	106	94	37		不明	0	
S K	61	B-8	地山	(楕円形)	90	60	23				
S K	62	B-8	地山	(楕円形)	60前後	49	14				
S K	63	B-8・9	地山	略円形	50	-	30				
S K	64	B-8	地山	略円形	40	-	17				
S K	65	B-9	地山	(楕円形)	110(検出長)	64	15				
S K	66	B-9	地山	(楕円形)	65	42	10	本址→S K53			
S K	67	A・B-12	地山	不整形	89	76	38	S K87→本址			
S K	68	B-12	地山	不明	-	-	8	本址→S K91・92			
S K	69	C-13	地山	楕円形	47	37	22				
S K	70	A・B-10	地山	楕円形	63	57	49		不明	0	
S K	71	B-10	地山	略円形	50	-	21		不明	0	
S K	72	B-10・11	地山	略円形	85	-	52		不明	0	
S K	73	A-11	地山	略円形	88	-	55		後期中葉	8(1)	加曾利B1式あり
S K	74	B-11	地山	楕円形	52	42	19		不明	0	
S K	75	B-11	地山	楕円形	179	137	40	本址→S K76	後期前葉	17(2)	
S K	76	B-11	地山	略円形	97	-	40	S K75→本址	後期中葉～	7(1)	
S K	77	B-10	地山	隅丸長方形	113	81	25		不明	1	
S K	78	B-11	地山	楕円形	103	92	24		不明	0	
S K	79	B-11	地山	楕円形	92	68	34		後期?	7	
S K	80	B-11	地山	略円形	78	-	35		後期?	4	
S K	81	B-11	地山	楕円形	72	65	41		後期前葉	23(3)	
S K	82	B-11	地山	略円形	67	-	16		不明	0	
S K	83	A・B-11	地山	略円形	65	-	13		後期中葉	6(1)	加曾利B1式あり
S K	84	A-11	地山	楕円形	91	81	50	S K85→本址	中期後葉	13	
S K	85	A-11	地山	(略円形)	97	-	47	本址→S K84	後期後葉	24(2)	
S K	86	A-11・12	地山	略円形	143	-	54		加曾利B1式	38(3)	
S K	87	A・B-11・12	地山	(略台形)	167	127	27	本址→S K67	後期前～中葉	88(5)	加曾利B1式あり
S K	88	B-11	地山	略台形	73	57	31		不明	1	
S K	89	B-11	地山	楕円形	72	67	15		不明	1	
S K	90	B-11	地山	略円形	66	-	32		後期?	4	
S K	91	B-11・12	地山	(楕円形)	132(東西)	-	43	S K68→本址	後期	59(3)	
S K	92	B-12	地山	(楕円形)	-	-	35	S K68→本址	後期前葉	60(3)	
S K	93	B-11・12	地山	楕円形	106	94	44		後期前葉	27(1)	
S K	94	B-12	地山	略円形	100	-	49	S K95→本址	後期前葉	26(1)	
S K	95	B-12	地山	楕円形	100	83	55	本址→S K94	後期前葉	39(3)	
S K	96	B-12	地山	略円形	110	-	57	S K97→本址	後期前葉(堀之内式)	81(3)	
S K	97	B-12	地山	楕円形	117	110	48	本址→S K96	不明	0	
S K	98	B-12・13	地山	(楕円形)	100前後	77	30		後期前葉	14(1)	
S K	99	B-12	地山	楕円形	102	83	23		後期前葉	8(1)	
S K	100	A-6	S I 3 覆土内	(略円形又は楕円形)	-	-	20		不明	0	
S K	101	B-13	地山	楕円形	103	90	40		後期前葉	21(2)	
S K	102	C-13	地山	(略円形又は楕円形)	87(東西)	-	55		不明	2	
S K	103	B・C-13	地山	楕円形	94	83	39		後期前葉	12	
S K	104	B-13	地山	(楕円形)	144	77	25	本址→S K105	後期前葉	16	
S K	105	B-13	地山	楕円形	106	96	56	S K104→本址	後期前葉	24(2)	
S K	106	B-13	地山	(略円形)	55	-	32	S K107→本址→S K108	後期前葉	4(2)	
S K	107	B・C-13	地山	楕円形	90	83	32	本址→S K106	後期前葉	37(2)	
S K	108	B-13	地山	楕円形	128	107	59	S K106・109→本址	後期?	1	
S K	109	B-13・14	地山	(略円形)	65	-	45	本址→S K108	後期?	7	
S K	110	B-14	地山	(楕円形)	100前後	90	25	本址→S K111	不明	0	
S K	111	B-14	地山	楕円形	116	97	58	S K110→本址	後期前葉	77(1)	
S K	112	B・C-14	地山	楕円形	70前後	58	16	本址→S K113	後期?	2	
S K	113	C-14	地山	(略円形又は楕円形)	83(東西)	-	31	S K112→本址	中期後葉	10	南側は調査区外
S K	114	B・C-14	地山	略円形	87	-	67	S I 5→本址	後期前葉	38(1)	
S K	115	B-14	地山	略円形	72	-	32	S K116→本址	不明	2	
S K	116	B-14	地山	楕円形	108	66	34	本址→S K115	中期後葉	13	
S K	117	B-14	地山	(楕円形)	127(東西)	-	54		後期前葉?	7	北西側は攪乱
S K	118	C-14・15	地山	(楕円形又は略円形)	89(東西)	-	64	S I 5→本址	中期後葉	6(2)	南側は調査区外
S K	119	B-8	地山	(略円形)	60	-	18	本址→S K12	後期前葉	12(1)	

第9表 1号住居跡出土土器観察表(第8~11図、図版11~14)

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	口縁~胴部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗黄褐	口径(28.0)cm、器高34.7cm。波状口縁頂部に小突起。口縁内面に幅広い浅い沈線1条。口縁部と胴部に沈線区画された微隆帯による大振りな山形・X字状文と粗い縦位沈線充填。口縁部・胴部区画に縦位短沈線と長円文。	
2	深鉢	略完形	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗褐	口径(27.2)cm、底径(29.4)cm、器高13.4cm。底部穿孔。上端に縦位の粗い刻み目。以下縦位~斜位の縄文RLを地文。太く浅い沈線による工字状文4単位。工字状文間に縦位の短沈線。内面上端に微隆帯状の段差と4単位の微隆線加飾。	埋堯a。
3	深鉢	略完形	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	口径(24.0)cm、器高24.8cm。底部切断。4単位の波状口縁。縦位~斜位の縄文RLを地文。上端は横位沈線で画された縄文RL施文の隆帯。隆帯下に沈線による2個1対の長円文、以下長円文や崩れた工字状文・不規則な沈線文。	埋堯b。
4	深鉢	略完形	砂粒少量、白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	口径(22.6)cm、器高22.8cm。底面切断?上端に縦位の粗い刻み目。以下縦位の縄文RLを地文。縦位の短沈線列、沈線による長円文が6単位。	炉跡b内。
5	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	橙褐	口唇は角頭。沈線による横位・斜位・方形状の区画。歯状工具による縦位緻密な連続刺突文を地文。横位刺突文。	
6	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	沈線による工字状文。工字状文間に縦位の貼付微隆線。	
7	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗橙褐	口唇断面三角形・内側に張り出し。内面に横位貼付微隆線。外面は沈線による長円文あるいは工字状文。	
8	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄灰褐	口唇断面三角形・内外に張り出し。内面に横位貼付微隆線。外面は沈線による長円文あるいは工字状文・縦位の短沈線。	
9	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量。	橙褐	斜位の縄文RLを地文とし、太い沈線による工字状文間に縦位の短沈線。	
10	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子、砂粒少量。	暗灰褐	内面上位に横位の貼付微隆線、縦位の短微隆線。外面上端に縦位短沈線による刻み目、以下斜位の縄文RLを地文とし、沈線による2段の長円文、長円文間に縦位の短沈線。	
11	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	横位貼付隆帯の上位に縦位の太い密接沈線、下位に縦位の縄文RLを地文とした沈線による長円文。	12と同一個体。
12	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	縦位の縄文RLを地文。沈線による長円文。	11と同一個体。
13	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐・灰褐	縁帯状の無文口縁。斜位の縄文RL。	
14	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子微量。	黒褐	上端幅狭の無文帯。縦位の縄文RL。	
15	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	斜位ないし縦位の縄文RLを地文。両側沈線施文の縦位貼付隆線。縦位の波状沈線。	
16	深鉢	口縁~胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐・暗黄褐	口径(39.2)cm、器高35.5cm。口縁部は沈線による長円文・小円文。刺突充填の横位貼付隆線2条。胴部は沈線によるハの字文、刺突充填の縦位貼付隆線2条。	炉跡b内。
17	深鉢	口縁~胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	口径(32.2)cm、器高11.0cm。上端無文帯に部分的な沈線文。以下貼付隆線による長円状区画内に縦位沈線充填。刻み目のある縦位貼付文。	
18	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	暗褐	太い貼付隆線による渦巻文。	
19	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	縄文LRを地文。太い沈線区画。	
20	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	横位の縄文LRを地文。半截竹管による横位沈線・曲線文。	
21	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	黄褐	沈線による縦位の方形区画。	
22	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	暗褐	縦位・横位沈線。縄文RL。	
23	深鉢	胴部	白色・乳白色・橙色粒子多量。	明黄褐	横位・縦位・斜位の粗い密接沈線。	
24	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	暗褐	1条の横位貼付隆線。縦位の粗い密接沈線。	
25	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	暗黄褐	縦位・斜位の縄文RLを地文。2条一単位の縦位沈線。	
26	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か、砂粒少量。	暗褐	縦位の縄文RLを地文。2条一単位の縦位沈線。	
27	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か、砂粒少量。	明黄褐	斜位の縄文RLを地文。3条一単位の縦位沈線。	
28	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	斜位ないし縦位の縄文RLを地文。両側沈線施文の縦位貼付隆線。縦位の波状沈線。	29と同一個体。
29	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	斜位ないし縦位の縄文RLを地文。両側沈線施文の縦位貼付隆線。縦位の波状沈線。	28と同一個体。
30	深鉢	底部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	暗橙	底径10.5cm、器高4.5cm。胴部外面に縦位の歯状工具による条線文。底面に網代痕。	
31	深鉢	底部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	橙灰褐	底径(10.5)cm、器高1.3cm。胴部外面に縦位の歯状工具による条線文。底面に網代痕。	
32	深鉢	底部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子ごく僅か。	暗黄褐	底径(8.5)cm。胴部外面に斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
33	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	底面に網代痕。	

第10表 2号住居跡出土土器観察表(第14~18図、図版15~19)

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	口縁~胴部	各色粒子微量。	暗褐	口径(16.9)cm、器高6.0cm。2~4条一単位の横位沈線に細かい縦位の刺突文。内面に3条一単位の横位沈線の端部に貼付文と刺突。	
2	深鉢	口縁~胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐・灰褐	口径(21.7)cm、器高8.1cm。上端屈折・内湾。屈折面直下に縄文RLを地文とした横位・弧状沈線による磨消縄文。	
3	注口土器	口縁~胴部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	口径(9.1)cm、器高8.7cm。注口は直立。口縁部に突起・橋状把手。口唇部に刻み目。胴部上半に縄文LRを地文とし(部分的に擦れて不明瞭)、密接刺突が施された低い貼付隆帯による4単位区画。	
4	深鉢	胴部~底部	白色・乳白色粒子・砂粒多量。	暗橙褐	底径12.4cm、器高27.8cm。底部穿孔。斜位・縦位の異なる方向の縄文RL。底面に網代痕。	埋堯。
5	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	黄褐	波状口縁。縁帯に太い沈線による重弧文。	
6	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黄褐	波状口縁。縁帯に沈線による横位長円・重弧文。	
7	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	縁帯に横位長円状・縦位沈線、以下斜位沈線。	
8	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	縁帯の上下端に粗い斜位の刻み目、2条の横位平行沈線。	
9	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	乳灰	波状口縁。低く幅広い縁帯に太い沈線による重円文。	
10	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	口唇欠損。縁帯に貼付隆線による渦巻文。以下2条の縦位貼付隆線。	
11	深鉢	口縁部	各色粒子微量。	黄褐色	縁帯に3条の弧線文。胴部に縄文LR。	
12	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	橙褐	上端にS字状小突起。内面・外面に小突起と連結する弧状・円形沈線、貼付隆線、刺突。外面上端に横位沈線文帯。以下縦位の縄文RL。	13と同一個体。

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
13	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	橙褐	S字状の小突起。内面・外面に小突起と連結する弧状・円形沈線、貼付隆線、刺突。	
14	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗褐	湾曲・内湾。上位湾曲部に縄文RLを地文とし、粗い横位沈線・渦巻文。	
15	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	暗橙褐	上端屈折・内湾。屈折面に1条の横位沈線。以下条端に8の字状刺突がある縦位の細い貼付微隆線。	16と同一個体。
16	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	橙褐	上端屈折・内湾。屈折面に1条の横位沈線。	15と同一個体。
17	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	縁带状の波状口縁。屈折面に2条の太い沈線。	
18	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	口唇欠損。縁带状に屈折。屈折面に2条の太い横位平行沈線。	19と同一個体。
19	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	口唇欠損。縁带状に屈折。屈折面に2条の太い横位平行沈線。	18と同一個体。
20	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	暗黄褐	波状口縁。くの字状に屈折・内湾。上面に縄文RL施文の貼付隆線による弧線入り組みの渦巻文。	21・22と同一個体。
21	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗黄褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。貼付隆線による弧線入り組みの渦巻文。	20・22と同一個体。
22	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	暗黄褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。貼付隆線による弧線入り組みの渦巻文。	20・21と同一個体。
23	深鉢	口縁部	良好。径2mm以下の白色粒子少量。	黄褐	貼付隆線による渦巻文。	
24	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	暗橙褐	屈折・内湾。屈折面に弧状の細い貼付微隆線、8の字状の貼付文。	
25	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	屈折・内湾。口唇上面に縄文RL。屈折面に縦位貼付隆線、下端に斜位の縄文RLが施された1条の横位貼付隆線。以下縦位ないし斜位の縄文RL。	
26	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	暗橙褐	波状口縁。屈折・内湾。頂部屈折面に逆S字状の貼付隆線。以下縦位の縄文RL。	
27	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	黄灰褐	波状口縁。くの字状に屈折・内湾。屈折面の上・下端に刺突のある縦位貼付隆線、両側に細い貼付微隆線による弧文。以下縦位の貼付微隆線。	
28	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	橙褐	波状口縁。くの字状に屈折・内湾。屈折面上端の横位沈線と連結する渦巻文、刺突。以下縦位の細い貼付微隆線。	
29	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	黄褐	波状口縁。くの字状に屈折・内湾。屈折面頂部に8の字状刺突、下端に刺突のある縦位の貼付隆線、両側に沈線による重弧文。	
30	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に沈線が施される貼付隆線による三角形区画、以下細い貼付微隆線によるS字状文。	
31	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	乳灰褐	屈折・内湾。屈折面上端に渦巻沈線・S字状隆線のある突起、両側に沈線・貼付隆線・円形刺突。突起直下に1条の縦位貼付微隆線。	
32	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	小環状把手がある半捻転・両端渦巻の縦位S字状突起。両側に密接沈線・貼付隆線。	
33	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗橙褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に貼付微隆線区画・斜位の集合沈線充填。以下直曲状の貼付隆起線。	34と同一個体。
34	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に斜位の集合沈線。以下貼付隆線、連続刺突、沈線。	34と同一個体。
35	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に貼付微隆線区画・斜位の集合沈線充填。以下沈線区画・集合沈線充填。	
36	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に沈線による幾何学文、矢羽根状列点の充填。以下横位沈線、列点の充填。	
37	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗褐	口唇欠損。くの字状に屈折・内湾。屈折面に2条の横位平行沈線、刺突のある貼付文。	
38	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗灰褐	波状口縁。上端欠損・屈折。重弧・平行・縦位の貼付隆線。	
39	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	口唇は角頭。上端に2条の横位貼付微隆線、8の字状貼付文。	
40	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	波状口縁。細い貼付微隆線によるS字状文。	
41	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	暗黄灰褐	屈折・内湾。屈折面に円形刺突のある横位貼付微隆線。	
42	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	細い貼付隆線による渦巻文・平行隆線。	
43	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	3条の細い横位貼付微隆線。	44と同一個体。
44	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	3条の細い横位貼付微隆線。	43と同一個体。
45	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	黒褐	縄文RLを地文とし、縦位の細い貼付微隆線。	包37と同一個体。
46	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗黄褐	2条の細い横位貼付微隆線間に刺突文充填、以下縦位ないし斜位の縄文RL。	
47	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	貼付隆線・沈線区画による縄文RLの磨消縄文。	
48	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	細い貼付隆線による縦位の重弧文。	
49	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	縦位・横位の微隆線。	
50	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	波状口縁。内面に口唇端から連続する貼付隆線による渦巻文。外面上端は屈折・内湾、以下斜位の縄文RL。浅鉢の可能性あり。	
51	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	明黄褐	波状口縁。頂部に上端S字文のある突起、以下刺突と沈線施文の橋状把手・小突起。口縁上端に小刺突、以下横位・斜位の2条一単位の平行沈線。	
52	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	灰褐	口縁上端に幅広の環状把手。	
53	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	黄褐	3条一単位の沈線によるS字状の渦巻文。	
54	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	黄灰褐	細い沈線による重門文。	
55	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黄褐	沈線による直線・曲線文、充填刺突。	
56	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量、砂粒微量。	暗黄褐	沈線による縦位・横位の長楕円・区画沈線、充填刺突。	
57	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量。	極暗褐	縄文LRによるJ字状の磨消縄文。	
58	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	直・曲沈線区画による縄文LRの磨消縄文、列点。	
59	深鉢	胴部	白色・乳白色・橙褐色粒子少量。	明黄褐	内面に縄文RLの磨消縄文。外面に沈線・斜位の列点充填、以下斜位・異方向の縄文RL。	
60	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	黄橙褐	粗い刻み目のある1条の横位貼付隆線。以下斜位の縄文RL。	
61	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	2条の細い縦位貼付微隆線間に矢羽根状沈線充填、両側に沈線と縄文RLの磨消縄文。	
62	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	橙褐	上位に孔1個。沈線による横位・三角形区画。下位に斜位の縄文RLによる磨消縄文。	
63	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	沈線による三角形区画と縄文LRの磨消縄文。	
64	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	口縁部は緩く屈折・内湾。縦位の貼付隆線。屈折部以下に斜位の縄文RLを地文とした横位沈線文帯。	

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	外面	文様構成等	備考
65	深鉢	把手	白色・乳白色粒子少量。	黄褐	上端屈折・内湾。屈折面直下に横位・弧状沈線文。	66と同一個体。
66	深鉢		白色・乳白色粒子少量。	暗褐	口唇欠損。上端屈折・内湾。屈折面直下に横位・弧状沈線文。	65と同一個体。
67	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	暗橙褐	上端屈折・内湾。上端に弧状の貼付小突起。以下横位沈線文帯。小突起下には字状沈線が縦位に施文。	
68	深鉢	口縁部	白色・乳白色・橙色粒子微量。	明黄褐	上端緩く屈折・内湾。内面に横位の貼付微隆線。外面に3条の太い横位沈線、刺突。	
69	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	上端屈折・内湾。屈折面に斜位の縄文RLを地文とし、2条の細い粘土紐が縦位貼付。	
70	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	緩く内湾。口唇上面に斜位の細かい縄文LR。外面上端に円形の貼付文、以下1条の横位沈線、幅狭い斜位の細かい縄文LR。	
71	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	乳灰褐	緩く内湾。複数の横位沈線最上位に列点充填。	
72	深鉢	口縁部	白色物粒子微量。	黄褐	内面に縦位の刻み目を持つ1条の横位貼付文。口唇部斜位の刻み目。横位沈線と縄文RLの磨消縄文。	
73	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	極暗褐	内面に1条の横位沈線。外面に横位の沈線区画による縄文RLの磨消縄文・縦位刺突。	
74	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	暗黄褐	上端外反。縄文RLを地文とした横位沈線による磨消縄文。	
75	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	橙褐	上位に2条の横位平行沈線。	
76	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗灰褐	波状口縁。上端緩く屈折・内湾。口唇部に連結する刻み目のある横位貼付隆線。	
77	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗黄褐	内面上端に3条一単位の横位沈線文。	
78	深鉢	底部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	横位の平行沈線による細かい縄文LRの磨消縄文。	
79	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗灰褐	2条の横位平行沈線。	
80	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	2条の横位平行沈線。	
81	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒微量。	暗褐色・明黄褐	粗い沈線による斜格子目文。	ビット。
82	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	横位の密接沈線。	
83	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	波状口縁。上端に斜位の細かい縄文LRの縄文帯。以下やや粗い縄文LRの弧状磨消縄文。弧状沈線端部に刺突。	
84	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	半円形の沈線区画による縄文LRの磨消縄文。	
85	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	上端に斜位の縄文LR。以下3条の太く浅い横位沈線。	
86	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗灰褐	口唇は角頭。縄文RLを地文とした三叉文、磨消縄文。	
87	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	横位沈線区画内に横長の三角形・弧状沈線を交互に配置。	
88	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	上端幅狭の無文帯。以下斜位の縄文RL。	
89	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	黄橙褐	幅狭の縁帯に斜位の縄文RL、以下縦位の縄文RL。	
90	深鉢	底部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	内面上端に1条の太い横位貼付隆線。外面に斜位の粗い縄文RL。	
91	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	口唇上端に縦位の刻み目。	
92	深鉢	口縁部	良好。径2mm以下の白色・乳白色粒子多量。	黄褐	口唇は外側に張り出す断面三角形。上端に刻み目。	
93	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量、円礫ごく僅か。	暗褐	斜位の縄文RL。	
94	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	縦位の縄文RL。	
95	深鉢	頸部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	縦位の粗い縄文RL。	
96	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量、円礫ごく僅か。	暗褐	縦位あるいは斜位の縄文RL。	
97	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	斜位の縄文RL。	
98	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	橙褐	縦位あるいは斜位の縄文RL。	
99	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	灰褐	縦位の縄文RL。	
100	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子微量、円礫ごく僅か。	暗褐	斜位の縄文RL。	
101	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	縦位あるいは斜位の縄文RL。	
102	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	黄灰褐・暗橙褐	斜位の縄文RL。	
103	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	横位あるいは斜位の縄文LR。	
104	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	上端に横位沈線、以下縄文LR。	
105	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	横位あるいは斜位の縄文LR。	
106	深鉢	底部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	底径(8.6)cm、器高6.5cm。胴部外面に斜位の粗い縄文LR。底面に網代痕。	
107	深鉢	底部	砂粒多量、白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	底径(12.8)cm、器高(1.5)cm。底面に網代痕。	
108	深鉢	底部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	明黄褐	底径(11.1)cm、器高4.6cm。底面に網代痕。	
109	深鉢	底部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗黄褐	底径(10.3)cm、器高1.8cm。胴部外面の上端に縦位の縄文RL。底面に網代痕。	
110	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	黄褐	底径(9.9)cm、器高1.9cm。胴部外面に極めて粗い縦位の縄文RL。底面に網代痕。	
111	深鉢	底部	白色・乳白色粒子微長、砂粒ごく僅か。	暗黄褐	底径(9.3)cm、器高3.8cm。胴部外面の上端に縦位の縄文RL。底面に網代痕。	
112	深鉢	底部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	底径(8.5)cm、器高4.0cm。底面に網代痕。	
113	深鉢	底部	白色・乳白色・橙色粒子多量。	明黄褐	底径(8.6)cm、器高2.4cm。胴部無文。底面中央のごく僅かな窪み部分に網代痕。	
114	深鉢	底部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	底径(10.3)cm、器高2.6cm。胴部無文。底面に網代痕。	
115	深鉢	底部	白色・乳白色粒子・砂粒多量。	暗褐	底径5.6cm、器高1.9cm。胴部無文。底面中央のごく僅かな窪み部分に網代痕。	
116	深鉢	底部	砂粒少量、白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗黄褐	底径(6.4)cm、器高4.3cm。底面に網代痕。	
117	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	明黄褐	底径6.2cm、器高1.4cm。底面に網代痕。	
118	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	底径6.4cm、器高2.3cm。底面に網代痕。	
119	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	底径(6.7)cm、器高2.2cm。胴部無文。底面に僅かな網代痕。	
120	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	底径(6.0)cm、器高2.4cm。底面に網代痕。	
121	深鉢	底部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	底径(7.9)cm、器高4.7cm。胴部無文。底面圧痕なし。	
122	深鉢	底部	白色・乳白色粒子・砂粒多量。	暗黄褐	底径(10.0)cm、器高2.9cm。胴部無文。底面圧痕なし。	

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
123	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量。	橙褐	底径6.7cm、器高3.2cm。上端屈折・内湾。屈折面に1条の横位沈線。	
124	深鉢	底部	白色粒子微量。	暗褐	底径(5.8)cm、器高2.9cm。胴部無文。底面圧痕なし。	
125	深鉢	底部	白色粒子少量。	暗褐	胴部無文。底面圧痕なし。	
126	深鉢	底部	白色・乳白色粒子微量。	黒褐	底面に網代痕。	
127	壺	口縁～胴部	白色・乳白色粒子微量。	乳灰褐	口径(6.0)cm、器高3.4cm。上端強く外反。頸部に横位平行沈線。肩部に隆線状の貼付。	
128	壺	頸部	黒色粒子ごく僅か。	黄暗褐	頸部のくびれ部に1条の太い横位沈線。	
129	注口土器	胴部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	黒褐	橢圓状工具による幾何学文。やや太い沈線区画・横位沈線・連続小弧状沈線。	
130	注口土器	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗橙褐	橢圓状工具による幾何学文。やや太い沈線区画・S字状沈線。	
131	注口土器	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗褐	橢圓状工具による幾何学文、沈線による渦巻文、横位波状沈線。	
132	注口土器	胴部	白色・乳白色粒子微量。	明灰褐	太く浅い横位沈線区画内に縄文LRの磨消縄文。以下無文部を挟み縄文LR。	
133	注口土器	口縁部	白色・乳白色・粒子微量。	暗橙褐	橢圓状工具による曲線・幾何学文。左上端の曲線文は注口接合部分。	
134	注口土器	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	橢圓状工具による横位施文。上端にやや太い沈線区画。	
135	注口土器	胴部	白色・乳白色・橙色粒子少量。	暗灰褐	橢圓状工具による重弧文、刺突。	
136	注口土器	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	明褐	橢圓状工具による幾何学文。部分的にやや太い沈線区画。	
137	注口土器	注口部	白色物粒子ごく僅か。	暗褐	先端部欠損。	
138	注口土器	注口部	白色物粒子少量。	暗褐	下部破片。	
139	注口土器	注口部	白色物粒子少量。	黄褐	先端部破片。	
140	注口土器	注口部	白色物粒子少量。	乳白	小形品の破片。	炉跡内。
141	注口土器	把手	白色・黒色粒子少量。	暗橙褐	隆線、沈線、刺突。孔あり。	
142	異形土器	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	黄褐	上位に孔1個。横位・三角形区画に細かい縄文LRによる磨消縄文。文様帯上端と屈折部に微小刺突充填。	
143	異形土器	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	明褐	沈線区画内・微隆帯上面に細かい縄文LRによる磨消縄文。	
144	小形土器(球形)	略完形	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	口径(7.8)cm、底径7.9cm、器高4.0cm。平底。無文。	
145	小形土器(球形)	胴～底部	白色・乳白色粒子多量。	暗灰褐	器高4.0cm。2条1単位の平行沈線による横位・十字文。	炉跡内。
146	小形土器(浅鉢)	口縁～胴部	白色粒子少量。	橙褐	口径(8.5)cm、器高3.3cm。上端屈折・内湾。口縁に1条の横位沈線。	
147	小形土器(浅鉢)	口縁～胴部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	上端屈折・内湾。無文。小形の製品。	ピット。

第11表 3号住居跡出土土器観察表(第22図、図版22)

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	口縁～底部	白色・乳白色・橙色粒子微量。	乳灰褐	口径(32.0)cm、器高29.4cm。口縁上端は縁帯状に肥厚。以下8条1単位の橢圓状工具による縦位の櫛描文。	7と同一個体。
2	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗黄褐	内面上端に横位の貼付隆線・沈線。口唇上面に円形小刺突。外面に横位の沈線・斜位の刻み目のある貼付隆線。	3～5と同一個体。
3	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子・砂粒微量。	暗黄褐	刻み目のある2条1単位の横位貼付隆線間に1ないし2条の横位波状沈線。	2・4・5と同一個体。
4	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明橙褐	縦位の波状沈線と直状沈線。	2・3・5と同一個体。
5	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明橙褐	縦位の波状沈線と直状沈線。	2～4と同一個体。
6	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量、円礫ごく僅か。	暗褐	斜位の縄文RL。	
7	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子多量、円礫ごく僅か。	暗褐	底径13.3cm、器高3.7cm。底面に網代痕。	1と同一個体。

第12表 4号住居跡出土土器観察表(第24図、図版23)

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	2条1単位の弧状沈線文。2条の横位貼付隆線文。斜位の縄文LRを地文とし交互刺突、貼付隆線による渦巻文。	炉跡内。3・4・5と同一個体。
2	深鉢	口縁部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗橙褐	粗い斜位の刻み目が施された貼付隆線区画内に粗い縦位沈線充填の貼付隆線方形区画文。	炉跡内。
3	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	斜位の縄文LRを地文とし、縦位の貼付隆線。	炉跡内。1・4・5と同一個体。
4	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	斜位の縄文LRを地文とし、H状に連結する縦位の貼付隆線。	炉跡内。1・3・5と同一個体。
5	深鉢	胴部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	斜位の縄文LRを地文とし、1条の縦位波状沈線。	炉跡内。1・3・4と同一個体。

第13表 5号住居跡出土土器観察表(第26図、図版23)

計測値は現存値

遺物番号	種別・器種	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	把手	砂粒少量、白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	内面口縁部上端・突起端部に貼付隆線。外面には沈線による渦巻文と連鎖する縦位の把手。下端に把手から連結する縦位の貼付隆線。両脇に沈線による曲線・刺突。	
2	深鉢	把手	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	左・右・下面に沈線による渦巻文。内面に中空の痕跡。	
3	台付土器	接合部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	器高3.4cm。粗い刻み目を持つ1条の太い横位貼付隆線。	

第14表 土坑出土土器・土製品観察表(第35・36図、図版24・25)

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	土坑番号	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	1	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	波状口縁。内面上端に1条の横位貼付隆線。外面の口縁上端に粗い縦位の刻み目。沈線の曲線文。	
2	深鉢	1	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	縦位の縄文RL。	
3	深鉢	2	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	横位の調整痕。	
4	深鉢	2	胴部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	横位と縦位のT字状貼付微隆線。	
5	深鉢	3	胴部	白色・乳白色・褐色粒子少量。	黒褐	縦位の縄文RLを地文。3条の縦位沈線、波状沈線。	
6	深鉢	4	口縁部～胴部	白色粒子微量。	暗褐	口縁部はやや細かい縄文LRを地文、胴部は条痕文と地文に玉抱き三叉文。	10号土坑出土の口縁部破片と接合。
7	深鉢	4	口縁部	白色・乳白色・褐色粒子少量。	暗灰褐	3条の横位沈線。	
8	深鉢	4	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	縦位の条痕。	
9	深鉢	6	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	縦位の貼付微隆線。	
10	注口土器	7	口縁部	白色粒子微量。	黄褐	頸部に環状把手。	
11	深鉢	7	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黄褐	緑帯に太い沈線による重弧文。	
12	深鉢	8	胴部	白色・黒色鉾物粒子少量。	暗褐	大きな渦巻状の貼付微隆線。	
13	深鉢	12	胴部	白色粒子少量。	暗褐	2条の横位沈線、縄文LRの磨消縄文。	
14	深鉢	12	胴部	白色・黒色鉾物・砂粒子少量。	褐	2条の横位沈線、細かい縄文LRの磨消縄文。	
15	深鉢	12	胴部	白色粒子少量。	橙褐	外面に斜位の条痕、内面に横位の弱い条痕。	
16	深鉢	14	胴部	白色粒子少量。	黄褐	外面に横位の条痕。	
17	深鉢	16	胴部	鉾物粒子少量。	暗橙褐	2条一単位の入り組み状沈線、細かい縄文RLの磨消縄文。	
18	深鉢	16	胴部	白色粒子微量。	明黄褐	一部矢羽根状を含む黄位沈線、非常に細かい縄文RLの磨消縄文。	
19	深鉢	16	胴部	白色粒子少量。	明褐	横位の沈線間に縦位と横位の刻み目。	
20	深鉢	19	胴部	白色粒子少量。	黄褐	2条の横位貼付隆線。	
21	深鉢	20	胴部	白色粒子ごく僅か。	橙褐	3条の横位沈線、縄文LRの磨消縄文。	
22	深鉢	20	胴部	白色粒子、鉾物粒子少量。	黒褐	横位の調整痕。条痕文。	
23	深鉢	24	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	屈折口縁。貼付隆線、矢羽根状の短沈線充填。	
24	深鉢	26	口縁部	白色粒子少量。	明黄褐	口唇に小突起。3条の横位沈線。内面に1条の横位貼付隆線。	
25	深鉢	27	胴部	白色粒子ごく僅か。	明黄褐	3条の横位沈線。	
26	深鉢	28	口縁部	白色粒子多量。	橙褐	緑帯上に3条の横位沈線。	
27	深鉢	31	口縁部	白色粒子少量。	黄褐	内湾。3条の横位沈線。	
28	深鉢	31	胴部	白色粒子微量。	暗橙褐	横位の条痕文。	
29	深鉢	32	口縁部	白色粒子多量。	暗褐	1条の横位貼付隆線	
30	深鉢	33	口縁部	白色・灰色粒子多量。	暗黄褐	幅広い口縁無文部以下に縦位の条線文。	
31	深鉢	33	胴部	白色粒子少量。	暗褐	横位貼付隆線と縦位の集合沈線。	
32	深鉢	34	口縁部	白色・灰色粒子多量。	黄褐	幅広い口縁無文部以下に縦位の集合沈線。	
33	深鉢	40	口縁部	白色・灰色粒子多量。	黄褐	緑帯上に縦位沈線。以下縦位の沈線。	
34	深鉢	40	口縁部	橙色粒子少量。	乳白	無文。	
35	深鉢	41	口縁部	白色・鉾物粒子微量。	暗褐	無文。	
36	深鉢	41	胴部	白色粒子少量。	暗褐	横位沈線による縄文LRと刺突充填。	
37	深鉢	44	胴部	褐色・灰色粒子少量。	乳白	3条の弧状沈線。	
38	深鉢	45	口縁部	白色粒子微量。	暗黄褐	縦位の円形押圧文。	
39	深鉢	45	口縁部	白色粒子ごく僅か。	明黄褐	口唇に刻み目。複数の横位沈線。	
40	深鉢	47	口縁部	白色・鉾物粒子少量。	橙褐	幅広い口縁無文部以下に縦位の条線文。	
41	深鉢	49	口縁部	白色粒子少量。	橙褐	縦位の貝殻腹縁文、1条の横位沈線。内面に沈線。	
42	深鉢	51	胴部	白色粒子微量。	暗黄褐	2条の横位沈線。縄文RL。	
43	深鉢	51	胴部	白色粒子少量。	橙褐	沈線による幾何学文。	
44	深鉢	52	口縁部	白色粒子微量。	暗黄褐	口唇に縄文RL。貼付隆線。	
45	深鉢	53	胴部	白色粒子少量。	暗褐	2条の横位沈線。	
46	器台	54	底部	白色粒子微量。	黄褐	縦位の貼付隆線、矢羽根状の短沈線。	
47	深鉢	73	胴部	白色粒子微量。	暗橙褐	横位沈線と縄文RLの磨消縄文、縦位の刺突文。	
48	深鉢	75	口縁部	白色粒子微量。	暗褐	幅狭い緑帯上に縄文LR地文、1条の横位沈線。	
49	深鉢	75	胴部	白色粒子微量。	黒褐	縄文LRを地文とし横位沈線。	
50	深鉢	76	口縁部	白色粒子微量。	暗褐	細い3条の横位沈線、垂下する弧条沈線。内面に横位沈線とS字状の貼付文。	
51	深鉢	81	口縁部	白色・鉾物粒子ごく僅か。	暗褐	無文。	
52	深鉢	81	胴部	白色粒子少量。	暗褐	5条の縦位貼付微隆線。	
53	深鉢	81	底部	白色粒子微量。	黄褐	2条の縦位貼付微隆線。底面に木葉痕。	
54	注口土器	83	胴部	白色粒子ごく僅か。	黒褐	横位沈線、細かい入り組み状沈線。	
55	深鉢	85	口縁部	白色・褐色粒子微量。	暗褐	緑帯上に3条の横位沈線、以下縦位・斜位の沈線。	
56	深鉢	85	口縁部	白色粒子微量。	黄褐	縄文RLを地文とし横位の沈線文。	包78と同一個体。
57	深鉢	86	胴部	白色・鉾物粒子微量。	暗褐	高さのある薄い縦位貼付隆線。	
58	深鉢	86	胴部	白色粒子ごく僅か。	黒色	3条の横位貼付微隆線。外面に黒色物附着。	
59	深鉢	86	口縁部	鉾物粒子ごく僅か。	黄褐	5条の横位沈線文。	
60	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	口縁屈折。貼付微隆線と円形刺突。	61と同一個体。
61	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	口縁屈折。貼付微隆線と円形刺突。	60と同一個体。
62	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	口縁屈折。屈折面に縄文RLを地文とし1条の横位沈線。以下横位貼付微隆線。	63と同一個体。

遺物番号	種別・器種	土坑番号	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
63	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	口縁屈折。屈折面に縄文RLを地文とし2条の横位沈線。以下横位貼付微隆線。	62と同一個体。
64	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	口縁屈折。屈折面に刻み目を持つ細い横位貼付微隆線、刺突、貼付文。	
65	深鉢	87	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	横位貼付隆線・沈線区画内に円形刺突。	
66	深鉢	87	胴部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	弧状の貼付隆線と沈線。	
67	深鉢	87	底部	橙色粒子微量。	明黄褐	胴部に縄文RL。	
68	深鉢	91	口縁部	白色粒子微量。	橙褐	口縁上端に刻み目を持つ横位貼付隆線。	
69	深鉢	91	胴部	白色粒子・鈹物粒子微量。	黄褐	横位・斜位の沈線。	
70	深鉢	91	胴部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	5条の縦位貼付微隆線。	
71	深鉢	92	口縁部	白色粒子多量。	灰褐	上端欠損。縁帯に斜位の沈線文帯。	
72	深鉢	92	胴部	白色粒子微量。	灰褐	上端欠損。屈折部に刻み目を持つ貼付隆線。横位・斜位の沈線。	
73	深鉢	92	口縁部	白色粒子微量。	黄褐	1条の横位貼付微隆線。	
74	深鉢	93	口縁部	白色粒子微量。	暗褐	横位沈線、入り組み状の沈線。	
75	深鉢	94	口縁部	白色粒子微量。	黄褐	屈折口縁上面に縄文LRを地文とし横位沈線、貼付文、口唇に刻み目。以下に1条の横位貼付微隆線。	
76	深鉢	95	口縁部	白色粒子少量。	黄褐	縦位の縄文RL。	
77	深鉢	95	口縁部	白色粒子微量。	橙褐	口縁部に無文部、以下斜位の縄文LR。	
78	深鉢	95	胴部	白色粒子微量。	黄褐	5条の縦位貼付微隆線。	
79	深鉢	96	胴部	褐色粒子微量、白色粒子ごく僅か。	黄褐	2条の縦位貼付微隆線。	
80	深鉢	96	胴部	白色粒子少量。	暗褐	縄文RLを地文とし1条の縦位貼付微隆線。微隆線上にも縄文RL。	
81	深鉢	96	胴部	白色粒子微量。	暗褐	斜位のS字状沈線文。	
82	深鉢	98	胴部	白色粒子少量。	暗褐	横位・縦位の沈線文。	
83	深鉢	99	底部	白色粒子ごく僅か。	暗黄褐	底面に網代痕。	
84	注口土器	101	把手	白色粒子微量。	黄褐	口縁部の環状把手。	
85	深鉢	101	底部	白色粒子微量。	暗褐	底径(8.9)cm、器高4.8cm。底面に網代痕。	
86	深鉢	105	口縁部	白色粒子微量。	暗褐	2条の横位沈線、縄文RLの磨消縄文。	
87	器台	105	底部	白色粒子微量。	橙褐	円形透かし、縦位の貼付隆線。底面に網代痕。	
88	深鉢	106	口縁部	白色粒子微量。	橙褐	波状口縁頂部に小突起、刻み目。4条一単位の弧状沈線。	
89	深鉢	106	底部	白色粒子少量。	橙褐	底径(5.8)cm、器高1.8cm。底面に網代痕。	
90	深鉢	107	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	横位・弧状貼付隆線。	91と同一個体。
91	深鉢	107	口縁部	白色粒子ごく僅か。	黄褐	横位・弧状貼付隆線。	90と同一個体。
92	深鉢	111	底部	白色粒子多量。	灰褐	底径(9.8)cm、器高2.7cm。底面に網代痕。	
93	深鉢	114	口縁部	白色粒子微量。	暗褐	無文。	
94	深鉢	114	把手	灰色粒子少量、白色粒子ごく僅か。	黄褐	環状把手。	
95	深鉢	118	口縁部	白色粒子少量。	暗褐	口縁部に縦位沈線充填の貼付隆線による区画文。口唇刻み目。胴部縄文LR。	
96	器台	118	底部	白色粒子少量。	黄褐	無文。	
97	深鉢	119	底部	白色粒子少量、鈹物粒子ごく僅か。	黄褐	底径(10.3)cm、器高1.6cm。底面に網代痕。	
98	耳飾り	26	約1/3	白色・乳白色粒子少量。	暗灰褐	径(4.3)cm。器体は厚く、側面は緩く窪む。外面両面に斜位の細かい縄文LR。これを地文とし、正面に端部が三叉状刻文となる直状沈線。赤色付着物が僅かに残る。	
99	耳飾り	44	小破片	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	径(6.1)cm。断面半円状。内側に1条の横位沈線、外面に弧状沈線。	

第15図 包含層出土土器・土製品観察表(第40~43図、図版29~32)

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	出土層位	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
1	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	波状口縁。内湾。内面上端に稜線。外面に貼付隆線による方形区画。区画内外に沈線。	
2	深鉢	114土混在	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄	内面上端に隆帯状の段差。外面上端に横位沈線、以下縦位の重弧状沈線。	
3	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	屈折・内湾。口唇は外側に張り出し。外面上端と屈折部に縦位の粗い櫛歯状工具による刺突、横位沈線。	
4	深鉢	III層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	波状口縁。上端は外反し小突起。外面は小突起に連結する横位沈線。	
5	深鉢	87土混在	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	明褐	地文に斜位の縄文RL。上端に沈線による縦位の短沈線、以下横位・長円状沈線。	
6	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	明黄褐	湾曲・内湾。口唇は角頭状、上面に縄文RL。外面は縄文RLを地文とし、3条の横位沈線、1条の大振り波状貼付隆線。隆線上面に縄文RL。	
7	深鉢	93土混在	胴部	白色・乳白色粒子少量、砂粒微量。	暗褐	2条の横位波状沈線。	
8	深鉢	III層	頸部	白色・乳白色粒子、砂粒少量。鈹物微量。	暗褐	横位沈線内にクランク状沈線。	
9	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	乳灰	沈線による長円状の二重区画、沈線間に矢羽根状の短沈線充填。	
10	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	横位沈線下に縦位の粗い集合沈線。	
11	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	乳灰褐	縄文RLを地文とし、横位の長円状沈線の上位に粗い3条一単位の三角・菱形文、下位に縦位の粗い集合沈線。	
12	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子多量。亜円礫ごく僅か。	暗褐	湾曲・内湾。口唇は肥厚。外面上端に横位貼付隆線、以下貼付隆線による渦巻文。	
13	深鉢	II層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	極暗褐	湾曲・内湾。内面に張り出す断面三角形の口唇。外面に貼付隆線による渦巻文。	

遺物番号	種別・器種	出土層位	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
14	深鉢	Ⅲ層	突起・把手	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	正面に刻み目のある隆線・沈線による渦巻文。内面に沈線による渦巻文。両面の渦巻文はS字状に連続。	
15	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	明灰褐	断面D形隆帯による円形区画内に縦位の粗い集合沈線充填、区画外に斜位の粗い集合沈線。	
16	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色粒子ごく僅か。	暗褐	粗い刻み目のある縦位貼付隆線間に横位の短沈線充填。	
17	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	横位・縦位の貼付隆線、粗い斜位の沈線充填。	
18	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	縦位の貼付隆線、粗いハの文沈線。	1住16と同一個体。
19	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子多量。	暗茶褐	縦位の貼付隆線、粗い複合幾何学沈線。	
20	深鉢	99土混在	胴部	白色・乳白色粒子、砂粒少量。	乳白	刻み目のある横位貼付隆線、縦位の貼付隆線間に沈線によるハの字文が充填。	
21	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗乳灰褐	断面D形の低い貼付隆帯による直曲文に粗い矢羽根状沈線充填、隆帯片側に沿って粗い沈線。	
22	深鉢	87土混在	胴部	白色・乳白色粒子微量。	褐	沈線による粗い綾杉文。	
23	深鉢	Ⅱ層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	細い沈線による綾杉文。	
24	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐色	緑帯に沈線による重弧文と横位沈線。	
25	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色・透明粒子少量。	暗褐	緑帯に沈線による重弧文。緑帯下端に横位沈線。	
26	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	緑帯に貼付隆線による弧文。以下斜位の貼付隆線。	
27	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	波状口縁。緑帯に沈線による渦巻文、緑帯直下に横位沈線、以下斜位沈線による幾何学文。	
28	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	明黄灰	緑帯に沈線による渦巻文。	
29	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	波状口縁。緑帯に沈線による渦巻文。	
30	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	波状口縁。緑帯に沈線による渦巻文。	
31	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	緑帯に2条の横位沈線、以下縦位・斜位沈線による幾何学文。	
32	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	緑帯に1列の刺突文が充填される横位沈線。	
33	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	緑帯に2列の刺突文が充填される横位沈線。緑帯直下に1条の横位沈線。	
34	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	斜位の縄文RLを地文とした口縁に4条の横位沈線。以下縦位の縄文RL。	
35	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	縄文RLを地文とした4条の横位沈線。	
36	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	口唇は角頭。縄文RLを地文とした4条の横位沈線。	
37	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明褐・暗褐	波状口縁。屈折。屈折面に貼付隆線・沈線による区画文。頂部と屈折端部に横位密接沈線が施された貼付小突起。以下縄文RLを地文とし、縦位の貼付微隆線。	2住45と同一個体。
38	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明橙褐	波状口縁。屈折。屈折面に刺突がある十字・X字状の貼付微隆線。頂部に貼付渦巻文。	
39	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色粒子微量。	黒褐	上端欠損。波状口縁。屈折。屈折面に横位の有刻貼付微隆線と小突起。以下有刻貼付微隆線によるZ字状文。	
40	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	口唇は角頭。内面上端に太く浅い凹線。外面に横位の貼付隆線と突起あるいは把手。	
41	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	上端欠損。屈折。屈折面に縦位S字状突起。刺突のある貼付隆線、密接沈線。下位に弧状沈線、貼付隆線、横位密接沈線充填。	
42	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	口唇は内削状。内湾。外面に2条の横位貼付微隆線。	
43	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色・透明粒子微量。	暗褐	上端は隆線状に張り出し、以下2条の横位貼付微隆線。	
44	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子ごく僅か。	暗黄褐	2条の横位貼付微隆線。	
45	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	縦位・横位の貼付微隆線。	
46	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子ごく僅か。	暗黄褐	縦位・斜位の貼付微隆線。	
47	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	1条の縦位貼付隆線、浅く粗い縦位集合沈線。	
48	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	縄文RLを地文とし、2条の縦位貼付隆線による曲線文。	
49	深鉢	-	口縁部	白色粒子微量。	黄褐	内湾。端部に円形刺突を持つ2条の太い横位沈線。	
50	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子多量。	明黄灰	内湾する断面T字状の口唇。上面に2条の横位沈線と円形刺突、外面に2条の横位沈線。	
51	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子ごく僅か。	暗褐	波状口縁。頂部に円形刺突と肥厚。口唇に1条の横位沈線。	
52	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	縄文RLを地文とし、貼付隆線・沈線による幾何学的区画の磨消縄文。	
53	深鉢	Ⅲ層	把手	白色・乳白色粒子少量。	灰褐	沈線。円形刺突施文の橋状把手。上端は横位貼付隆線文に連続。	
54	深鉢	3住混在	口縁部	白色粒子・砂粒微量。	明橙	上端屈折。内面に縄文LRが施された貼付隆線文。外面に縄文LRを地文とした沈線文帯。	
55	深鉢	16土混在	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	上端屈折。外面の屈折部に小段差と横位沈線、以下横位沈線。	
56	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子ごく僅か。	暗褐	上端欠損。屈折。縄文RLを地文とした横位沈線による磨消縄文。	
57	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗灰褐	上端欠損。屈折。刺突のある小突起。縄文LRを地文とした横位沈線文。	
58	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明黄褐	上端は弱く屈折。屈折面に縄文LRを地文とし、1条の横位沈線、縦位貼付隆線。	
59	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	上端屈折。屈折面に縦位の貼付文、以下縄文RL。	
60	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	上端欠損。屈折。屈折面に縦位貼付文、以下縄文RLの横位沈線区画の磨消縄文。	
61	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黄灰褐	口唇上面に縄文RL。外面に縄文RLを地文し、横位沈線、刺突文。	
62	深鉢	Ⅲ層	口縁部	砂粒少量、白色粒子ごく僅か。	明黄褐	上端に縄文(摩耗により不明瞭)、以下横位刺突・沈線。	
63	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	口唇に縄文RL。内面に縄文RLを地文とする2条の横位沈線による磨消縄文。外面に縄文RLを地文と横位沈線の磨消縄文。	
64	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	黒褐	口唇は角頭状。外面に5条の横位沈線。黒色物部着。	
65	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗橙褐	波状口縁。非常に細かい縄文RLを地文とした3条の弧状沈線。	
66	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	暗橙褐	口唇は角頭。内面に細かい縄文LRを地文とした横位・円形沈線。	
67	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	橙褐	3条の横位沈線。上位2条間に極めて細かい縄文LRの磨消縄文。最上位沈線は縄文施文以前。	
68	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	2条の横位沈線。	
69	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	内面に太く浅い横位沈線。外面上端に縄文RLを地文とした横位沈線区画の磨消縄文。	
70	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	乳灰	間隔を置く2条の横位沈線下に、狭い間隔で1条の横位沈線。	

遺物番号	種別・器種	出土層位	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
71	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	縄文RLを地文とした横位沈線区画の磨消縄文に3条の縦位短沈線。	
72	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄灰褐	縄文RLを地文とした横位沈線による磨消縄文、斜位沈線。	
73	深鉢	3住混在	胴部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	黒褐	横位沈線による縄文RLの磨消縄文。	
74	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	上面に縄文RLが施文された断面D字形を呈する2条の低い横位貼付隆帯。	
75	鉢	I・Ⅲ層	口縁～胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐・黄褐	2帯の横位矢羽根状沈線区画文。	
76	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	横位沈線区画内に横位矢羽根状沈線。	
77	深鉢	3住混在	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	横位沈線区画内に矢羽根状沈線の一部と考えられる斜位沈線。	
78	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	縄文RLを地文とする4条の横位沈線。	79・85土56と同一個体。
79	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	口唇は内削状。縄文RLを地文とする口縁部に長円状区画・縦位の沈線。	78・85土56と同一個体。
80	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	口唇は内削。上端に縄文RLを地文とした横位沈線区画内に弧状沈線。	
81	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子微量多量。	暗褐	緩く内湾。口唇は内削状で肥厚。縄文RLを地文とした横位沈線区画内に弧状沈線。	
82	深鉢	Ⅱ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、銀色鉱物ごく僅か。	暗橙褐	口唇は角頭状。縄文RLを地文とした横位・弧状沈線による磨消縄文。沈線の交点に円形刺突。	
83	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量、橙色粒子ごく僅か。	黄褐	波状口縁。口唇は角頭。細かい縄文RLを地文とした磨消縄文帯に三文文。	
84	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、砂粒ごく僅か。	明灰褐	波状口縁。断面T字状の口唇に縄文LRを地文とした端部が三角形状となる沈線。外面には三文文と横位沈線。	
85	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗橙褐	波状口縁。頂部に円形刺突。口唇は角頭。細かい縄文LRを地文とした磨消縄文帯にS字状沈線。内面上端に細かい縄文LRの横位隆帯。	
86	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、鉱物微量、鉱物ごく僅か。	暗橙褐	波状口縁。口唇は角頭。外面は口縁上端に縄文LRの磨消縄文。斜位・長円状沈線。	
87	深鉢	Ⅱ層	胴部	白色・乳白色粒子微量、橙色粒子ごく僅か。	明黄褐	2条の横位沈線による山形文に縄文RLの磨消縄文。	
88	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子微量、鉱物少量。	暗褐	横位沈線区画内に入り組み状の沈線。	
89	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量・橙色粒子微量。	明黄褐	2条一単位の沈線による格子目文。	
90	深鉢	3住混在	胴部	白色・乳白色粒子、鉱物微量。砂粒ごく僅か。	乳灰褐	三角状・弧状沈線に縄文LRの磨消縄文。	
91	深鉢	-	口縁部	白色粒子・砂粒ごく僅か。	明黄褐	緑帯状の口縁。縄文RL。	
92	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子	灰褐	口縁無文、斜位の縄文RL。	1住13と同一個体。
93	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量、透明粒子ごく僅か。	暗褐	無文。	
94	深鉢	-	口縁部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	明黄	口縁無文。横位の縄文LR。	
95	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明橙褐	口唇に小波状の刻み目。斜位の縄文RL。	
96	深鉢	3住混在	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	斜位の縄文RL。上端異方向。	
97	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	横位の縄文LR。	
98	浅鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	口唇は肥厚。無文。	
99	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白粒子微量。	暗橙褐	口唇は角頭状。上端に縄文LRによる幅狭い縄文帯。	
100	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白・橙色粒子微量。	褐	口唇は内削状。上端に縄文LRによる幅狭い縄文帯。	
101	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白・橙色粒子多量。	暗褐	極弱く内湾。口唇は内削。上端に縄文RLによる幅狭い縄文帯。	
102	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	外反。無文。	
103	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗灰褐	無文。内面に横位の調整痕。外面上端は粘土のはみ出し状。	
104	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	明褐	無文。	
105	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量。	明褐	無文。外面に粗く浅い横位の条線状の調整痕。	
106	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量・砂粒ごく僅か。	明黄褐	縦位の縄文RL。	
107	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量。	暗黄褐	縦位の縄文RL。	
108	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子多量。	黄褐	縦位の縄文RL。	
109	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量・砂粒微量。	明黄褐	縦位の縄文RL。	
110	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量。	灰褐	斜位の縄文RL。外面に炭化物付着。	
111	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子多量、砂粒少量。	黄褐	斜位の縄文LR。	
112	浅鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、角礫ごく僅か。	暗橙褐	断面T字状の平坦な口唇上面に4条一単位の縦位貼付、1条の横位沈線。	
113	浅鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子多量。	暗橙褐	口唇はやや肥厚し、上面に貼付小突起。	
114	浅鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	橙褐	口唇は肥厚し、上面に玉抱き三文文。	
115	深鉢	I層	底部	白色粒子・灰色粒子少量。	黄褐	底径16.1cm、器高4.6cm。胴部に縄文RL。底面に網代痕。	
116	深鉢	-	底部	白色粒子多量。	黄褐	底径(11.6)cm、器高7.8cm。胴部に斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
117	深鉢	-	底部	白色粒子多量。	黄褐	底径11.4cm、器高(3.9)cm。胴部に斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
118	深鉢	I層	底部	白色・乳白色粒子少量。	褐	底径(14.5)cm、器高7.9cm。胴部に斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
119	深鉢	I層	底部	白色・乳白色粒子多量、砂粒少量。	明黄褐	底径(12.1)cm、器高5.4cm。胴部に櫛状工具による縦位の条線文。	
120	深鉢	-	底部	白色・乳白色粒子多量	橙褐	底径(11.0)cm、器高3.6cm。胴部に縦位・斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
121	浅鉢	Ⅲ層	底部	白色・乳白色粒子少量。	暗褐	底径(9.1)cm、器高3.1cm。底面に網代痕。	
122	深鉢	-	底部	白色・灰色粒子少量。	暗黄褐	底径(10.7)cm、器高1.7cm。底面に網代痕。	
123	深鉢	Ⅲ層	底部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄	底径(8.5)cm、器高4.0cm。胴部に横位の縄文LR。底面に網代痕。	
124	深鉢	-	底部	白色・乳白色粒子少量。	灰褐	底径(8.9)cm、器高5.1cm。底部縁辺が張り出し。底面に網代痕。	
125	深鉢	-	底部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	底径(8.7)cm、器高4.5cm。胴部に斜位の縄文RL。底面に網代痕。	
126	深鉢	Ⅱ層	底部	白色粒子少量。	暗黄褐	底径(6.3)cm、器高1.7cm。底面に網代痕。	
127	深鉢	Ⅱ層	底部	白色・乳白色粒子多量。	暗褐	底径(6.0)cm、器高1.9cm。底面に網代痕。	

計測値は現存値、()は推定値

遺物番号	種別・器種	出土層位	部位	焼成・胎土	色調	文様構成等	備考
128	深鉢	80土混在	底部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐色	底径(4.3)cm、器高1.7cm。底面に木葉痕。	
129	深鉢	I層	底部	白色・乳白色粒子少量。	明黄褐	底径4.7cm、器高2.5cm。無文。底面圧痕なし。	
130	深鉢	-	底部	白色・乳白色粒子多量。	明灰	底面に網代痕。	
131	深鉢	-	底部	白色・乳白色粒子多量。	橙褐	底面に網代痕。	
132	鈎手土器	-	略完形	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	橙褐・暗褐	底径(12.7×7.4)cm、器高10.1cm。長円形の二窓。把手上端に皿状の突起、両端に突起痕跡。両側に三角文。二窓縁辺は幅広隆帯による縁取り。三角文と縁取り隆帯に縦位～斜位の縄文LR。底面に網代痕。縄文は摩耗著しい。	
133	注口土器	Ⅲ層	突起・把手	白色・乳白色粒子少量。	暗灰褐・明黄褐	突起内面から上端、左側面に8の字あるいはS字状に連続・半捻転。	
134	注口土器	Ⅲ層	頸部	白色・乳白色粒子微量。	暗褐	斜位の細い条線文・密接沈線を地文とした横位沈線の磨消文、横位沈線。	
135	注口土器	-	底部	白色・乳白色粒子微量。	暗灰褐	底面に網代痕。	器厚は薄手。
136	器台	93土混在	底部	白色・乳白色粒子少量。	橙褐	円形の透かし。縦位の貼付隆線間に綾杉状の細い沈線が充填。	
137	器台	-	底部	白色粒子少量。	黄褐	円形の透かし。	
138	器台	-	底部	白色・乳白色粒子、砂粒少量。	暗黄褐	円形の透かし。	
139	器台	I層	底部	白色・乳白色粒子多量、砂粒微量。	暗黄褐	円形の透かし。	
140	耳飾り	Ⅲ層	小破片	白色・乳白色粒子、砂粒少量。	暗褐色	断面弧状。断面の両側縁端とも外反。無文。	
141	土偶	I層	頭部～胸部	白色・乳白色粒子微量。	暗黄褐	器体は板状。頭部に幅広な環状把手、後頭部張り出し、沈線による長円文内に刺突充填。眉・鼻筋は貼付隆線、耳に孔、目・鼻孔は刺突。以下沈線による縦位・長円文。裏面も円・長円・縦位の沈線。	
142	土偶	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子、砂粒微量。	明黄褐・橙褐	両面に細い半截竹管による刺突。正面は3列の弧状、裏面は縦位・斜位の施文。左側欠損部は粘土接合面。	
143	土偶	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量、金色鉱物ごく僅か。	灰褐	正面から右側面に横位沈線を挟む矢羽根状沈線。内面に粗い斜位の沈線。	
144	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子、鉱物微量。暗黄褐色粒子・砂粒ごく僅か。	褐	正面に斜位の擦痕状の浅い条痕。	
145	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、鉱物ごく僅か。	暗褐	口唇は角頭状。外面は斜位の浅い条痕。内面は横位の浅い条痕。	
146	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量。	暗灰褐	口唇は押捺による小波状、内削状。外面に斜位の浅い条痕。	
147	深鉢	Ⅲ層	口縁部	白色・乳白色粒子微量、黒褐色・橙色粒子ごく僅か。	灰褐	口唇は押捺による小波状、内削状。外面に斜位の浅い条痕。	
148	深鉢	I層	口縁部	白色・乳白色粒子少量、鉱物ごく僅か。	褐色	口唇は押捺による小波状、内削状。外面は斜位の浅い条痕。内面は横位の浅い条痕。	
149	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子、鉱物微量。	橙褐	外面は横位の浅い条痕。内面は斜位の調整痕。	
150	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量、鉱物ごく僅か。	暗褐	外面は横位の条痕。内面は斜位の浅い条痕。	
151	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量・砂粒微量。	黄褐	外面に斜位・縦位の条痕。	
152	深鉢	Ⅲ層	胴部	白色・乳白色粒子少量、鉱物ごく僅か。	褐	外面に縦位の浅い条痕。	
153	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子微量、砂粒ごく僅か。	明黄褐	外面に縦位・斜位の条痕。	
154	深鉢	I層	胴部	白色・乳白色粒子少量、橙色粒子ごく僅か。	暗黄褐	外面に矢羽根状の条痕。	
155	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子少量。	褐	外面は斜位の条痕。内面は斜位の浅い擦痕状の条痕。	
156	深鉢	-	胴部	白色・乳白色粒子微量。	明褐	外面に斜位の条痕。	
157	壺	I層	底部	白色・乳白色粒子多量・金色鉱物ごく僅か。	明黄褐	底径(9.4)cm、器高6.9cm。外面に斜位の条痕。底面中央は剥落。	

第16表 1号住居跡出土石器観察表(第12図、図版14・15)

遺物番号	器種	大きさ				石材	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1	石鏃	20.7	11.7	4	0.6	下呂石	先端僅かに欠損。
2	石鏃	33.1	9.8	6.3	1.9	下呂石	上下端僅かに欠損。
3	スクレイパー	42.5	36.1	13.5	15.2	チャート	
4	クサビ形石器	22.9	17.8	6.2	2.2	チャート	
5	クサビ形石器	18.9	10.2	7.2	1.2	下呂石	
6	磨製石斧	33.7	17.5	5.7	4.0	蛇紋岩	上半欠損。
7	横刃形石器	45.9	9.1	12.3	52.2	安山岩	右側縁欠損。
8	横刃形石器	42.9	9.0	11.6	55.0	安山岩	
9	横刃形石器	33.7	7.4	8.8	21.5	安山岩	
10	横刃形石器	4.9	85.6	9.8	30.5	安山岩	右側縁欠損・横長剥片の下辺に微細剥離痕。
11	磨製石斧	107.5	47.2	23.9	228.9	蛇紋岩	刃部欠損後も使用され欠損。頭部縁辺敲打痕。欠損刃縁に敲打による潰れ。
12	打製石斧	11.6	59.4	20.2	154.6	安山岩	
13	打製石斧	69.9	47.1	14.8	60.5	安山岩	刃部再生か。
14	打製石斧	11.5	51.2	12.3	88.3	安山岩	刃縁擦れ。
15	打製石斧	105.8	54.8	15.7	112.3	安山岩	側縁上位の弱い抉りは欠損後の再生。刃縁擦れ。
16	凹石	7.3	4.9	4	164.0	砂岩	窪みは両面・左側縁1ヶ所、右側縁2ヶ所。上下端に敲打痕。
17	石皿	21.1	7.7	6.1	1173.0	安山岩	大形品の縁辺部破片。被熱により変色。石囲炉部材に転用。
18	石核	32.2	33.8	12.8	12.1	チャート	剥片素材。剥片剥離A。
19	石核	29.3	44.8	13.2	14.6	チャート	剥片素材。剥片剥離B。

第17表 2号住居跡出土石器・石製品観察表(第19~21図、図版20・21)

遺物番号	器種	大きさ				石材	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1	石鎌	266	15.2	5	1.6	下呂石	
2	石鎌	224	16.3	3.8	0.9	下呂石	脚部欠損。
3	石鎌	21.5	13.6	2.7	0.5	下呂石	
4	石鎌	23	10.2	3	0.4	下呂石	先端・脚部欠損。
5	石鎌	19.1	11.5	3.6	0.4	下呂石	脚部欠損。
6	石鎌	16.8	11.2	2.9	0.3	下呂石	先端僅かに欠損。
7	石鎌	35.1	25	9.4	7.8	頁岩	
8	石鎌	23.9	18.1	4.9	1.9	珧質頁岩	先端・基部欠損。
9	石鎌	21.2	15.2	5.2	1.2	下呂石	
10	石鎌	27.8	19.2	6	1.8	下呂石	
11	石鎌	25.3	17.7	5.9	2.0	下呂石	
12	石錐	20.6	17.1	4.7	1.0	下呂石	先端欠損。つまみ部欠損の可能性あり。
13	石錐	32.4	14.9	10.7	3.9	下呂石	先端使用による摩耗。
14	石錐	22.1	7.6	6.5	1.0	下呂石	両頭。
15	石錐	29.1	8.6	5.7	1.6	下呂石	先端欠損後再生。両頭か。
16	石錐	37.1	8.1	7.2	2.2	下呂石	上下端欠損。両頭か。
17	石錐	37.7	10.8	8.6	4.2	チャート	下端欠損。
18	石匙	35.3	38	9.1	9.2	下呂石	
19	石匙	38.0	56.2	6.5	12.5	頁岩	右端欠損。再生か。
20	スクレイパー	20.3	16.3	4.1	1.4	下呂石	
21	スクレイパー	43	30.5	10.5	13.9	チャート	
22	スクレイパー	32.2	80.8	10.6	22.1	下呂石	
23	クサビ形石器	32.8	26.4	7.4	6.7	下呂石	
24	クサビ形石器	23.2	23.4	8.1	3.6	下呂石	
25	クサビ形石器	44.9	35.6	14.4	20.4	下呂石	
26	クサビ形石器	30.6	19.8	15.7	7.9	下呂石	
27	クサビ形石器	31.1	13.6	6.6	2.3	下呂石	
28	尖頭状石器	81.4	34.8	11.1	33.6	安山岩	器体長軸に対して斜位の尖頭部を一端に作出。
29	尖頭状石器	83.3	50.5	18.7	85.0	安山岩	器体長軸に対して斜位の尖頭部を一端に作出。
30	横刃形石器	66.9	113.1	19.1	147.3	安山岩	左側縁欠損。
31	横刃形石器	42.7	107.1	13.6	69.5	安山岩	
32	横刃形石器	59.2	92.5	11	39.9	安山岩	右側縁の一部を欠損。
33	横刃形石器	48.4	85.1	10.5	46.1	安山岩	
34	横刃形石器	46	94.9	9.4	34.0	安山岩	
35	横刃形石器	49.1	73.2	10.8	38.4	安山岩	左側縁欠損。
36	横刃形石器	39.8	88.2	8.7	24.5	安山岩	
37	磨製石斧	82.1	46	19.1	119.0	蛇紋岩	刃部欠損後も使用。
38	磨製石斧	98.9	55	26.6	227.6	閃緑岩	刃部欠損後も使用。両面に敲打痕、敲石に転用。
39	磨製石斧	101.9	53.8	27.8	225.1	蛇紋岩	刃部欠損後も使用。両面に敲打痕、敲石に転用。
40	磨製石斧	119.3	66.5	32.1	340.5	安山岩	敲石に転用。塩屋石類似の石材。
41	打製石斧	176.2	72.9	32.1	450.4	安山岩	刃部使用による摩耗。
42	打製石斧	164.5	61.3	27.8	289.5	安山岩	
43	打製石斧	140.1	71.8	24	253.3	安山岩	刃部使用による摩耗。
44	打製石斧	144.1	82.7	21.6	345.7	安山岩	上下端欠損。
45	打製石斧	128.5	55.1	26.5	207.1	安山岩	
46	打製石斧	118	43.6	23.3	157.5	安山岩	頭部欠損。
47	打製石斧	99.4	45.3	18.3	95.1	安山岩	
48	打製石斧	97.8	44.5	18.1	94.1	安山岩	
49	敲石	108	51	34	239.0	砂岩	左上端欠損。下端・正面に敲打痕。
50	凹石	140	131	84	2060.0	安山岩	左下端欠損。両面に窪み・磨面。
51	凹石	115	104	62	951.0	安山岩	正面に窪み。両面に磨面。
52	凹石	113	95	4.5	610.0	安山岩	正面に窪み。両面に磨面。両側縁・下端弱い面取り状。
53	凹石	96	86	51	542.0	安山岩	正面に窪み。両面に磨面。両側縁弱い面取り状。
54	磨石	96	88	35	477.0	安山岩	両面・両側面に磨面。下端弱い面取り状。
55	磨石	118	103	86	1173.0	安山岩	両面に磨面。
56	磨石	121	119	95	1805.0	安山岩	両面に磨面。
57	有頭石器	118	74	65	676.0	安山岩	有頭石鎌か独鈷石かの区別が難しいため有頭石器とした。
58	磨石状軽石製品	50	35	16	2.5	軽石	正面に磨面。
59	異形石器	30.9	17.1	6.4	1.3	黒曜石	先端欠損後再生の可能性あり。

第18表 3号住居跡出土石器観察表(第23図、図版22・23)

遺物番号	器種	大きさ				石材	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1	石鎌	16.2	14.8	3.3	0.5	下呂石	先端・脚部欠損。
2	石鎌	12.6	9.1	2.5	0.3	赤色チャート	
3	石鎌	19.2	15.5	5.7	1.4	下呂石	
4	石錐	32.4	25.8	6.7	4.3	下呂石	右上端欠損。
5	クサビ形石器	28.5	19.0	7.5	4.1	チャート	
6	クサビ形石器	28.6	9.5	6.9	1.6	下呂石	
7	スクレイパー	38.8	29.8	11.9	18.3	チャート	
8	スクレイパー	43.8	63.1	21.0	68.3	チャート	両面加工の小形礫器状。石核類似。扁平な直角礫を素材。
9	横刃形石器	41.9	83.9	22.6	58.3	安山岩	右側欠損。
10	打製石斧	126	52.3	26.3	162.1	安山岩	
11	打製石斧	123.2	48.7	26.6	193.3	安山岩	
12	打製石斧	110.9	56.3	15.1	127.0	安山岩	刃部使用による摩耗。

遺物番号	器種	大きさ				石材	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
13	打製石斧	103.5	61.5	19.3	128.2	安山岩	刃部使用による摩耗。
14	打製石斧	112.6	67.7	31.1	258.0	安山岩	
15	打製石斧	78.2	46.3	9.9	43.6	安山岩	基部欠損。
16	敲石	97	57	32	275.0	安山岩	上端欠損。下端・両面・右側縁に敲打痕。
17	凹石	76	71	41	251.0	安山岩	正面に窪み・磨面。裏面一部磨面。
18	石皿	100	124	38	440.0	安山岩	小形品の上半欠損。裏面に窪み。

第19表 5号住居跡出土石器観察表(第26図、図版23)

遺物番号	器種	大きさ				石材	備考
		長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1	磨製石斧	97.8	50.4	23.9	224.5	蛇紋岩	刃部欠損(衝撃剝離)。

第20表 土坑出土石器・石製品観察表(第37~39図、図版26~28)

遺物番号	器種	出土土坑	大きさ				石材	備考
			長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1	石鏃	16号土坑	28.1	18.4	6.1	2.0	下呂石	
2	石鏃	5号土坑	26.2	15.8	4.2	1.3	下呂石	脚部欠損。
3	石鏃	5号土坑	22.6	16.7	5.4	1.3	下呂石	左側縁の一部欠損。
4	石鏃	104号土坑	16.3	12.6	3.1	0.6	下呂石	先端欠損。
5	石鏃	46号土坑	17.7	12.4	3.6	0.6	チャート	
6	石鏃	111号土坑	14.9	11.6	3.3	0.4	下呂石	
7	石鏃	51号土坑	24.9	12.7	5.3	1.7	チャート	先端欠損。
8	石鏃	87号土坑	19.7	14.9	5.1	1.4	下呂石	先端欠損。
9	石鏃	119号土坑	26.3	12.2	4.2	0.7	下呂石	先端・脚部欠損。
10	石鏃	57号土坑	21.5	13.6	3.4	0.7	下呂石	先端欠損。
11	石鏃	43号土坑	19.1	11.2	3.6	0.5	下呂石	先端・脚部欠損。
12	石鏃	86号土坑	19.2	11	4	0.5	下呂石	脚部欠損。
13	石鏃	7号土坑	17.4	8.1	3.1	0.3	下呂石	先端・脚部欠損。
14	石鏃	45号土坑	17.1	9.9	3.3	0.5	下呂石	脚部欠損。
15	石鏃	86号土坑	16.9	8.9	2.5	0.3	下呂石	先端・脚部欠損。
16	石鏃	86号土坑	16.5	7	1.9	0.2	下呂石	先端・脚部欠損。
17	石鏃	5号土坑	27.4	23.5	4.6	1.8	チャート	
18	石鏃	31号土坑	17.9	15.1	3.3	0.7	下呂石	
19	石鏃	95号土坑	16.5	15.8	4.2	0.9	チャート	
20	石鏃	5号土坑	17.6	16.4	3.1	0.6	下呂石	
21	石鏃	94号土坑	12.6	13.1	3.4	0.4	下呂石	
22	石鏃	32号土坑	13.4	11.5	3.3	0.5	玉髓	先端欠損。脚部左側再生。
23	石鏃	88号土坑	14.2	11	2.5	0.3	チャート	
24	石鏃	7号土坑	12.4	12.8	2.5	0.3	下呂石	
25	石鏃	87号土坑	12.5	10.9	2.5	0.2	下呂石	
26	石鏃	44号土坑	22.7	17	5.1	1.4	下呂石	
27	石鏃	101号土坑	18.0	16.0	6.7	1.3	チャート	
28	石鏃	5号土坑	20	14.9	2.4	0.7	チャート	
29	石鏃	77号土坑	18.8	16	3.9	1.1	下呂石	
30	石鏃	45号土坑	16.7	11.4	2.5	0.5	チャート	基部僅かに欠損。
31	石鏃	40号土坑	28.4	19.8	8.6	3.8	下呂石	裏面・基部に角礫の自然面が広く残存。
32	石鏃	16号土坑	27.9	16.7	7.5	3.0	下呂石	
33	石鏃	51号土坑	23.2	12.3	4.2	1.0	チャート	基部欠損。
34	石鏃	106号土坑	17.1	10.7	3.4	0.5	下呂石	先端・基部僅かに欠損。有茎。基部再生の可能性あり。
35	石鏃	87号土坑	32	26	4.9	1.9	下呂石	つまみ部欠損の可能性あり。
36	石鏃	12号土坑	17.0	19.5	5.6	1.5	チャート	先端欠損。
37	石鏃	51号土坑	31.9	11.8	8.6	2.2	玉髓	先端使用による摩耗。上端欠損の可能性あり。
38	石鏃	7号土坑	25.4	11.7	6.6	2.0	下呂石	上下端欠損。
39	スクレイパー	21号土坑	54.8	33.1	11.5	16.7	下呂石	左側縁下半欠損。
40	スクレイパー	9号土坑	31.2	25.5	7.5	5.1	下呂石	
41	スクレイパー	53号土坑	24.5	17.5	5.0	2.5	チャート	右側縁欠損。
42	スクレイパー	7号土坑	21.3	18.5	4.9	1.8	チャート	
43	クサビ形石器	40号土坑	30.3	33.4	15.0	13.8	チャート	
44	クサビ形石器	34号土坑	40.6	33.8	16.5	22.0	チャート	
45	クサビ形石器	16号土坑	18.1	22.3	6.3	2.8	チャート	
46	クサビ形石器	4号土坑	23.1	28.5	9.2	4.6	チャート	左側縁欠損。
47	クサビ形石器	10号土坑	25.3	13.9	8.9	2.9	チャート	
48	クサビ形石器	7号土坑	26.9	13.1	7.8	2.9	下呂石	
49	クサビ形石器	28号土坑	34.8	20.9	7.7	5.1	下呂石	
50	クサビ形石器	31号土坑	56.9	34.3	23.0	51.3	チャート	石核状。
51	横刃形石器	2号土坑	63.7	148.8	19.7	158.0	安山岩	
52	横刃形石器	105号土坑	51.4	114.7	10	52.3	安山岩	下辺刃部両面加工。左側縁欠損再生。
53	横刃形石器	58号土坑	63.2	102.2	15.2	103.6	凝灰岩	上辺刃部使用による摩耗。
54	横刃形石器	84号土坑	53.4	95.6	13.1	70.9	安山岩	右側縁欠損。左側縁・下縁の一部摩耗。上辺両面・下辺片面加工。
55	磨製石斧	19号土坑	20	15	6	2.6	滑石片岩	上半欠損(折れ)。極小品。
56	磨製石斧	33号土坑	68.3	49.2	20.8	115.7	蛇紋岩	上半欠損(折れ)。
57	磨製石斧	2号土坑	68.2	43.8	21	103.5	蛇紋岩	敲石に転用。
58	磨製石斧	7号土坑	90.7	51.5	21.3	191.3	閃緑岩	刃部欠損(折れ)。
59	打製石斧	58号土坑	119.4	61.3	21.2	158.7	砂岩	
60	打製石斧	91号土坑	122.1	43.3	19.1	117.4	安山岩	

遺物番号	器種	出土土坑	大きさ				石材	備考
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
61	打製石斧	107号土坑	114.8	39.3	17.9	79.7	安山岩	
62	打製石斧	31号土坑	112.2	55.3	26.5	187.9	安山岩	刃部欠損(折れ)。頭部欠損再生。
63	打製石斧	101号土坑	106.8	46.6	15.8	82.0	安山岩	
64	打製石斧	24号土坑	99.4	43.9	17.1	74.8	安山岩	刃部欠損(折れ)。
65	打製石斧	75号土坑	89.8	44.5	14.5	63.6	安山岩	刃使用による摩耗。上端自然面。
66	打製石斧	107号土坑	89.7	36.1	10.7	37.5	安山岩	刃部右側欠損。
67	打製石斧	15号土坑	113.1	51.2	18	87.5	安山岩	頭部欠損。刃部使用による摩耗。
68	打製石斧	4号土坑	139.8	66.8	13.9	123.6	安山岩	刃部使用による摩耗。
69	打製石斧	10号土坑	104.4	57.2	23.4	142.7	安山岩	内面に刃部使用による摩耗。
70	打製石斧	17号土坑	92	67.1	16.2	124.1	安山岩	上端欠損。分銅形。刃部使用による摩耗。
71	打製石斧	92号土坑	69.3	39.8	15.5	54.3	安山岩	刃部欠損。
72	打製石斧	24号土坑	61	60.5	18.3	75.3	安山岩	欠損品の頭部再生による小形品。
73	敲石	114号土坑	93	28	26	91.0	砂岩	上端使用による欠損。正面上位に敲打痕。
74	敲石	40号土坑	89	86	73	781.0	安山岩	正面に敲打痕。
75	凹石	107号土坑	77	87	46	399.0	安山岩	上半欠損。正面に窪み・平坦な磨面。両側縁弱い面取り状。下端磨面。正面平坦面に赤色物付着痕。
76	台石	107号土坑	205	141	64	2990.0	砂岩	上端欠損。正面に弱い敲打痕。
77	礫石錘	8号土坑	76	56	22	110.0	凝灰岩	敲打による紐掛け部作出。
78	石棒	106号土坑	22	16	5	2.8	粘板岩	破片。
79	垂飾	107号土坑	29	19	8	5.7	風化蛇紋岩	
80	垂飾	5号土坑	23	12	5	1.0	滑石	右上端欠損。
81	垂飾	41号土坑	15	27	8	3.7	メノウ	破片。孔は自然のまま。
82	石核	16号土坑	66.3	66.4	35.6	204.9	チャート	打割礫素材。剥片剥離B。上・下・裏・左面に自然面残存。
83	石核	111号土坑	40.7	62.4	24.3	57.4	下呂石	剥片素材。剥片剥離B。
84	石核	4号土坑	21.0	76.6	26.1	36.4	下呂石	剥片素材。剥片剥離A。
85	石核	40号土坑	35.9	52.3	14.4	23.8	下呂石	剥片素材。剥片剥離B。
86	石核	4号土坑	45.8	22.9	13.4	12.6	玉髓	剥片素材。剥片剥離D。

第21表 包含層出土石器・石製品観察表(第44~54図、図版33~42)

遺物番号	器種	出土遺構・層位	大きさ				石材	備考
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
1	石槍	Ⅲ層	33.6	21	10.5	6.7	下呂石	上半欠損(折れ)。
2	石槍	I層	28.2	19.4	8.6	4.0	下呂石	上半欠損(折れ)。
3	石鏃	I層	26.6	18.9	5.3	2.4	チャート	脚部欠損。
4	石鏃	I層	26.2	18.9	5.5	1.9	下呂石	
5	石鏃	Ⅲ層	24.6	19.6	4.8	1.6	下呂石	
6	石鏃	I層	24.1	15.4	4.9	1.6	チャート	先端欠損。
7	石鏃	I層	24.2	16	4.6	1.2	チャート	先端欠損。
8	石鏃	I層	24.7	15.6	4.6	1.5	黒曜石	先端・脚部欠損。
9	石鏃	Ⅲ層	24.9	15.5	4.1	1.0	チャート	脚部欠損。
10	石鏃	I層	21.6	15.7	4.4	1.2	下呂石	
11	石鏃	I層	20.5	15.7	4.9	1.2	下呂石	
12	石鏃	Ⅲ層	20.2	13.2	4.4	0.9	チャート	脚部欠損。
13	石鏃	I層	21.4	12	4.2	0.9	下呂石	脚部欠損。
14	石鏃	I層	18.7	14.9	4.4	1.0	チャート	脚部欠損。
15	石鏃	I層	19.4	12.8	3.6	0.8	下呂石	先端欠損。
16	石鏃	Ⅱ層	16.3	9.9	3.3	0.4	下呂石	
17	石鏃	Ⅲ層	24.8	12.3	3.7	0.8	下呂石	
18	石鏃	I層	23.2	12.6	3.8	0.9	下呂石	
19	石鏃	I層	20.7	11.2	3.2	0.7	下呂石	脚部欠損。
20	石鏃	I層	20.6	11.9	3	0.6	下呂石	
21	石鏃	I層	20.9	10.8	3.8	0.7	下呂石	脚部欠損。
22	石鏃	Ⅱ層	23	18.4	7.4	2.0	下呂石	脚部欠損。
23	石鏃	Ⅲ層	21	17.9	5.2	1.3	下呂石	脚部欠損。
24	石鏃	I層	18.9	17.1	5.5	1.4	チャート	
25	石鏃	I層	18.1	18.9	3.1	0.8	黒曜石	
26	石鏃	I層	18.1	16.9	3.8	0.7	チャート	脚部欠損。
27	石鏃	I層	16.7	12.9	3.6	0.5	下呂石	
28	石鏃	I層	16	12.8	2.8	0.3	下呂石	
29	石鏃	I層	13.7	13.1	2.6	0.4	下呂石	先端・脚部欠損。
30	石鏃	I層	13.3	10.9	3	0.4	黒曜石	脚部欠損。
31	石鏃	I層	19.0	15.2	3.1	0.7	黒曜石	基部左端欠損。
32	石鏃	Ⅱ層	18.3	16.1	4.6	0.9	下呂石	
33	石鏃	I層	16.6	13.4	3.6	0.6	下呂石	
34	石鏃	I層	16.8	18.1	3.6	0.9	黒曜石	先端欠損。
35	石鏃	I層	23.1	17.6	7.3	2.5	下呂石	
36	石鏃	I層	23.7	16.5	5.4	2.0	下呂石	
37	石鏃	Ⅲ層	38.2	26.1	8.8	6.6	下呂石	
38	石鏃	I層	31.0	25.9	7.0	5.8	チャート	基部欠損。
39	石鏃	I層	27.9	18.1	5.0	2.1	下呂石	
40	石鏃	I層	19.7	12.3	4.8	0.9	下呂石	
41	石鏃	I層	30.3	20.5	7.8	3.7	下呂石	
42	石鏃	I層	32.5	9.3	4	1.2	チャート	先端欠損。
43	石鏃	I層	28.5	15.8	7.2	2.8	チャート	
44	石鏃	I層	20.5	13.6	3.2	0.7	下呂石	
45	石鏃	Ⅲ層	25.8	20.5	6.9	2.7	チャート	
46	石鏃	Ⅲ層	24.6	19.3	8	3.2	チャート	

遺物番号	器種	出土遺構・層位	大きさ				石材	備考
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
47	石錐	I層	28	9.7	6	1.5	下呂石	両頭。
48	石錐	II層	35.9	10.1	7.8	2.3	下呂石	両頭。
49	石錐	III層	27.4	9.9	7.4	2.0	下呂石	先端使用による摩耗。
50	石錐	III層	46.2	16	10	6.9	チャート	
51	石錐	II層	50.5	17.6	8.3	7.5	チャート	
52	スクレイパー	I層	25.5	24.3	9.2	4.5	下呂石	
53	スクレイパー	I層	23.2	17.2	8.1	2.6	黒曜石	
54	スクレイパー	III層	25.5	18.5	7.3	3.0	下呂石	
55	スクレイパー	II層	27	26.6	5.8	4.0	珪質頁岩	
56	スクレイパー	I層	36.4	36.8	13.1	17.6	下呂石	
57	スクレイパー	II層	36.1	27.6	9.1	8.5	下呂石	
58	スクレイパー	II層	36.4	24.0	8.6	7.1	下呂石	右下端欠損。
59	スクレイパー	I層	38.9	49.8	12.8	32.1	チャート	
60	スクレイパー	I層	41.6	60.2	16.6	42.0	頁岩	下辺刃部片面加工。
61	スクレイパー	I層	52.1	85.5	19.7	69.8	下呂石	
62	スクレイパー	II層	22.3	48.3	11.2	7.7	下呂石	
63	スクレイパー	III層	55.3	32.6	16.4	21.0	下呂石	
64	スクレイパー	I層	53.0	35.9	13.4	13.8	下呂石	
65	クサビ形石器	III層	15.7	12.2	4.9	1.1	下呂石	
66	クサビ形石器	I層	21.1	17.7	5.5	2.1	下呂石	
67	クサビ形石器	I層	19.6	24.2	7.5	3.5	下呂石	
68	クサビ形石器	I層	22.9	27.6	8.0	3.7	珪質頁岩	
69	クサビ形石器	III層	23.8	16.2	7.0	2.7	下呂石	
70	クサビ形石器	I層	24.6	23.4	12.0	6.5	下呂石	
71	クサビ形石器	I層	26.9	24.7	9.5	5.3	下呂石	
72	クサビ形石器	I層	24.2	24.1	10.3	6.6	チャート	上下・両側縁加工。
73	クサビ形石器	I層	35.2	29.0	17.4	16.3	チャート	
74	クサビ形石器	I層	24.8	10.4	11.6	2.9	下呂石	
75	クサビ形石器	III層	44.9	20.0	10.7	9.1	チャート	
76	クサビ形石器	III層	47.0	17.1	11.5	8.2	チャート	
77	スクレイパー	II層	54.8	57.2	19.5	64.5	ホルンフェルス	粗製の円盤状スクレイパー。両面加工。上端縁辺潰れ。両面に自然面残存。
78	横刃形石器	III層	43.2	87.4	16.2	53.9	砂岩	
79	横刃形石器	III層	49	101.7	13.7	61.3	砂岩	
80	横刃形石器	III層	51.6	83.2	15.2	73.9	砂岩	左側側縁欠損。
81	磨製石斧	III層	53.7	35.6	14.2	39.9	安山岩	頭部欠損後敲打再生。刃縁潰れ。
82	磨製石斧	I層	52.7	29	7.8	23.3	蛇紋岩	頭部敲打・研磨再生。刃縁に線条痕・微細剥離。
83	磨製石斧	III層	51	23.2	10.7	20.0	チャート	
84	磨製石斧	I層	46.9	31	9.9	19.0	頁岩	刃縁に微細剥離。
85	磨製石斧	I層	32.8	24.5	6.4	8.4	流紋岩	頭部欠損(折れ)。刃縁に微細剥離・潰れ。
86	磨製石斧	I層	21	19	6	3.5	流紋岩	頭部破片(折れ)。極小品。
87	磨製石斧	I層	29	17.4	5.5	4.3		頭部欠損(折れ)刃縁に微細剥離・潰れ。極小品。
88	磨製石斧	I層	30	18	8	5.8	片岩	頭部剥離再生。刃縁に使用に伴う剥離。極小品。
89	磨製石斧	I層	111.9	55.8	21.9	217.2	流紋岩	刃縁に使用に伴う剥離。
90	磨製石斧	II層	97.8	47.5	26.3	174.1	砂岩	横断面丸みのある凸レンズ状。上半に研磨以前の敲打痕残存。
91	磨製石斧	III層	101.3	44.8	20.7	150.1	蛇紋岩	刃部右端欠損。頭部に敲打痕。
92	磨製石斧	III層	95.1	44.9	18.7	133.1	蛇紋岩	刃部・頭部縁辺一部欠損。刃縁に微細剥離。
93	磨製石斧	III層	78.6	41.9	15	83.6	蛇紋岩	刃部欠損研磨再生。
94	磨製石斧	I層	76.1	46.9	23.2	125.2	凝灰質砂岩	頭部敲打再生。刃縁に小剥離・潰れ。正面に敲打痕。
95	磨製石斧	I層	70.1	46.8	23.2	84.7	蛇紋岩	頭部研磨再生。裏面剥落。刃縁の一部に微細剥離。
96	磨製石斧	I層	86.5	49.3	23.8	155.8	蛇紋岩	両側縁・頭部敲打再生。
97	磨製石斧	I層	65	41.7	17.1	67.9	安山岩	頭部敲打再生。刃縁中央に微細剥離・潰れ集中。
98	磨製石斧	III層	58.9	36.2	11.5	45.5	蛇紋岩	刃縁に使用に伴う剥離・微細剥離・潰れ。
99	磨製石斧	I層	67.5	45.6	19.1	89.1	蛇紋岩	頭部欠損(折れ)。刃縁の一部欠損研磨再生・線条痕・摩耗。
100	磨製石斧	III層	62.1	51.0	23.9	113.1	蛇紋岩	頭部欠損。刃縁やや潰れ。
101	磨製石斧	I層	76	50	29	127.0	砂岩	使用に伴う欠損・刃部破片。刃縁左端部に潰れ。右端部は後世の欠損。
102	磨製石斧	I層	62.4	33.8	13.9	42.5	蛇紋岩	頭部欠損(剥落)。刃部使用による剥落・小剥離。
103	磨製石斧	II層	45.3	39.3	13.9	40.7	蛇紋岩	頭部欠損(折れ)。刃縁に斜位の線条痕。
104	磨製石斧	I層	77.6	41.1	18.1	65.5	蛇紋岩	刃部欠損。
105	磨製石斧	I層	156	67.3	34.8	570.1	蛇紋岩	敲石に転用。刃縁に敲打による潰れ・剥離。
106	磨製石斧	I層	111.0	64.0	27.4	277.2	蛇紋岩	刃部欠損。スタンプ状の敲石に転用。欠損面縁辺に小剥離・潰れ。
107	磨製石斧	I層	106.5	58.2	26.8	230.1	蛇紋岩	刃部欠損。敲石に転用。頭部縁辺刃部状・縁辺潰れ。
108	磨製石斧	I層	101.8	48.0	21.0	175.9	蛇紋岩	刃部欠損。敲石に転用。頭部縁辺刃部状・縁辺潰れ。両面中央に弱い敲打痕。
109	磨製石斧	I層	91.1	55.2	26.1	213.8	凝灰質砂岩	頭部敲打再生。敲石に転用。
110	磨製石斧	I層	87.1	61.0	27.4	248.5	蛇紋岩	刃部欠損。スタンプ状の敲石に転用。頭部上端敲打痕・剥離。欠損面縁辺に小剥離・潰れ。
111	磨製石斧	I層	70.2	50.4	24.4	149.2	蛇紋岩	頭部敲打再生。敲石に転用。
112	磨製石斧	I層	61.9	54.2	19.2	97.1	蛇紋岩	刃部破片。敲石に転用。上端欠損面縁辺・左側面・刃縁に幅狭い面取り状の敲打痕。
113	打製石斧	I層	152	46.7	18.7	160.3	安山岩	刃部使用による摩耗。
114	打製石斧	I層	142.7	70.7	37.2	408.2	安山岩	裏面に自然面。
115	打製石斧	I層	135.2	58.9	20.9	193.4	安山岩	上面に自然面。
116	打製石斧	I層	135.7	51.2	18.3	136.4	安山岩	刃部使用による摩耗。
117	打製石斧	III層	128.8	52.8	19.7	164.7	安山岩	頭部再生。
118	打製石斧	I層	129.5	79.8	30.8	384.3	安山岩	短冊形。
119	打製石斧	III層	125.8	45.9	16.2	129.3	安山岩	刃部使用による摩耗。
120	打製石斧	I層	127.4	56.5	22.9	191.9	安山岩	頭部後世の欠損。
121	打製石斧	III層	124.9	56	20.1	160.6	安山岩	刃部使用による摩耗。

遺物番号	器種	出土遺構・層位	大きさ				石材	備考
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
122	打製石斧	I層	122.2	52.5	17.3	124.4	安山岩	
123	打製石斧	I層	119.6	49.3	18.4	122.1	安山岩	
124	打製石斧	I層	120.8	32.3	17.6	80.1	安山岩	
125	打製石斧	III層	113.4	48.8	19.3	120.9	安山岩	刃部使用による摩耗。
126	打製石斧	III層	114.2	40.9	20.1	92.4	安山岩	
127	打製石斧	III層	112.7	46.3	16.5	111.9	安山岩	
128	打製石斧	III層	110.7	46.4	18.6	112.3	安山岩	
129	打製石斧	III層	110.9	53.1	20.3	142.5	安山岩	
130	打製石斧	I層	107.8	40.1	20.1	87.1	安山岩	頭部後世の欠損。刃部使用による摩耗。
131	打製石斧	I層	103.4	45.5	21.9	107.5	安山岩	頭部後世の欠損。刃部使用による摩耗。
132	打製石斧	II層	105.8	42.1	19.6	106.8	安山岩	
133	打製石斧	III層	102.3	44.6	22.3	133.2	安山岩	
134	打製石斧	II層	95.3	40.7	17.8	69.8	安山岩	刃部使用による摩耗。
135	打製石斧	II層	70.4	47.2	14.9	54.4	安山岩	
136	打製石斧	III層	111.9	52.4	17.7	139.5	安山岩	
137	打製石斧	III層	176.1	83.3	35.3	469.6	安山岩	刃部使用による摩耗。
138	打製石斧	III層	167.6	87.5	40.3	636.4	砂岩	頭部欠損。
139	打製石斧	I層	139.4	65.2	21.2	193.3	安山岩	刃部使用による摩耗。
140	打製石斧	I層	137	91.1	36.1	531.2	安山岩	左側縁擦れ。
141	打製石斧	I層	136.9	60.2	21.2	191.3	安山岩	両側縁下位に擦れ。
142	打製石斧	I層	120.9	67.1	29.8	267.7	安山岩	
143	打製石斧	III層	125.2	55.7	18.1	140.7	安山岩	右側縁下半再生。
144	打製石斧	I層	120.1	77.6	28.5	290.2	安山岩	
145	打製石斧	I層	118	61.7	19.9	180.8	安山岩	
146	打製石斧	I層	115.5	56.2	19	110.3	安山岩	
147	打製石斧	I層	105.2	61	17.9	114.3	安山岩	
148	打製石斧	III層	105.1	62.7	18.9	131.7	安山岩	
149	打製石斧	III層	102.3	42.4	20.6	98.0	安山岩	両側縁下位に使用による摩耗。擦れ。
150	打製石斧	I層	99.1	69.2	20.6	195.3	安山岩	分銅形の頭部敲打再生。扁平礫素材。
151	打製石斧	I層	99.5	55.3	17.6	102.4	安山岩	頭部後世の欠損。
152	打製石斧	III層	97.5	49.6	20.9	112.5	安山岩	刃部使用による摩耗。
153	打製石斧	III層	82.4	58.7	14.2	83.0	安山岩	
154	打製石斧	I層	82.5	45.6	12.3	51.7	安山岩	刃部使用による摩耗。
155	敲石	I層	65	58	52	252.0	安山岩	両面・右側縁に敲打痕。ほぼ全面磨面。
156	敲石	II層	9	4.2	3.6	149.0	安山岩	両端に狭い面取り状をなす僅かな敲打痕。裏面一部剥落。
157	敲石	I層	96	40	34	230.0	砂岩	下端・中央に敲打痕。
158	敲石	I層	130	80	49	715.0	安山岩	上下端に敲打痕。両面磨面。両側縁に弱い面取り状の磨面。
159	敲石	I層	152	87	55	1094.0	安山岩	上下端に面取り状の敲打痕。両側縁に敲打痕。両面磨面。
160	敲石	I層	142	100	56	1062.0	安山岩	下端に面取り状の敲打痕。上端・左端に敲打痕。
161	凹石	III層	115	65	35	331.0	砂岩	窪みは正面2ヶ所、裏面1ヶ所。下端にスタンプ状の打磨面。
162	凹石	III層	107	74	60	600.0	砂岩	窪みは両面に2ヶ所。下端に狭い面取り状の打磨面。
163	凹石	III層	117	62	44	422.0	塩屋石	窪みは両面2ヶ所、両側縁上位に1ヶ所。上端敲打。全面磨面。下面はスタンプ状の敲打使用（縁辺小剥離・潰れ）。石棒転用品の可能性あり。
164	凹石	I層	119	67	43	445.0	砂岩	窪みは正面2ヶ所、裏面1ヶ所。上下端に敲打痕。
165	凹石	I層	136	120	57	1239.0	安山岩	窪みは正面2ヶ所、裏面1ヶ所。全縁辺に敲打痕。
166	凹石	I層	140	100	51	891.0	安山岩	窪みは両面に1ヶ所。右側縁に狭い面取り状の敲打痕。
167	凹石	I層	122	112	67	1285.0	安山岩	窪みは両面に2ヶ所。縁辺は脆弱。
168	凹石	I層	109	100	47	582.0	安山岩	窪みは正面に2ヶ所。両面磨面。両側縁に面取り状の磨面。
169	凹石	I層	108	92	40	462.0	安山岩	窪みは正面に2ヶ所。両面磨面。両側縁・上端に面取り状の磨面。
170	磨石	I層	47	45	40	101.0	凝灰質安山岩	全面磨面。
171	磨石	I層	37	35	31	54.0	砂岩	裏面以外磨面。
172	磨石	I層	60	56	44	160.0	安山岩	全面磨面。
173	磨石	III層	64	57	50	210.0	安山岩	ほぼ全面磨面。正面に赤色物付着痕。
174	磨石	I層	74	52	45	225.0	凝灰質安山岩	両面磨面。
175	磨石	I層	92	87	50	471.0	安山岩	両面磨面。
176	磨石	I層	90	78	59	486.0	安山岩	両面磨面。
177	磨石	III層	97	85	59	575.0	安山岩	両面磨面。
178	磨石	I層	104	88	57	700.0	安山岩	両面磨面。
179	磨石	III層	113	104	50	852.0	安山岩	両面磨面。
180	磨石	III層	115	93	68	992.0	安山岩	全面磨面。
181	石皿	I層	213	198	46	2400.0	安山岩	作業面はほぼ平坦。粒子の粗い扁平礫素材。裏面に敲打の窪み2ヶ所。
182	台石	III層	171	67	60	1030.0	安山岩	正面に敲打痕。
183	砥石	I層	48	22	11	17.0	砂岩	面取り状の側縁。4面使用。粒子やや細かい。
184	砥石	I層	107	66	31	266.0	砂岩	有溝砥石。両面・左側面に断面幅広なV字状の溝。粒子細かい。
185	砥石	I層	94	53	24	116.0	砂岩	有溝砥石。正面・右側縁に断面幅広なV字状の溝。裏面欠損。粒子細かい。
186	砥石	I層	106	46	40	262.0	砂岩	大形品の破片。正面のみ使用。粒子粗い。
187	砥石	I層	85	44	12	55.0	砂岩	薄く縁辺刃部状。両面使用。粒子密。
188	砥石	III層	63	29	8	17.8	砂岩	薄く縁辺刃部状。両面使用。粒子密。
189	礫石錘	II層	51	33	17	29.6	砂岩	長軸に擦切。
190	礫石錘	I層	55	42	12	38.0	砂岩	長軸両端に擦切。
191	礫石錘	I層	57	38	18	47.0	砂岩	長軸両端に敲打。
192	礫石錘	I層	62	43	23	86.0	安山岩	長軸両端に敲打。
193	礫石錘	I層	62	43	23	81.0	安山岩	長軸両端に敲打。
194	礫石錘	I層	69	40	21	94.0	安山岩	長軸両端に敲打。
195	礫石錘	I層	81	42	22	106.0	安山岩	長軸両端に敲打。下端脇に剥離痕。
196	礫石錘	I層	122	57	32	275.0	安山岩	長軸両端に剥離。縁辺潰れ。左側縁に剥離。
197	礫石錘	I層	112	42	23	132.0	砂岩	長軸上端に剥離後擦切。下端剥離は欠損の可能性あり。

遺物番号	器種	出土遺構・層位	大きさ				石材	備考
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
198	礫石錘	I層	87	46	22	115.0	凝灰質礫岩	長軸両端に敲打。
199	礫石錘	I層	79	65	27	166.0	安山岩	長軸両端に剥離。縁辺潰れ。
200	石棒	I層	130	59	47	436.0	塩屋石	中形品破片。窪みは正面・裏面・左側面2ヶ所。右側面1ヶ所。上下端に小剥離・敲打痕。
201	石棒未成品	II層	153	60	56	699.0	塩屋石	柱状節理の原石稜線と上・下端縁辺に剥離。
202	石棒	I層	76	18	17	26.4	頁岩	小形品の先端部破片。203・205と同一個体の可能性あり。
203	石棒	I層	8	18	1	18.4	頁岩	小形品の破片。202・205と同一個体の可能性あり。
204	石棒	II層	81	17	13	24.1	粘板岩	小形品の破片。
205	石棒	III層	41	1.9	9	8.6	頁岩	小形品の破片。202・203と同一個体の可能性あり。
206	石刀	I層	75	33	15	56.3	ホルンフェルス	破片。左側縁鋒部。右側縁刃部。
207	石剣	I層	76	26	13	36.8	頁岩	破片。両側縁丸みのある刃部。
208	石刀	I層	30	23	9	6.7	頁岩	小破片。断面形態から石剣と考えられる。
209	石冠	I層	96	135	78	1196.0	安山岩	厚みのある打割円礫素材の形状を残す。底面・両端研磨。両面磨面
210	石冠	I層		77	99	53.0		破片。厚みのある円礫を素材としたもの。上辺に刃部状の研磨。
211	玉	I層	27	13	8	4.5	風化蛇紋岩	下端が偏る長方形。上端は両刃状。上位に表方向から穿孔。
212	玉	I層	20	16	13	5.4	滑石	平玉欠損品。欠損面摩耗。上面から穿孔。
213	石核	I層	88.0	83.0	53.9	483.2	チャート	自然礫素材。剥片剥離B。自然礫の形状を残す。
214	石核	I層	62.0	48.3	45.2	172.7	チャート	自然礫素材。剥片剥離B。連続的な剥片剥離は少なく、素材打割礫に近い。上・左面に自然面残存。
215	石核	I層	30.5	65.0	29.8	81.7	チャート	自然礫素材。剥片剥離A。自然礫の形状を残す。
216	石核	I層	32.8	47.5	31.2	75.4	チャート	打割礫素材。剥片剥離B。上・裏・右面に自然面残存。
217	石核	I層	37.1	33.6	27.0	43.4	チャート	打割礫素材。剥片剥離C。下・右面に自然面残存。
218	石核	I層	28.8	42.9	19.4	19.0	頁岩	剥片素材。剥片剥離A。
219	石核	I層	33.9	49.7	37.4	48.9	下呂石	剥片素材。剥片剥離C。
220	石核	III層	27.3	19.4	17.2	8.4	黒曜石	打割礫素材。剥片剥離B。上面と右側面に然面が残存。
221	石核	I層	57.3	54.1	43.3	166.4	下呂石	素材不明。剥片剥離C。
222	石核	I層	22.5	27.1	7.8	4.9	チャート	剥片素材。剥片剥離D。上面に自然面残存。
223	石核	I層	26.1	14.1	13.4	4.0	下呂石	剥片素材。剥片剥離D。

第22表 黒内細野遺跡出土石器組成表

出土位置	石鏃	石錐	スクレイパー	クサビ形石器	横刃形石器	磨製石斧	打製石斧	敲石	凹石	磨石	石皿	砥石	礫石錘	石棒	石刀	垂飾	石核	剥片類	その他	合計	備考 (「その他」の器種)
1号住	1	1	1	5	6	2	10		1		1						2	36		66	
2号住	19	7	13	31	16	7	18	1	4	3							10	582	7	718	石匙2、尖頭状石器2、磨石状軽石製品1、有頭石器1、異形石器1
3号住	6	1	2	5	1	1	6	1	1		1						1	129		155	
5号住						1														1	
住居跡合計	26	9	16	41	23	11	34	2	6	3	2						13	747	7	940	
1号土坑																		1		1	
2号土坑					1	1														2	
4号土坑				1			2											3	2	8	
5号土坑	6			1												1		6		14	
6号土坑																		1		1	
7号土坑	7	1	1	1		1												61		72	
8号土坑													1					1		2	
9号土坑			1	1														16		18	
10号土坑				1			1											19		21	
11号土坑			1														1	16		18	
12号土坑		1																12		13	
14号土坑																		4		4	
15号土坑							1													1	
16号土坑	3	1		2	1												1	33		41	
17号土坑				1			1											24		26	
18号土坑																		9		9	
19号土坑						1												14		15	
20号土坑																		19		19	
21号土坑			1															13		14	
23号土坑																		3		3	
24号土坑	1			1			2											17		21	
26号土坑				1														2		3	
27号土坑	1			1														10		12	
28号土坑				1														6		7	
31号土坑	2			2			3											42		49	
32号土坑	1			1																2	
33号土坑						1												7		8	
34号土坑				1														1		2	
40号土坑	1			2		1	1										1	24		30	
41号土坑																1		3		4	
42号土坑				1														11		12	

出土位置	石鏃	石錐	スクレイパー	クサビ形石器	横刃形石器	磨製石斧	打製石斧	敲石	凹石	磨石	石皿	砥石	礫石錘	石棒	石刀	垂飾	石核	剥片類	その他	合計	備考（「その他」の器種）
43号土坑	1																	9		10	
44号土坑	1																	1		2	
45号土坑	2			1														33		36	
46号土坑	1	1																10		12	
47号土坑																		6		6	
48号土坑																	2	9		11	
49号土坑																		2		2	
50号土坑	1																	5		6	
51号土坑	2	1		1													2	47		53	
52号土坑																		2		2	
53号土坑			1															3		4	
54号土坑																		4		4	
55号土坑																		1		1	
56号土坑																		2		2	
57号土坑	1			1														10		12	
58号土坑					1		1										1	1		4	
59号土坑																		4		4	
60号土坑																		7		7	
70号土坑																		4		4	
71号土坑																		3		3	
72号土坑																		1		1	
73号土坑																		6		6	
75号土坑		1					2											23		26	
76号土坑																		3		3	
77号土坑	1			1														5		7	
78号土坑																		2		2	
79号土坑																		1		1	
80号土坑																		4		4	
81号土坑																	1	3		4	
82号土坑																		1		1	
83号土坑				1														3		4	
84号土坑	1				1													2		4	
85号土坑	1	2		2														42		47	
86号土坑	6						1										1	41		49	
87号土坑	3	1		2		1												41		48	
88号土坑	1			1														13		15	
89号土坑																		8		8	
90号土坑																	1	12		13	
91号土坑							2											1		3	
92号土坑							1											4		5	
93号土坑				2			1										1	9		13	
94号土坑	1						1											20		22	
95号土坑	1						1											12		14	
96号土坑	1	1																18		20	
98号土坑																		8		8	
101号土坑	1			1			1											21		24	
103号土坑																		2		2	
104号土坑	1			1			1											9		12	
105号土坑	1	1	1	1	1													13		18	
106号土坑	1													1				22		24	
107号土坑							2		1							1		29	1	34	台石 1
108号土坑																		2		2	
111号土坑	2			3													1	28		34	
112号土坑																		1		1	
113号土坑				1														9		10	
114号土坑	2							1										18		21	
118号土坑																		4		4	
119号土坑																		15		15	
土坑合計	55	11	6	38	5	6	24	2	1				1	1		3	16	996	1	1,166	
I 層	85	32	57	126	18	27	178	5	6	7	1	5	13	3	2	2	70	3,876	7	4,520	石槍1、石匙1、石剣1、石冠2、原石2
II 層	5	2	11	5		2	16	2		1			1	1			3	131	1	181	石棒未成品1
III 層	14	8	17	24	6	11	41		3	4		1		1			25	358	3	516	石槍1、台石1、原石1
包含層合計	104	42	85	155	24	40	235	7	9	12	1	6	14	5	2	2	98	4,365	11	5,217	
総計	185	62	107	234	52	57	293	11	16	15	3	6	15	6	2	5	127	6,108	19	7,323	

第23表 包含層出土古代・中世遺物観察表(第55図、図版43)

質量単位=cm、()=推定値

1	須恵器 埴A	質量 底径(6.0) 現存高1.6 現存率 体部下端～底部2/3 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫・白色微粒子を少量含む 焼成 良好 色調 黄灰色2.5YR5/2 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に降灰
2	須恵器 埴A	質量 口径(6.0) 現存高2.3 現存率 体部下端～底部1/4弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色7.5YR6/1 出土位置 調査区西側(I層)
3	須恵器 埴A	質量 底径(6.1) 現存高1.9 現存率 体部下端～底部約1/2 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 やや酸化焰焼成さみ 色調 灰白色～黄灰色2.5Y7/1～6/1 出土位置 I層
4	須恵器 埴A	質量 底径6.1 現存高2.1 現存率 体部下端～底部遺存 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫・白色微粒子を少量含む 焼成 良好 色調 黄灰色2.5Y5/5 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に降灰
5	須恵器 埴A	質量 底径(6.3) 現存高2.6 現存率 体部下端～底部1/3 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫・白色微粒子を少量含む 焼成 やや酸化焰焼成さみ 色調 灰黄褐色～にぶい黄褐色10YR5/2～5/3 出土位置 調査区西側(I層)
6	須恵器 埴A	質量 底径6.4 現存高2.2 現存率 体部下端～底部ほぼ遺存 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 細礫を少量、白色微粒子をやや多く含む 焼成 良好 色調 黄灰色2.5Y5/5 出土位置 調査区西側(I層)
7	須恵器 埴A	質量 底径(6.4) 現存高2.8 現存率 体部下端～底部1/3 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 やや酸化焰焼成さみ 色調 にぶい黄褐色10YR7/3～6/3 出土位置 調査区西側(II層)
8	須恵器 坏B	質量 底径(9.8) 現存高1.8 現存率 体部下端～底部1/4弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ→全面ナデ→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 白色微粒子を少量含む 焼成 良好 色調 灰色7.5Y5/1 出土位置 調査区西側(I層)
9	須恵器 埴B	質量 底径(8.0) 現存高2.4 現存率 体部下端～底部2/3・高台部1/4弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部静止糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 黄灰色2.5YR6/1 出土位置 調査区中央(III層) 備考 内面見込み部に研磨
10	須恵器 埴B	質量 底径(8.2) 現存高2.4 現存率 体部下端～底部1/3弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫・白色微粒子を少量含む 焼成 良好 色調 褐灰色～褐黄灰色10YR5/1～5/2 出土位置 調査区西側(I層)
11	須恵器 埴B	質量 口径(15.0) 底径(8.4) 器高5.4 現存率 口縁～体部1/5・底部1/2弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-口縁～体部回転ナデ 底部静止あるいは回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を含む 焼成 良好 色調 にぶい赤褐色5YR4/4・暗オリーブ色5Y4/3(釉) 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面全面に自然釉が付着・底部外面に気泡
12	須恵器 埴B	質量 口径(15.8) 底径(8.5) 器高5.5 現存率 口縁～体部1/5・底部1/3 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-口縁～体部回転ナデ 底部静止あるいは回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 白色微粒子を含む 焼成 良好 色調 褐灰色～にぶい黄褐色10YR4/1～4/3 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に自然釉が付着
13	須恵器 埴B・ⅢB	質量 底径(8.8) 現存高3.5 現存率 体部下端～底部ほぼ遺存・高台部1/2 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部静止糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色7.5Y5/1・暗オリーブ色5Y4/3(自然釉) 出土位置 I層 備考 内面全面に自然釉が付着
14	須恵器 埴B・ⅢB	質量 底径(7.3) 現存高2.5 現存率 体部下端～底部1/3・高台部小片 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色5YR5/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に重ね焼きの変色あり
15	須恵器 埴B・ⅢB	質量 底径(8.5) 現存高2.3 現存率 底部1/2強 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-底部静止あるいは回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 白色微粒子をやや多く含む 焼成 良好 色調 灰色5YR4/1 出土位置 調査区中央(III層) 備考 内面に降灰
16	須恵器 ⅢB	質量 底径6.7 現存高3.5 現存率 体部小片・底部ほぼ遺存 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-回転ナデ 底部粘土癒着・高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 黒色・白色粒子を含む 焼成 良好 色調 外面-褐灰色～灰黄褐色10YR4/1～4/2 内面-黄灰色2.5Y6/1(底部) 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に降灰・重ね焼きの痕跡・気泡剥離欠損
17	須恵器 ⅢB	質量 底径(7.0) 現存高2.5 現存率 体部下端～底部1/2弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部糸切り→ナデ→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 白色微粒子をやや多く含む 焼成 良好 色調 灰色5Y5/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に降灰
18	須恵器 ⅢB	質量 口径(14.4) 底径7.3 器高3.0 現存率 口縁～体部小片・底部ほぼ遺存 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-口縁～体部回転ナデ 底部回転糸切り→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 外面-灰色7.5YR6/1 出土位置 調査区西側(I層)
19	須恵器 ⅢB	質量 底径(8.0) 現存高2.1 現存率 体部下端～底部1/3弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部糸切り→ナデ→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 小礫を微量含む 焼成 やや酸化焰焼成さみ 色調 にぶい黄褐色10YR5/3 出土位置 調査区中央(III層) 備考 内面に重ね焼き痕
20	須恵器 ⅢB	質量 口径(13.2) 底径(8.0) 器高3.6 現存率 1/5 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-口縁～体部回転ナデ 底部高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 外面-にぶい赤褐色7.5YR5/4 内面-灰白色2.5Y7/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面に降灰

21	灰釉陶器 壺	法量 底径(8.0) 現存高1.9 現存率 体部下端～底部1/6 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色5Y7/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 外面-無釉 内面-施釉(オリープ灰色10Y6/2)・重ね焼き痕があり、その内側は無釉 黒笹90号窯式並行
22	灰釉陶器 壺	法量 底径(8.0) 現存高1.8 現存率 体部下端～底部1/5弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部回転ヘラケズリ→高台貼付→周縁ナデ 内面-回転ナデ 胎土 堅緻 焼成 良好 色調 灰白色2.5Y7/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内面は滑らか 黒笹90号窯式並行
23	灰釉陶器 長頸瓶	法量 頸基部径(7.0) 現存高1.9 現存率 頸基部付近1/5 調整 内外両面-ロクロ調整・ナデ 胎土 堅緻 焼成 良好 色調 灰白色N8/0 出土位置 調査区西側(I層) 備考 外面-施釉(オリープ灰色10Y4/2)
24	須恵器 甕	法量 口径(25.6) 現存高5.4 現存率 口縁部1/8強 調整 内外両面-ロクロ調整・回転ナデ 胎土 堅緻 白色微砂粒・細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色5Y6/1 出土位置 調査区西側(I層) 備考 内外両面に自然釉(灰オリープ色7.5Y5/3)が付着
25	須恵器 甕	法量 口径(33.0) 現存高5.0 現存率 口縁部1/6強 調整 内外両面-ロクロ調整・回転ナデ 胎土 堅緻 白色微砂粒・細礫を少量含む 焼成 良好 色調 褐灰色10YR6/4 出土位置 調査区西側(I・III層) 備考 内外両面に自然釉(暗オリープ色7.5Y4/3)が付着
26	須恵器 甕	法量 現存高4.1 現存率 胴部下端～底部小片 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-胴部回転ナデ・ヘラナデ 底部自然釉が付着 内面-自然釉が付着 胎土 堅緻 細礫を含む 焼成 良好 色調 灰色5Y6/1・暗オリープ色5Y6/3(自然釉) 出土位置 調査区西側(I層)
27	須恵器 甕	法量 底径(16.0) 現存高5.6 現存率 胴部下端～底部1/5 調整 外面-胴部斜位平行叩き締め・指ナデ・ヘラナデ 底部ヘラナデ 内面-ヘラナデ 胎土 堅緻 細礫を含む 焼成 良好 色調 灰色5YR5/1 出土位置 調査区西側(I層)
28	須恵器 甕	法量 現存高5.8 現存率 胴部下端～底部小片 調整 外面-胴部斜位平行叩き締め・ナデ 底部ヘラナデ 内面-ナデ 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 オリープ黒色5Y3/1・黄褐色2.5Y5/3(自然釉) 出土位置 調査区西側(I層) 備考 外面-底部に降灰・付着物 内面-胴部に降灰 底部に自然釉が付着
29	須恵器 甕	法量 底径(14.8) 現存高5.8 現存率 胴部下端～底部小片 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-胴部回転ナデ 底部ヘラナデ 内面-自然釉が付着 胎土 堅緻 細礫を含む 焼成 良好 色調 外面-にぶい黄褐色10YR5/3(胴部)・灰白色2.5Y7/1(底部) 内面-灰オリープ色5Y6/2(自然釉) 出土位置 調査区西側(I層)
30	陶器 捏ね鉢	法量 現存高5.6 現存率 口縁部片 調整 内外両面-ロクロ調整・回転ナデ 胎土 堅緻 白色針状物質・細礫を少量含む 焼成 良好 色調 灰色10Y5/1～6/1 出土位置 I層 備考 山茶碗窯系(13世紀代)
31	灰釉陶器 壺	法量 底径(5.4) 現存高1.7 現存率 体部下端～底部1/4弱 調整 内外両面-ロクロ調整 外面-体部回転ナデ 底部削り出し高台 内面-施釉 胎土 堅緻 細礫を少量含む 焼成 良好 色調 にぶい橙色5YR6/4・灰オリープ色7.5Y5/3(灰釉) 出土位置 調査区西側(I層) 備考 瀬戸・美濃大窯期(16世紀代)
32	陶器 無釉 焼締甕	法量 現存高2.9 現存率 口縁部片 調整 内外両面-ロクロ調整・回転ナデ(N字状口縁) 胎土 白色粒子・礫(φ5mm)を少量含む 焼成 良好 色調 暗褐色10YR3/4・灰色5Y5/1(断面) 出土位置 調査区西側(I層) 備考 常滑(14世紀代)



調査区全景 (南西から)



調査区全景 (北東から)



1号住居跡 (南東から)



1号住居跡 (北東から)



1号住居跡土層断面（南東から）



1号住居跡炉跡 b（北西から）



1号住居跡遺物出土状態（北から）



1号住居跡埋甕検出状態（南東から）



1号住居跡埋甕埋設状態（南西から）左-埋甕 a、右-埋甕 b



2号住居跡（南東から）奥-3号住居跡



2号住居跡（北東から）右-3号、奥-4号住居跡



2号住居跡炉跡 (南東から)



2号住居跡埋甕 (南東から)



2号住居跡遺物出土状態 (北東から)



3号住居跡 (南東から)



3号住居跡 (北東から)



3号住居跡炉跡（南西から）



4号住居跡炉跡（北から）



5号住居跡（北西から）



4号住居跡（西から）



5号住居跡（南西から）



土坑群 (東から)



1号土坑 (北から)



1号土坑土層断面 (北西から)



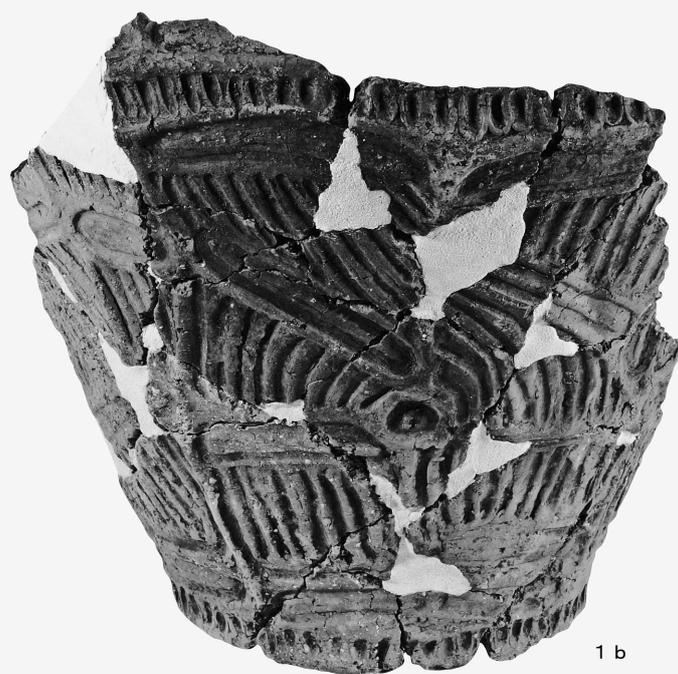
2号土坑 (北から)



2号土坑土層断面 (北西から)

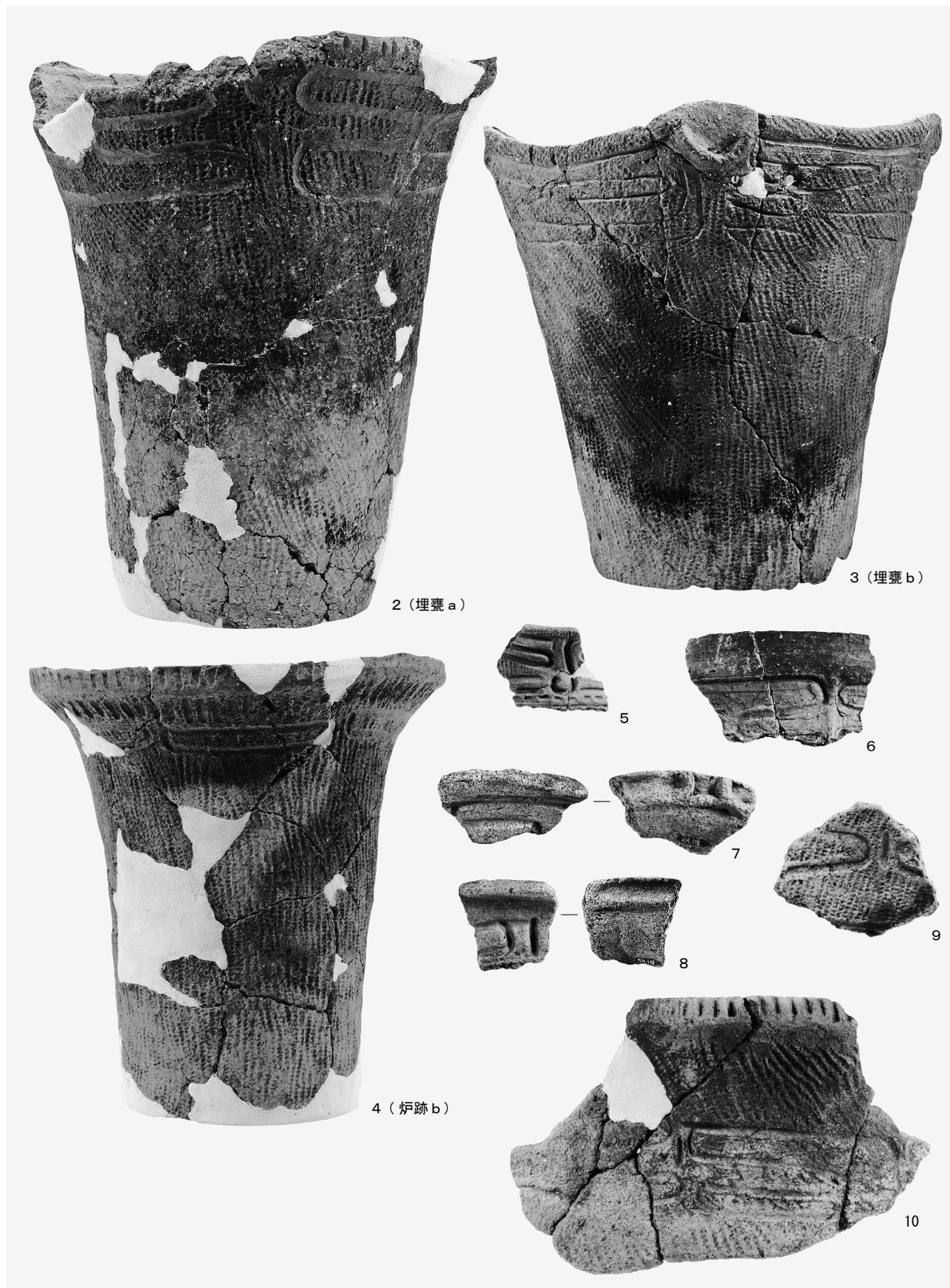


1 a



1 b

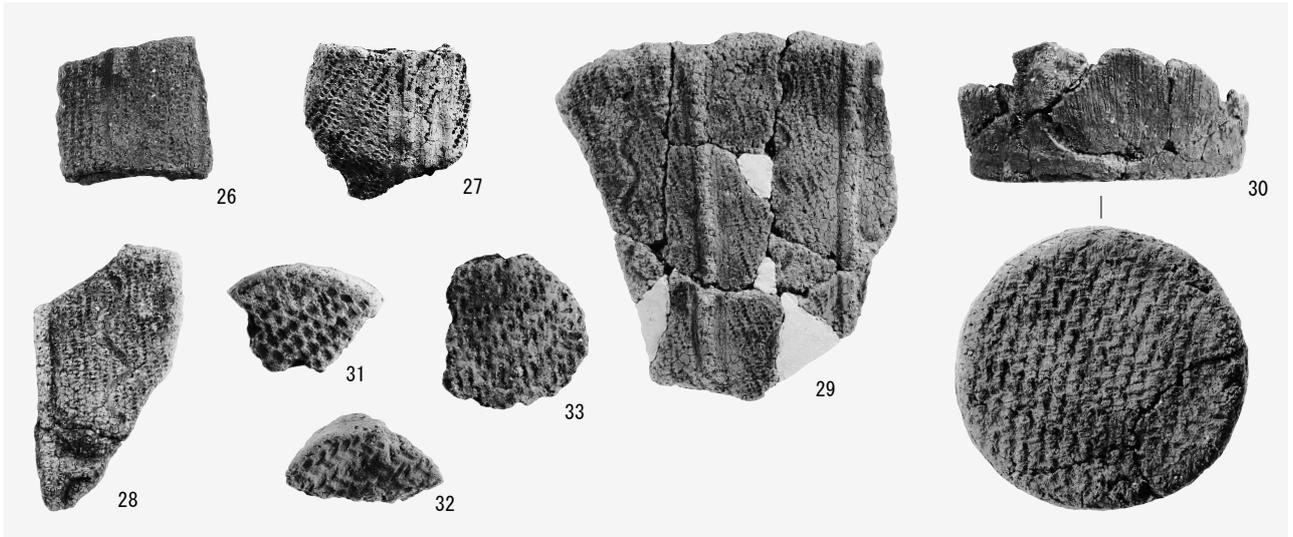
1号住居跡出土土器(1)



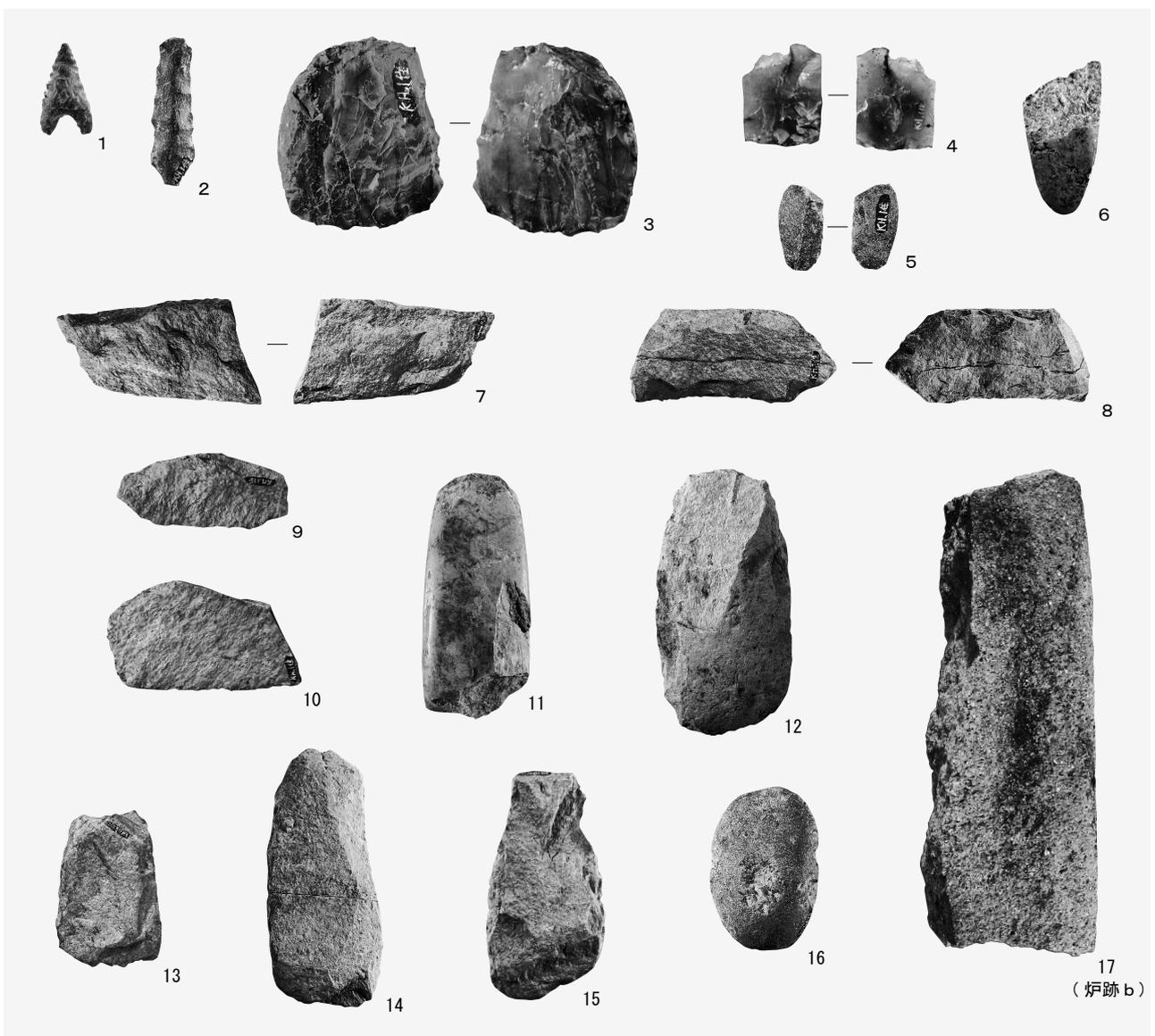
1号住居跡出土土器(2)



1号住居跡出土土器(3)



1号住居跡出土土器(4)



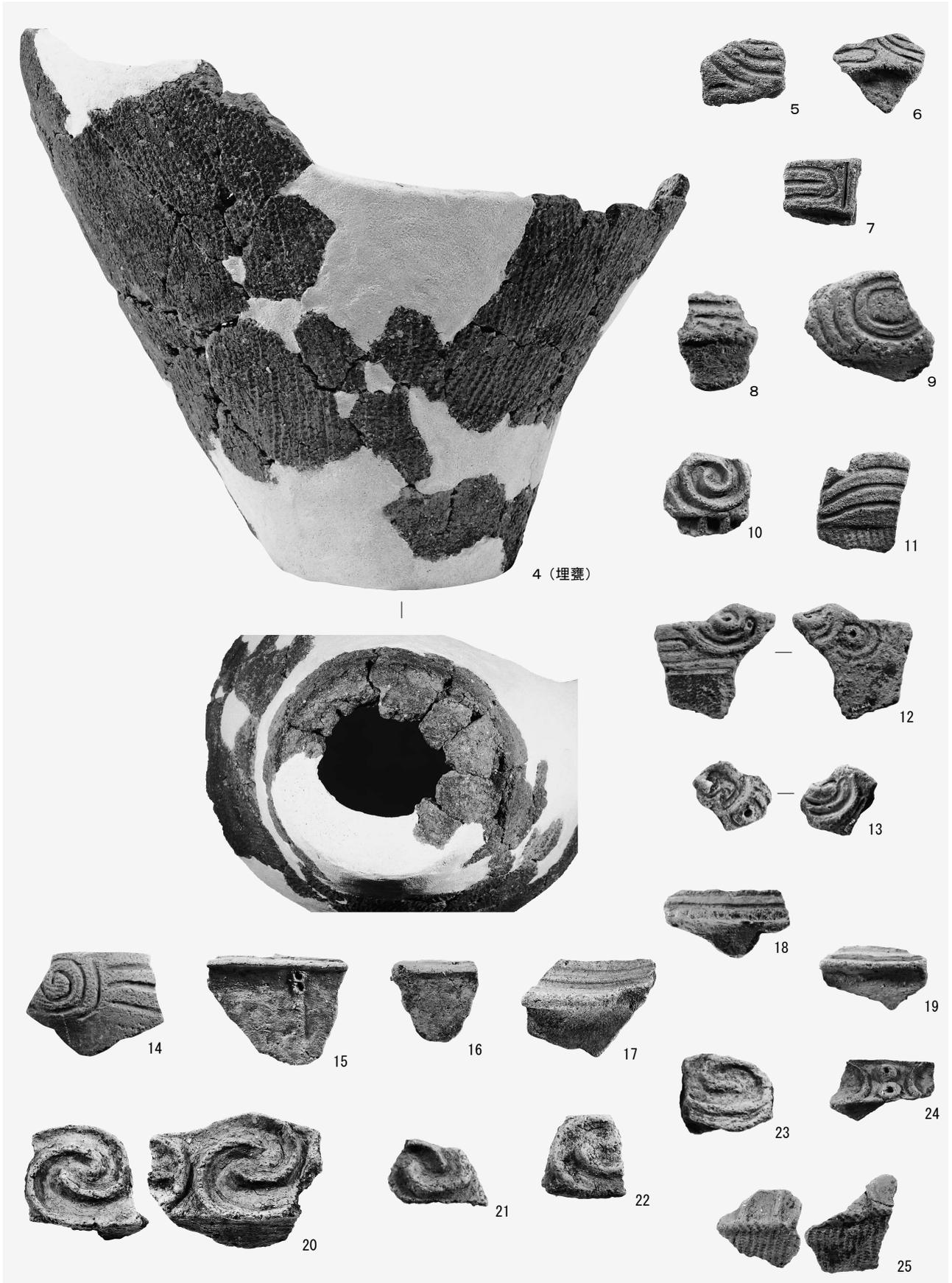
1号住居跡出土石器(1)



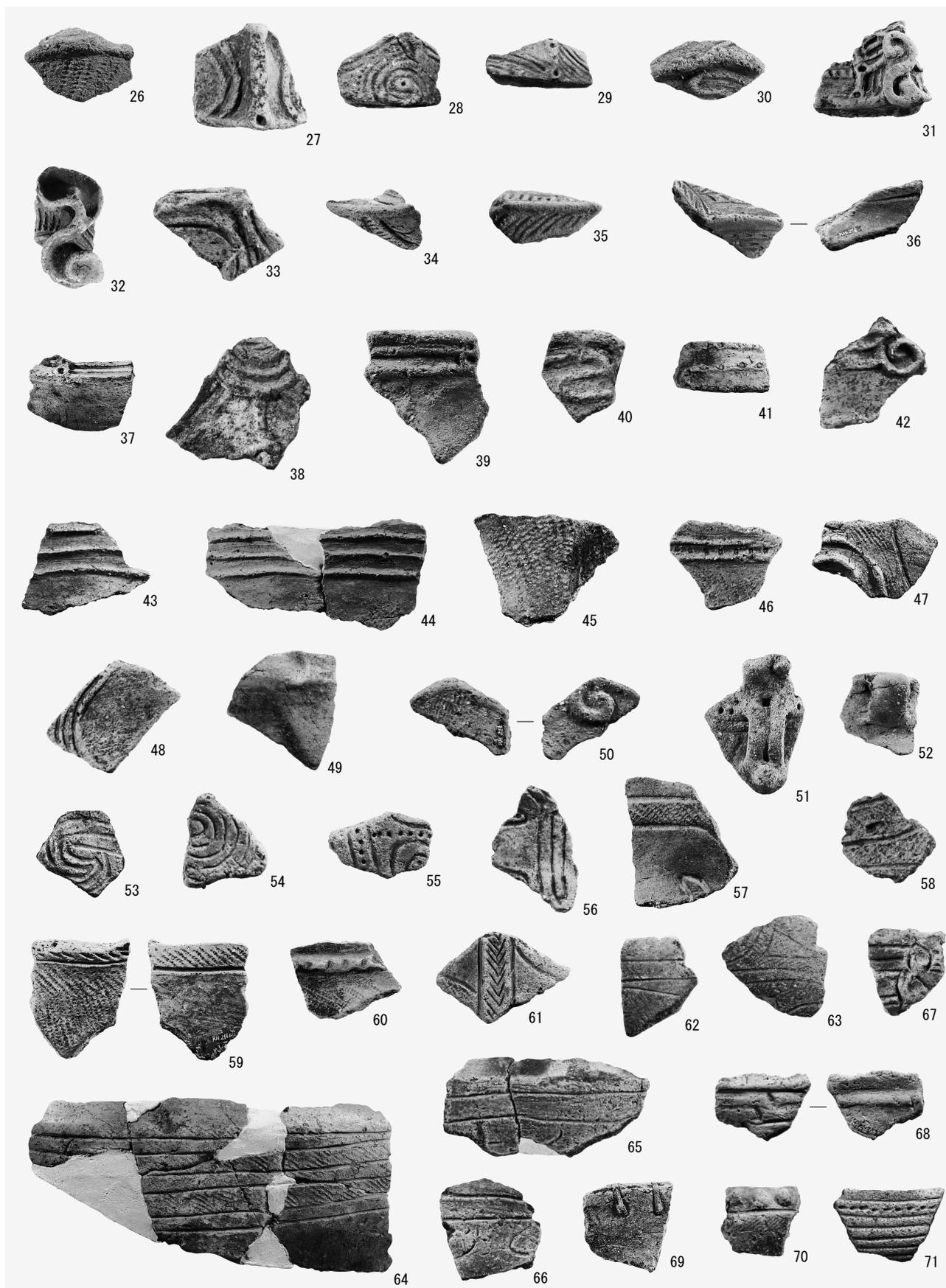
1号住居跡出土石器(2)



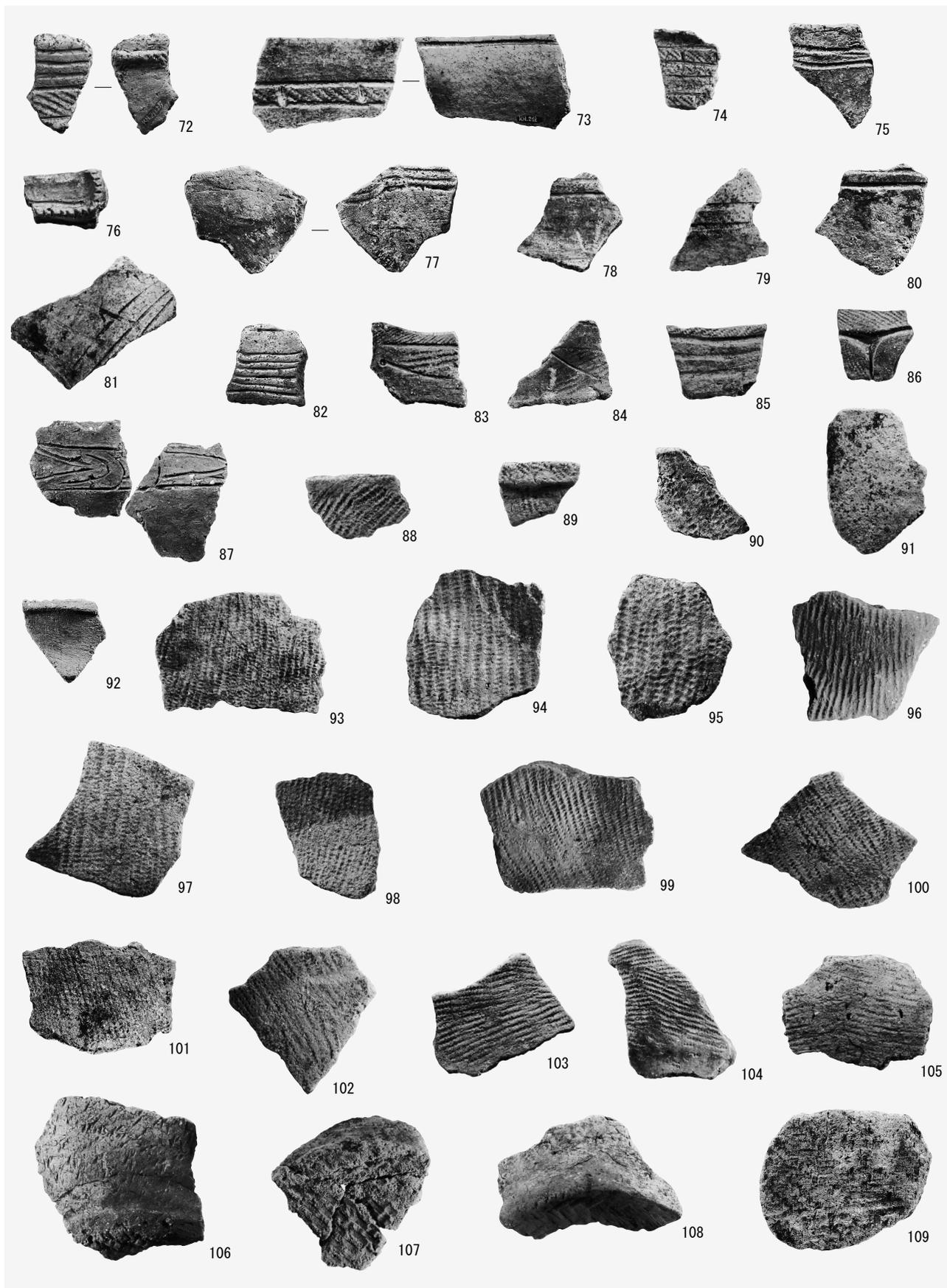
2号住居跡出土土器(1)



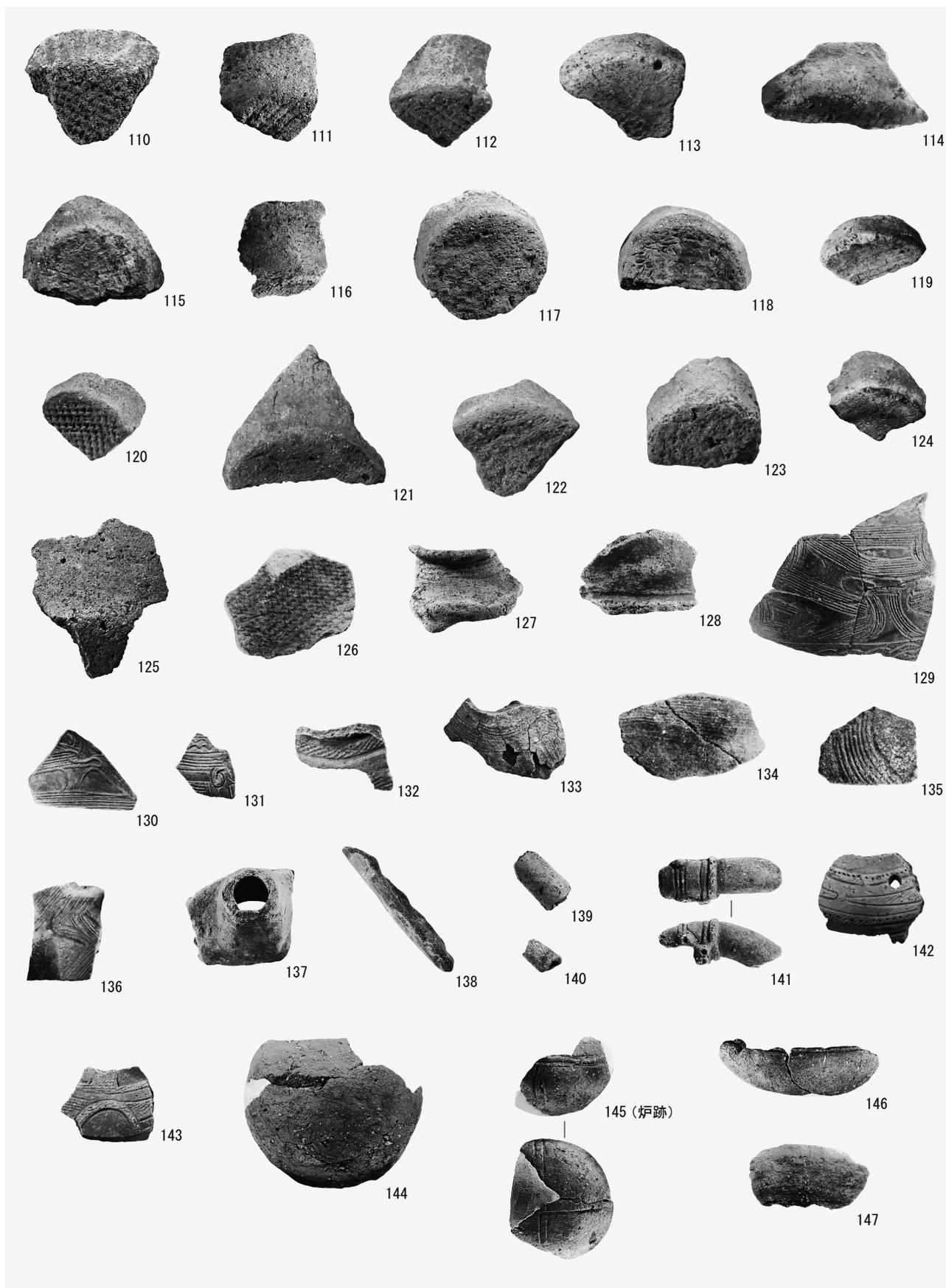
2号住居跡出土土器(2)



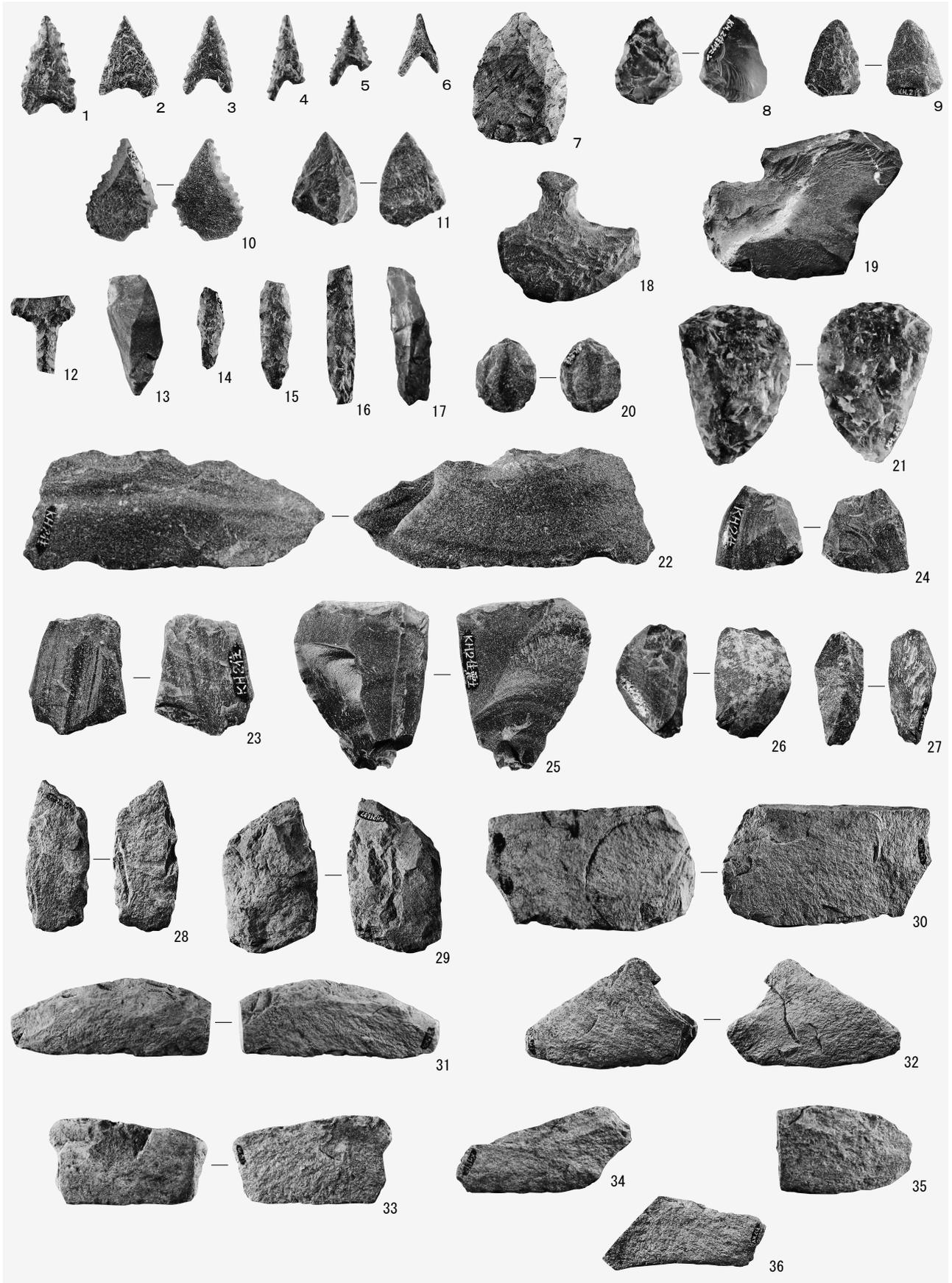
2号住居跡出土土器(3)



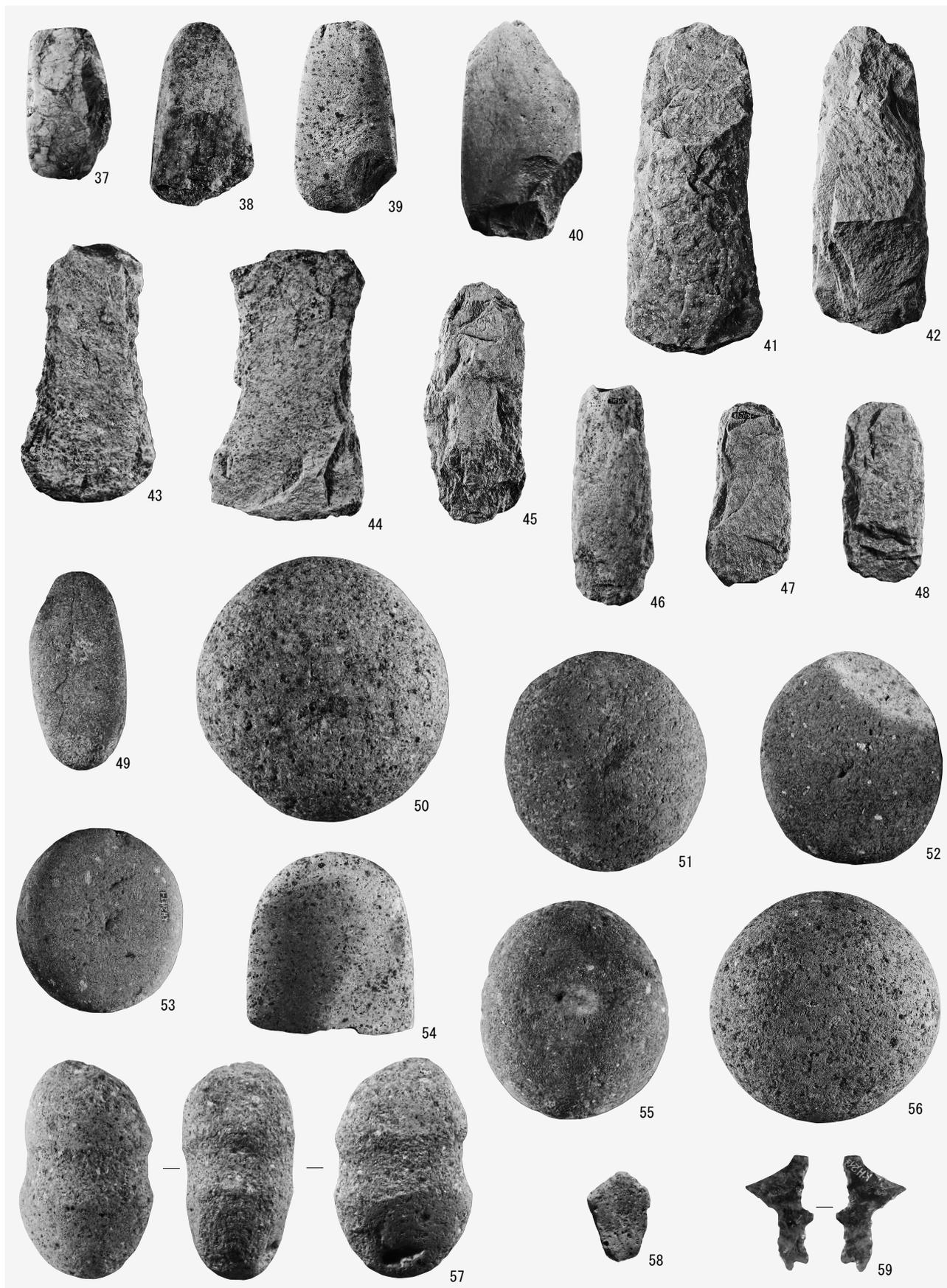
2号住居跡出土土器(4)



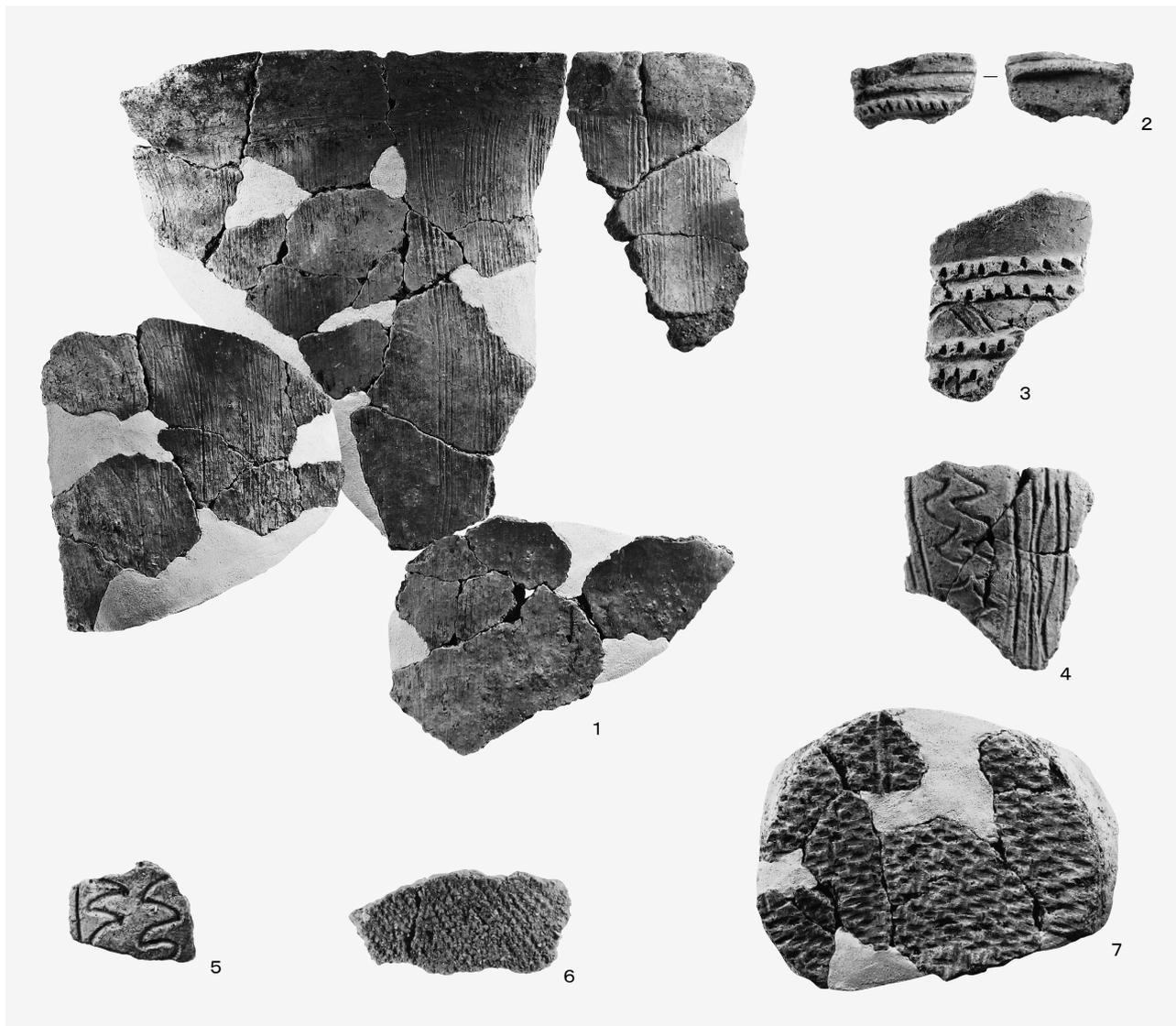
2号住居跡出土土器(5)



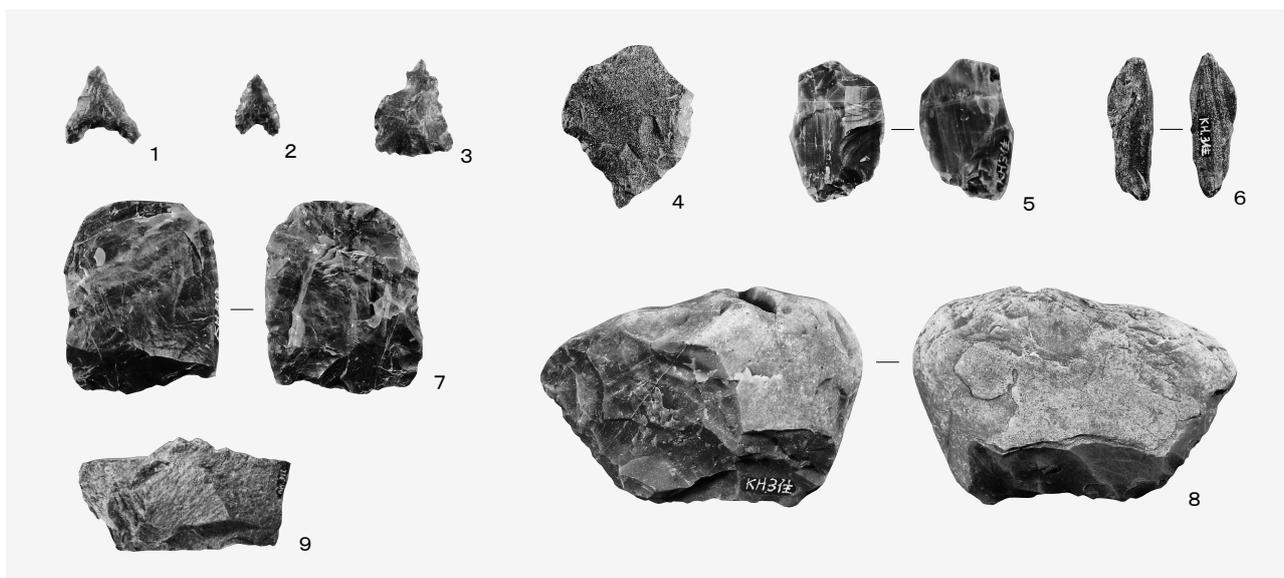
2号住居跡出土石器(1)



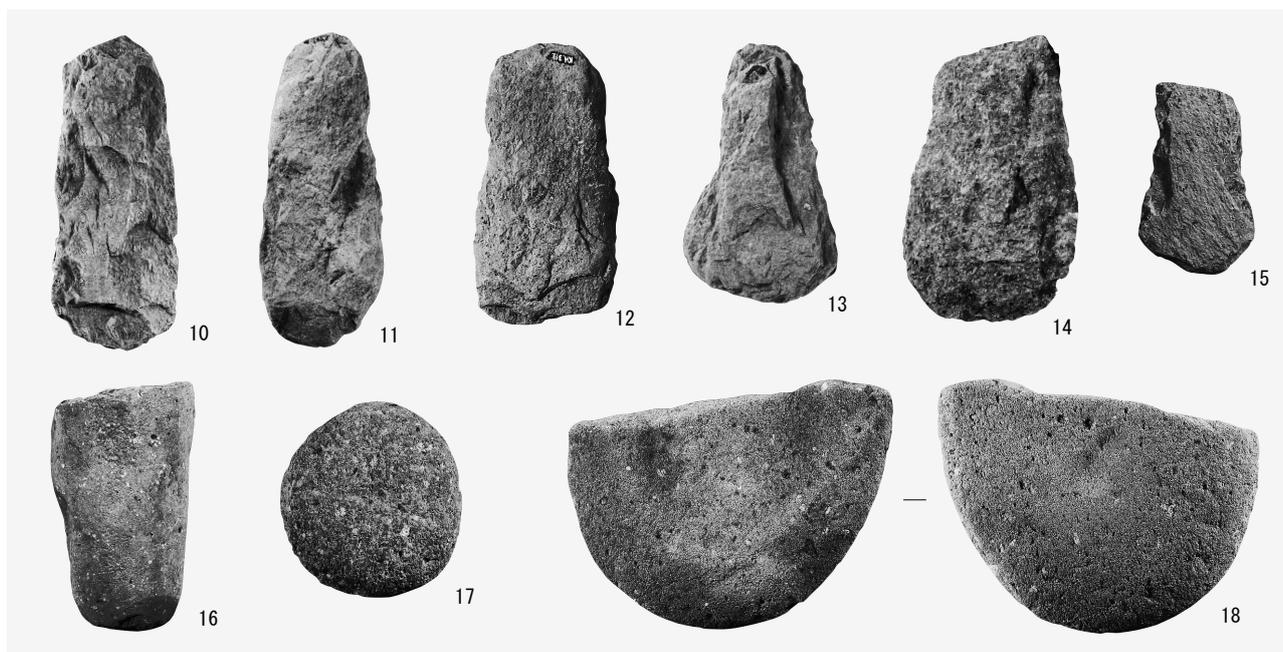
2号住居跡出土石器(2)



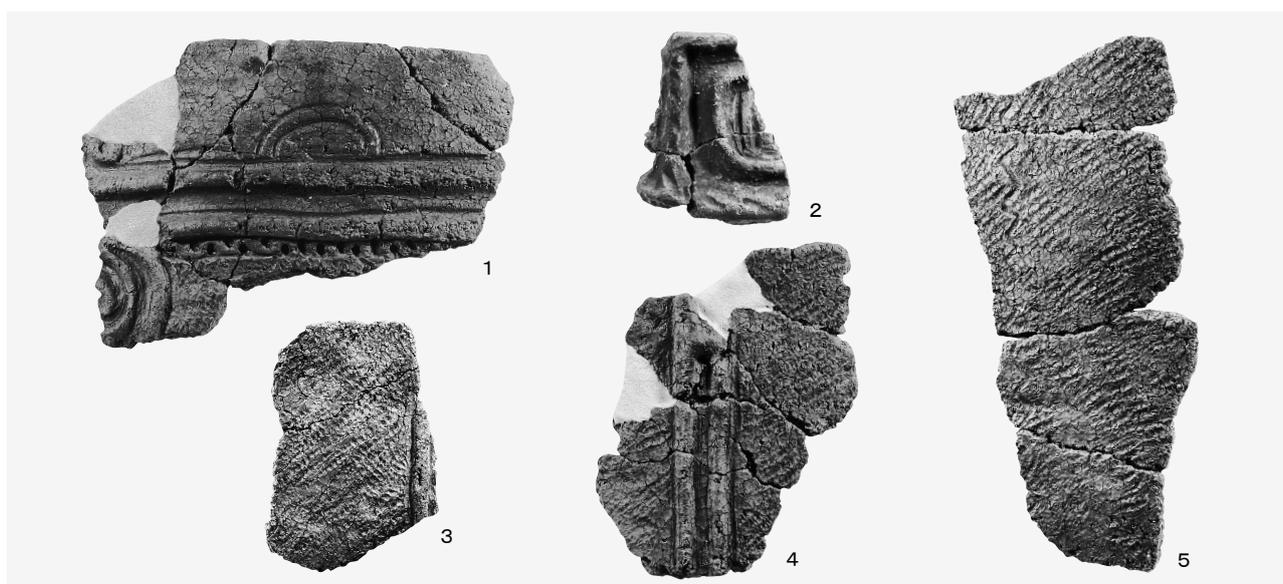
3号住居跡出土土器



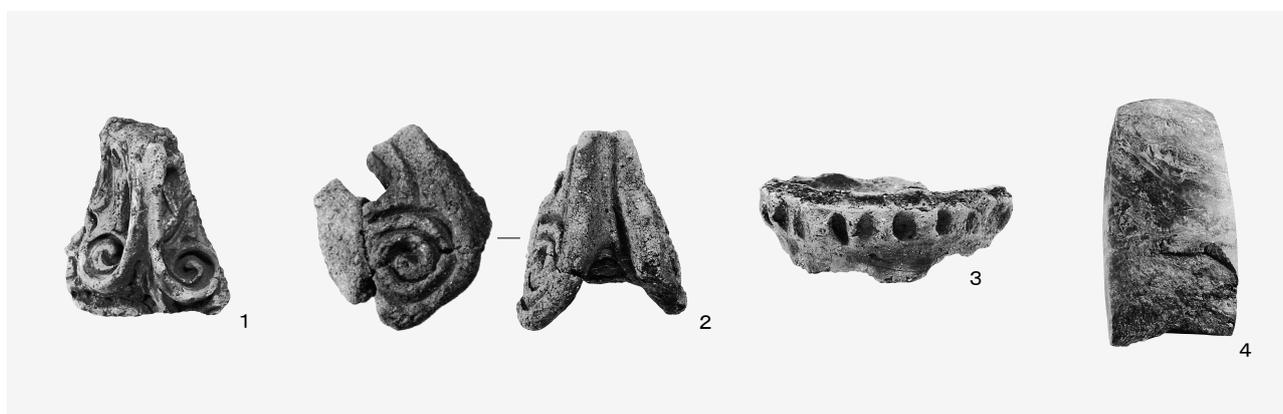
3号住居跡出土石器(1)



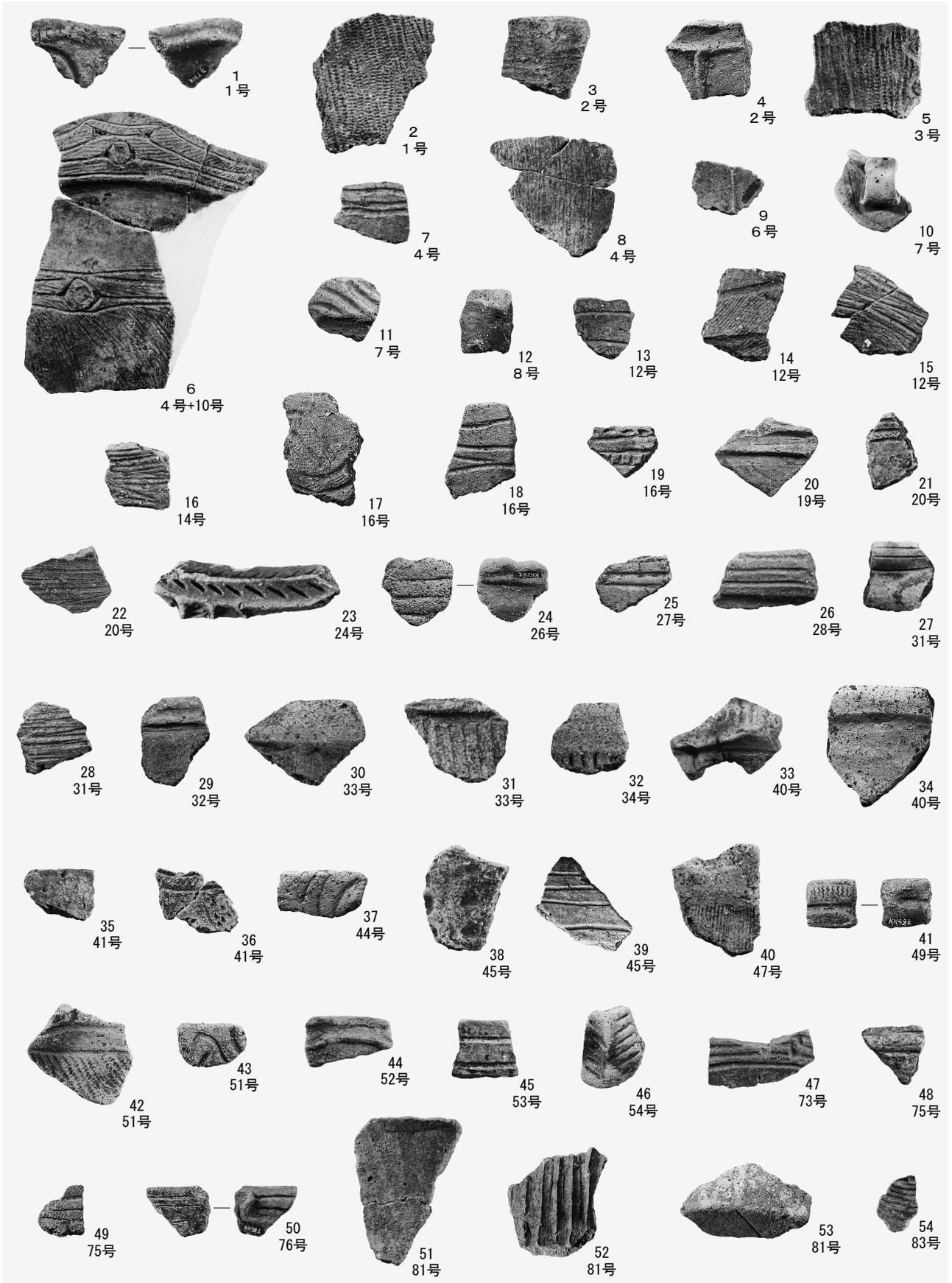
3号住居跡出土石器(2)



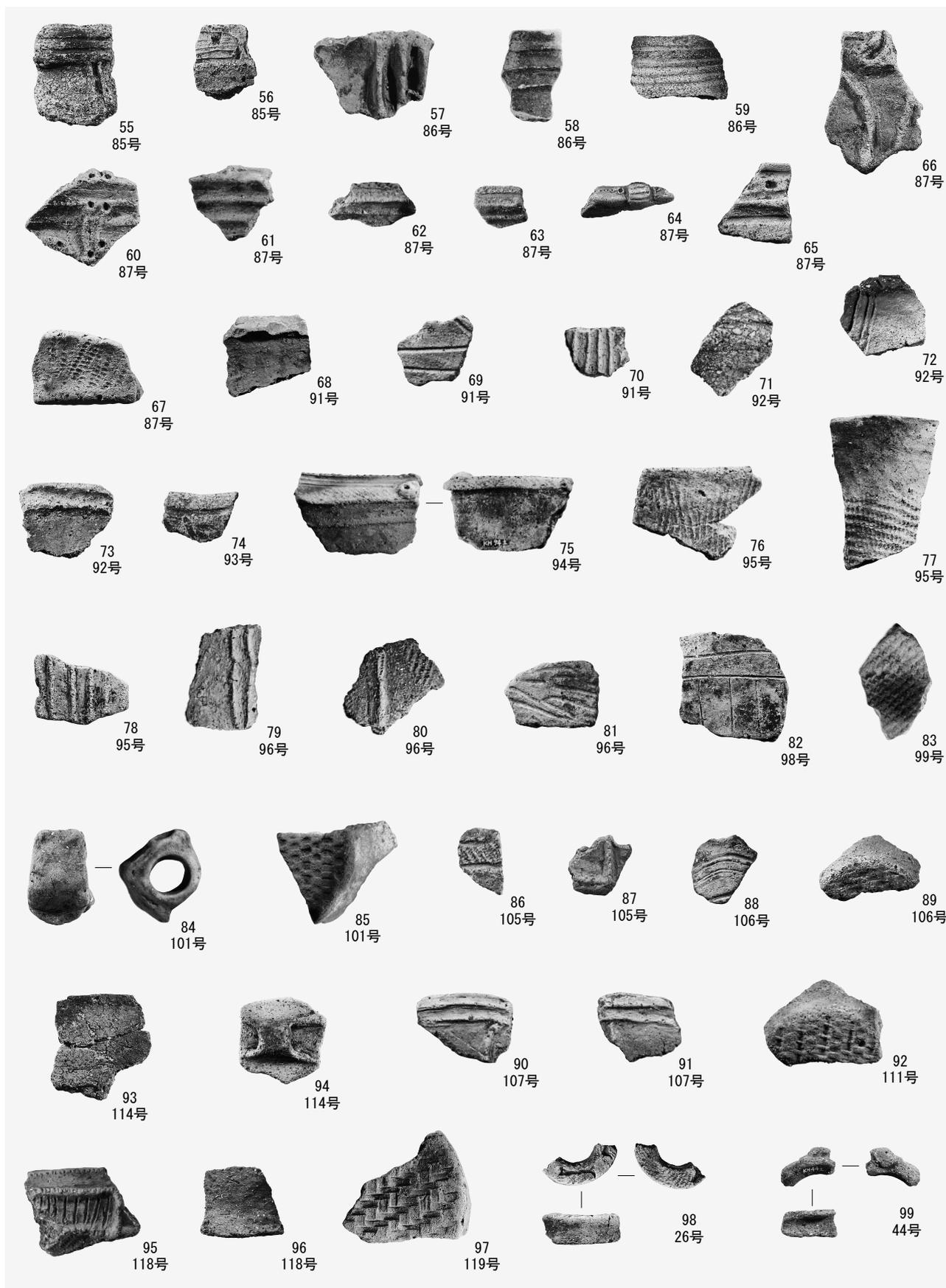
4号住居跡出土土器



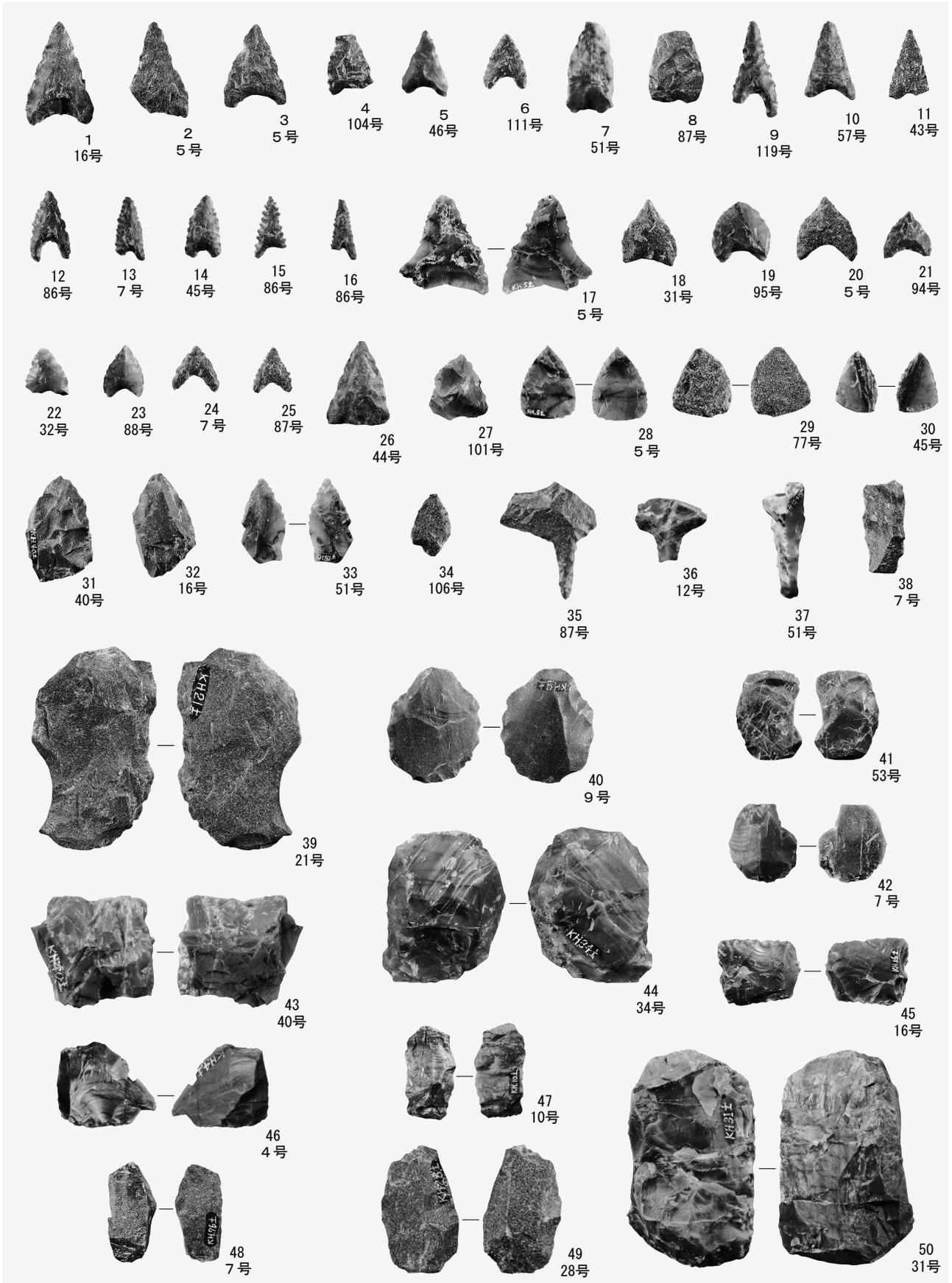
5号住居跡出土土器·石器



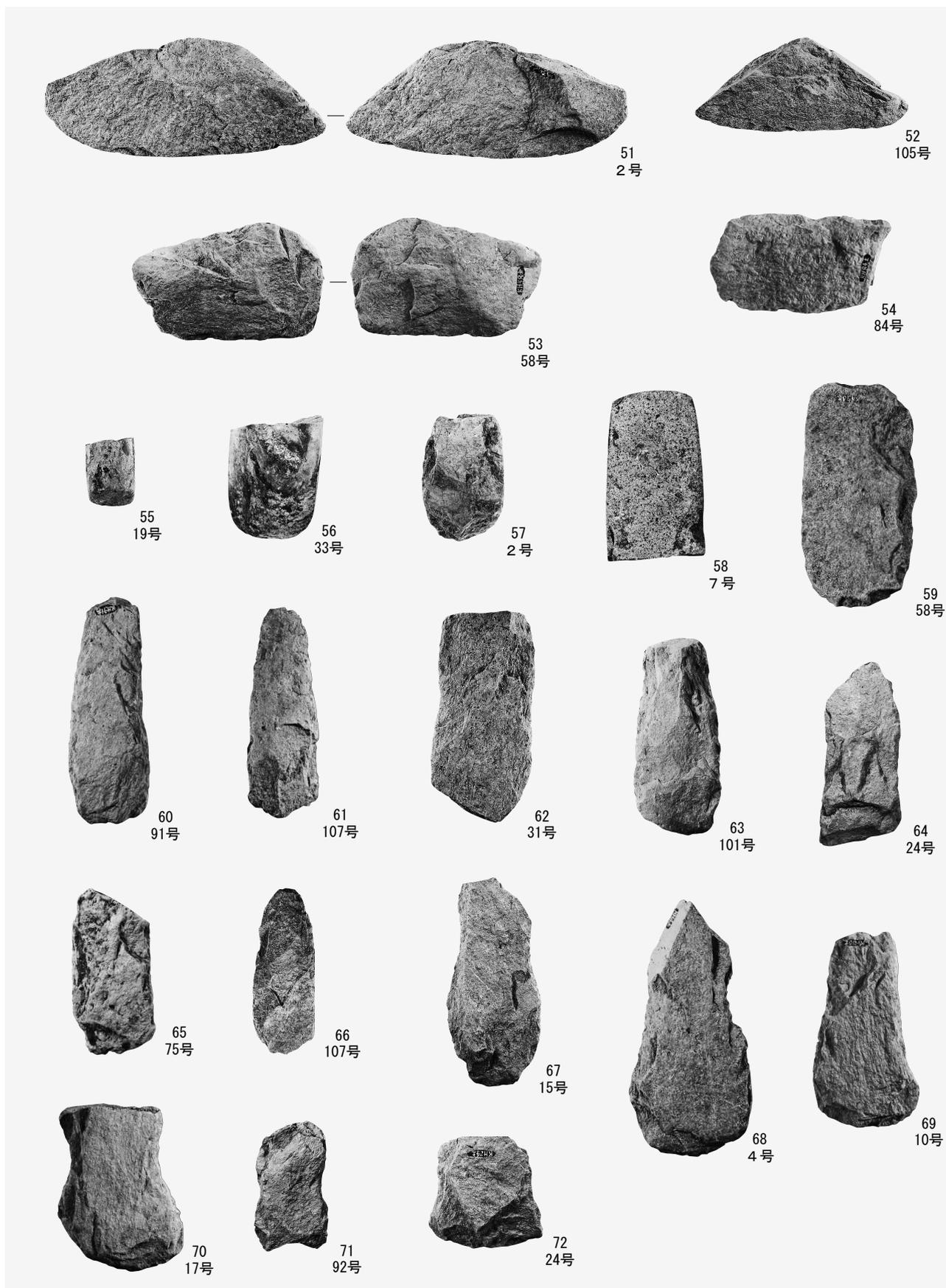
土坑出土土器(1)



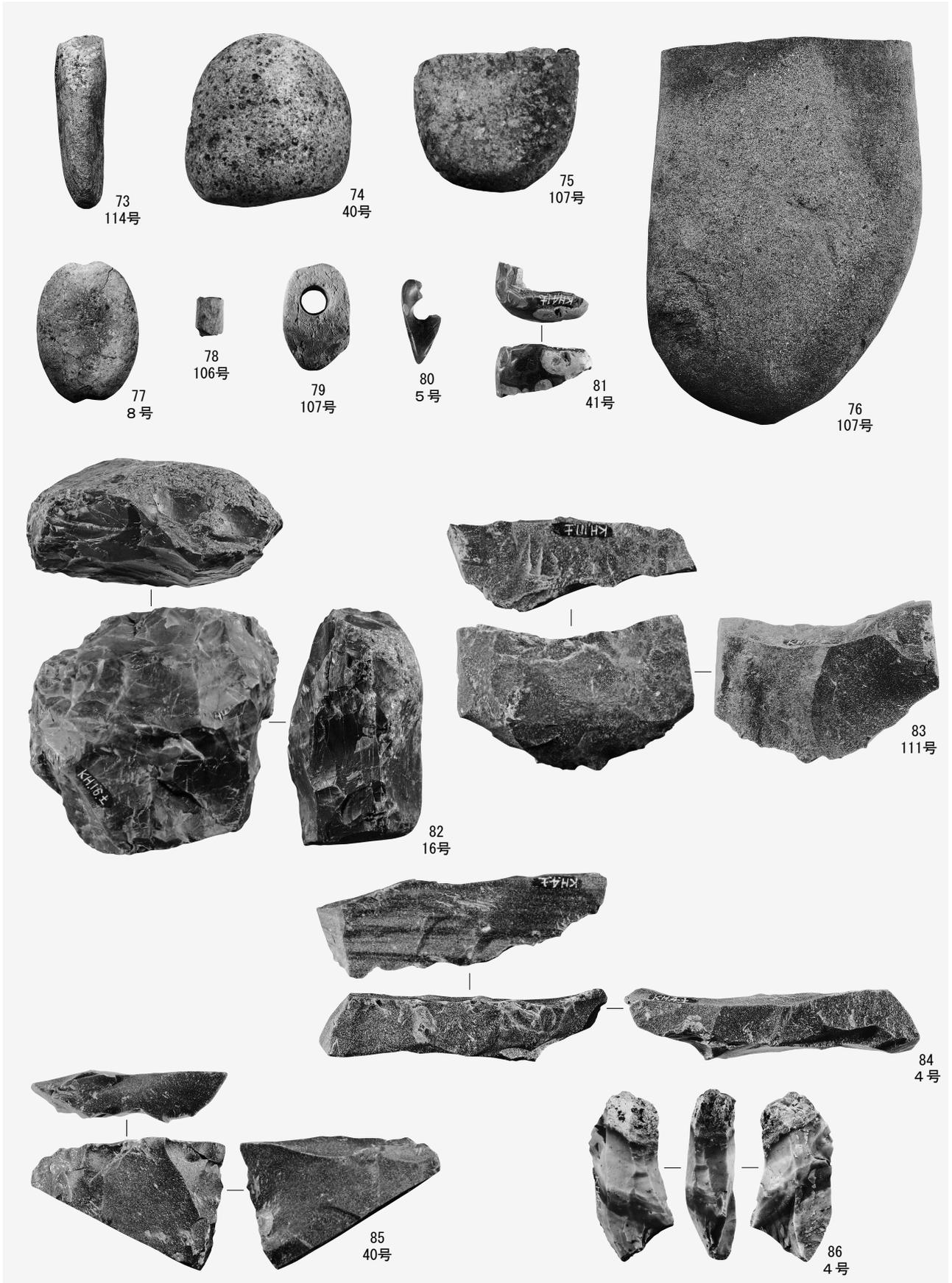
土坑出土土器(2)·土製品



土坑出土石器 (1)



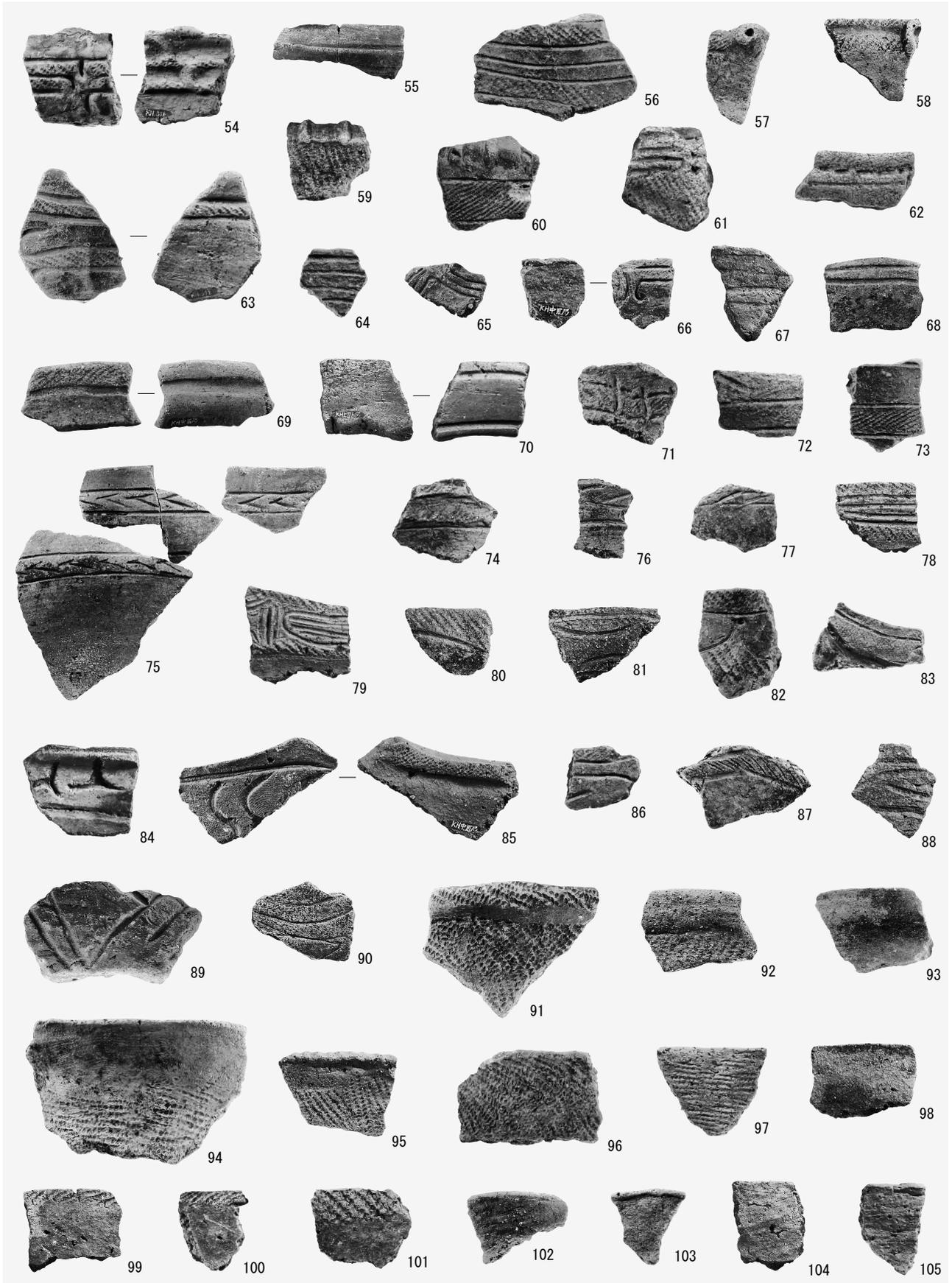
土坑出土石器(2)



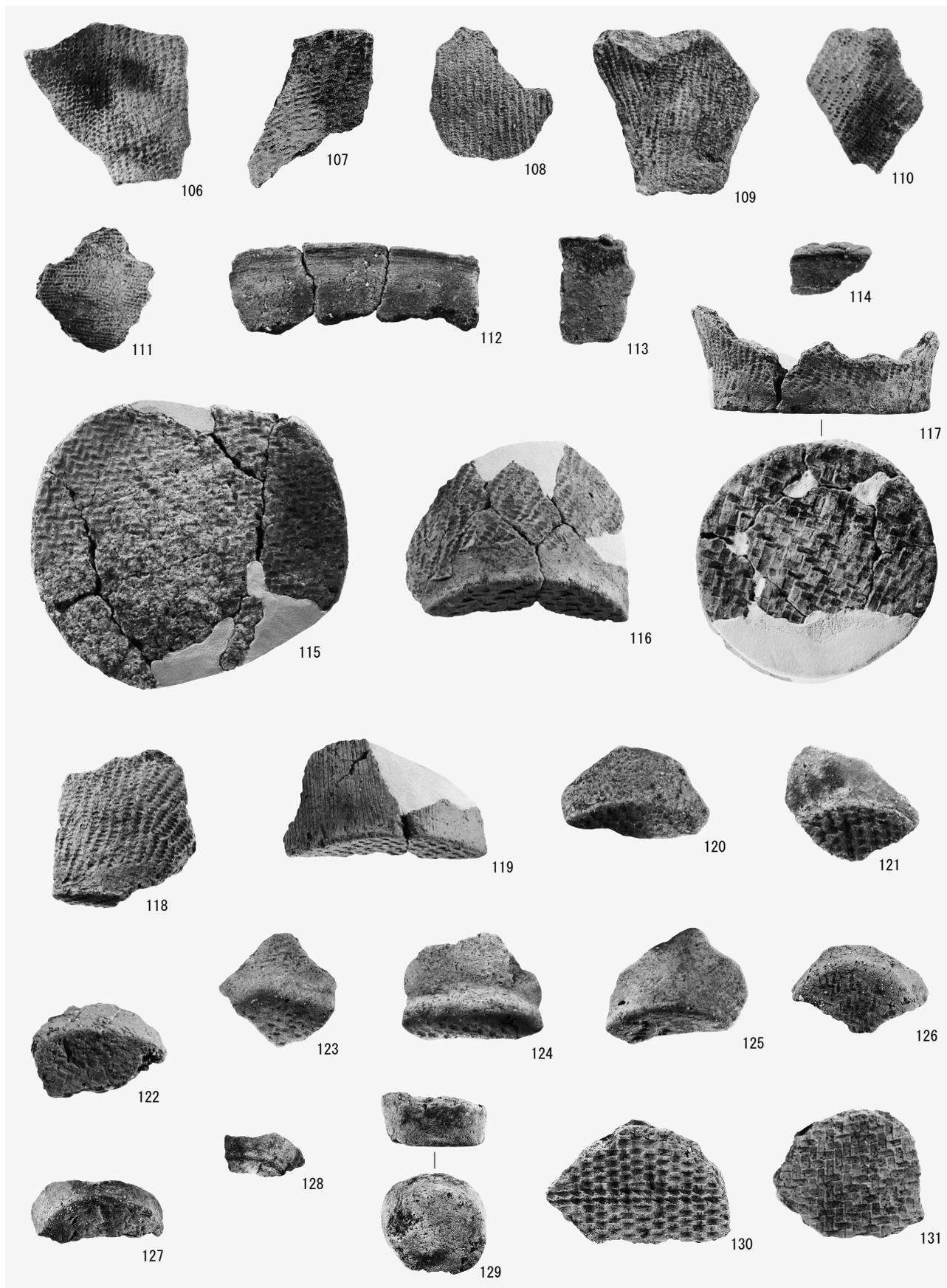
土坑出土石器(3)・石製品



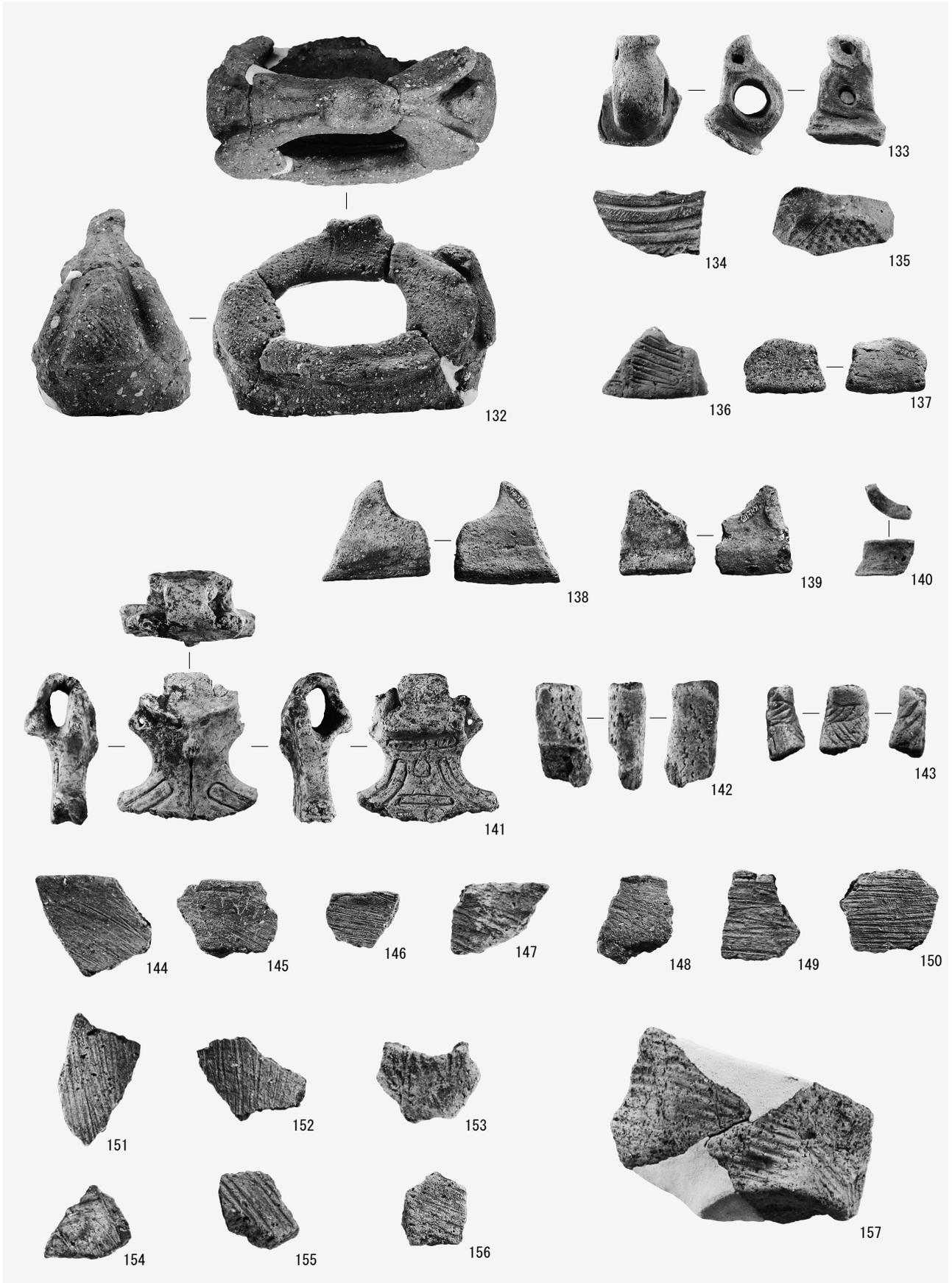
包含層出土土器 (1)



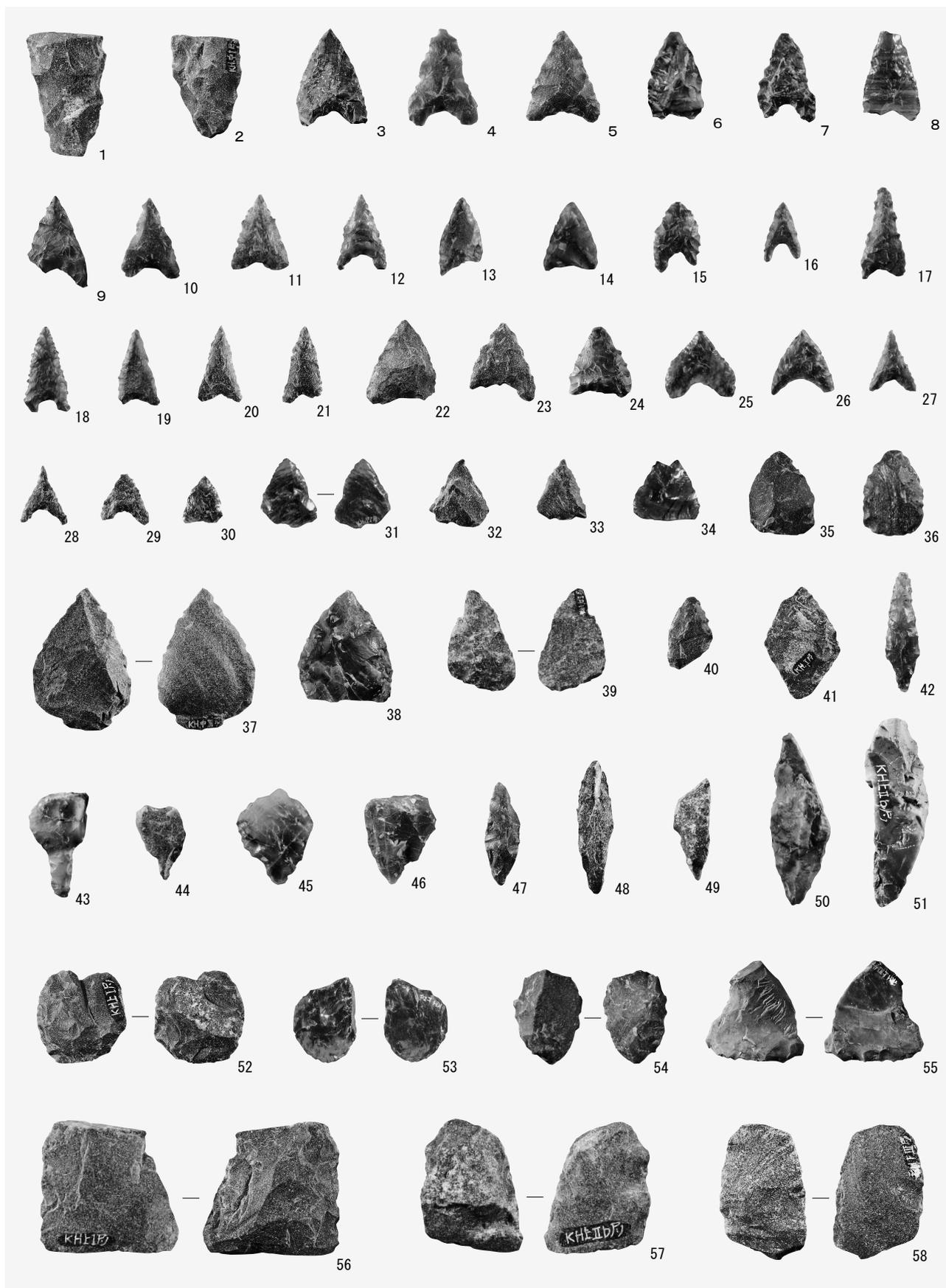
包含層出土土器 (2)



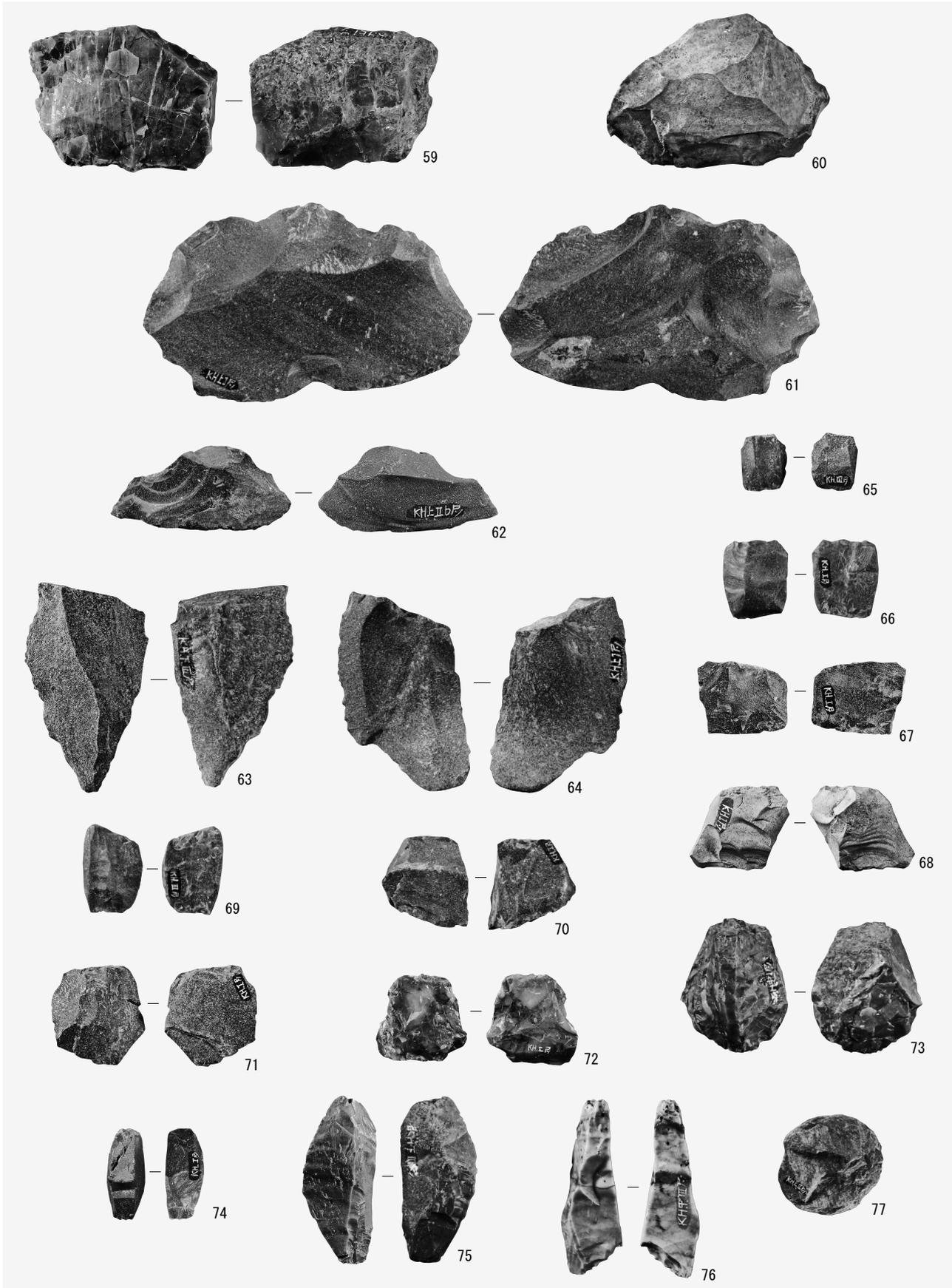
包含層出土土器 (3)



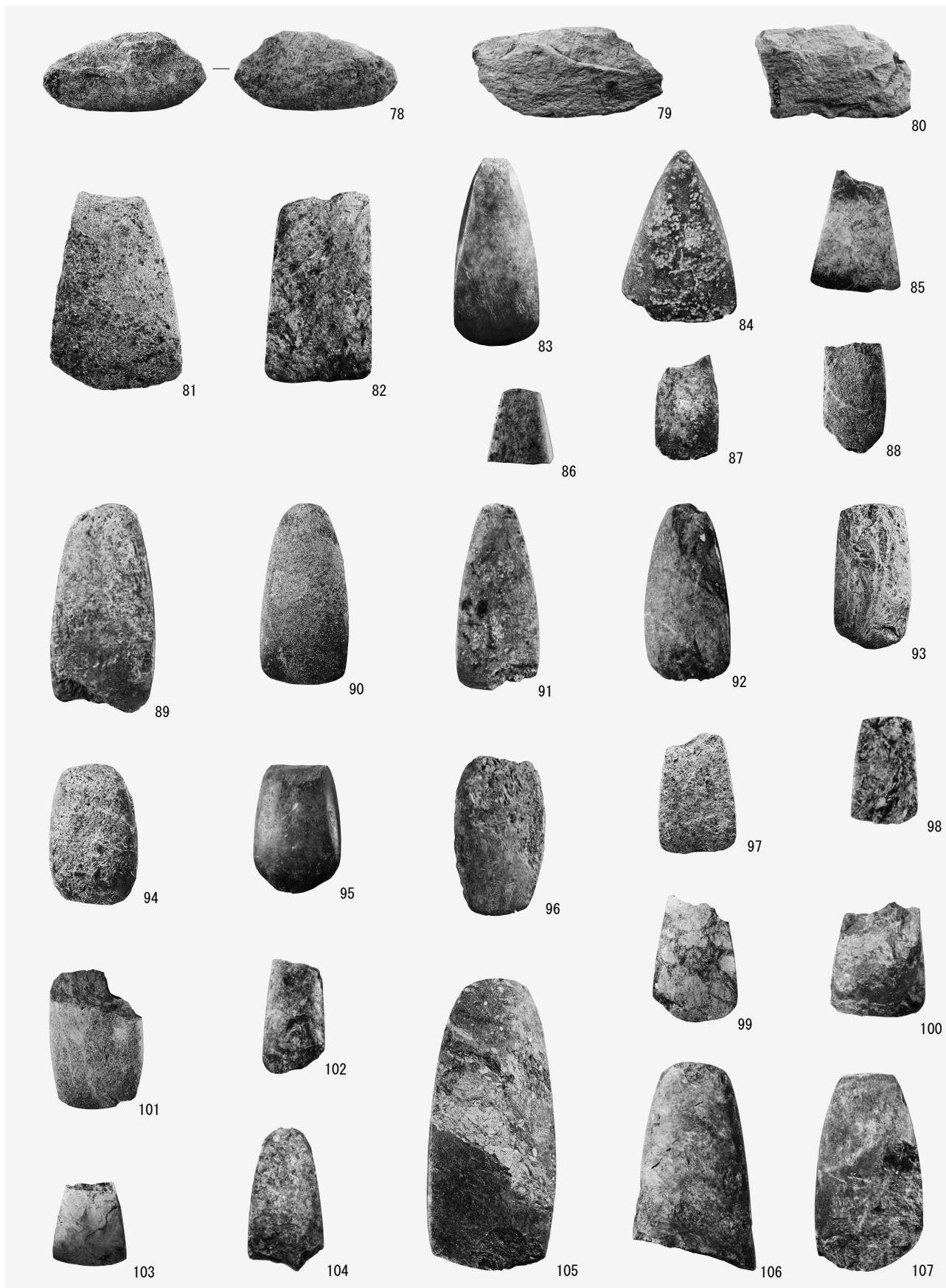
包含層出土土器(4)・土製品



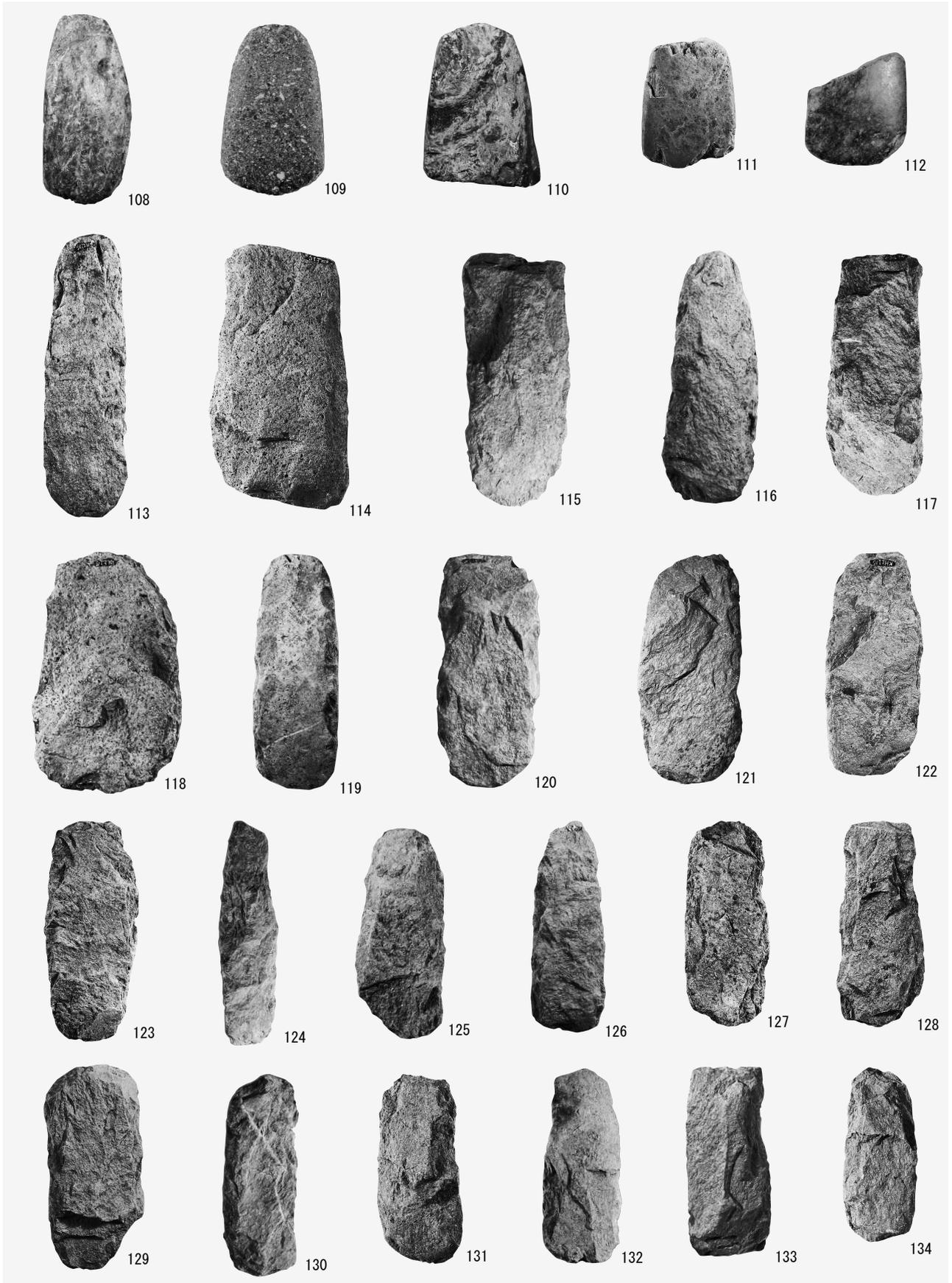
包含層出土石器 (1)



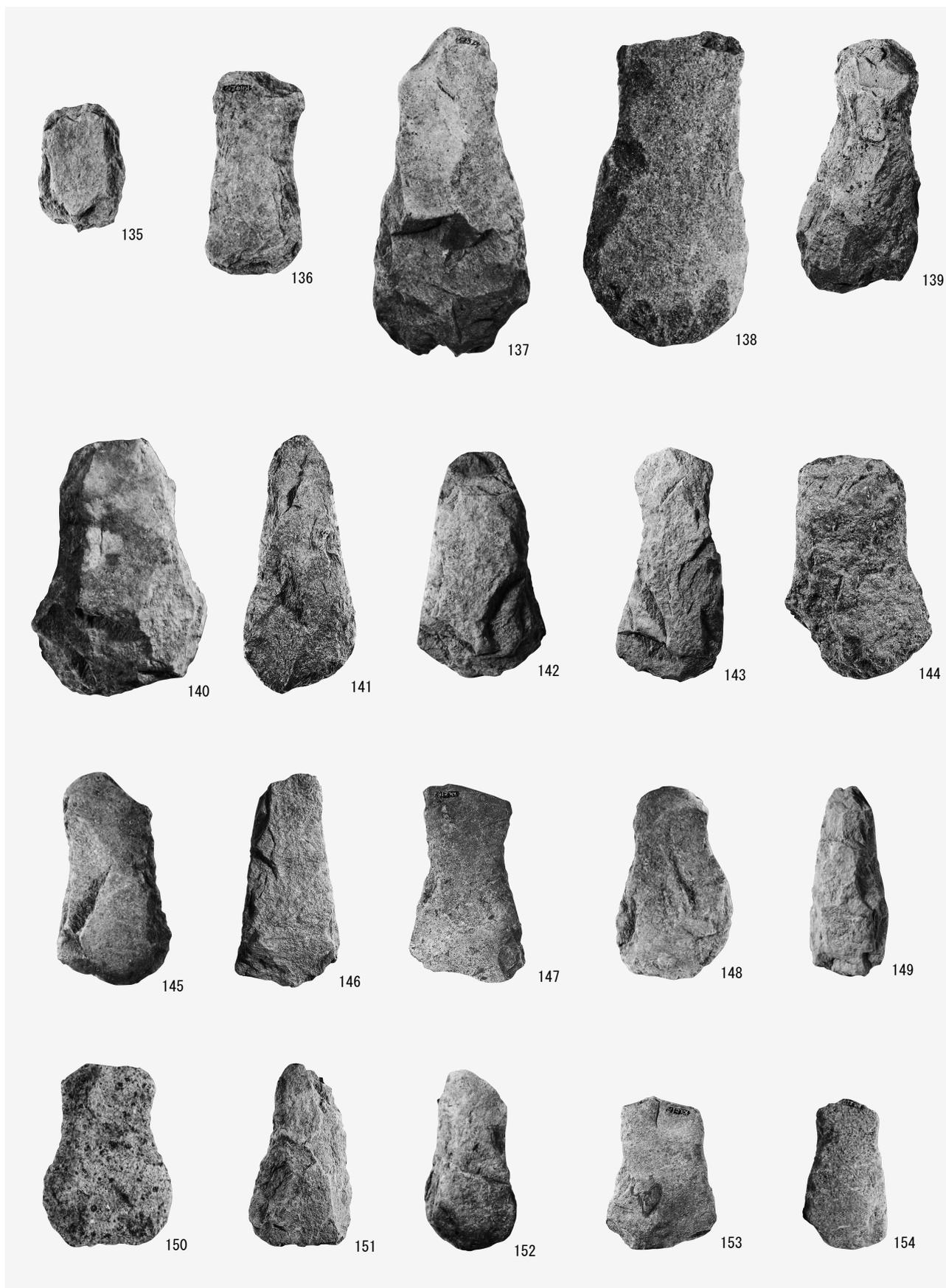
包含層出土石器（2）



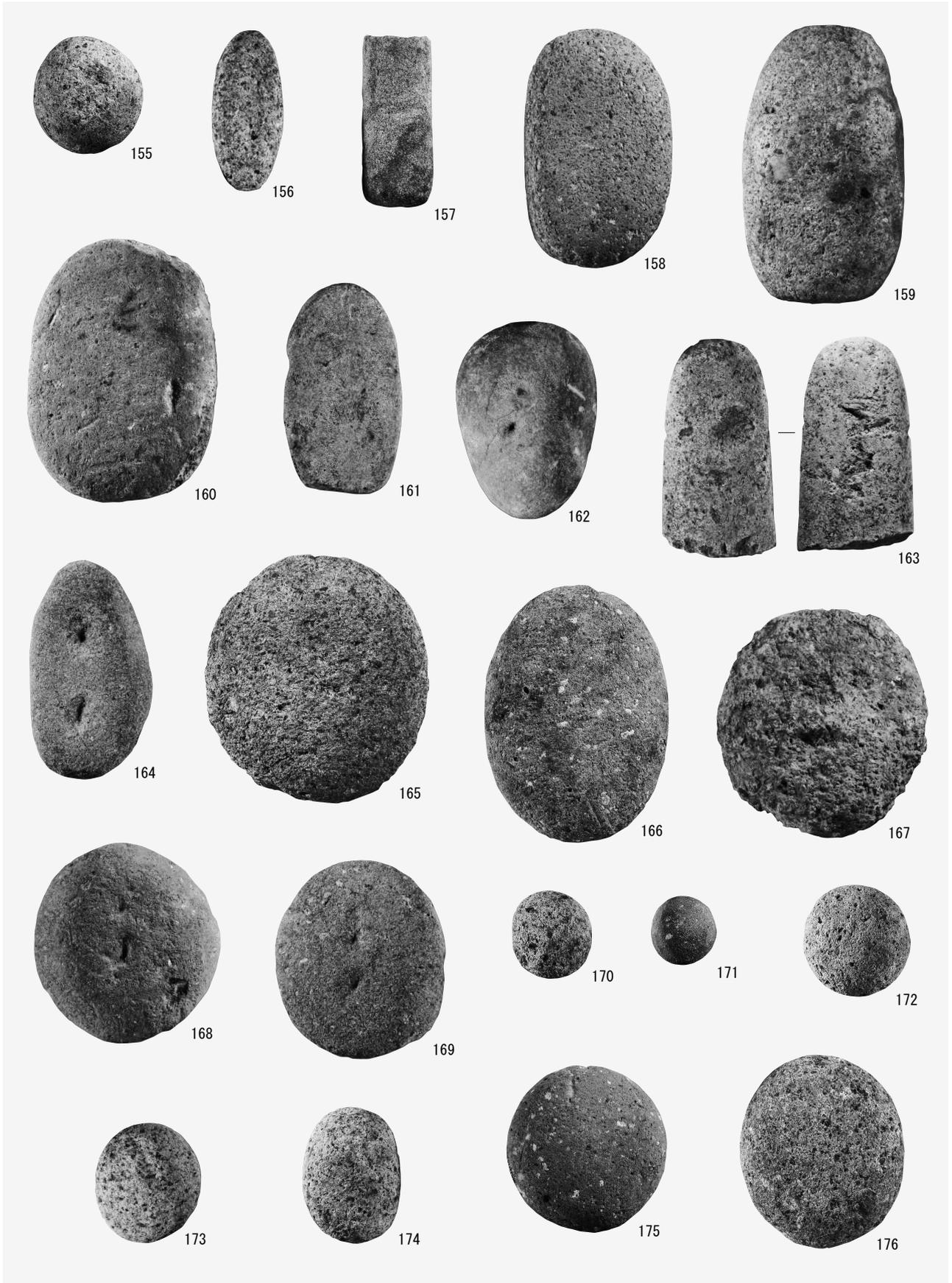
包含層出土石器 (3)



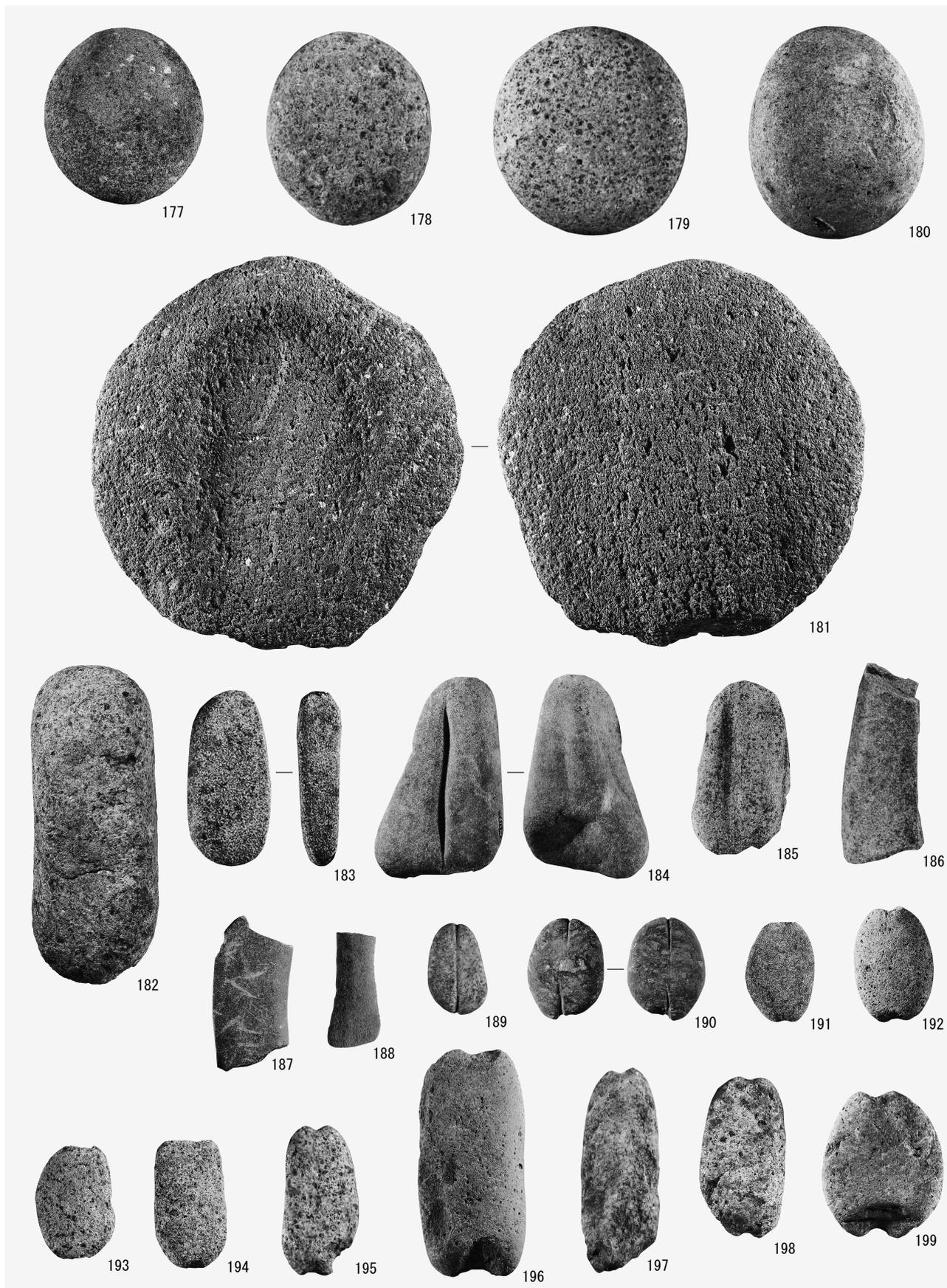
包含層出土石器（4）



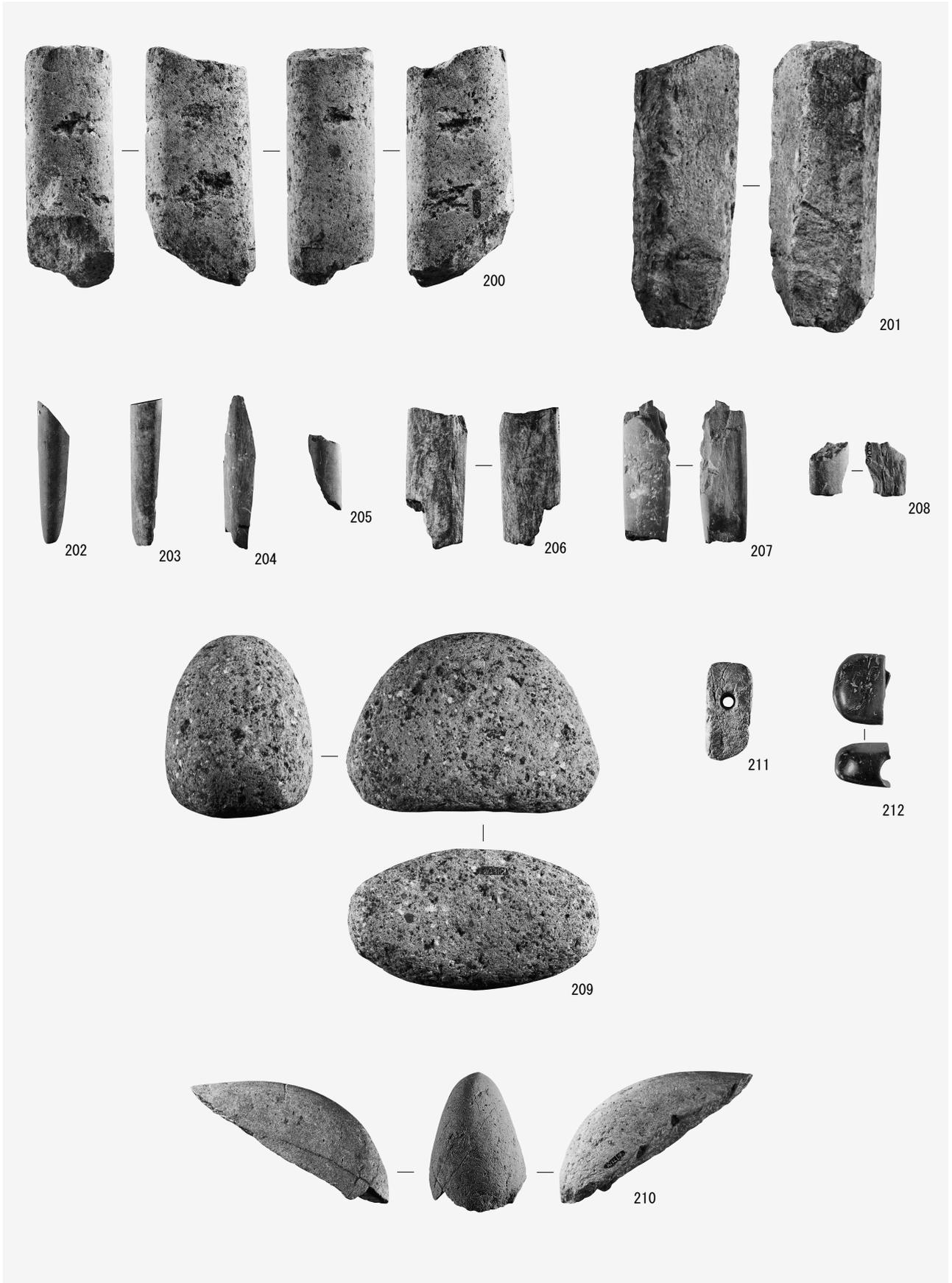
包含層出土石器 (5)



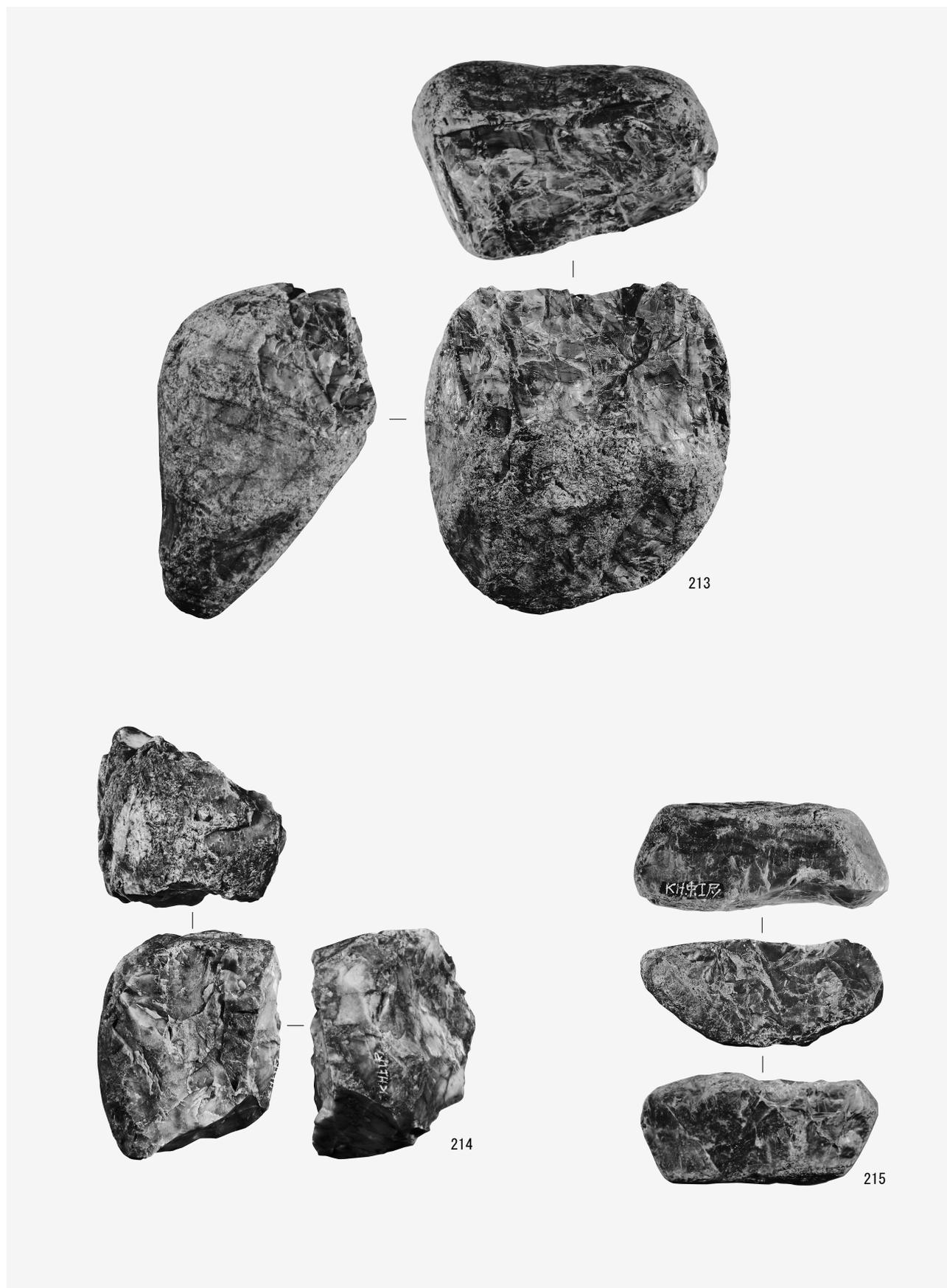
包含層出土石器(6)



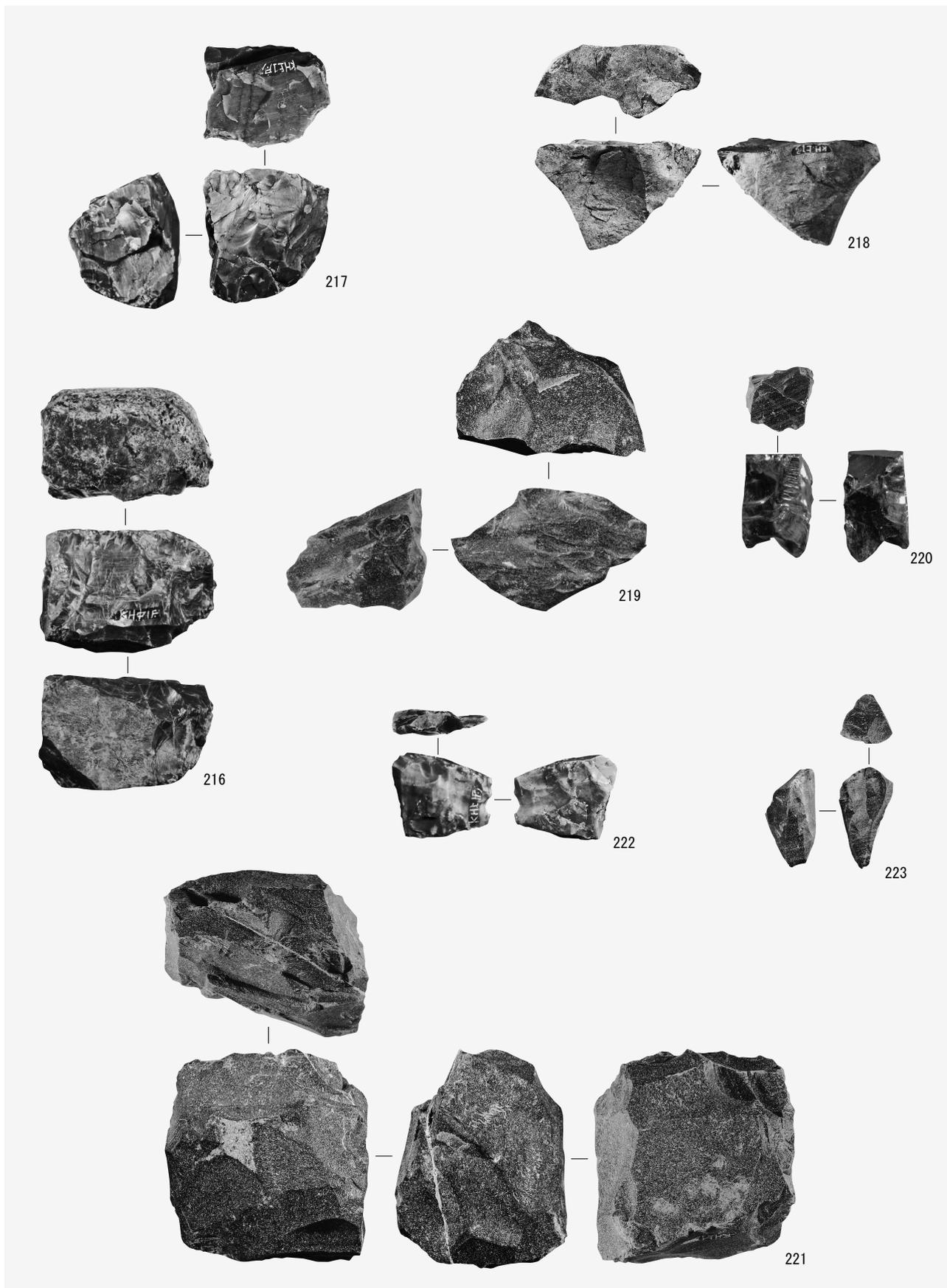
包含層出土石器 (7)



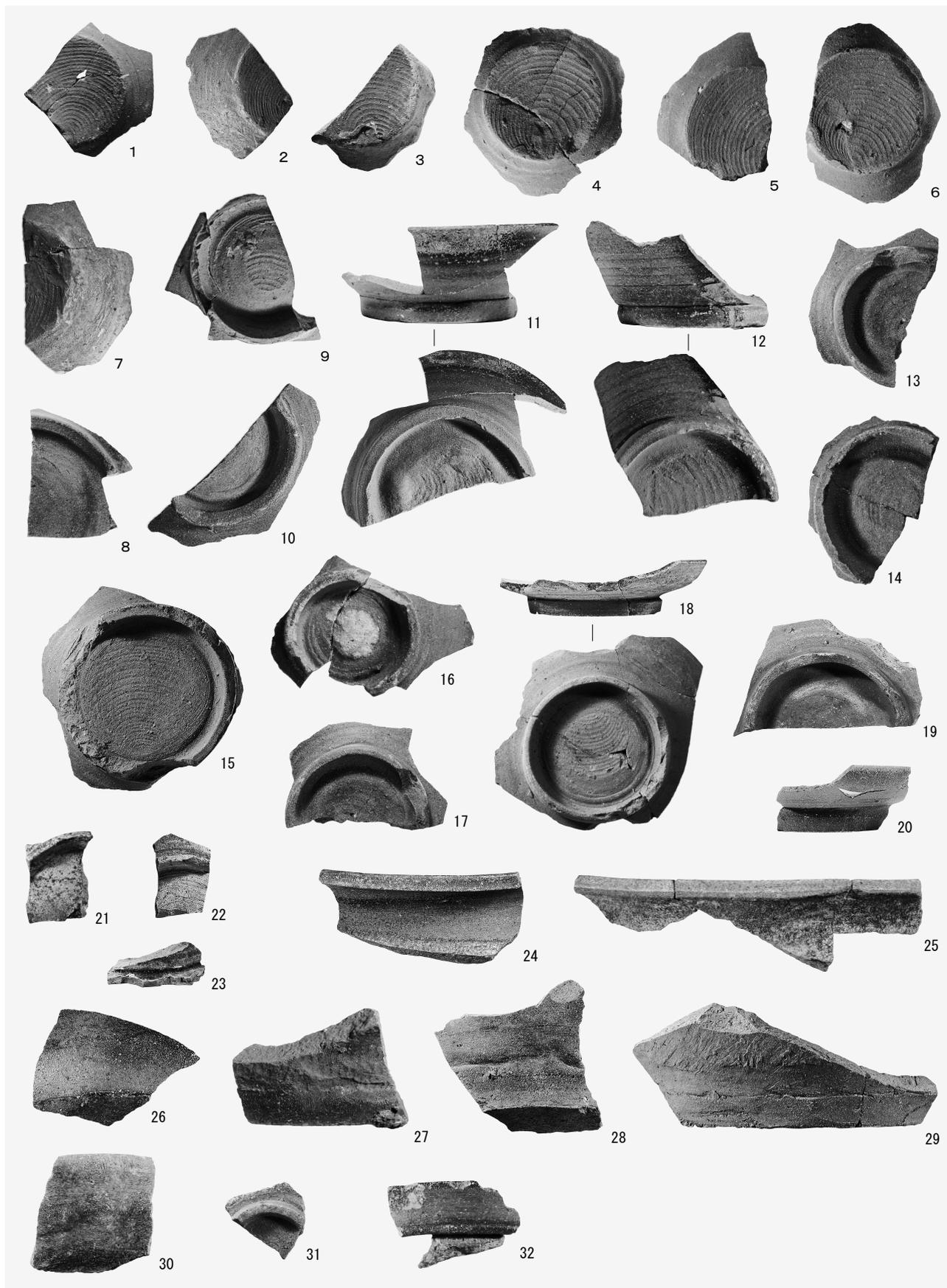
包含層出土石製品



包含層出土石器（8）



包含層出土石器（9）



包含層出土古代・中世遺物

報告書抄録

ふりがな	くろうちほそのいせき							
書名	黒内細野遺跡							
副書名								
シリーズ名	飛驒市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第8集							
編著者名	戸田哲也、中山 豊、北平朗久、パリノ・サーヴェイ株式会社、三好清超							
編集機関	株式会社 玉川文化財研究所							
所在地	〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9 TEL 045-321-5565							
発行機関	飛驒市教育委員会							
所在地	〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号 TEL 0577-73-7496							
発行年月日	2014年12月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
くろうちほそのいせき 黒内細野遺跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛驒市 ふるかわちようくろうちあごほその 古川町黒内字細野 ばんち 1596-1番地ほか	21217	06519	36° 14' 48"	137° 07' 18"	19980601 ～ 19981203	約390	道路拡幅工事に伴う記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
黒内細野遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡5、土坑121		縄文土器、石器		縄文時代中期～後期の集落跡を確認	
		弥生時代以降			須恵器、土師器、陶器			
要約	<p>今回の調査地点は黒内細野遺跡の北端域にあたる。遺構は、縄文時代中期後葉と後期前葉の竪穴住居跡、中期後葉～晩期の土坑を検出し、中期後葉の集落と後期前葉～中葉の集落、そして後期前葉～中葉の土坑群の弧状配列の存在などが明らかとなった。また、中期後葉の埋甕内と中期後葉～晩期の土坑内の種実同定と、中期後葉の埋甕内炭化種実の放射性炭素年代測定を行った結果、考古学的にも重要な成果が得られた。</p> <p>土器は1号住居跡で中期後葉、2号住居跡で後期前葉～中葉の良好な資料が得られた。石器の出土量は多く、クサビ形石器、打製石斧を中心として下呂石・チャート製主体の剥片類が多量に見られ、これらの剥片剥離方法・製作工程を示す石核も発見された。</p> <p>また、弥生時代以降では、遺構は発見できなかったが、弥生時代前期～中期の土器、古代の須恵器・土師器、中近世の陶器が認められた。</p>							

飛驒市文化財調査報告書 第8集

黒内細野遺跡

発行日 2014年12月15日

編著 株式会社 玉川文化財研究所

〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9 TEL 045(321)5565

発行 飛驒市教育委員会

〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号 TEL 0577(73)7496

印刷 有限会社 平電子印刷所

〒970-8024 福島県いわき市平北白土字西ノ内13 TEL 0246(23)9051